ズ外交問題調査特別委員ヲ設ケテ、調査シヤウト云フコトハ、何ノ必要ヨリ起ッタノデアリマセウカ、長島君ノ説明ニ依レバ、是ハ政府ヲ彈劾スルニ非ラズ、條約ノ效果ニ影響ヲ及ボスニ非ズ、政府ノ外交ヲ掣肘スルニ非ズ、然ラバ何ノ爲メデアリマスカ、分ラヌ事ヲ聽カル、ダケナラバ、遠慮ナク數多ノ條項ヲ擧ゲテ、御聽ニナッテ宜カラウ、故ニ是ハ此決議案ニ記載シテアル所ノ御趣意ハ、長島君ノ御演説ノ趣意デアリマスマイ、長島君ハ調査ニ名ヲ藉リテ、政府ヲ彈劾セントスルノデアリマセウ、政府ヲ彈劾スルニ非ズト言ハル、ケレドモ、講和條約ニ關シテ種々ノ非難ヲ擧ゲ、牽强附會ノ説ヲ以テ、政府ノ行動ヲ非難セラレマシタ、是ガ彈劾ニ非ズシテ何デアル、條約ノ效果ニ影響ヲ及サズト言ハル、ケレドモ、講和條約ノ亞米利加ノ態度、其他ニ就テ——效果ニ就テ種々議論ヲサレタデハナイカ、而シテ條約ノ效果ニ影響ヲ及ボスノデナイトハ何事デアルカ、第三ニハ政府ノ外交ヲ掣肘スルモノデハナイト言ハル、ガ、現ニ玆ニ將來ノ國際關係ヲ調査シテ云々トアル、之ヲ以テ政府ノ外交ヲ掣肘スルモノデナイト言ハル、コトハ、此決議案ニ書イテアル事ト、演説セラル、所トノ趣意ハ、矛盾シテ居ル、私共ハ此御演説ノ趣意ハ、何カ意味アッテ、演説ハ左樣ニサレタノデアリマセウケレドモ、御趣意ノ在ル所ハ決議案ニ在ルモノト見ナケレバナラヌ、故ニ此決議案ハ、政府ノ處置ヲ彈劾セラレ、政府ノ信任ヲ問ハル、意思ガ無イナラバ、此調査ノ必要ハ無イノデアル、故ニ私共ハ之ヲ以テ、演説デハ如何ナル事ヲ言ハレテ——是ハ瞞着セラル、意味デモアリマスマイケレドモ、……ドウ云フ事ヲ言ハル、トモ、固ヨリ議場ヲ欺カレル御精神ハ無イト明カニ承知スルガ、併シ此決議文ニ現レタル所ノモノハ、將來ノ外交ニ向ッテ重大ナル關係ヲ及ボスノデアル、議會開會以來斯ノ如キモノヲ設ケテ、條約案ヲ調査シタコトモ無イノデアル、況ヤ條約ノ締結ニ關シテハ、今日マデ憲法上 天皇ノ大權ヲ尊重シテ、敢テ口ヲ容レナイノガ我國ノ議會政治デアリマス、然ルニ拘ラズ、質問應答ヲシテ其事柄ヲ審ニシヤウト云ヘバ、審ニスルコトガ出來得ルニモ拘ラズ、斯樣ナ案ヲ提出セラレテ、是ハ彈劾ニ非ズ、是ハ政府ノ外交ヲ掣肘スルニ非ズナドト云フコトハ、一向意味ヲ成サヌコトデアル、此決議ノ本文ニ於テハ政府ヲ彈劾セラル、モノト考ヘマス、政府ハ決シテ斯樣ナ彈劾ヲ受クル行動ハ無イト信ジマスルガ故ニ、絶對ニ此案ニ反對致シマス

右終ルヤ岩崎勳君ハ本案否決ノ動議ヲ提出シ院議之ヲ採用シ本案ヲ否決シタリ

三　決議案

決　議

衆議院ハ現内閣ヲ信任セス

右決議ス

右ハ九年二月十三日武富時敏君外七名之ヲ提出シタルモ同月十九日之ヲ撤回シタリ

四　衆議院議員赤尾彦作君ヲ懲罰ニ付スルノ動議

右ハ九年二月十五日古島一雄君外一名之ヲ提出ス同日直ニ院議ニ付シ之ヲ可決シタリ

五　院内警察事項ニ關スル特別調査委員會設置ノ件

右ハ九年二月十九日議事日程ヲ變更シテ日程ニ入ルニ先チ議長之ヲ發議シ院議之ヲ可決ス卽チ議

長指名十八名ノ委員ヲ設クルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ祕密會ヲ以テ調査ニ著手シタルモ二月二十六日解散ヲ命セラレタルニ依リ完了スルニ至ラサリキ

第七項　懲罰事犯

一　赤尾彦作君懲罰事犯ノ件

大正八年十二月二十七日本院ハ各部ニ於テ懲罰委員ヲ選擧シ委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヘリ而シテ大正九年二月十五日古島一雄君外一名提出ノ動議可決ノ結果（本節第六項（四）參看）懲罰委員ハ審査ノ末左ノ通議決スヘキモノト決シ二月十八日報告ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ赤尾彦作君ニ一週間出席停止ヲ命ス

又懲罰委員工藤吉次君外十名ハ議院法第九十六條第一項第一號ニ依リ譴責スヘキモノト認メ少數者意見書ヲ提出セリ

翌二月十九日議事日程ヲ變更シテ本件ヲ院議ニ付シ衆議院規則第百九十七條ニ依リ祕密會議ヲ開ク

次テ公開議場ニ復シ副議長ハ祕密會議ノ結果ヲ報告シ且ツ少數者意見ヲ採用シタルニ依リ赤尾彦作君ニ對シ左ノ宣告ヲ爲ス

議院法第九十六條第一項第一號ニ依リ譴責ス

第八項　請願

大正八年十二月二十七日本院ハ各部ニ於テ請願委員ヲ選擧ス委員ハ同日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ越エテ九年一月二十三日委員長ハ全委員ヲ分チテ四科トナシ各分科主査ヲ選定シ其ノ所屬ハ各委員ノ希望ニ依リ之ヲ定メ以テ請願ヲ審査セリ

本會期ニ於テ本院ノ受理シタル請願ハ千六百六十三通ニシテ請願委員ハ審査ノ末議院法第六十四條第二項ニ依リ院議ニ付スヘキモノト議決シ特別ノ報告ヲ爲シタルモノ七百四十五通（本節第一款參看）院議ニ付スルヲ要セスト爲シ且議員ヨリ院議ニ付スルノ要求ナキヲ以テ委員長ノ報告通確定シタルモノ二十六通、審査未了ノモノ八百九十二通ナリ

而シテ院議ニ付スルヲ要セスト確定シタルモノノ内政府ニ參考トシテ送付スヘキモノト議決シタ

ルモノ二十三通、不採擇ト決シタルモノ三通ナリ

特別報告ニ係ル請願ノ中百八通ハ採擇ニ決シ三十九通ハ同種議案又ハ請願議決ノ結果採擇ト看做サレタルモ他ノ五百九十八通ハ採擇若ハ採擇看做トナルニ至ラサリキ（第四十二回議會衆議院報告第四ノ三參看）特別報告ニ係ル請願ノ討議及表決ハ左ノ如シ

一　文官恩給並遺族扶助料增額ノ請願外八十八件

（特一乃至四、八乃至一七、一九乃至二四、二六、二七、二九、三〇）

大正九年一月三十日及二月六日報告書ヲ提出ス

二月二十一日各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長清崟太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ第一回御報告ヲ申上ゲマス、御報告申ス前ニ御斷リヲ致シテ置キマスルガ、一々此件名ト請願人ノ氏名、及紹介議員諸君ノ御氏名ヲ朗讀致シマスルコトハ、多數デアリマシテ、甚ダ煩雜デアリマスルカラ一切ヲ省略致シタイト思ヒマス、此段御諒承置キヲ願ヒマス、而シテ今日ノ日程タル第十二ヨリ第三十五ニ至ルモノハ、總テ委員會ニ於テハ相當ノモノト認メ、採擇スルコトニ決定ヲ致シマシタ、尙ホ是等ノ内容、請願人ノ氏名、及紹介議員ノ御氏名等ハ、議院法第六十五條ニ依リマシテ、衆議院議長ヨリ内閣書記官長ニ送付スル書類ガアリマス、其書類ノ全部ヲ自今速記錄ニ留メルコトニ致シマス、併セテ申上ゲテ置キマス、而シテ昨二十日マデ受理致シマシタル請願ノ總數ガ、千四百六十八件デアリマス、其中審査決了ノモノガ九百十八件デアリマス、此段報告致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ卽日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

二　小學校教員退隱料及遺族扶助料增額ノ請願外二十件

（特三一乃至三六、三八乃至四一、四四乃至四七、五七）

九年二月六日及二月十三日報告書ヲ提出ス同月二十四日各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長清崟太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ御報告ヲ致シマス、日程十五以下二十九マデ、件名ノ朗讀ヲ省略致シマスガ、悉ク採擇ト決シマシタ、而シテ日程第十五ノ小學校教員退隱料及遺族扶助料增加ノ請願ニ就キマシテハ、政府ニ於テモ全然同感デアリマシテ、近ク是等ノ實行ヲ圖ルト云フコトデアリアス、又日程第十七ノ義務教育年限ヲ八箇年ニ延長ノ請願モ、時勢ノ進運ニ伴レマシテ、實施スベキ事柄デアルト云フ政府ノ意見デアリマス、併シ何時カラ實行スルカト云フコトニ就キマシテハ相當ノ準備モ要ル、卽チ教員ノ養成トカ教育費ノ負擔等ニ就テノ考慮モ致サナケレバナラヌ、相當ノ準備モ要リマスカラ、何年ト云フコトハ今明言ハ出來ナイガ義務教育ノ延長ト云フコトニ就テハ、政府ニ於テモ議論ハ無イト云フコトデアリマス、先ヅ主ナルモノハ此二ツデアリマシテ、總テ斯ノ如キ譯デ採擇ト決シタ譯デアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ卽日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

第三章　質問及答辯

本會期ニ於テ議員ヨリ提出シタル質問主意書ハ總テ十八件ニシテ内五件ニ對シ書面ヲ以テ答辯アリタル外十二件ニ對シテハ解散ニ至ル迄答辯ニ接セス一件ハ解散當日ノ提出ニ係リ遂ニ政府ニ送付スルニ至ラサリキ

而シテ答辯アリシ質問ハ外務省、内務省、大藏省、司法省及農商務省ノ所管ニ屬セリ

尚此ノ外陸軍省所管ニ屬スル緊急質問一件提出シ口頭ヲ以テ答辯アリタリ

其ノ質問及答辯ヲ摘錄スレハ左ノ如シ

一　人權蹂躪ニ關スル質問

京都地方裁判所檢事局ニ於テ某瀆職事件ヲ檢擧スルニ當リ各被告ニ對シ少キハ十數回多キハ數十回夜間ノ訊問ヲ爲シ接見禁止中ノ被告人ヲシテ自白勸告書ノ授受ヲ爲サシメ長時間所謂豚箱中ニ拘禁シタル等人權蹂躪ノ事實アリト謂フ其ノ眞相如何

大正九年一月二十二日横山勝太郎君外二名ハ右質問主意書ヲ提出シ二月三日提出者（横山勝太郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ京都ニ於ケル瀆職事件ノ檢擧、竝ニ其取調ノ進行中ニ於キマシテ、恐ルベキ人權蹂躪ノ、事實アルコトヲ探知致シマシタ、其事柄ニ就テ、些カ政府當局ニ質問ヲ致シタイト考ヘマス、元來我國ニ於キマシテハ憲法ガ布カレテ既ニ三十年ニ相成リマス、人權蹂躪ナドト云フ事柄ハ有リ得ラレナイノデアリマスルガ、其今日ニ於テ、尚ホ人權蹂躪ノ事實ヲ耳ニシ、民ニ怨言ノ聲アルコトヲ、聞クコトヲ甚ダ遺憾トスルモノデアリマス、是ニ於テ我ガ日本辯護士協會ハ、昨冬急遽評議員會ヲ開キマシテ、其席ニ於テ直チニ特別委員ヲ選擧致シマシテ、其委員ニハ辯護士ノ太田資時、大井靜雄、新井要太郎、天野敬一、鹽谷恆太郎、平松市藏、及不肖ノ七人ガ其委員ニ當ッタノデアリマス、此七名ノ者ハ京都竝ニ大阪ニ出張致シマシテ、或ハ官憲ニ就キ、或ハ被害人ニ就キ、或ハ辯護人等ニ就キマシテ、事實ノ調査ヲ致シマシテ、愈〻茲ニ人權蹂躪ノ事實アリト云フコトヲ確認致シタノデアリマス、茲ニ一言皆樣ニ申上ゲテ置キタイノハ、道路傳フル所ニ依レバ今回日本辯護士協會ガ、人權蹂躪問題デ大騷ヲヤッテ居ルモノデアルト云フ批評ヲ傳ヘテ居ル事柄デアリマス者ノ請託ヲ受ケテ、今回ノ騷ギヲヤッテ居ルガ、彼等ハ被告人ノ或者、若クハ辯護人ノ或ガ、御承知ノ如ク日本辯護士協會ハ、明治二十九年ノ創立ニ係リマシテ、今日ニ至ルマデ二十四五年ノ間、司法ノ改善、竝ニ人權擁護ニ盡力致シテ居ルノデアリマス、一被告人、辯護人ノ請託ヲ受ケテ、人權蹂躪ノ事實ヲ調査スルト云フヤウナ、卑劣ナル行動ニ出ヅルモノデナイト云フコトヲ豫メ御承知置キヲ願ヒタイノデアリマス、此故ニ吾〻委員ノ者ハ事實ノ調査ヲ致シマスルニ方リマシテモ、汎ク官吏ナリ或ハ被告人ノ側ニ接觸致シマシタケレドモ、此事實ノ認定ヲスルニ方ッテハ、毫モ辯護人竝ニ被告人ノ申ス事ハ採用致シテ居リマセヌ、一ニ當該檢事ノ言フ所、當該豫審判事ノ申シマスル所、官文書ノ示ス所ニ基イテ、此事實ヲ認定致シタノデアリマス、尚ホモウ一ツ御注意ヲ願ヒタイト思ヒマスル事ハ、本員等ハ京都ニ於ケル瀆職事件ノ被告人等ガ果シテ瀆職ノ事實アリヤ、否ヤ賄賂ヲ遺ルトカ取ルトカ云フヤウナ事實ガアッタカドウカト云フ、犯罪事件ノ内容ニ就テハ、毫モ審査ヲ致シマセヌ、左樣ナ事ガ有リマシテモ無クテモ、ソレハ本員等

ノ關係スル所デハナイノデアリマス、唯之ヲ檢擧スルニ方リマシテ、法律ノ認メテ居ル手續ニ依テ居ルカ、人權蹂躙ノ事實ハ無イカト云フ、此方面ニ向ッテ調査ヲ致シタノデアリマス、以下此事項ニ就テ、少シク質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、事件ノ始リハ、大正七年ノ四月ノ半頃カラ檢擧ヲ始メマシタ、其檢擧ニ方リマレテ、檢事ノ一松定吉、山本市三、中田梶太、田中彰治、樋口德次郎、是等數人ノ檢事ガ、詰マリ法律ノ規定ヲ無視シ、人權蹂躙ヲ致シタト云フコトニ認メタノデアリマス、而シテ此事實ヲ認ムルニ方ッテ、如何ナル方面ニ交渉ヲ致シタカト云フコトモ、一言述ベテ置キタイト思ヒマス、此事實ヲ探究スルニ方ッテ交渉致シマシタ方面ハ、大阪控訴院ノ檢事長小林芳郎君、同院ノ檢事三浦榮五郎君、京都地方裁判所檢事正古森幹枝君、京都地方裁判所長ノ嘉山幹一君、同所豫審判事石井壽太郎君、同加藤健一郎君等ノ話ヲ聽キマシテ、尙ホ京都監獄署ノ典獄赤塚源二郎君ニモ面會ヲシテ、詳細ノ說明ヲ求メマシタ、而シテ京都監獄ノ內容ヲ全部調査致シタノデアリマス、又一面ニ於テ、多少被告人ノ供述ヲモ斟酌致シマシテ、又被告事件ノ記錄ヲモ一瞥致シマシタ、要スルニ材料ハ斯ノ如キモノデアリマス、此幾多ノ動カスベカラザル材料ニ依テ、我々ノ探知シタル事實ハ何デアルカト申シマスルト、第一ニ御尋ヲ致シタイノハ、豫算委員會ニ於テ、國民黨ノ高木益太郎君ヨリ御尋ニ相成リマシタ點デアリマスルガ、卽チ被告人ノ或者ニ對シテ、徹宵ノ訊問ヲ致シタト云フ事實デアリマス。此事柄ニ就テハ一月二十八日ノ豫算總會ニ於キマシテ、列席ノ鈴木司法次官ハ、徹宵訊問ノ事實ハ無イト云フ御話ガアリマシタ、私ハ詳論ハ一切省略致シマシテ事實ダケヲ申上ゲテ置キマス、徹宵訊問ヲ受ケタル者ノ中ノ一人ノ淺見孝太郎、此人ハ大正七年ノ四月二十二日ニ樋口檢事ニ召喚ヲセラレマシテ、翌二十三日ノ午前四時二十分、石井豫審判事ノ令狀ニ依テ、京都監獄ニ拘留セラレマシタ、監獄ニ入ッタノハ午前十時十五分デアリマス、卽チ四月二十二日ノ時間ハ分リマセヌガ、四月二十二日カラ、檢事局ナリ裁判所ニ召喚訊問ヲ致シマシテ、豫審判事ガ受取ッタノハ翌日ノ午前四時デアル、其次ニハ並川榮慶ハ、是又大正七年四月二十二日樋口檢事ニ召喚訊問ヲ受ケマシテ、翌二十三日ノ午前四時四十分ニ石井豫審判事ノ令狀ニ依テ、京都監獄ニ拘留セラレマシテ、午前ノ五時三十七分ニ入監ヲ致シテ居リマス、又堀田康人ハ大正七年ノ四月二十七日ニ、山本檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、翌二十八日午前一時加藤豫審判事ノ令狀ニ依テ、京都監獄ニ收監セラレマシテ、愈〻入監ノ手續ノ了ッタノガ午前二時デアリマス、次デ岸市藏ト云フ人ハ、大正七年六月三日ニ樋口檢事ノ召喚ヲ受ケマシテ、翌四日ノ午前零時十三分ニ、石井豫審判事ノ令狀ニ依テ京都監獄ニ拘留セラレテ、同日午前二時二十七分ニ入監致シテ居リマス、又岡田常助ハ大正七年六月三日樋口檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、翌四日午前零時十五分ニ石井豫審判事ノ令狀ニ依テ京都監獄ニ拘留セラレテ、入監ハ午前二時一分ニ相成ッテ居リマス、又福井寅吉ト云フ人ハ大正七年六月三日、樋口檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、翌四日午前零時十分ニ、石井豫審判事ノ令狀ニ依テ京都監獄ニ拘留ヲセラレテ、同日午前零時四十分ニ收監ヲ致シテ居リマス、其次ニ小笹新太郎ト云フ人ハ、大正七年六月二十五日ニ山本檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、翌二十六日ノ午前零時五十五分、石井豫審判事ノ令狀ニ依テ、京都監獄ニ召喚セラレテ、愈〻手續ヲ了ッタノハ午前一時四十分デアリマス、其次ニ橋井孝三郎ト云フ人ハ、大正七年ノ八月二日一松檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、同日午後十一時五十分加藤豫審判事ノ令狀ニ依テ京都監獄ニ拘留ヲセラレ、入監手續ヲ了リマシタノハ午前零時三十分デアリマス、寺崎新策ハ大正七年九月十三日樋口檢事ノ召喚ニ依リマシテ、翌十四日ノ午前二時ニ豫審判事ノ令狀ヲ受ケ、京都監獄ニ入監ノ手續ヲ終了シタノハ午前ノ三時デアリマス、木內重四郎ハ大正七年九月二十六日一松檢事ノ召喚訊問ヲ受ケマシテ、午後十一時四十分ニ加藤豫審判事ノ令狀ニ依テ京都監獄ニ拘留セラレマシテ、入監ノ手續ヲ了ッタノハ翌日ノ午前二時デアリマス、斯ノ如ク幾多ノ被告人ガ徹宵訊問ヲ受ケテ、甚シキニ及ンデハ、翌日ノ午前四時頃ニ入監セラレタト云フコトニ相成ッテ居リマス、此事柄ヲ此所デ詳シク申ス必要ハゴザイマセヌガ、豫審判事ガ檢事ノ起訴スル所トナッテ、被告人ヲ其手ニ受取リマシタ際ニハ、直チニ訊問ヲスル手續ニ相成ッテ居リマス、而シテ其訊問ハ極メテ簡單ナモノデアリマシテ、少クモ五分カ十分、長クモ二十分、三十分ヲ要シナイノデアリマス、此故ニ午前一時、午前二時、午前三時デアルト云フ際ニ入監ノ手續ヲ了ッタ者ハ、徹宵ノ訊問ヲ受ケタリトシテ、毫モ差支無イノ

デアリマス、然ルニ司法次官ガ、徹宵訊問ノ事實ハ無イト云フコトヲ申シテ居リマスルガ、此事實ヲ御探究ニ相成ッタナラバ、斷ジテ否認ノ出來ナイコトデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、又其他ニ甚ダ酷デアルト思ヒマスルノハ、夜晩クマデ訊問ヲ致シタルコト、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ夜間ノ訊問ヲ爲シタルコト、是ハ檢事ガ公訴ヲ提起スル以前ニ於キマシテ、各檢事ガ各被告ヲ訊問スルニ、午後ノ十時十一時等ニ及ンダモノガ甚ダ少クナイ、是ハ簡單ニ其名前ダケヲ申上ゲテ置キマスルガ、被告人ノ中デ矢野長藏、河原文二、山内寛次郎、谷口庄兵衞、白須重右衞門、長瀬傳三郎、五十棲駿夫、斯ウ云フ人ガ夜中晩クマデ訊問ヲ受ケタ人デアリマス、是等ノ事項ニ就キマシテ、當局ハ如何ナル御意見デゴザイマスルカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、第二ニ承リタイノハ、既ニ檢事ガ豫審判事ニ對シテ、被告事件ノ公訴ヲ提起致シマシテ、既チ起訴ノ手續ヲ了リマシテ、事件ハ既ニ豫審判事ノ手ニ移サレテアルニモ拘ラズ、引續キ檢事ガ之ヲ訊問スル、是ハ舊來我日本ノ全國ニ於ケル各裁判所ニ於テ、行ハレテ居ル慣例デゴザイマスルガ、是ハ吾〻ノ信ズル所ニ依レバ、矢張違法デアルト考ヘマス、檢事ガ既ニ一應ノ搜査ヲ了ッテ犯罪事件アリト思料シタル結果、相當ノ證據ニ基イテ、豫審判事ニ對シテ公訴ヲ提起シテ、令狀ノ請求ヲ致シマシタ以上ハ、其事件ト云フモノハ、擧ゲテ豫審判事ニ移ッタモノデアリマス、故ニ豫審手續ニ事件ガ移サレタ以後ニ於テ、檢事ガ所謂搜査權ナルモノヲ利用シテ、豫審判事ノ承認ヲ得ルコトナク、濫リニ被告人ヲ訊問スルト云フ事柄ハ、法規ノ許サヌ所デアルト考ヘマス、或ハ檢事局竝ニ檢事局ヲ辯護スル側ニ於キマシテハ、矢張公訴ヲ提起シタル以後ニ於テモ、搜査權ガ有ルト云フコトヲ主張致シテ居ル者モゴザイマスケレドモ、法律ノ根據ガ無イノデアリマス、刑事訴訟法ノ何所ヲ繙イテ見マシテモ、起訴以後ニ於テ檢事ガ搜査權ヲ有スルト云フ規定ハ無イノデアリマス、唯ダ從來ノ弊習ヲ襲踏シテ、斯ノ如ク慣行ヲ繰返シテ居ルニ過ギヌト私ハ考ヘマスルガ、此點ニ就テモ司法當局ノ意見ヲ承リタイノデアリマス、此問題ヲ解決スルニ就キマシテハ、此事件ヲ以テ、恰モ好キ材料デアルト確信スルノデアリマス、此際ニ於テ司法當局ニ申上ゲテ、尙ホ意見ヲ質シタイノデアリマスルガ、御承知ノ如ク檢事ガ公訴ヲ提起シテ、事件ガ公判ニ進行シタル

際ニ於テ、證人ヲ裁判所ガ喚問スル場合ガアリマス、此際ニ其證人ガ被告人ノ爲メニ不利益ナル供述ヲ爲ス場合、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、檢事側カラ申シマスレバ、其條件ガ利益デアル場合ニ於キマシテハ、是ハ最モ容易ニ落著ヲ致シマスルガ、若シ誤ッテ被告人ニ利益ナル供述ヲ爲ス、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、起訴ヲ爲シタル檢事側ニ不利益ナル場合ニ於キマシテハ、間〻其立會シタ檢事ハ公判ノ延期ヲ求メ、若クハ公判ヲ中止セシメテ、祕密ナル場合ニ於テ、其證人ヲ取調ヲ致シマシテ、其供述ヲ翻サシメテ、其聽取書ヲ更ニ次ノ公判廷ニ出シテ、被告事件ノ維持ヲスルト云フ例モアリマス、是等ハ明カニ裁判道德ノ上カラ申シマシテモ、法規ノ上カラ申シマシテモ甚ダ宜シクナイ習慣デアルト思ヒマスルガ、斯ノ如キ弊風ヲ裁判上現スノハ、如何ナル事柄ガ原因デアルカト申シマスレバ、公訴ノ提起後ニ矢張檢事ガ搜査權ヲ有ット云フヤウナコトガ、卽チ其原因デアルノデアリマス、唯今廣岡君ノ御話ノ如ク、法津ノ解釋ヲ求メルト云フコトハ、適當デナイカモ知レマセヌケレドモ、誤ッタル法津ノ下ニ爲ス手續ノ良イカ惡イカヲ、私ハ聽キタイノデアリマス、是ガ第二ノ質問事項デアリマス、第三ニ承リタイノハ、假リニ今日ノ裁判所、今日ノ檢事局ガ執リ來ッテ居ル習慣ノ如ク、公訴ノ提起以後、豫審中ニ於テ檢事ニ搜索權有リトスルモ――私ハ無イト信ジマスルガ、假リニ論者ノ說明ノ如ク搜査權有リトスルモ、同一ノ被告人ニ對シテ連日連夜長時間ノ訊問ヲ繼續スルト云フコトハ、果シテ檢擧竝ニ搜査ノ方法トシテ、適當ナルモノデアラウカドウカ、同ジ被告人ヲ毎日毎晩連レテ來テ、同ジ事項ヲ同ジ人間ガ毎日毎日訊問スルノデアリマス、彼ノ收賄ノ事柄ハモウ自白シタラドウダ、彼ノ贈賄ノ事柄ハモウ自狀シタラドウダ、白狀セヌケレバ又監獄ニ入レテ置イテ、又明日之ヲ引出ス、又明後日之ヲ引出シ、同ジ事ヲ繰返シ、繰返シ同一被告人ニ對シテ檢事ガ人ヲ替ヘ、品ヲ替ヘ、二時間三時間ト云フ時間ニ亙ッテ訊問スルト云フ事柄ハ、是ハ法規ノ許サヌル所、公平ヲ尙ブ檢事ニ於テモ、決シテ爲ス事柄デハナイノデアリマス、斯ノ如キ事柄ヲ吾〻ハ人權蹂躪ト申シマスガ、司法當局ハ之ヲ何ト御考ヘニナルカデアリマス、此事柄ニ就テ事實ヲ指摘シテ申上ゲテ見タイト考ヘマス、被告人金ケ原武雄ト云フ人ニ對シテハ、前申上ゲタ田中檢事ガ、大正七年九月二十六

日ヨリ二十九日マデ、ソレカラ十月八日ヨリ引續キ九日マデ、合計六日間同ジ事柄ヲ訊問致シテ居ル、ソレカラ同ジ被告人ニ對シテ、一松檢事ガ十月十日カラ十三日マデ三日間、毎回五六時間以上、十一時間ノ長キニ亙ッテ訊問致シテ居ル、此所デ一ツ申上ゲテ置キタイノハ、十月ノ十日カラ一松檢事ガ金ケ原武雄ヲ調ベタ理由ハ、ドウデアルカト申シマスルト、田中檢事ガ六日間取調ベヲ致シタケレドモ、ドウシテモ自白ヲセヌト云フノデ、然ラバ今回ハ檢事ヲ替ヘテ調ベタ方ガ宜イト云フノデ、一松檢事ガ代ッテ取調ヲシタト云フノデアリマス、以後檢事ガ替ッタノハ皆ナ此例デアリマス、次ニ橋本孝三郎ト云フ人ニ對シマシテハ、中田檢事ガ大正七年十月二日ヨリ八日マデ、七日間引續イテ訊問致シテ居リマス、又古川勝次郎ニ對シテハ、田中檢事ガ大正七年九月二十九日ヨリ十月五日マデ七日間、毎日長時間ノ訊問ヲ致シテ居リマス、次ニ木内重四郎ニ對シテハ一松檢事ガ大正七年九月二十七日ヨリ十月十三日マデ〆テ十四日間、毎日監獄署カラ引出シテ、長時間ノ訊問ヲ致シテ居リマス、而シテ其十四日ノ間ニハ、九月二十九日ノ日ニ、京都地方裁判所ノ小森檢事正自ラ出馬シテ、嚴重ナル訊問ヲ致シテ居リマス、十月五日ニハ豫審判事ガ一回訊問致シテ居リマス、斯ノ如ク十四日間ニ亙ッテ、其間ニ小森檢事、石井豫審判事ヲ加ヘテ、同一ノ檢事ガ同一ノ被告ニ對シテ、同一ナ事ヲ取調ヲ致シテ居リマス、ソレカラ尙ホ一松檢事ハ木内重四郎ニ對シテ、十一月二十六日ヨリ二十九日マデ、四日間連續取調ヲ致シテ居リマス、是ニ於テ司法當局ノ御考ヲ願イタイノデゴザイマスガ、兎ニ角相當ノ地位ヲ有チ、相當ノ名譽ヲ有チ、相當ノ學識ヲ有ッテ居ル被告人ニ對シテ、同ジ事ヲ二週間モ三週間モ訊問ヲシテ、ソレデ結果ヲ得ルト考ヘルノデアリマスカ、若シ結果ヲ得ルトスルナラバ、私ハ是ハ矢張――其取調ガ公平ヲ缺イタモノデアルト考ヘマス、白狀シナイト定ッタモノヲ何日モ取調ベルト云フコトハ、宜クナイト思ヒマス、之ニ類スル例ハ五十棲駿夫ニ對シテ、一松檢事ガ大正七年十月十九日ヨリ二十四日マデ六日間、連續訊問ヲヤッテ居リマス、ソレカラ三矢宮松ニ對シテハ、中田檢事ガ大正七年九月二十六日ヨリ十月一日マデ六日間連續訊問、ソレカラ一松檢事ガ三矢宮松ニ對シテ十月五日ヨリ九日マデ五日間、十一月四日ヨリ九日マデ六日間十一月十六日ヨリ二十日マデ五日間、十一月三十日ヨリ十二月三日マデ四日間、長時間ノ訊問ヲ致シテ居リマス、結局之ヲ計算シテ見マスルト、三矢宮松ニ對シテハ、一松檢事ノミニテモ二十日間ニ連續シテ同一ノ訊問ヲヤッテ居ル、檢事ハ忙シイト云フガ、忙シィノデハ決シテナイ、白狀シナイ者ヲ二週間モ三週間モ掛ッテ訊問スルカラ、檢事局モ忙シクナルノデアリマス、茲ニ當局ニ事實ノ御調査上御注意マデニ申上ゲテ置キタイト思ヒマスル點ハ、今私ガ同一ノ被告人ニ對シテ連日長時間ノ訊問ヲ爲シタコトヲ申上ゲマシタガ、其事柄ハ大正七年ノ九月二十三日以後ノ分ダケデアリマス、九月二十三日以前ノ事ハ、毫モ申上ゲテ居ラヌノデアリマス、何故九月二十三日以後ノ分ダケヲ申上ゲタカト申シマスルト、九月二十三日以前ニ於テハ、同一ノ方法ニ依テ訊問シタコトハ明瞭デアリマスケレドモガ、是ハ官文書ノ徵スベキモノガ無イノデアリマス、九月二十三日以後ハ、京都監獄署ニ於テ、餘リ被告人ヲ頻繁ニ引出シテ取調ヲスルガ後日是ガ何カ面倒ナ問題デモ起ッテハ困ルト云フコトノ心配ヲ致シマシデ、九月二十三日カラ京都監獄署ニ、「京都監獄出張判檢事退廳時刻調」斯ウ云フ帳面ヲ作リマシテ、ソレニ一々監獄ノ官吏ガ記載ヲ致シタノデアリマス、ソレデ九月二十三日以後ガ明瞭ニナッテ居ルノデ、以前ハ其事柄ハ官文書ノ上ニ徵スベキモノガ無イノデアリマス、併ナガラ事實ハ九月二十三日以降モ、九月二十三日以前モ、決シテ違ハナイノデス、是ハ吾々ガモウ典獄ニ就テ御話ヲ承ッタ際ニモ同樣ナ話ガアリマシタ、九月二十三日以後ハ、如何ニモ從來ノ遣方ガ激シク、如何ニモ從來ノ遣方ガ頻繁デアルト云フヤウナ心配ノ餘リ、サウ云フ文書ヲ作ルコトニナッタノデアリマシテ、以前モ矢張同樣デアルト御考ニナッテ宜シイノデアリマス、而シテ殊ニ此連日ニ亙ル長時間ノ訊問ニ就テハ、監獄ノ官吏ハ一人モ立會ッテ居リマセヌ、全ク檢事ガ之ヲ祕密ニ調ベテ居リマス、斯ノ如キ訊問ガ違法デアルト云フ事柄ハ、刑事訴訟法ノ九十二條ノ第三項――法文ハ讀ミマセヌケレドモ、其條文ヲ御調査ニ相成リマスレバ、サウ云フ事ハ違法デアルト云フコトガ判リマス、卽チ此第三ノ質問事項ニ就テ、尙ホ數箇ノ質問ヲ致シテ置キタイト思ヒマスノハ、今申上ゲマシタヤウナ檢事ノ取調方法ガ、果シテ相當デアルカドウカ、ソレカラ是ハ先刻申上ゲマシタヨウニ、悉ク監獄署ニ出張シテ訊問ヲ致シタノデアリマスガ、皆樣モ御承知

ノ通リニ、我國ニハ官制アリ、監獄法アリ、裁判所構成法ガアリマシテ、監獄署ニ於ケル官吏ノ爲ス所ノ職務範圍、裁判所ニ於ケル判檢事ノ爲ス所ノ職務ノ範圍ハ、悉ク明瞭ニ定ッテ居リマス、監獄署ノ官吏ガ裁判所ニ行ッテ監獄ノ事務ヲ取扱フト云フコトハ違法デアリマス、同時ニ裁判所ノ判檢事ガ監獄ニ出張シテ、裁判事務ヲ執ルト云フコトモ違法デアル、併ナガラ時ニハ例外ガアリマスシ、事情モアリマスカラ、五日ヤ三日裁判所ノ判檢事ガ監獄署ニ出張スルト云フヤウナ事柄ハ、事實トシテ承認セネバナラヌ場合ガアラウト考ヘマスガ、併ナガラ本件ノ如キハ、大正七年四月半バヨリシテ、十二月半バマデ約八箇月、毎日監獄ニ出張ヲシテ居ル、裁判所ト監獄署トヲ全ク穿違ヘテ居ル、斯ノ如キ事柄ガ、果シテ檢事トシテ爲スベキ事柄デアラウカドウカ、私ハ斯樣ナ事ハ、決シテ爲スベカラザル事デアルト考ヘマス、ソレカラ最後ニ申上ゲマシタ如ク、被告人ヲ訊問スルニ方リマシテハ、獨立ノ豫審判事ト雖モ、尙ホ立會人ヲ要スルノデアリマスガ、檢事ニ限ッテ、獨リ監獄署ニ出張ヲ致シテ、監獄署ノ吏員ノ立會ヲモナサシメズシテ、祕密ニ之ヲ訊問スルト云ウヤウナ事柄ハ、果シテ適當デアルカ、合法デアルカ、人權蹂躙デナイカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ第四ニ承リタイノハ、是ハ監獄署ト裁判所ノ關係ニ相成ル事デアリマスルガ、先刻來申上ゲマシタ如ク、被告人等ハ、悉ク未決監獄ニ拘留サレテ居ル者デアル、而シテ訊問ヲ爲シタル場所ハ悉ク監獄署デアル、監獄署ハ御承知ノ如ク既決ノ囚人ヲ拘禁スル所デアリマス、既決ノ囚人ノ中ニハ、赤イ著物ヲ著テ居ル者ガ大部分アリマシテ、稀ニハ青イ著物ヲ著テ居ル者ガアリマス、要スルニ罪人ナリト裁判上確定ノ判決ヲ經テ、而シテ刑ノ執行ヲ受ケツヽアルノデアリマス、本件ノ被告人トシテ、犯罪ノ嫌疑ハ受ケテ居リマスケレドモ、マダ其罪狀タルヤ毫モ決ッテ居ラヌノデアリマス、嫌疑ヲ受ケテ居ルケレドモ、マダ無罪ノ人デアル、此人々ヲ訊問スルニ方リマシテハ、裁判所構成法、或ハ刑事訴訟法ニ相當ナ手續ガアリマシテ、相當ナル方法ニ依テ、適當ナル訊問ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、申スマデモナイノデアリマス、ソレヲ未決監カラ、既決ノ囚人ノ居ル所ヲ通過セシメテ、而シテ既決ノ囚人ヲ取扱フ場所ニ於テ、之ヲ訊問スルト云フコトハ、ドウデアリマスカ、

取調ヲ致シタ場所ヲ調査シテ見マスルト云フト、其最モ甚シキハ囚人取調所、卽チ罪人ト確定シタル者ヲ取調ヲスル場所ニ於テ、訊問ヲ致シテ居リマス、少シク優遇ヲ與ヘタカト思ヒマスル分ハ、典獄ノ應接所デ調ベテ居リマス、或ハ會議室、或ハ宿直部屋、斯ノ如キ場所ニ於テ訊問ヲ致シテ居ルガ、ソレガ晝間バカリデハナイ、夜間ニ亙ッテ取調ヲ致シテ居ル、斯ノ如キ事ハ私ノ考ヘデハ甚ダ被告人ニ對シテ、御取調ノ方法ヲ缺クモノデアリマシテ、甚ダ宜シクナイ事柄デアルト考ヘマス、此故ニ唯今申上ゲマシタ第四ノ事項ニ就テ御尋ヲ致シタイノハ、京都地方裁判所ノ檢事ガ京都監獄署ニ出張ヲ致シテ、囚人取調所其他ノ場所ニ於テ、被告人ヲ訊問スルト云フヤウナ事柄ハ、果シテ適當デアルカ、ドウカ、又斯ノ如キ方法ヲ承認スルナラバ、法律ニ依テ裁判所ト監獄署ト云フモノヲ區別シタ理由ハ毫モ無イコトニナリマス、裁判所ノ役人ガ自由ニ監獄署ノ營造物ヲ使用スル、應接所ト云ハズ、囚人取調所ト云ハズ、事務室ト云ハズ茶呑所ト云ハズ、宿直部屋ト云ハズ、悉ク裁判所ノ檢事ガ行ッテ、之ヲ占有シテ使ッテ居ルノデアリマス、其結果監獄署ノ官吏、或ハ監獄署ノ給仕、監獄署ノ小使、或ハ監獄ノ宿直ヲスル人等ハ、餘分ノ業務ニ服セネバナラヌ結果ニ相成リマス、其結果トシテハ、實ニ大正七年ノ四月カラ、大正七年ノ十二月ニ至ル八箇月間ノコトデアリマスカラシテ、電氣モ使ッタデアリマセウ、薪炭モ使ッタデアリマセウ、電燈モ使ッタデアリマセウ、斯ノ如キ事柄ヲ致シマスナラバ、京都監獄署ニ向ッテ、吾々ハ諸君ト共ニ豫算ノ協贊ヲ與ヘル所ノ必要ガ無イト私ハ考ヘマス、餘所ノ判事ヤ檢事ガ來テ、自由自在ニ使ッテモ餘ルダケノ豫算ヲ取ッテ置クト云フハコト、不都合ダト私ハ考ヘマス、是故ニ當時赤塚典獄ハ吾々ニ向ッテ、其當時ノ事情ヲ述ベテ居ラレマシタガ、典獄ノ話ニ依ルト云フト、實ニ申譯ノナイ次第デ、吾々監獄ノ官吏ハ、檢事ノ方カラ少シノ間監獄署ヲ貸シテ貰ヒタイト云フコトデアルカラシテ、僅カ一室カ二室ヲ五日カ三日間、御使用ニナルモノト思フテ居ッタト、斯ウ言フノデ、所ガ二箇月經ッテモ、三箇月經ッテモ連日連夜御出ニナルノデ、先ヅ一番ニ苦情ヲ言出シタノハ監獄署ノ小使デアリマス、監獄署ノ小使ガ言ヒマスルニ、吾々ハ監獄署ノ小使デアル、此故ニ監獄ノ仕事ガ澤山アッテ忙ハシイ、多忙デアルト云フナラバ、何所マデモ仕事ヲ致シマスケレドモ、餘所ノ

判事ヤ檢事ガ御出ニナッテ、餘所ノ仕事ヲシテ、夜晝使ハレテハ洵ニ忍耐ガ出來ナイト言ッテ、小使ガ苦情ヲ言出シタ、次ニハ宿直ノ人等デ、ドウモ何時來テ何時歸ルカ分ラヌ、歸ルマデ起キテ居ナケレバナラヌ、其次ニハ看守ヤ押丁デアリマス、監獄署ノ規則トシテ、習慣トシテ、監房ニ入レテアル所ノ被告ナリ囚人ト云フ者ハ、夜ハ絶對ニ出サナイ規則デアル、出スコトハ非常ニ危險デアル、ソレヲ連日連夜午後ノ九時デアラウガ、午前ノ零時デアラウガ、來テ彼レヲ引張ッ來イ、之ヲ仕舞ヘト仰シャルデ、殆ド監獄署ノ官吏モ忍耐ガ出來ナイト云フ有樣デアッテ、斯ノ如キ事柄ヲ京都地方裁判所ノ檢事、或ハ大阪控訴院カラ出張シテ居ル檢事諸氏ガ致サレマシテモ、ソレガ適當デアル、合法デアル、差支ガナイト云フコトガ言ヘルカドウカ、之ヲ承リタイノデアリマス、第五ニ事實ヲ擧ゲテ承リタイト思ヒマスルノハ、此點ハ高木益太郎君ヨリシテ、豫算總會ニ於テ一寸御質問ガアリマシタガ、極メテ大體ナ話デアリマシタカラシテ、私ヨリモ更ニ一言致シテ當局ノ說明ヲ求メタイト思ヒマス、ソレハ既ニ檢事ガ京都瀆職事件ノ起訴ノ手續ヲ了リマシテ、豫審判事ノ手ニ事件ハ全部移ッテ居ルニ拘ラズ、否ナ事件ガ豫審判事ノ手ニ移リシノミナラズ、豫審判事ハ被告人ヲ受取ッテ、入監ノ手續ヲ致シマスルト同時ニ、接見禁止、並ニ書面ノ授受、物件ノ授受、悉ク之ヲ禁ジテ居ルノデアリマス、然ルニ其豫審判事ノ命令ヲ犯シテ、先刻申上ゲマシタ各檢事ハ、豫審判事ノ許可ナクシテ或者ニ面會セシメ、或ハ書面ノ往復ヲ許シタト云フ事實ガアリマス、是ガ果シテ人權蹂躙デナイカ、違法デナイカト云フコトニ就テ、質問ヲ致スノデアリマス、此事實ヲ一寸申上ゲマスルト云フト、檢事ハ被告人ノ或者ヲシテ、告白書、ソレカラ上申書、其他色々ノ名義ヲ付ケマシタル所ノ書面ヲ認メサシテ、檢事自ラ之ヲ他ノ被告人ニ授ケテ、サウシテ其書面ニ基イテ自白ヲ勸告シテ居ル、ソレガ爲メニ自白勸告書ナリ、或ハ上申書ナリヲ受取ッタル所ノ被告人ハ――此書面ヲ出シタル被告人ガ、ドウ云フ供述ヲ豫審判事ナリ檢事ニ對シテ、致シテ居ルカト云フコトヲ知ルコトガ出來タノデアリマス、ソレニ依テ其書面ヲ受取ッタ被告人ハ、相當ナル供述ヲ爲シタト云フコトニナルノデアリマス、其例ヲ申上ゲテ置キマス、其法律關係ハ、高木氏ヨリ御質問ノ通リデアリマスカラシテ、其事實ヲ申上ゲテ置キマス、被告

人ノ中ノ寺崎新策ハ、大正七年ノ九月十四日午前二時頃、豫審判事ノ石井壽太郎ノ令狀ニ依リマシテ、京都監獄ニ拘禁セラレテ、卽時ニ同判事ノ命令ヲ以テ、拘禁中監房ヲ別居ニシ他人ト接近及書類授受並ニ家族名義以外ノ者トノ物件並信書ノ授受ヲ禁止ス」此命令ヲ受ケテ居リマス、此被告人ニ對シテ一松檢事ハ、大正七年九月十七日附ノ山內寬次郎ト云フ者ニ宛テマシタル、告白書ト云フモノヲ書カセマシタ、第二ニハ同ジ日附デ、河原崎文二ト云フ者ニ宛テマシテ自白勸告書ヲ書カセマシタ、第三ニハ同日附布浦伊三郎ニ宛テ勸テ、自白勸告書ヲ書カセマシタ、第四ニ九月十八日附ヲ以テ、山內寬次郎ニ宛テタル第二ノ告白書ナルモノヲ認メサセ、第五ハ矢張九月十八日附デ、河原崎文二ニ對シ第二ノ告白書ヲ書カセマシタ、其翌十九日ニ河原崎文二ニ宛テマシテ、第三ノ告白書ヲ書カセマシタ、第七ニハ同日附ヲ以テ、堀田康人ニ宛テ告白書ヲ書カセマシタ、第八ニハ同日附ヲ以テ、福井孝三郎ニ宛テ告白書ヲ書カセマシタ、第九ニハ九月二十七日附デ、並川榮慶ニ對シテ告白書ヲ書カセマシタ、第十ニハ九月二十九日附デ、井上治三郎ニ對シテ告白書ヲ書カセマシタ、第十一ニハ十月十七日附ヲ以テ、白須重右衞門ニ對シテ告白書ヲ書カセマシタ、卽チ一松檢事ハ寺崎新策ナル者ニ對シテ、數人ノ人ニ宛テ、實ニ十一通ノ自白勸告書ヲ書カセタノデアリマス、此結果ハ其書面ヲ受取リマシタノハ被告人同士ノ關係デアリマスガ、被告人以外ノ者ニ宛テテモ尙ホ書面ヲ書カセマシタ、卽チ寺崎新策ヲシテ、大正七年十二月十二日附デ、寺崎至ト云フ者ニ對シテ書カセマシタ、寺崎至ハ卽チ寺崎新策ノ父ニ當リマス、其次ニ寺崎英子、是ハ家內デアルカ娘デアルカ判リマセヌガ、婦人ニ宛テ、書面ヲ書カシテ居リマス、是ガ皆各本人ニ屆イタカドウカ知レマセヌガ、兎ニ角檢事ガ押收シテ持ッテ居ルノデアリマス、又同月ノ十七日附デ、大津善助、田中博ノ此兩人ニ宛テマシテ、「告白書」ト題スル書翰ヲ認メサセマシタ、此數多ノ書面ヲ典獄ノ檢閱モ經ズ、豫審判事ノ檢閱モ經ズ、檢事ガ勝手氣儘ニ書カセテ、勝手氣儘ニ之ヲ取次レタノデアリマス、次ニ檢事ハ山內寬次郎ニ對シテモ、同樣ノ方法ヲ執ッテ居リマス、山內寬次郎ハ大正七年六月六日ニ、加藤豫審判事ノ令狀ニ依テ拘禁サレタノデアリマスガ、同日寺

崎新策同樣ニ接見禁止、竝物件授受禁止ノ命令ヲ受ケテ居ルニ拘ラズ、一松檢事ハ大正七年八月二十九日附大槻粂藏宛ノ自白勸告書、同八月三十日大槻粂藏宛注意書、十月七日附白須重右衞門宛自白勸告書、九月一日附大槻粂藏宛自白勸告書、九月二日附大槻粂藏宛ニ北村利太郎宛自白勸告書、之ヲ各檢事ニ於テ、各宛名人ニ對シテ傳達ヲ致シテ居リマス、又被告ノ北村利太郎ニ對シテモ、田中檢事ガ同樣ノ方法ヲ執ッテ居リマス、卽チ北村利太郎ナル人ハ、大正七年六月二日石井判事ノ命令ヲ以テ、前被告ト同樣ノ命令ヲ受ケテ居ルニモ拘ラズ、田中檢事ハ北村利太郎ヲシテ、大正七年九月二日附デ、山內寬次郎ニ對シテ、寬次郎ヨリ金百五十圓ヲ受取リタル外、何人ヨリモ收賄シタルコトハ無イト云フコトノ書面ヲ書カセマシテ、之ヲ寬次郎ニ示シマシタ、ソレカラ其次ハ大槻粂藏――大槻粂藏モ亦大正七年六月七日ニ、石井判事ヨリ同樣ノ命令ヲ受ケテ居ルニ拘ラズ、田中檢事ハ山內寬次郎ニ宛テ、、大正七年九月二日附寬次郎ヨリ金二百圓ヲ渡シタル外、何人ヨリモ受取ッタル金ハ無イト云フコトノ書面ヲ認メサセテ寬次郎ニ示シマシタ、次ニ奧田久兵衞ト云フ人ハ、大正七年六月二十日石井判事ノ命令ニ依テ、同樣ノ禁止處分ヲ受ケテ居ルニモ拘ラズ、一松檢事ハ大正七年九月三日附「一松檢事宛上申書」ナルモノヲ提出致シマシタ、其內容ニ依リマスルト云フト、其同被告人ノ中ノ、山內寬次郎、大槻粂藏、北村利太郎、古川勝次郎、三矢宮松、寺崎新策、內貴淸兵衞等ガ收賄シタト云フコトノ犯行ヲ申上デルト云フ趣旨デアリマシテ、結局自白ヲ强要スルノ具ニ供シタルモノニ外ナラヌト私ハ考ヘルノデアリマス、次ニ木內重四郎ハ、大正七年九月二十六日附加藤豫審判事ヨリ、同樣ノ禁示命令ヲ受ケテ居ルニ拘ラズ、一松檢事ハ木內重四郎ニ對シテ、大正七年十月十八日附、三矢宮松、及金ケ原武雄ニ宛テ、自白勸告書ヲ書カシメマシテ取次イデ居リマス、其次ハ金ケ原武雄デアリマス、同人ハ大正七年九月二十四日石井豫審判事ヨリ、同樣ノ命令ヲ受ケテ居ルニ拘ラズ、中田檢事ハ被告人ノ中デ石田喜兵衞ヲシテ、金ケ原武雄ニ宛テ、「進言書」ナルモノヲ認メサセマシテ、之ヲ武雄ニ取次ギマシタ、是ハ各被告人ヲシテ被告人ノ間ニ取次ガシタリ、示シタリシタ關係デアリマスガ、最後ニモウ一ッ申上ゲテ置キタイノデアリマス、是ハ此書面ノ表面ニ依リマスト云フト、裁判所ノ用紙ニ書イテアリマスカラシテ、

裁判所ノ用紙ヲ檢事ガ被告人ニ與ヘテ書カシタモノデアルト認メマスガ、其書面ニ依リマスト、大正七年九月二十七日附木內重四郎君ヨリ、三菱銀行ノ三宅川支店長宛ノ書面デアリマス、此書面ハ裁判所ノ用紙ニ書イテアルノデアリマス、其內容ヲ一寸此所デ申上ゲテ置キマス、如何ニ檢事ガ傍若無人ノ取扱ヲ致シタカト云フコトヲ見ルニ、恰モ好キ證據デアルト考ヘマス、其書面ニ依リマスト「拜啓一昨年卽チ大正五年五月ニ小生ハ京都ニ來レリ同年六月ヨリ十二月迄六箇月間ニ屢〻小切手ニテ金銀ヲ銀行ヨリ引出シタリ其寫シヲ(何年何月何日金何圓ヲ列擧セラレタシ)示シ下サレ度御依賴申上候尤モ是ハ祕密ニ願上候一松檢事ニ內示出來ルヤウニ右六箇月間ヲ列擧セラレタシ」括弧デ月日ヲ記入シテ「小生入洛ノ事ハ祕密ニ願上度候頓首九月二十七日木內重四郎三宅川支店長殿」サウシテ檢事ガ被告ニ對シテ、自分ノ來タコトハ內證ニシテ吳レト云フコトヲ書カシテ、檢事ガ取次イデ居ル、而シテ豫審判事ハ之ヲ知ラヌ、豫審判事ノ話ニ依リマスト、此事ハ無論知ラヌト言ッテ居リマスガ、檢事ハ尙ホ木內ヲシテ電話モ掛ケサシテ居ル、檢事ハ木內ニ對シテ、自分ガ三菱銀行ニ行ッテモ帳面ヲ見セヌカモ知ラヌカラシテ、君ガ電話ヲ掛ケテ置イテ吳レト云フコトヲ言ッテ居ル、斯ノ如キ事ヲ致シマスナラバ、豫審判事ハ何ノ必要アッテ書面禁止、若クハ外間トノ交通禁止ヲシタノデアルカ私ニハ分リマセヌガ、豫審判事ガ外間トノ交通ヲ禁止シタル理由ハ、全ク檢事ニ依テ滅却サレタノデアリマス、斯ノ如キ事ヲモ檢事ハ致シテ居ルニ拘ラズ、是ガ尙且ッ違法ニ非ズ、人權蹂躙ニモ非ズト云フコトガ言ヘルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、此所デ私ハ一ッダケ證據ヲ讀ンデ置キマス、是ダケアリマスケレドモ、之ヲ讀ムコトハ皆サンニ對シテ恐縮デアリマスシ、又之ヲ官報ニ載セルコトモ甚ダ何デアリマスカラ、其中ノ一ッダケヲ讀ンデ、如何ニ檢事ガ傍若無人ノ行爲ヲシタカト云フコトノ證據ニ致シタイト思ヒマス、洵ニ長ラク恐縮デアリマスガ、モウ少シ御淸聽ヲ煩ハシマス、要點ダケヲ讀上グマスガ、是ハ寺崎新策ヨリ大正八年ノ一月十日附デ、一松檢事ニ出シタ書面デアリマス、此標題ハ「上申書」トアリマス、其中ニ斯ノ如キ事ヲ記載シテアリマス「一、併合罪ノ刑期ノ計算方法ヲ被告ニ諭示セラレタルハ閣下ナリ」是ハ何デモ澤山罪ガアルノダカラシテ、自白スレバ併合罪ノ規

定デ安クナルト云フコトヲ示シタラシイ、其御禮狀ラシイ、「一、老父ノ罪ハ之ヲ免ズベシ被告人赤誠ヲ以テ府會ノ纏綿セル事情ヲ究明スルニ力ムベシト諭示サレタルモ閣下ナリ」卽チオ前ノ父ノ罪ハ免シテヤルカラシテ、オ前ハ赤誠ヲ以テ府會ノ纏綿セル事實ヲ陳述セヨト云フ、是ハ後ニ機會ガアレバ申上ゲマスガ、寺崎新策ノ父ガ何カ罪ヲ犯シテ居ル、一方ニ此父ノ罪ヲ檢擧スルト云フコトヲ言ヒツヽ訊問シタ、オ前ガ言ハナケレバ父ヲ縛ル、言ヘバ父ヲ免シテヤル、斯ウ云フモノデスカラ此文章ガ出來タ、「一、御諭示ヲ奉ジ誠意此事ニ方リタル時上長官ノ諸賢閣下モ亦被告ノ誠意ヲ賞セラレタリト示サレタルモ閣下ナリ」オ前ガ能ク白狀スルト云フノヲ上長官ニ話シタ所ガ、上長官モ御褒ニナッタト云フコトヲ告ゲテ、餘程懷柔策ヲ講ジタモノダラウ、上長官ノ御褒ニ預ッテ難有イト云フコトヲ此所デ申シテ居ル「一、被告ハ年齒盛ンニシテ尙後ノ活動ニ待ツベキモノ多シ一切ヲ告白シテ天ノ罰法ノ刑共ニ之ヲ受ケ將來實業界ニ立チテ全力ヲ竭シ猶復權ノ恩典ニ浴シ罪障ノ幾分ノ一ヲ償ハザルベカラズト鼓舞サレタルモ閣下ナリ」詰マリオ前ハマダ若イカラシテ、早ク白狀シテ、復權ノ恩典ニ預ッタラ宜イデヤナイカト云フノデ、檢事ハ裁判ノ確定セヌ中カラ恩典ヲ約束シテ居ル、其次ニハ、「一、被告ノ將來アルハ認ムル所ニシテ憐察ニ不堪又起ツベカラザル迄ニ鞭ツガ如キハ忍ビザル所ナリ府會問題ニハ全力ヲ傾注シ更ラニ被告ノ罪狀中父ニ關係ナキモノハ一切之ヲ告白セヨト諭示サレタルモ閣下ナリ」爺ノ事ハ言ハナクテモ宜イ、オ前ノ事ハ全部言ヘ「今ヤ被告父子ハ俎上ノ魚、生殺一切ノ權ハ擧ゲテ閣下及諸賢ニアリ今ニ於テ何ノ策ガアリテカ大恩アル閣下ヲ冒シ閣下ヲ欺キ其罪ヲ深クシ」云々ト斯ウ書イテアル、之ニ依テ見ルト、如何ニ檢事ガ祕密ノ場所デ被告人ヲ取調ベテ、或ハ早ク自白スレバ恩典ニナルトカ、オ前ガ自白スレバ父ノ罪ハ免ジテヤルトカ云フヤウナ、檢事トシテ爲スベカラサル事、言フベカラザル事ヲ言ウテ、サウシテ被告ノ自白ヲ强要シタト云フ事實ガ、歷々ト見エルノデアリマス、次ニモウ一ツデアリマスガ、是ハ翌年ノ一月二十四日附デ、寺崎新策ヨリ一松檢事宛ノ書面デアリマス、前略ト致シマシテ「上長官竝ニ閣下ノ賞詞ヲ受ケテ昨年末ニ至リタルハ全ク老父至ノ罪ヲ宥免ヲ悃願セルノ苦衷ニ外ナラズ」詰マリ御褒ヲ忝ウ致シマシテ、色々ノ事

ヲ申上ゲテ參リマシタガ、ソレハ全ク老父ノ至ト言フ者ノ罪ヲ免ジテ貰ヒタイ爲メニ申上ゲタ苦衷ト云フモノニ外ナラズ、事實ノ自白デアルカドウカ全ク判ラナイ、次ニ「被告ハ父ノ罪狀ニ泣キテ遂ニ病床ニ伏シ父ノ收監サレントスルヤ閣下ノ慈言ニ甘ヘテ其猶豫ヲ希フテ父ヲ諭示シ妻ヲ諭シ遂ニ病中深夜ニ御臨監ヲ請フテ被告ノ一切ノ經歷ヲ告白シテ父ノ罪ノ御許シヲ願ヘリ」中略「一意父ノ罪ヲ救ヒ父ニ代ルベキヲ以テ心トセル被告ハ父ノ自白ノ儘ヲ被告ノ自白トシ」モウ一遍申上ゲマス、「被告ハ父ノ自白ノ儘ヲ被告ノ自白トシ閣下竝ニ諸賢ノ赫怒ヲ虞ルルノ暇ナカリシ舊臘長瀨事件ハ被告ノ罪ニ歸シテ長瀨氏ノ出監ヲ見ルニ至リ深ク安ジ爲メニ病氣ノ全快ヲ見ルニ至リ今ヤ他ノ御取調ノ進行ヲ待チツヽアリシニ何ゾ知ラン本月二十一日更ニ豫審廷ニ於テ同事件ニツキ百圓札ノ使途ノ詳細ナル御取調ベトナリ細ヨリ微ニ入リ其辯明ノ途ヲ失ヒ、父ヲ救ハントセル苦心モ今ヤ立ツルニ途ナク本日一切ノ不心得ヲ告白シテ子トシテ父ノ罪ヲ申立ツルノ悲況トナレリ」之ニ依テモ此間マデ貴方ニ自白致シマシタノハ、全ク父ヲ救フ爲メデアッタ故ニ、父ノ關係ノアル事件ト云フモノハ、濟ンダト思ウテ居ッタニモ拘ラズ、又其事件ノ取調ガ始マッタ、ソレデハモウ父ノ罪ヲ救フ譯ニ行カヌカラ、洵ニ困ル立場ニナッテ居ルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、之ニ依テ見マスト檢事ガオ前ノ父ノ罪ハ免シテヤルカラ、府縣會議員ノ贖職事件ノ方ヲ一切自白シタガ宜イト云フノデ、是ハ詐稱誘導的ニ訊問シタト云フコトノ證據ニナルト思フ、是卽チ人權蹂躪デアルト思ヒマス、此中ニ澤山讀ンデ置キタイト思ヒマス事ガゴザイマスガ、併シ諸君ノ倦怠ヲ買フコトハ甚ダ遺憾ト思ヒマスカラ、此點デ止メテ置キマスガ、要スルニ豫審判事ガ各被告人ニ對シテ、外間トノ交通、竝ニ被告人同士ノ共謀ヲ止ムルノ目的ヲ以テ、嚴重ナル命令ヲ發シテ居ルニモ拘ラズ、檢事ガ豫審判事ノ承認ヲ經ズ、同意ヲ經ズシテ、勝手氣儘ニ書面ノ往復ヲ許シ外間トノ交通ヲ許スト云フヤウナ事柄ハ、斷ジテ爲スベカラザル事ト思フノデアリマス、斯ノ如ク致シマスレバ、裁判官ノ獨立ハ何所ニアルカ、吾々ノ信ズル所ニ依レバ、裁判官ガ憲法ノ保障ニ依テ、獨立ノ職權ヲ持ッテ居ルト云フ事柄ハ、行政官タル檢事ヨリシテ、其職責ノ範圍ヲ侵サシメナイト云フ、私ハ一ノ目的ヲ包含シテ居ルト思フノデアリマス、

然ルニ京都地方裁判所ニ於ケル此檢事ノ取扱振リト云フモノハ、全ク判事ト云フモノハ眼中ニ無イノデアリマス、判事ガ何ト云フ命令ヲ下シテ居ラウガ、サウ云フ事ニハ毫モ拘束サレズシテ、自由ニ外間トノ交通ヲ許シ文書ノ交通ヲ許ス、全ク傍若無人ノ事柄デアリマシテ、私ハ如何ニモ檢事横暴ノ事弊ヲ現シタモノト確信ヲ致シマス、第六ハ是亦豫算委員會ニ於テ多少御話ガアリマシタガ、尚ホドウシテモ是ハ申上ゲテ置カナケレバナラヌ事柄デアリマス、卽チ第六ハニ御尋ヲ致シタイノハ、被告人ニ對シテ檢事ガ侮辱ヲ與ヘ、若クハ被告人ノ身體ニ對シテ、苛酷ナル取扱ヲ爲シタリト云フ點デアリマス、侮辱ノ點ハドウデアルカト申シマスレバ、冒頭ニ申上ゲマシタ如ク、吾〻ハ被告人竝ニ辯護人諸君ノ言ハレル所ハ、毫モ是ハ採用致シマセナカッタガ、被告人ノ或者ハ斯ウ云フ事ヲ申シテ居リマス、私ハ之ヲ信用スルノデハアリマセヌガ、檢事ハ吾〻ヲ訊問スルニ方ッテ、或時ハ夜分麥酒ヲ飲ンデ來テ、眞赤ナ顏ヲシテ御取調ニナッタ、是ハ有ル事カ無イ事カ知リマヌセ、私ハ無キコトヲ希望致シマスルガ、ドウモ大正七年ノ四月カラ大正七年ノ十二月マデ約八箇月間、晝夜ヤッタノデゴザイマスカラ、ドウモ祭日ナドニハ、麥酒ノ一杯位ハ飲ンデ來タコトモアルノデハナイカト思ッタコトモアリマス、併シ是ハ信用致シマセヌ、又或被告ガ申シマスノニ、檢事ハ訊問中ニ煙草ヲ吾〻ノ顏ニ吹掛ケル、今日モ亦自白セヌカ――言葉ガ終ルト同時ニ煙草ヲ吹掛ケル、私ハ煙草ガ好キデアッテ、如何ニモ苦痛デアリマシタ、其態度ガ如何ニモ失敬デアリマシタト言ッテ居ル、是ハ一人ヤ二人ガ言フノデハアリマセヌ、數人ノ被告人ガ、殆ト泣カンバカリニシテ訴ヘテ居リマス、併シ是モ私ハ信用ヲ致シマセヌ、併ナガラ被告人ハ左樣ニ申シテ居リマス、檢事ノ名前モ分ッテ居リマスガ、是モ申上ゲマセヌ、又或被告ノ言フ所ニ依レバ、檢事ハ御訊問中ニ私ノ面前ヘ足ヲ突付ケタ卓子ノ上ニ足ヲ載ッケタト言フ是モ私ハ信用シタクナイ、信用シタクナイガ、此點ニ就テハ遺憾ナガラ檢事正モ、當該檢事モ、皆ナ之ヲ認メマシタ、然ラバドウ云フ場合ニ被告人ノ面前ニ足ヲ出シタトカ云フコトヲ申上ゲマスルト、當時ハ脚疾デアッテ、ドウ云フ所ガ痛カッタカ知リマセヌガ、脚疾デアッテ、椅子ニ腰ヲ掛ケテ居ラレナカッタカラ、卓端ニ卽チ卓子ノ端ニ足ヲ上ゲタコトガアルト云フ、是ハ古森檢事モ、一松檢事モ、亦足ヲ上ゲタ檢事モ認メテ居リマシタ、麥酒ト煙草ノ點ハ姑ク私ハ申上ゲマセヌ、否ナ斯ノ如キ事ハ無イコトヲ希望致シマスガ、足ノ點ハ遺憾ナガラ檢事正首メ皆ナ御認ニナッテ居ル、假リニ檢事御主張ノ如ク其訊問ヲセラル、檢事ガ偶〻足ガ痛ンデ居タニ致シマシテモ、被告人ノ面前ニ足ヲ擧ゲテ訊問スルトハ何事デアリマス、被告人ハ牛デモナケレバ馬デモナイノデアリマス、其面前ヘ繃帶ヲシテアッタカ、ドウカハ知リマセヌガ、足ヲ載ッケテ訊問スルトハ何事デアリマス、檢事ノ方デハ御病氣デアルカモ知ラヌケレドモ、此訊問ニ面前デ足ヲ突付ケラレタル被告人ハ、病氣デアルカ、病氣デナイカ、醫者デナイカラ判斷スルコトハ出來マセヌ、假令病氣デアッテモ私ハイカヌト思フ、何所ノ國ノ裁判所ニ足ヲ突付ケテ訊問スル所ガゴザイマスカ、之ヲ以テ見レバ、煙草ヲ吸ッタ位ノ事ハアリハセヌカト、私ハ疑問ニ堪ヘヌノデアリマス、若シ足ガ痛イナラバ、其日ハ訊問シナクテモ宜イ、而モ之ヲ受ケタ被告人ハ一人バカリデハナイ、兎ニ角皆ナ府會議員デアルトカ、府知事デアルトカ、警部長デアルトカ云フヤウナ、相當ノ官職ヲ有チ、公職ヲ有ッテ居ル被告人デアル、其被告人ノ面前ニ足ヲ投出シテ訊問スルトハ何デアル、個人間ニ於テモ非常ナル罪惡デアル、況ヤ謹愼嚴正ヲ尙ブ所ノ檢事ガ、被告人ノ面前ニ足ヲ突付ケテ訊問ヲスルトハ、橫暴モ、專橫モ、是レ以上ノ事ハ無イト私ハ思フ、此點ハドウ云フ工合ニ司法當局ハ御辯解ニ相成リマスカ、私ハ之ヲ聽キタイノデゴザイマス、又被告人ノ中ノ上田莊吉ナル人ハ、名前ハ分ッテ居リマスガ――申上ゲマセヌガ某檢事ヲ對手取ッテ、凌虐罪ノ告訴ヲ提起シテ居リマス、告發狀トモ聞イテ居リマスガ、ソレハ內容ハ判リマセヌ、其事件ノ內容ハ言フニ忍ビマセヌカラ申上ゲマセヌガ、此檢事ヲ對手取ッテ告訴ヲシテ居ル、此檢事ヲ對手取ッテ告訴ヲ爲シタル事件ハ、京都地方裁判所ノ檢事局ニ於テ、之ヲ訊問シテハ、公平ヲ缺クノ虞ガアルト云フコトカラ、大阪控訴院ノ三浦檢事カ自ラ之ヲ取ッテ調査ヲシ訊問ヲシマシタガ、是ハ高木君モ言ハレルヤウニ、被告モ御取調ニナリ、檢事モ御取調ニナリマシテ、ドウ云フ理由カドウカ知リマセヌガ、不起訴ニナッテ居リマスガ、此瀆職事件ノ辯護人ノ一人ヨリシテ、京都地方裁判所ノ公判廷ニ於テ、此事件ノ記錄ヲ請求シテ居リ

マス、公平ナル裁判官ハ之ヲ許シテ居リマス所ガ、檢事局ハ之ニ反對ヲシテ居ル、現ニ取寄ニ應ジナイ、檢事局ノ惡事ヲ告訴セラレテ、若クハ告發ヲセラレテ、其書面ヲ裁判所ニ出シテ呉レト云フテ申請ガアッテ、裁判所ガ許シテ居ルニ拘ラズ、檢事ガ之ヲ出サナイ、私ノ考デハ後暗イ所ガアルカラ、出サレヌノデアラウト思ヒマス、若シ果シテ凌虐罪ノ事ト云フモノガ、全ク荒唐無稽ノ事柄デアッテ、事實ニ違ッテ居ルト云フナラバ、宜シク堂々ト公判廷ニ御出シニナッテ、此黑白ノ批判ヲ受ケタ方ガ宜シイト思ヒマス、私ハ此意味ニ於テ、當議會ニ此調書ヲ御提出ヲ願ヒタイト思フ、御提出ヲ願ッテ、一ハ以テ凌虐ノ事實ナルコトヲ立證シタイト考ヘマス、若シソレガサウデナカッタナラバ、私ハ告訴告發ヲ受ケタル檢事ノ寃ヲ雪ギタイト思ヒマス、司法權ノ威嚴ノ爲メニ、私ハサウスル方ガ適當ト考ヘマス、又被告人ノ中デ三矢宮松、是ハ大阪府ニ於テモ長イ間相當ノ官職ニ居ッタ人デアリマスガ、此人ハ現ニ訊問ヲ爲ス所ノ檢事ニ向ッテ、餘リ尊大不遜ノ態度ヲ以テ訊問致シマシタカラ、無禮デアルト云フノデ鐵拳ヲ揮ッテ毆打セントシタト云フ事實ガアルト云フ話デアリマス、是亦私ハ其事實ヲ三矢本人ノ爲メニ否認致シタイ、檢事局ノ爲メニ否認致シタイノデアルガ、京都ニ行キマスルト、誰デモ此事實ヲ言ッテ居ル、之ガ爲メニ此事實ノ眞否ハ私ハ存ジマセヌケレドモ、京都ニ於ケル檢察官ノ威信ハ全ク地ニ墜チテ居ル、麥酒ヲ飲ンダトカ、煙草ヲ喫ンダトカ、足ヲ擧ゲタトカ、凌虐シタ被告人カラ毆グラレサウニナッタ、何所ニ行ッテモ其話ヲシテ居リマス、斯ノ如クニシテドウシテ此檢事局ノ威信ガ保タレマスカ、若シ是等數點ノ事實ニ依テ、檢事ガ被告人ノ或者ニ對シテ、侮辱ヲ與ヘタル事實ハアルノデハナイカト思ヒマス、當局ハ相當ナル檢事ヲ派遣セラレマシテ、舊臘以來調査ニ著手致シテ居リマスカラシテ、此點ノ詳細ナル御報告ヲ御受ニナッテ居ルト思ヒマスカラ、是モ詳細御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、次ハ侮辱ヲ與ヘタルノミナラズ、苛酷ノ取扱ヲ爲シタル點デアリマスガ、是ハ所謂豚箱ノ問題デアリマス、此豚箱ト云フノハ、此間モ豫算委員會デ問題ニナリマシタ、司法次官ノ豚箱ト云フノハ、辯護人ガ言ヒ出シテ居ル、何所ノ監獄署ニモ有ル箱デアッテ、決シテ豚ヲ入レテ居ッタノヲ、豚ヲ出シテ被告人ヲ入レタ譯デハナイ、ソレハ被告人デナイ辯護人ノ或者ガ付ケタ名前デアル、ト斯ウ云フ御話デアリマスガ、ソレハ全ク違ッテ居リマス、吾々ガ京都ニ出張シタル際ニ、各方面ノ調査ヲ致シマシタ結果ニ依レバ、是ハ被告人ノ一人ガ言出シタ言葉デアリマス、ソレハ江羅直三郎デアッタト記憶致シテ居リマス、當人ガ申シマスルニ、連日連夜取調ベヲ受ケテ、ドウシテモ自白ヲシナイ、其時分ニ檢事ガ、ソレデハ又オ前ハ彼ノ箱ニ入ッテ居レト云フ話デアッタ、其時分ニ被告人ガ曰ク、此暑イノニ彼ノ豚箱ニ入ルノデスカト言ッタ、入ッテ居レト斯ウ言ッタ、ソレガ豚箱ト云フ名稱ノ由ッテ起ル起原デアル、辯護人ガ付ケタノデモ何デモナイ、豚箱ト云フノハ決シテ豚ヲ入レテアッタノヲ、豚ヲ逐出シテ人間ヲ入レタ意味デナクシテ、豚ヲ入レルヤウナ粗末ナ物ト云フ意味デアリマス、此豚箱ナルモノハ私モ入ッテ見マシタガ、高サガ丁度五尺六寸許リアリマス、幅ガ二尺許リアリマス、奥行モ二尺四五寸アッタト思ヒマス、板デ作ッタ押入形ノ箱デアッテ、僅ニ身體ヲ入レ得ル、吾々ノヤウナ體ノ小サイ者ハ餘リ苦痛ニ思ヒマセヌガ、少シ體ノ大キイ者ハ、身動キノナラヌ箱デアリマス、私ハ此豚箱ニ入ッタ時ニ、斯ウ云フ感ジガ起リマシタ、是ハ奇麗ナ紙ガ貼ッテアッテ、サウ穢ナクナイデナイカ、併シ此所ニ長ク入レラレルト云フト、餘程困難ニ違ヒナイ、此奇麗ナ紙ガ貼ッテアル點ニ就テ承リマスト、當初ハ實ニ穢ナカッタノデス、眞黑クナッテ、爪デ落書ヲシテシマッテ、殆ド目モ當テラレナイ程穢カッタノデアルガ、豚箱問題ガ起ッテ、東京カラ辯護士ガ取調ニ來ルト云フコトヲ聞イテ、京都ノ監獄デ狼狽テテ貼リ替ヘテ、僕等ノ入ッタ時分ハ奇麗ニナッタ、何デ之ヲ貼替ヘルカ、今現ニ其訴訟事件ハ、京都地方裁判所ニ繼續ヲ致シテ事件ハ、進行中デアルニ拘ラズ、殊ニ其事件ノ辯護人ハ、彼ノ豚箱ニ入レタノヲ拷問デアルト主張シテ居ルニ拘ラズ、其訴訟材料ノ變更ヲ企テルト云フコトハ、典獄カヤッタニシテモ、檢事ガ命令シタニシテモ、ドッチニシテモ不都合デアルサウ云フ事實デアル、要スルニ此豚箱ノ中ニ彼告ヲ入レマシタノガ、是ハ詳シイ事ハ御倦怠ノヤウデアルカラ申上ゲマセヌガ、吾々ノ調査スル所ニ依レバ、一人ニシテ數十回、是ハ決シテ間違ノ無イ事實デアリマス、而シテ其數十回ノ中デ、一回ノ時間ハ數時間ニ及ンダモノデアリマス、大正七年四月カラ大正七年十二月二十一日マデ約八箇月間、殆ド連日檢事ガ訊問シテ、連日被告人ヲ其所ニ入レテ居ッタ、八月盛夏ノ交

モ、二月極寒ノ際モ、悉ク其所ニ入レテ居ッタ、是ハ身體ニ對スル――私ハ從來アリマス拷問ノ程度ニ達シタルモノトハ申シマセヌケレドモ、被告ノ身體ニ對シテ、苛酷ナル取扱ヲナシタト言ハレテモ、仕方ガアルマイト思フ、而シテ此豚箱問題ハ、此箱ノ中ニ入レタト云フ一事ハ、私ハ決シテ人權問題ニ影響ハ無イト思ヒマス、相互ノ誤見ヲ避ケル爲メニ、便宜上其所ニ入レタト云フコトハ、或ル意味ニ於テ人權擁護ノ目的ノ爲メニ必要デアリマスケレドモガ、之ヲ數時間ノ長キニ亙ッテ此所ニ入レテ置クト云フコトハ、卽チ人權問題デアルト思ヒマス、要スルニ此豚箱ノ問題ハ、箱ソレ自身ノ問題ニ非ズシテ、時間ノ問題デアル、五分カ三分間、其必要ニ應ジテ其所ニ入レルト云フコトハ、毫モ差支ナイト考ヘマスガ、之ヲ三時間モ五時間モ此所ニ入レルニ至ッテハ、人權蹂躪モ甚シキモノデアルト私ハ考ヘル、此點ニ就テ私ハ承リタイ、一ツノ證據ヲ擧ゲテ置キマスガ、京都ノ監獄ニ於テ、典獄ノ赤塚源二郎氏ニ面會シタ時分ニ、斯ウ云フ事實ガアリマス、此豚箱問題ガ非常ニ八釜シクナリマシタガ、私モ裁判所ノ御喚問二十八ト云フ話デアリマスカラ、ドウ云フ事情デアルカ、約三十名ノ看守ヲ集メテ訊問致シタ處ガ、看守ノ申シマスルニハ、大抵ハ二三十分シカ入レマセヌ、長クテ二時間位ナモノデアッタト云フコトヲ、典獄自身カラ申シマシタ、此所ニ二三十分入レルコトガ既ニ不當デアリマスガ、二時間ニ及ブト云フコトハ全ク不都合デアル、又此點ニ就テ典獄ガ言ハレマスニ、大正八年二月中ノ極寒ノ際ニ箱ニ入レラレタ儘遲クナッタ、看守ガ引出シテ火ニ當ラセマシタ所ガ、喪心シタヤウニ倒レカカッタ者ガアルノヲ聞キマシタ、多分ソレハ谷口慶次郎ト記憶致シマス、水ヲ吹掛ケテ、醫者ヲ呼ンデ漸ク復活致シマシタ、是ハ典獄自ラ言ッタノデアリマス、此事實ニ依ルト、二月半ベノ寒天ノ際ニ、何時間入レテ居ッタカ知リマセヌガ、餘リ長クナッタノデ、詰マリ喪心ヲスルヤウニナッテ、醫師マデ呼ベネバナラヌト云フマデニ、谷口慶次郎ト云フ者ヲ長ク入レテ居ッタコトハ明瞭デアリマス、斯ノ如キハ私ハ一種ノ拷問デアルト思ヒマス、此豚箱問題ニ就テ、司法當局ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、第七ニ承リタイノハ、簡單ニ申上ゲマス、第七ニ司法當局ニ申上ゲテ置キタイノハ、日曜祝祭日ニ被告人ヲ訊問シ、若クハ拘留シタル點、私ハ是ハイカヌト思フ、日曜ノコトハ暫ク申上ゲマセヌ、

餘リ數ガ多クテ言フ程ノ必要ハナイト考ヘマスカラ、大祭日ニ被告人ヲ取調ベルトハ何事デアリマスカ、其例ヲ擧ゲテ置キマス、大正七年三月二十一日春季皇靈祭、此大祭日ニ當ッテ、檢事ノ原田、樋口、山本三君ハ、京都監獄ニ出張致サレマシテ、午後ノ七時乃至八時二十分ニ退廳シタト云フ事實ガアル、卽チ春季皇靈祭ノ大祭日ニ當ッテ三人ノ檢事ガ夜分マデ出張取調ヲシタト云フ事實デアリマス、其次ハ四月三日神武天皇祭ニ山本、中田、原田三檢事ガ出張致シマシテ、サウシテ多數ノ被告人ヲ訊問ヲ致サレマシテ、何レモ午後十一時二十分ニ退廳致シテ居リマス、其次ハ七月三十日明治天皇祭ニ一松檢事、樋口檢事、中田檢事、此三君ガ京都監獄ニ出張致シマシテ、被告人ヲ訊問シテ午後七時三十分ニ退廳致シテ居リマス、八月三十一日天長節ニ當リマシテ、一松檢事、樋口檢事、中田檢事、田中檢事、此四君ガ京都監獄ニ出張致シテ、各被告人ニ就テ訊問ヲ致シテ、午後六時ニ退廳致シテ居リマス、其次ハ九月二十四日秋季皇靈祭ノ大祭日ニ當ッテ、一松檢事、中田檢事、樋口檢事、此三君ガ京都監獄ニ出張致シテ、堀田康人、河原崎文二、白須重右衞門、此三人ヲ取調ヲ致シマシテ、午前十時若クハ午後五時ニ退廳致シテ居リマス、其次ハ十月十七日神嘗祭ノ當日デアリマス、中田檢事ガ單獨デ京都監獄ニ出張致シマシテ、小笹新太郎、古川勝次郎、淺田角太郎、之ヲ訊問致シテ、午後五時三十分ニ退廳ヲシテ居リマス、其事柄ハ京都監獄ノ判事檢事退廳時刻調、被告人出房監房時刻調、此書面ニ書イテアッテ、官文書ノ上デ明瞭デアリマス、諸君申スマデモナク此大祭日ニ當ッテ被告人ヲ訊問スルト云フコトハ我國ノ法律ノ上カラ申シマシテモ、是ハ許サヌ事デアリマス、卽チ刑事訴訟法ナリ、民事訴訟法ナリノ期間ノ計算ニ關スル法規ヲ見マシテモ、日曜トカ大祭日ト云フモノハ、決シテ期間ノ中ニ通算シナイ、最終日ガ日曜大祭日ニ當ル場合ニハ、決シテ此期間ト云フモノハ通算シナイ、又監獄ニ於テモ被告人ノ定役ヲ免ジテ死刑ノ執行ヲシナイ、ソレガ日本ノ法律ノ正面デアリマス、殊ニ我建國ノ歷史ニ徵シマシテモ、秋季皇靈祭ト申シマスレバ、秋季ニ當ッテ、我歷代ノ天子ノ靈ヲ祀ル日ニ當テ居リマス、斯ノ如キ日ニ當ッテ、被告人ニ對シテ檢事ガ夜分マデ出張シテ訊問スルトハ何事デアリマスカ、私ハ之ヲシテモ人權蹂躪ト言ハナケレバナラヌ、人權蹂躪ト云フコトハ無イト思ヒマス、此事實ニ

就テ司法當局ハ何ト御考デアリマスカ、切ニ私ノ聞カント欲スル所デアリマス、第八、第八ハ危篤ノ病人ヲ取調ベタコトデアリマス、斯ウ云フ事柄ガ此法治國ニ於ケル我日本ノ裁判所ニ於テ、日本ノ檢事局ニ行ハレルト言フ事柄ハ、實ニ遺憾至極ノ事デアルト私ハ考ヘルノデアリマスカラ、諸君ニ此事實ノ一端ヲ訴ヘテ、而シテ司法改善ノ爲メニ、諸君ノ御援助ヲ願ハナケレバナラズ、司法當局ノ御考ニモ訴ヘナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアリマス、橋井孝三郎ト云フ被告ハ、大正八年七月三日、加藤豫審判事ノ令狀ニ依テ拘禁サレマシタ所ガ、同人ハ當日肺炎加答兒ト慢性胃加答兒ヲ併發致シテ居リマシタ、遂ニ胃潰瘍トナッテ、監獄醫ノ中村兼次郎ノ治療ヲ受ケテ居ッタノデアリマス、サウシテ同年ノ十月四日頃ニ至リマシテハ愈〻重態ニ陷リマシテ、同月ノ六日ニ胃潰瘍ノ爲メニ、五十瓦程ノ吐血ヲ致シテ居ル、同月八日カラ病監ニ移サレマシテ、爾後二週間ト云フモノハ、毎日吐血ヲ致シテ居ッタノデアリマス、然ルニ其吐血致シタル十月六日ニ、中田檢事自ラ監獄ニ出張致シマシテ、監獄醫ヲモ立會ハセズシテ、サウシテ通常ノ被告人ニ對スルト同樣ナ方法ニ依テ訊問ヲ致シテ居ル、其後同月十六日ニ同一ノ病症デアッタニモ拘ラズ、中田檢事ガ矢張被告ニ對シテ、訊問致シテ居ルト云フ事實デアリマス、ソレカラ其次ハ精神病者ヲ訊問シタト云フ事實デアリマス、色〻ナ事ヲヤルモノデス、田中平義ハ大正七年六月四日ニ加藤豫審判事ノ令狀デ拘禁サレテ、同人ハ其當時カラ精神病者デアッタ、七月下旬カラ益〻異狀ヲ呈シマシテ、遂ニ痴呆症ニ近キ程度ノモノト變ジタ、其翌年一月下旬ニハ精神病者ヲ、之ヲ如何トモスルコトガ出來ナイト云フノデ、責付トナッテ出獄ヲ許サレテ居ルノデアリマス、其間即チ拘禁以來一月下旬ニ責付出獄ニ至ルマデ、毫モ病症ニ變化ハ無カッタノデアリマス、然ルニ田中檢事ハ其間ニ於テ屢〻之ヲ訊問致シテ居ル、是ハ新聞デモ拜見致シマシタシ、其他カラ聞ク所ニ依レバ、公判廷ニ於テ監獄醫ノ中村兼次郎ト云フ人ハ、明カニ其事實ヲ證言致シテ居リマス、殘酷トモ、無法トモ、此ニ至レバ極マレリト謂フベシ、是等ノ事項ニ就テモ、御取調ノ上、御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、第九ハ豫審判事ガ訊問ヲ致シマス際ニ、關係ノ檢事ガ其被告人ヲ訊問スル際ニ、殊ニ豫審判事ノ室ニ於テ、被告人ノ側ニ佇立シテ居ルト云フ事實デアリマス、甲ノ被

告人ヲ檢事ガ取調ヲ致シマシテ、愈〻自白ヲシタ、ソレニ基イテ豫審判事ガ訊問ヲ始メルト云フ際ニ、其檢事ガ豫審判事ノ取調ベル所ヘ行ッテ、チャント監視ヲシテ居ルノデアリマス、此事柄ハドノ被告人ニ對シテ、ドノ檢事ガサウ云フコトヲヤッタト云フコトヲ、私ハ今日ハ申上ゲマセヌガ、私ハ其事實アルコトヲ主張致シテ置キマス、被告人ノ多クハ悉ク之ヲ陳述致シテ居リマス、併シ是ハ被告人ノ言フコトデアリマスカラ、私ハ信ジタクアリマセヌ、然レドモ斯ク多數ノ被告ガ斯ノ如キコトヲ申シマスニ依テ想像スレバ、豫審判事ノ訊問ノ際ニ、檢事ガ其傍ニ佇立シテ居ッテ、其訊問ノ模樣ヲ、監視シテ居ッタト云フ事實ガアリハセヌカト思ヒマス、私ハ斯ノ如キ事ガアリトスルナラバ、是ハ全ク法律ヲ無視シ、判事ノ職責ヲ蹂躪スル違法ノ極デアルト信ズルモノデアリマス、是ニテ私ノ質問ハ了ルノデアリマスガ、最後ニ司法當局ヨリシテ本員ノ質問ニ對シテ御答辯アル際ニ、併セテ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマスル事ハ、此事件ニ對シテ、是迄ノ事ハ姑ク措テ、今後如何ナル處置ヲ司法當局ハ執ラントスルカト云フ點デアリマス、御承知ノ如ク昨年暮ニ大審院ヨリ小山檢事ガ御出張ニナッテ、今日ニ至ルマデ種々ノ調査ヲ致シテ居ラレマスル、恐ラク既ニ結果ハ得タルコト、信ジマス、又此頃風評ニ聞ク所ニ依ルト云フト、大阪控訴院ヨリシテ、內藤、三橋此二人ノ檢事ガ出張ヲ致シマシテ、小山檢事ト同樣ノ態度ヲ執ッテ、何事カ訊問シテ居ルト云フ話デアリマス、是ガ爲メニ京都ノ人心ハ恟々トシテ、其堵ニ安ンゼザルモノガアル、是マデ屢〻人權蹂躪ノ事實ヲヤッテ、又大審院ヨリ小山檢事來リ、大阪控訴院ヨリ內藤、三橋兩檢事ガ來ッテ、何ヲ訊問スルカ知ラヌ何ヲ調査スルカ知ラヌケレドモ、更ニ何事カ事件ヲ摘發セントシテ居ルモノアルカノ如キ風評ヲ傳ヘテ居ルノデアル、私ハ此時此際ニ及ンデ、司法當局ガ斯ノ如キ態度ヲ執ラレタ事柄ニ、餘リ感心ヲ致シマセヌガ、是モ併シ當局デ必要デアルナラバ、暫ク私ハ默認ヲ致シマスルガ、何ノ必要アッテ、更ニ又二人ノ檢事ヲ派遣スルカ、先刻申上ゲマスルヤウニ、屢〻人權蹂躪ノ事實ヲヤリ、違法不當ノ取調ヲシテ、既ニ右被告ヲ悉ク刑事被告人トシテ訴追ヲシテ居ルニ拘ラズ、更ニ三人ノ檢事ガ出張致シテ、威嚇的ノ態度ヲ執ラレルヤウニ見エルノデス、何ノ必要アッテ斯ノ如キ事ヲセラル、カ、私ハ聽カントスルノデアリマス、而シテ

一松檢事其他ノ檢事ハ、此公判ノ立會檢事トシテ、職責ヲ盡シテ居リマスルカ、私ノ考フル所ニ依レバ、此人權蹂躪ヲヤッタト云フコトヲ叫ベレテ居ル各檢察官ハ、此事件カラ忌避シテ貰ヒタイト思フ、何トナレバ此人〻ガ人權蹂躪ヲヤッタカドウカト云フコトハ、是ハ、未決ノ問題ナリトスルモ、彼ノ數人ノ檢事ガ違法ナ處分ヲシタ、不當ナル取調ヲシタ、人權蹂躪ノ事實ガアルト云フ事柄ハ、國民全體ヨリ彈劾ヲ受ケテ居ルノデアル、國民全體ヨリ被告人ノ扱ヲ受ケテ居ルノデアル、此嫌疑ヲ被ッタル檢事ガ、此公判廷ニ立ッテ、訴訟法ノ命ズル所ニ依ッテ職責ヲ盡スト云フコトデアリマスナラバ、此被告人、之ヲ傍聽致シテ居ル國民、此公判ノ經過ヲ聞イテ居ル所ノ國民ガ、如何ナル考ヲ持ツデアリマセウカ、國民全體ヨリ彈劾ヲ受ケテ、國民全體ノ被告人トナッテ居ル所ノ檢察官ガ、此先公判廷ニ於テ論告ヲ致シマシテモ此論告ハ決シテ公平ナルモノトシテ、國民ガ受取ル譯ニハ行カヌト私ハ考ヘル、此故ニ我〻ノ考デハ、檢事總長自ラ御出張ナサレルモ宜シイ、又大審院カラ相當ナ檢事ガ御出張ナサレルノモ宜シイ、檢事ヲ取換ヘテ、一ッ公平ナル裁判ヲヤッテ貰ヒタイト思ヒマスルガ、司法當局ハ此點ニ就テ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスカ、私ハ之ヲ聽カントスルノデアリマス、而シテ終リニ是ハ最後ノ終リデアリマス、大正八年ノ五月三十日ニ、內務省ニ於テ平沼檢事總長ガ警部長會議ニ訓示ヲ致シテ居ラレマス、此事ヲ一言申上ゲテ、私ハ此事件ニ當ル檢事並ニ司法當局ノ反省ヲ促シタイト思フ、其一部ヲ簡單デアリマスルカラシテ朗讀ヲ致シマス、「司法警察ノ任ニ在ル者其職務ヲ行フニ當リテハ深ク民命ヲ重ンスルコトヲ念トセサル可ラス夫ノ犯罪ヲ糺彈スル所以ノモノハ固ヨリ其人ヲ憎ミテ强テ痛苦ヲ加ヘムトスルニ非ス實ニ國家ノ綱紀ヲ維持セムカ爲メ已ムコトヲ得サルニ出ツ故ニ司法警察ノ任ニ在ルモノハ徒ニ苛察ニ流レテ爬羅剔抉ノ弊ニ陷ルコトナキヲ期スルハ勿論其職務ヲ行フニ當リテモ常ニ生靈ヲ重ンスルヲ以テ念トシ故ナク民人ノ利福ヲ損フカ如キコトアルヘカラス、抑〻人ノ權利ハ之ヲ尊重シ毫釐ノ微ト雖モ必要ノ範圍ヲ超エテ之ヲ害スルコトヲ得サルハ此職ニ在ルモノヽ普ク熟知スル所ナルヘシ然ルニ事煩雜ヲ加フルニ至ルヤ之カ成果ヲ擧クルニ熱中スルノ餘罪犯ヲ摘發スルニノミ是レ急ニシテ不知不識人權尊重ノ本旨ヲ閑却スルニ至ルコトナキヲ保

セス」斯ウ云フ訓示ヲ致シテ居ラレマス、此訓示ハ警察部長ニ對スル訓示デアリマスルケレドモ、苟モ檢事總長ガ下シテ居リマスル所ノ訓示デアル以上ハ、平沼檢事總長ノ部下ニ居ル大阪控訴院管內ノ檢事ガ之ヲ知ラヌト云フコトハ言ヘヌト思ヒマス、然ルニ京都地方裁判所ニ於テ爲シタル彼等ノ行動ハ何デアリマスカ、一ッモ此訓示ニ據ッテ居ラヌ、悉ク此訓示ヲ裏切ッテ居ルノデアリマス、我司法當局ハ此訓示ヲ何ト見ラレマスカ、我司法當局ハ宜シク本件ノ如キ人權蹂躪問題ガ起ッタナラバ、何ガ其原因デアルカト云フ其原因ヲ探究セラレマシテ、而シテ民ノ疑惑ヲ解キ、又民意ヲ容ル〻ニ吝カナラザル平民內閣、政黨內閣ト稱スル現內閣ノ其實ヲ明カニシテ、サウシテ向後人權蹂躪ノ事實ノ再ビ此壇上ニ運バルヽコトノ無イヤウニ、私ハ當局ノ御盡力ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ申シテ此壇ヲ降リマス

之ニ對シ原國務大臣ハ二月十日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

京都地方裁判所繫屬中ノ某瀆職事件ニ關スル質問趣意書掲記ノ人權蹂躪ノ事實有無ニ付テハ目下調査中ニ屬スルヲ以テ未タ其ノ眞相ヲ明ニスルノ時期ニ達セス

二　流行感冒ノ豫防注射ニ關スル質問

一政府ハ目下惡性感冒ニ對シ豫防注射ヲ奬勵シツツアリ豫防注射ハ該藥ヲ造ルニ用ヰタル病原ニ對シテノミ豫防ノ效果アルモノナルカ故ニ之ヲ行フニハ原則トシテ先ツ其ノ病原ノ確認セラレタルコトヲ要ス然ルニ現ニ行ハルル注射藥ハ中ニハ或ハ病原ヲ「インフルエンザ」菌ト認メテ同菌ヲ用ヰテ造ラレタルモノアリ或ハ病原未タ確認セラレストシテ數種ノ病原ヲ混合シ

テ造リタルモノアリ政府ハ果シテ何ヲ病原ト認メテ豫防注射ノ目的ヲ徹底セムトスル乎

九年一月二十四日齋藤壽雄君外五名ハ右質問主意書ヲ提出シ二月三日提出者(土屋清三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ提出者一同ニ代リマシテ、流行性感冒ノ豫防注射ニ關スル質問ノ要旨ヲ申述ベマス、御承知ノ通リ此流行性感冒ハ、一昨年、人種ノ差別ナク、國土ノ差別ナク、貧富ノ差別ナク、全世界ノ全人類ニ向ッテ、非常ナル慘害ヲ與ヘテ居ル所ノモノデアリマシテ、現ニ我國ニ於キマシテモ一昨年及昨年ノ春ニ掛ケテノ流行ニ於テ、無慮二十五萬ノ死亡者ヲ出シ、更ニ本年ノ流行ニ於テモ、到ル處ノ火葬場ハ、此寒冒ノ死屍ヲ以テ累々タル慘狀ヲ呈シテ居ルノデアリマス、殊ニ近ク畏レ多クモ此病毒ガ宮中ヲ侵シ、第二皇子殿下ガ此病ニ腦マサセラレタト云フ事ハ、吾々國民トシテ洵ニ恐懼ニ堪ヘナイ次第デアリマス、政府ハ之ニ對シテ鋭意豫防ノ手段ヲ攻究セラレ、去月十五日內務大臣ハ特ニ告諭ヲ發セラレテ、豫防手段トシテ含嗽ヲセヨ、「マスク」ヲ掛ケヨ、而シテ豫防注射ヲセヨト申サレテ居リマス、洵ニ此當局ノ措置ハ、今日ノ豫防策トシテ頗ル機宜ヲ得タルモノナリト、吾々ハ大ニ感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス、然ルニ此豫防ニ用キラレテ居ル所ノ「ワクチン」ヲ見マスルト、洵ニ種々雜多デアル、例ヘバ病原ヲ「インフルエンザ」菌ト見テ、「インフルエンザ」菌「ワクチン」ヲ作ッテ居ル、所ガ北里研究所、警視廳衛生檢査所、神奈川縣衛生試驗所、京都微生物研究所ノ如キガアリマス、之ニ反シテ未ダ病原ハ分ラヌ、併シ多分是ガ利クデアラウト云フノデ、肺炎菌「ワクチン」ヲ造ッテ居ルガ、大阪ノ血清藥院デアリマス、又病原ハ分ラナイガ、ドレガ利クデアラウト云フノデ、「インフルエンザ」菌ト肺炎菌トヲ混ゼタ、所謂混合「ワクチン」ヲ製造シテ居ルノガ、政府ノ傳染病研究所デアリマス、又民間ニモ甚シキニ至ッテハ、五種モ六種モ多クノ黴菌ヲ混合シタ、恰モ雜菌ノ「ワクチン」デハナイカト云フヤウナモノヲ、製造致

シテ居ル所モアルノデアリマス、元來豫防注射ト云フモノハ、或ル一定ノ病原ヲ人ニ注射シテ、其病原ニ對スル免疫性ヲ與ヘ、依ッテ以テ後日感染ヲ免レシメヤウト云フ手段デアリマシテ、卽チ虎列刺ヲ豫防セントスレバ虎列刺ノ「ワクチン」ヲ用キナケレバナラヌ、赤痢ヲ豫防シヤウトスルナラバ、赤痢ノ「ワクチン」ヲ用キナケレバナラヌ、隨ッテ此豫防注射ヲ行ハウトスルニハ、先以テ其豫防セントスル所ノ病原ガ何デアルカト云フ事ヲ決定シテ、此菌ニ依ッテ豫防液ヲ造ラナケレバナラナイ、之ヲ決定セズシテ豫防ノ「ワクチン」ヲ造ルト云フコトハ、斷ジテ出來ナイノデアリマス、隨ッテ苟モ政府ガ豫防注射ヲ奬勵スル以上ハ、必ズヤ此感冒ノ病源ガ何デアルカト云フコトヲ、承知シテ居ラナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ政府ガ豫防注射ヲセヨト奬勵シテ居ル一面ニ、此豫防注射ニ用キル所ノ藥ヲ見マスルト、斯ノ如ク種々雜多デ、孰レガ眞ニ此豫防注射トシテ利クモノデアルカト云フコトガ、甚ダ不明瞭デアルノデアリマス、政府ハ何ヲ病原ト認メテ、此豫防注射ノ趣旨ヲ徹底セントスルノデアルカト云フノガ、私共ノ質問セントスル所ノ要旨デアリマス、特ニ此場合ニ引例致シタイノハ、政府ノ防疫審事機關タル傳染病研究所ヨリ出シテ居ル所ノ「ワクチン」デアリマス、一昨年此病ガ我國ニ入リマシタ當時、北里研究所、警視廳、京都ノ常岡博士、福岡大學ノ人々等ハ直チニ此研究ニ著手シテ、此病原ヲ「インフルエンザ」菌ト認メタノデアリマス、又東京帝國大學ノ三浦謹之助博士ハ、臨床上ヨリ此度ノ流行ノ病ハ、三十年前大流行ヲ來シタ所ノ「インフルエンザ」ト全ク一致スルモノデアル、又同ジク東京醫科大學ノ山極勝三郎博士ハ、病理解剖上ノ見地ヨリ、是亦往年大流行ヲ來シタ所ノ「インフルエンザ」ト全ク同一ノモノデアルト云フ斷定ヲ下シテ居ルノデアリマス、殊ニ北里研究所ニ於テハ、此病原ヲ確定スルト同時ニ、直チニ其豫防ノ爲メニ「ワクチン」ヲ研究シ、治療ノ爲メニ血清ヲ研究シテ、發表シテ居ルニ拘ラズ、政府ノ唯一ノ防疫審事機關タル傳染病研究所ハ、當初ヨリ今日ニ至ルマテ、此病原ハマダ何デアルカ決シナイ、病原ヲ決定セズシテ今日ニ至リ、政府ガ此豫防ノ爲メニ豫防注射ヲ奬勵スル告諭ヲ出スヤ否ヤ、病原ハ不明デアルケレドモ、此患者ノ病竈ニハ、肺炎菌モアレバ「インフルエンザ」菌モ居ル、故ニ此二ツヲ混ゼテ豫防注射ノ「ワクチン」ヲ

造ッタナラバ、多少トモ效ガアラウト云フ憶想ノ下ニ、其混合「ワクチン」ガ果シテ效ガアルヤ否ヤヲ實驗スルコトナク、直チニ之ヲ世ニ發行致シタノデアリマス、現ニ之ガ爲メニ吾〻醫師社會ニ於テハ何ヲ目的トシテ政府ノ傳研ハ此豫防注射ノ藥ヲ造ラレタノデアルカト言ッテ、大ナル謎ト致シテ居ルノデアリマス、殊ニ其混合「ワクチン」ノ割合ヲ見マスルト云フト、「インフルエンザ」菌モ、肺炎菌モ、一立方「センチメートル」ノ中ニ各〻〇、二「ミリグラム」シカ含ンデ居ラナイ、之ヲ北里研究所、警視廳等ヨリ出シテ居ル所ノ「ワクチン」ニ較ベマスルト、「インフルエンザ」菌ノ含量ガ實ニ五分ノ一ニ過ギナイノデアリマス、而モ此五分ノ一ノ薄イ所ノ「ワクチン」ヲ以テ、果シテ豫防ノ效ガアルヤ否ヤト云フコトニ就テハ、何等ノ實驗モ、何等ノ報告モ出サレテ居ナイノデアリマス、若シ斯ノ如ク薄イ所ノ「インフルエンザ」菌モ、肺炎菌モ、雙方少シヅヽ混ゼラレタ混合「ワチクン」、隨ッテ感冒ニモ效果ガ疑ハシイ、肺炎ニモ效果ガ疑ハシイ所ノ此「ワクチン」、之ヲ政府ノ製造シタルモノナリト信ジテ、安心シテ之ヲ豫防注射ニ用ヰ、而モ之ガ爲メニ他日發病スル者ガ簇出致シタナラバ、政府ハ啻ニ其豫防注射ヲ奬勵シタ目的ヲ達スルコトガ出來ナイバカリデナク、之ニ依テ損害ヲ被ッタ者ニ對シテ、之ヲ如何ニセントスルノデアリマスカ、將タ又他ノモノヨリハ五分ノ二薄イノデアル、而モ尙ホ同樣ノ豫防效果ガアルト云フナラバ、現ニ豫防注射液ガ到ル處缺乏ヲ訴ヘテ居ル今日、政府ハ何故ニ此事ヲ明示シテ、彼ノ警視廳ノ如キ、或ハ神奈川縣ノ如キ、地方廳自ラ注射液ヲ造ッテ居ル所ニ向ッテ、此注射液ヲ薄クサセテ、サウシテ現ニ缺乏ヲ感ジテ居ル方面ニ向ッテ、其需要ニ應ズルヤウニ致サナイノデアルカ、私共此點ニ疑ヲ生ズルノデアリマス、私ハ玆ニ參考トシテ、海外ニ於ケル特ニ米國ニ於ケル知名ノ學者ノ信用スベキ報告ヲ一ツ引用致シタイト思ヒマス、卽チ昨年十一月米國ノ免疫學雜誌ニ於テ「デユバール」ト云フ有名ナル細菌學者カ、「ニューオルレアン」ニ於テ豫防注射ヲ行ッタ成績ノ報告ガアル、其結論ヲ玆ニ引用致シマスレバ、同氏ハ斯樣ニ申シテ居リマス、此度ノ流行性感冒ノ原因ハ、「インフルエンザ」菌デアル、隨ッテ「インフルエンザ」菌ヲ以テ豫防注射ヲスレバ、必ズヤ豫防ガ出來ルデアラウト云フ見地カラ、「ワクチン」ヲ造ッテ注射ヲ行ッタ所、卽チ「インフルエンザ」菌「ワクチン」デアルニ拘ハラズ、屢〻見ル所ノ合併症タル肺炎ヲ未然ニ豫防スルコトガ出來タバカリデナク、其結果ハ次ニ示スガ如クデアル、卽チ注射ヲシタ所ノ人ガ三千七十二人、其中發病シタ者ハ僅ニ二、二二「パーセント」、免レタ者ハ九六、七「パーセント」、之ニ反シテ注射ヲセザル者八百六十六人、其中發病シタル者ハ五八、四「パーセント」、免レタル者四一、六「パーセント」、而シテ注射ヲシテ發病シタル者ニシテ肺炎ヲ起シタ者ハ、只ノ一人モ無イ、斯樣ニ申シテ居ルノデアリマス、要スルニ豫防注射ハ、或特定ノ病ニ對シテノミ效能ガアルモノデアリマスカラ、之ヲ行ハントスルニハ、必ズ先ヅ病原ヲ決定シナケレバナラヌ、病原ヲ決定セズシテ、漫然憶想的ニ豫防注射ヲ行ッタト云フモノハ、我國ノ傳染病研究所ヲ除イテハ、世界ノ何所ニモ其實例ガ無イノデアリマス、故ニ私共ハ政府ハ何ヲ病原ト認メテ、之ニ對スル豫防注射ヲ奬勵スルノデアルカ、國民ヲシテ此慘毒ヨリ免カレシムル爲メニ、此事ヲ明カニシテ、其響フ所ヲ示サレンコトヲ切ニ希望致スノデアリマス

之ニ對シ床次國務大臣ハ二月十四日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

惡性感冒ノ病原ニ付テハ學者ノ意見未タ一定セサルモ之カ豫防ニ關スル注射液ハ何レモ該藥ノ製造ニ使用セル菌種ト同一ノモノニ對シ豫防上相當ノ效果アリト認ム

三　寬城子事件交涉經過ニ關スル質問

昨年七月十九日寬城子ニ於ケル日支兵衝突ニ關シ北京政府ニ對スル交涉談判ノ經過ハ未タ公表ヲ見ス依テ右ニ關スル經過及其ノ措置如何

九年一月二十四日松本誠之君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月三日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ、此寛城子事件ニ關シマスル問題ニ就キマシテ、先日來各國務大臣ノ演說ニ對シテ、色々外交上ノ問題ナリ、種々ナル御質問ガ議員諸君ヨリ出マシタガ、此寛城子ノ事件ニ就テハ、誰方モマダ御質問ガ無ク豫算委員會ニ於テモ御質問ガ無イヤウニ私ハ考ヘテ居ルカラ、自分ハ昨年此寛城子ノ日支兵衝突ノ實地ニ臨ミマシテ、其慘澹タル有樣ヲ目擊シ、調査シ、視察ヲシ、其當時ノ寫眞ヲ此所ニ持ッテ歸ッテ居リマス、我帝國ガ支那ニ對スル國威ト、國權ニ關スル大問題ト、之ヲ認メテ居ル、曩ニ南京事件ト云フモノアリ、或ハ鄭家屯事件ト云フモノアリ、此南京事件、鄭家屯事件ヨリモ、モット甚シク我國ノ兵ガ支那ノ兵ニ凌辱ヲ加ヘラレ、橫暴ヲ逞ウサレ、實ニ殘酷ナ目ニ逢ウタノデアリマス、其當時ノ事ニ就キマシテハ、諸君ハ新聞紙上ニ於テ、詳シク御覽ニナッタノデアリマセウガ、簡單ニ事ノ起リヲ申上ゲマスレバ、丁度昨年ノ七月十九日ノ出來事デアリマス、殊ニ昨年ノ夏ハ滿洲ト云ヒ、支那ト云ヒ朝鮮ト云ヒ、十數年未ダ曾テアラザル所ノ暑サデアリマシタ、此最モ炎天烈日タル七月十九日ニ、圖ラズ此寛城子ノ茫漠タル大原野ニ於テ、支那兵ト日本兵トガ衝突シタ、其當時ハ御承知ノ通リ南ハ奉天ノ張作霖ト、北ハ吉林省督軍ノ孟遠トガ、將ニ鐵火ノ戰砲煙彈雨ノ裡ニ戰ヲセントスル勢ガ、滿洲ノ野ニ棚曳イテ居ッタ時デアル、其時ニ吉林軍ハ黑龍江省ノ一面坡ト云フ所ガアリマス、是ハ最モ獰悍强猛ナル所ノ馬賊ノ巢窟デアル、其獰猛ナル馬賊ノ兵二千人許リヲ此吉林軍ガ驅集メ來テ、而シテ其中千六百名ヲ寛城子ニ天幕ヲ張ッテ駐屯セシメタ其寛城子ニハ日本兵ガ約二中隊許リヨリ駐屯致シテ居ラナイ、所ガ其日ノ朝午前十一時頃滿鐵ノ社員ノ船橋藤太郎ト云フ人ガ、其支那兵ノ駐屯シテ居ル前ヲ通行シタ時ニ、何事モ言ハズシテ支那兵ガ四五人寄ッテ、其滿鐵社員ノ船橋藤太郎ニ向ッテ、暴行ヲ行ヘ、懷中物ヲ奪ハントスル、渡サヌトスル、毆打スル、銃劒デ打ツ、靴デ蹴ル實ニドウモヒドイ目ニ遭ッテ、流血淋漓ノ有樣デ漸ク逃ゲ了セテ、サウシテ寛城子ノ或日本ノ守備隊ノ居ル所ニ來タ此ニ於テ當時ノ大隊長ノ林繁樹君ガ其有樣ヲ見テ一方ニハ長春ノ日本領事館ニ向ッテ、滿鐵社員ノ斯ウ云フ者ガ、支那兵ノ爲メニ斯ウ云フ目ニ遭ウテ居ル、早ク日本ノ官憲ニ來イ、日本ノ警察ニ來テ

貰ヘ、領事モ出テ來イ、斯ウ云フ風デアッタ、一方支那兵ノ千六百名居ル所ト、日本兵ノ居ル所トハ、五町カ六町ヨリ隔ッテ居リマセヌガ、日本兵ノ居ル所カラハ、住田中尉ガ將校以下下士卒五十名許リヲ引率シテ、穩ニ其事情ヲ聞キ、眞相ヲ確メンガ爲メニ談判ニ參リマシタ、所ガ千六百名ノ支那兵ハ何事モ言ハズ、大隊長ト云ヒ、或ハ營長ト云ヒ、一人モ其所ラニハ居ラズシテ、直チニ支那兵ノ千六百名ハ機關銃六門ヲ据エテ、小銃ノ一齊射擊ヲシテ、住田中尉以下五十名ノ我日本ノ兵卒ニ向ッテ何等一言モ發セシメズ、何等ノ交渉談判モ致サシメズシテ、擊込ンダノデアリマス、其當時私ハ自分ノ哈爾賓デヤッテ居リマス、洵ニ貧弱ナルボロ新聞デアリマスケレドモ、此哈爾賓新聞ノ用事ヲ以テ齊多ノ方面ニ旅行シテ居リマシタガ、我ガ新聞社ヨリ至急電報ニ接シテ、齊多ヨリ哈爾賓ニ歸ッテ、哈爾賓カラ長春ニ行キ、寛城子ニ行ッテ此實地ノ有樣ヲ視察シテ、林大隊長ニ會ッテ、當時ノ始末ヲ聽キ、或ハ奉天ニ行キ、長春ニ行キ、哈爾賓ト、奉天ト、長春トノ間ハ、幾回トナク此事件ニ就テ往復致シマシテ、民間ノ有志諸君ノ意見モ聽キ、或ハ陸軍側ノ意見モ聽キ、旅順ニ行ッテ林長官ノ意見モ聽キ、其他文武官首メ有志有力者在留ノ同志ニ向ッテ、種々ノ事ヲ聽込ンデ來タノデアリマス、其時ニ當テ堂々タル政友會ノ諸君、次ニハ第二ノ堂々タル憲政會ノ諸君ガ、是位ノ大事件、南京事件、鄭家屯事件ヨリ大ナル我國ノ國威國權ニ關スル大問題ニ就テ、誰モ滿洲ニ來テ此寛城子事件ヲ取調ベナカッタ、誰カ政友會ノ御方デモ、憲政會ノ御方デモ、ドナタカ見エルデアラウト思ッテ、期待致シテ居ッタ、所ガドナタモ見エヌ、微力ナガラ自分モ議員ノ一人デアルカラ、是ハ飽迄モ取調ベナケレバナラヌト云フ考ヲ以テ腕ヲ扼シ齒ヲ切リ嚙ミ、熱心ノ餘リニ取調ベマシタコトデアリマス、ソレカラ遂ニ斯ウ云フ亂暴ナ事ニ遭ヒマシテ、住田中尉ハ其時ニ大ニ怒ッテ、此五十名ノ兵ガ全滅シテモ構ハナイ、此所ヲ決シテ退却スルコトハナラナイト言ッテ戰ヒッ、アリマシタ際、林大隊長ハ鐵砲玉ノ音ヲ聞イテサウシテ、殘部ノ中隊四十名ヲ繰出ス——寛城子ニハ日本ノ兵ハ漸ク百名許リヨリ居ラヌガ、後ト四十名ヲ繰出シテサウシテ一方長春ノ方ニ電話ヲ掛ケテ應援隊二十名ヲ長春カラ呼ンデ來テ、最初ノ五十名ト繰出シタ四十名長春カラ應援ニ來タ二十名ト合セテ、漸ク百十名內外ノ兵ヲ以テ、支那ノ獰猛勇敢ナ

ル軍紀モ無ケレバ、規律モ無イ、何等節制モ無イ、馬賊上リノ支那兵千六百名ニ對シテ、猛烈ナル戰ヲ致シマシタノデアリマス、其猛烈ナル戰ヲ致シテ居ル最中ニ於テ、長春ノ警察官神田警部、或ハ泉警部補、ソレカラ警官隊ノ一行長田巡査ト云フヤウナ、斯ウ云フ警察官ナリ、或ハ長春ノ官憲ナリ――其時ニハ長春ノ山内四郎ト云フ人ガ長春ノ領事デアリマシタガ、是ハ北京ニ書記官トナッテ轉任サレテ、新タニ村上義溫ト云フ方ガ、英國カラ歸ッテ來テ領事ニナラレマシタガ、其時ニハ村上義溫君ガ、長春領事ニナッテ居ラヌ、漸ク二十四五歳ノ領事官補ノ若イ方ノ新山與次ト云フ方ガ長春ニ居ッテ實ニ狼狽シ、或ハ周章致シテ、此大事件ヲドウシテ宜イカト云フヤウナ狀態デアリマシタ、所ガ此警察官ガヤッテ來タラ、サアドン〳〵又擊出スソレガ爲メニ、長田巡査ハ擊タレテ死ンデシマッタ、サウシテ間モナク新山與次ト云フ領事官補ガ見エマシテ、ソレカラ長春ニ居ル所ノ支那側ノ司令官ノ高峻峰、次ニ陶道尹、第一團長ニ曹志剛啓、外交課長、是等ガ現場ニ自動車ニ乘込ンデヤッテ來マシテ、サウシテ止メロ〳〵ト云ッテ指圖ヲシテ、漸ク射擊ガ止ッタト云フヤウナ次第デアリマシテ、此一齊射擊ヲ致スコトガ餘程激シウゴザイマシタガ、其結果兎ニ角北方寄リニ支那兵ヲ一時退却サスト云フコトニ至ッタノデゴザイマス――簡單ニ申シマスレバ――サウシテ私ハ一週間經チマシテカラ、寬城子ニ行ッタノデアリマスガ、先刻申上ゲタ通リ、實ニ暑サハ激シク、炎天烈日ノ中、茫漠タル寬城子ノ原野ハ草蓬々トシテ生ヘテ居リマシテ、其寬城子ノ原ハ炎天烈日ニ照ラサレテ居ル、鮮血淋漓ガ變ジテ黑血淋漓トナッテ居ル、實ニソレハ目モ當テラレナカッタ、熊本縣カラ參リマシタ松ノ屋ト云フ大キナ料理屋ガアッタ、其大キナ料理屋ハ取卷カレテシマッテ、彈丸デ塀ト云ヒ、壁ト云ヒ、硝子ト云ヒ、蜂ノ巢ノ如クニナッテ、皆ナ其時如何致シタカト申セバ、碁盤ヲ頭ニ擔ギ、或ハ一ペケツ」ヲ頭ニ擔イデ、サウシテ皆ナ簀子ノ下ニ入ッテ難ヲ免レタ、所ガ日本ノ兵ハ其塀ニ寄掛リ、或ハ倒レ、大ニ慘憺タル有樣ニ遭ヒマシテ、水ヲ一杯呉レ親爺水ヲ一杯飲マシテ呉レト云フ其聲ガ聞エテ居リマシタガ、鐵砲ノ丸ヲドン〳〵擊込マレルシドウスルコトモ斯ウスルコトモ、出來マセナンダト云フコトガ、松ノ屋ノ主人ガ私ニ對シテノ話デゴザイマス、ソレカラ其負傷兵ノ有樣ト云フモノハ、全身碧血ニ塗レマシテ、洶ニ苦痛ニ堪ヘズ呻吟致シテ居ル、其兵ガ皆ナ申シタコトニハ、實ニ殘念デアル、殘念々々ヲ連呼シテ、サウシテ介抱セントスル所ノ戰友ノ腕ニ取縋ッテ、必ズ此仇ヲ報ジテ呉レヨト云ッテ熱涙ヲ流シ、其慘憺タルノ有樣ト云フモノハ、實ニ其光景見ルニ忍ビナイ有樣デアッタサウデゴザイマス、是ハ林大隊長カラノ直接ノ話デアリマス、其慘狀ハ今此處デ諸君ニ御目ニ掛ケマスルガ、負傷者ハ三十一名、其中巡査ヲ合セマシテ十九名戰死致シテ居ル、其十九名戰死ヲ致シマシタ者ハ、誰一人トシテ滿足ナ身デハ居ラナカッタ、眼ノ球ト云フモノハ――眼球ハ兩方セッキリ、刳拔カレテシマヒ、兩耳ハ斬ラレテシマッテ居ル、頭ト顏ハ劍デ突カレ、鐵砲デ打タレ口カラ突カレテ、後ロニ通リ込ンデシマッテ居ル、實ニヒドイ有樣デアッタノデゴザイマス、仍チ此兵ガ何ト云フ名前デアッタカ、此兵ガ何ト云フ兵カ是ガ住田中尉デアッタカ、或ハ椎原中尉デアッタカト云フコトノ識別ガ出來ナカッタ、漸ク持ッテ居ル所ノ軍隊ヨリ渡サレタ所ノ手帳ニ依ッテ、此兵ハ何所〻〻ノ出身ノ何ノ兵ト云フコトガ明カニ判ッタト云フヤウナ次第デゴザイマス、サウシテ時計ハ奪取ッテシマウ、軍服ハ脫ガシテシマフ、鐵砲ハ取ッテシマウ、懷中物ハ取ッテシマフ、丸裸ニサレルソンナ目ニ遭ッテ十九名ト云フモノハ、悲慘ナ目ニ遭ヒマシテ死ンダヤウナ次第デアリマス、其當時ノ寫眞ガ此所ニアリマス、是ハ漸ク五組ヨリ拵ヘナカッタト云フコトデアル一ツハ遼陽ニ居ラッシャル所ノ梨本宮殿下ニ獻上シタト云フ、一ツハ外務省ニ來タ此寫眞ヲ以テ我ガ外務省ハ奉天ノ赤塚領事ヲ以テ、張作霖ト奉天ニ於テ交渉談判ノ衝ニ當ラセタ、此寫眞ハ外務省ニ來テ、ソレカラ參謀本部ニ一ツ、ソレカラ陸軍省ニ一ツ來タ、タッタ五組シカナカッタモノガ寬城子ニ殘ッテ居ッタガ、林大隊長ガドウシテモ渡シテ呉レヌ、渡シテ呉レヌケレバ議員ノ職權ヲ以テ、是ハ種板ガアルニ相違ナイカラ、寫眞ニ取ラシテ、飽迄モ日本ノ國ノ爲メニ言ハナケレバナラヌト云フノデ、無理往生ニ之ヲ持ッテ歸リマシタ次第デアリマス「大正八年七月十九日寬城子ニ於テ支那軍隊橫暴戰鬪ニ當リ悲壯ノ最期ヲ遂ゲシ我戰死將卒陸軍步兵一等卒足高奈良藏、陸軍二等卒井上俊三、陸軍步兵二等卒中尾義一」是ガ此有樣ヲ支那側ノ人間ニモ知ラシテ置カナケレバナ

ラヌ、見セテ置カナケレバ、強硬ナル談判ヲ爲シテ、彼ヲ服從セシムルコトガ出來ヌト云フノデ此孟ト云フ團長ヲ態〻喚ンデ、サウシテ此有樣ヲ見セタ、是ハ橋本ト云フ警察署長、此通リ顏カ頭カ分ラナイ皆斬ラレル突カレル、叩レル、此通リデ斯ウ云フヤウナマア有樣デアリマス、之ヲ見テ眞ニ帝國ノ人間トシテハ、腕ヲ扼シ切齒セズニハ居ラレナイ、殊ニ此五十名ノ兵ヲ率キテ行ッタ所ノ住田中尉ハ、青年士官トシテ將來望ミアル所ノ立派ナ人デアル、是等ノ如キ此通リ、此所ハ突カレテシマウ、耳ハ引斬ラレテシマウ、口カラ突カレテ後脊ロヘ出テ居ル、斯ウ云フ有樣サウシテ森井音吉ト云フ陸軍歩兵ノ軍醫、是モ斯ウ云フ有樣頭ハ碎カレテシマイ、鼻ハ斬ラレテシマウ、耳ハ斬ラレテシマウ、斯ウ云フ次第デ、サウシテ一隊ソックリ死亡シマシタ十九名ヲ、此營舍內ニ收容ヲ致シマシタ光景ガ此レデアッテ皆ナ其通リ、斯ウ云フ悲慘ナ目ニ遭ッタノデアリマス、滿足ナ人ハ誰一人モ無カッタ、皆手帳デ斯ウ判ッタト云フヤウナ次第デ、是程酷イ事ハナイ之ニ就テハ中〻深イ原因モアラウト思ヒマス、サウシテ此十九名悲慘ナル最期ヲ遂ゲマシテ戰死ヲ致シマシタ兵隊ハ、此十九名ノ中十七名マデハ奈良縣ノ出身者バカリ、此住田中尉ハ千葉縣カ、何デモ栃木ノ人デアル、巡査ハドチラノ人カ忘レマシタガ、跡十七名ハ皆ナ奈良縣ノ出身者デアル、當時寬城子ノ事件ガ勃發シタ時ニ、我奈良縣民ハ悉ク憤慨シタ、十七名ト云フ者ガ奈良縣ノ人ガ間ガ惡ルク、國ノ爲メニ斯ウ云フ最期ヲ遂ゲテ吳レタ次第デアッタノデアリマス、ソレカラ以テサウ云フ風ノ有樣デアリマシタガ故ニ、更ニ明日戰ヲ奉天軍ト吉林軍ガスルカ、明後日愈〻火蓋ヲ切ルカ、滿洲ノ人氣ハ非常ニ殺伐トシテ天ヲ蔽ウテ居ル、斯ウ云フ目ニ遭ッテ——支那兵ノ癖トシテ戰ニ負ケタ時ニ掠奪スル、勝テバ勝ニ乘ジテ掠奪强姦ヲヤル、斯ウ云フ風デ、我在留國民八千人ト云フ者ハ、實ニ不安ト恐怖ノ念ニ驅ラレテ、二三日間モ安眠ガ出來ナイト云フヤウナ、人心恟々鼎ノ沸クガ如キト云フ狀態デアッタサウデアリマス、ソレカラ次ニ支那ノ本國政府ト愈〻交涉ヲセラレタ結果、遂ニ是ハ滿洲ニ於テ起ッタ事件デアルト云フコトデ、我當局ハ奉天ノ赤塚正助領事ヲシテ奉天ニ張巡閲使ト交涉談判セラレタ、其交涉ノ結果談判ノ顚末ハ、之ヲ國民ニ政府ガ未ダ御示シニナッテ居ラナイヤウニ思フ、仍テ私ハ此質問ヲ呈スル前ニ於テ、之ヲ

確メテ置キタイト思ヒマシテ、陸軍大臣ノ祕書官ニ向ッテ、寬城子事件ノ交涉談判ノ經過ハ、如何ニナッタカト云フテ問合セマシタ所ガ、未ダ交涉ハ發表シテ居ラヌ、ドウ云フ事ニ運ンダカ判ラヌト云フ御書面ヲ五六日前ニ頂戴シタガ故ニ、是ニ於テ質問ヲ提出シタ次第デアリマス、此事件ガアリマシタ爲メニ如何デアリマシタカ、昨年ノ春哈爾賓ニ居リマスル支那ノ兵ハ、彼ノ僅カナル過激派ヲ哈爾賓カラ逐拂ヒマシタ爲メニ、非常ニ驕傲心ニ驅ラレテ、種々横暴ニナッテ哈爾賓ニ居ル支那兵ト云フモノハ、生意氣千萬ニナッテ居ル、之ガ爲メニ奉天ナリ、長春ナリ、滿洲方面ニ居ル支那兵ハ、滿洲ニ駐屯シ、滿洲ヲ守備シテ居ル所ノ日本軍ト云フモノハ、我支那兵ハ悉ク擧ッテ全滅ヲシタ、是ナラ日本ト將來モウ一遍戰ヲシテモ、二十七八年ノ戰役ノ如ク、決シテ日本ニ負ケルコトハナイト云フコトヲ、彼等ハ哈爾賓ニ於テ非常ニ高言ヲ放ッテ居ル、當時哈爾賓ニハ石坂少將、福原少將、等等力大佐ガ居ル、吉林ニハ齋藤大佐ガ居ル、此大佐、少將、或ハ佐官、尉官ノ諸君ハ、皆ナ忌〻シイ事ヲサレタ、實ニ殘念ダト言ッテ、皆ナ是レ切齒扼腕ヲ致シタヤウナコトデアリマシタ、其七月ノ十九日ニ此寬城子ノ事件ガ起リマシテ以來一層此支那人ガ日本ニ對シテ横暴トナリ、支那兵ガ益〻驕傲ノ態度ヲ執ルヤウナコトニナリマシテ、更ニ一層排日ノ思想ハ支那全體ニ於テ盛ニナリ、日本ノ器物ヲ排斥スル所ノ空氣ハ、一層激甚ヲ加ヘタト云フヤウナコトニナリマシタ、遂ニ上海、天津、福州ト云フヤウナ、アア云フ工合ニナッタ、日本ノ在留邦人ニ對シテ無禮ヲ加ヘ、日本ノ品物ニ對シテ斯ノ如ク排斥ヲシテ、今尙ホ支那人ノ日本排斥ノ空氣ガ充滿シツヽアルト云フコトハ、諸君モ御承知ノ通リデアル、所デ斯樣ナマア寬城子ノ事件ノ概略ヲ申上ゲマスレバ、斯ウ云フ次第デゴザイマスガ、是ニ於テ先刻申シマシタ通リ、奉天ノ赤塚領事ガ張作霖ト樽俎折衝ノ結果、如何ナルコトニ及ンダカト云フコトハ私ハ存ジマセヌ、國民ニ對シテ、政府ガ未ダ其結果ヲ公表致サナイヤウニ、私ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、此交涉ノ結果談判ノ結果ハ如何ニナリマシタカ、之ヲ政府ニ私ハ御尋ヲ申スノデアリマス、ソレカラ抑〻千六百名ノ奉天ト吉林軍ガ將ニ戰ヲセントスル一刹那ニ當ッテ、サウシテ日本ノ兵ト衝突ヲ致シテ、斯ノ如キ慘劇ナル目ニ遭ヒ、斯ノ如キ横暴ナル目ニ遭ハサレタノニ就テハ、原因動機ガナケレバナ

ラヌ、之ヲ取調ベルニ於テハ、非常ニ苦ンダ結果デゴザイマス、當時奉天ノ赤塚領事ノ言ウタコトニ斯ウ云フコトヲ言ッタ、「事件ノ原因ハ南方派ノ策略ニ出テタルモノト張巡閲使ノ權謀ニ出デタリト稱スルモノトノ二説アルモ何等實證ヲ有セズ想像説ニ過ギズ然レドモ排日派ガ奉吉紛擾ニ乘ジ事ヲ日本ニ構ヘ强硬ナル態度ニ出デシメ依テ以テ排日ノ口實トナサントスル策略ナルベシトノ説ハ長春方面ニ最モ有力ニ噂セラレツヽアリ其眞因ニ就テハ今回勿論突留メタルモノアレドモソレハ交渉ノ根據ヲ爲スモノナレバ目下明言スルノ自由ヲ有セズ」果シテ赤塚領事ガ此原因動機ヲ突留メタコトガアルナラバ、其突留タ原因動機ヲ以テ交渉ヲセラレナケレバナラヌ筈デアルノニ、其原因動機ト云フモノガ、赤塚領事ノ談判交渉ノ中ニハ入ッテ居ラヌヤウニ思フ、ソレカラ「我軍ノ手落」——是ハ陸軍側ニ對シテ御尋ヲスルノデスガ、「我軍隊ガ長春寛城子方面ノ警備ニ手落アリ爲メニ今回ノ如キ事變ヲ惹起セリ云々」是ハ一寸意味ガ分リ兼ルウニ思ヒマスガ、兎ニ角長春ニ於ケル所ノ我軍ノ守備隊ノ駐屯兵ガ、多少其數ヲ缺イテ居ル、機敏ノ働ヲシナカッタト云フ意味ガ此ニ在ルノダト私ハ想像致スノデアリマス、ソレカラ又張作霖ノ機關新聞——奉天ニ在ル張作霖ノ機關新聞ニ書イテアリマシタノヲ私ハ譯シマシタガ、張作霖ノ機關新聞ガ筆ヲ揃ヘテ、五ツ六ツ斯ウ云フコトヲ書イテ居ル、寛城子事件ハ第三旅第二團兵士ガ二道溝附近ニ至レル際、小河溝地方ニテ偶〻細故ヨリ——事件ヨリ日警ハ劍ヲ拔キテ支那兵ヲ威嚇シ、遂ニ衝突シ以テ斯ノ如キ事ヲ起シタモノデアルカラ、我國ハ之ニ關係スルコトハ無イ、斯ウ云フコトヲ張作霖ノ數種ノ機關新聞ガ書イテアル、ソレカラ段々取調ベテ進ンデ行タ結果、天下ニ有力ナル信用スベキ所ノ大阪毎日、大阪朝日ガ吾〻ノ思惑通リ書イタ、ケレドモ私ノ微々タル哈爾賓ノ新聞デアリマスケレドモ、私ハ將來支那ニ對スル國際問題ニ就テ支障ヲ來シ、若クハ妨害トナッテハ宣シクナイト云フ考ヲ以テ、社員ヲ督勵シテ、當時ノ慘憺タル出來事ハ書カセマシタケレドモ、此問題ニ就テハ、一言半句モ自分ハ支那側ガドウデアルトカ、斯ウデアルトカ云フ論評ハ加ヘサセナカッタノデアリマス、所ガ自分ガ感ジマシタ事、自分ガ取調ベテ自分ガ思ヒマシタ事ヲ、大阪毎日、大阪朝日ガ之ヲ書イテ居ル「張作霖ノ責任」ト題シマシテ、「長春大和ホテルニ滯在セシ奉天軍事顧問榮順中將、參謀大仲大佐ハ密偵ノ嫌疑ニテ我ガ官憲ニ追ヒ拂ハレ歸奉セルガ彼等ハ奉天ヨリ携行セル交通銀行券五萬元ヲ使用シテ吉長鎭守使裁其勳中將ト前後シテ二十四日吉林ヨリ逃ゲ來レル第一旅團長誠明ト通シ吉林軍孟聯隊長ヲ一萬元ニテ買收シ吉林督軍高師團長等ヲ死地ニ陷レン爲メ日本軍ヲ攻擊セシメ日本將卒ヲ擊殺シタル證據トシテ其目ト鼻等ヲ持參セシメテ重賞ヲ與ヘタリ」吾〻ノ突留メタイノガ此デアッタガ、ドウ云フ譯デ自分達ガ斯ウ思ッタカト申シマスルト、奉天ト吉林ト戰ヲ開カントシテ居ル、ソレヲ張作霖ノ積リデハ、孟吉林督軍高師團長等ヲ屈服セシムル、刃ニ衂サズシテ吉林軍ヲ屈服セシメヤウト云フ考デ、旅團長ヤラ聯隊長等ヲ金ヲ與ヘテ買收シテ、サウシテ吉林軍ヘ奉天軍ノ兵隊ガ混ッテ、己レ刃ヘ衂ズシテ累ヲ吉林軍ニ及ボサシメテ、日本軍ト衝突セシメテ、孟吉林督軍高師團長等ヲ死地ニ陷ラシメタ、張作霖ノ術策デハアルマイカト云フコトハ、是ハ彼ノ滿洲一般ニ於テ各人皆ナ認メテ居ル所デアリマス、是ガ果シテ張作霖ノ仕事デアルカ、張作霖ノ術策ニ罹ッタノデアルカ、術中ニ陷ッタノデアルカ、其證據ハアリマセヌカラ、是ガ確ニサウデアルト云フコトハ斷言ハ出來マセヌケレドモ、自分ノ考ヘル所ニ依レバ、是ハドウシテモ張作霖ノ術策ニ罹ッタモノデアルマイカ、張作霖ノ權謀術數ニ罹ッタモノデアルマイカト云フ疑ヲ存シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ此問題ニ就キ承ル所ニ依レバ、陸軍側ニ於テハ餘程强固ナル考ヲ以テ、此交渉ヲ爲サウト云フ御考デアッタサウデアル、ケレドモ外務省ニ於テハ、支那ノ空氣ガ斯ノ如ク不安定デアルシ、排日ノ空氣ガ熾ンデアッテ排日ノ煽動ガ續々ト起ル此際デアルカラ、成ルベク穩便ニト云フ御考デ、孰レモ御尤デハアリマセヌケレドモ、文官ト武官トノ間ニ衝突ガアッタト云フコトヲ承ッテ居リマス、其衝突ノ如何ハ私ハ敢テ申シマセヌガ、兎ニ角此結果ヲバ吾〻ハ承リタイノデアリマス、是ハ國內ニ於キマシテハ、或ハ選擧問題、若クハ物價問題、思想問題、勞働問題等、目下種々重大問題モゴザリマスルガ、將來此支那ト日本ノ間ニ於キマシテ、屢〻斯ウ云フ事ガ演ゼラレルヤウナコトガアリマシタナラバ、サウシテ又其手緩イ談判ノ結果デアリマシタナラバ、益〻支那ガ乘ジテ我國ヲ輕侮シテ、我ガ天兵ガ彼等ノ馬賊的ノ兵ニ、斯ノ如キ目ニ遭フヤウナ事ヲ復〻繰返サヌトモ限ラヌ、是ハ大ニ我ガ

國民國權ニ關係スル譯デアリマスカラ、私ハ現内閣ニ對シテ猜疑ヲ持ッテ居ルトカ、又敢テ攻擊的ニ質問ヲ致ス者デハゴザイマセヌ、寧ロ多少ノ好意ヲ持ッテ、現内閣ト天下ノ憂ヲ偕ニ致サント云フ考ヲ持ッテ居ル者デアリマス、故ニ此結果ハ飽迄國民ニ知セテ貰ヒタイ、殊ニ此十七人ノ奈良縣ノ人――此兵ノ父母親族ハ如何ナル考ヲ持ッテ居リマセウカ、是ハ誰カ我ガ帝國議會ニ於テ質問サル、議員ガナカッタナラバ、甚ダ遺憾デアル、我輩ハ之ヲ質問シャウト云フコトヲ、滿洲ノ人間ニ多少誓ッテ來マシタ故ニ、以上支離滅裂ナ辯論デアリマスケレドモ、誠意ヲ以テ熱心ノ餘リ、以上政府ニ向テ御尋ヲ致シタヤウナ次第デアリマス

之ニ對シ内田外務大臣ハ二月五日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

客年七月寛城子ニ於テ日支兵衝突事件勃發スルヤ帝國政府ハ最公平ニ事實ノ眞相ヲ査明シ圓滿妥當ナル解決ノ方法ヲ講セムコトヲ期シタルカ事件ニ付テハ支那政府ニ於テモ當初ヨリ其責同國軍隊ニ在ルコトヲ認メ事件突發時已ニ大總統令ヲ以テ吉林軍隊ニ對スル平素ノ監督不行屆ナリシコト等ヲ指摘シテ自發的ニ當該責任者ノ處分ヲ行フヘキ旨ヲ布達セリ其後事實審査ノ結果ヲ酌量シ之カ解決方法ニ就キ在支帝國公使及在奉天帝國總領事ヲシテ夫々支那政府及東三省巡閲使ノ間ニ折衝ヲ遂ケシメタル處支那當局ニ於テハ大體我方要求條件ヲ承諾シ右ノ結果

(一) 外交總長代理ハ在支帝國公使ニ對シ本件ニ關シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ帝國政府カ本案解決ノ爲提出セル要求ヲ承諾シ夫々當該官吏ヲシテ急速處理セシムヘキ旨ヲ申出タリ

(二) 支那軍隊ニ對スル査辨方法ニ就テハ左ノ通解決シ近ク夫々當該支那官憲ニ於テ實行スヘキコトトナリ居レリ

(イ) 直接指揮シタル將校及加擔シタル下士卒並凌辱ヲ行ヒタルモノハ調査ノ上夫々嚴重處分スヘク又當時保護不十分ナリシ巡警ニ對シテハ其直屬長官ヲ申飭シ並將來ヲ警戒スルコト

(ロ) 本件責任者ニ對シ東三省巡閲使ハ吉林督軍ト會同シ大總統令ニ遵ヒ査辨シタル結果ヲ在奉天日本總領事ニ通知スルコト

(ハ) 東三省巡閲使ハ東三省各軍隊ニ通令シ最モ適切ナル方法ヲ以テ嚴重取締ヲ爲シ將來日本官民及軍隊ニ對シ再ヒ暴行ヲ加フルコトヲ得サラシムルコト

(三) 東三省巡閲使ハ客年十一月二十九日附公文ヲ以テ在奉天日本總領事ニ對シ這般日支兵ノ衝突ハ巡閲使ノ遺憾ニ堪ヘサル所ナルニ付テハ日本軍隊死亡者ノ遺族ニ對シ代テ哀悼ノ意ヲ傳達セラレ度旨申越セリ

(四) 長春在留邦人ノ被害ニ對シテハ在長春帝國領事ヨリ吉林省官憲ニ交渉ノ結果夫々賠償慰藉金並陳謝ヲ實行セシメタリ

四　西伯利駐兵、同地鐵道監督並海事關係問題ニ關スル質問

一　政府ハ第四十一回議會ニ於テ各大臣ノ言明セシ如ク縱令「チエック」兵救援ノ業終ルモ尙西伯利ノ秩序ヲ保タムカ爲我カ兵ノ駐屯ヲ必要トシ現狀ヲ維持セムトスルモノナルヤ

二　果シテ然ラハ彼地ニ於ケル過激派ノ行動日ニ活氣ヲ呈シ來ル目下ノ狀況ニ於テ昨今出兵中ノ半個師團ノ增兵ノミヲ以テ其ノ目的ヲ遂行スルニ差支ナシト認ムルヤ

三　米兵七千餘撤兵ノ後ハ之カ爲ニ自ラ我カ鐵道ノ守備區域ヲ增シ隨テ之ニ對應スヘキ增兵ヲ必要トスル虞ナキヤ

四　前二項ノ場合ニ於ケル我カ增兵ニ對シ政府ハ能ク列國ノ諒解ヲ得ラルヘシト思惟スルヤ

五　「チエック」兵ヲ救援スル當初ノ目的ハ一昨年九月ヲ以テ一段落ヲ告ケタリ其ノ兵尙西伯利ニ殘ルト雖今ハ既ニ「チエック」共和國モ成立シ事情自ラ前年ニ異ナリ且西伯利ニ於ケル其ノ兵ノ行動亦頗ル議スヘキモノアリ然モ尙其ノ送還ヲ全ウスル迄ハ獨リ我カ國ニ於テ之カ救援ニ任セサルヘカラサル義務アリヤ

六　前項ニ關シ政府ハ「チエック」共和國ヲ始メ米國佛國等直接之ニ關係ヲ有スル諸國ト如何ナル協調ヲ爲セシヤ

七　元來巨額ノ國帑ヲ費シ寒暑共ニ酷烈ナル西伯利ノ荒野ニ數萬ノ兵ヲ駐屯セシメテ其ノ秩序ヲ維持スルコト我カ國ノ爲ニ如何ナル必要アリヤ

八　政府ハ永ク大兵ヲ駐屯セシメテ以テ西伯利各地ニ散在スル僅少ナル我カ居留民ノ保護ヲ必要ナリトスルヤ

九　過激思想ノ傳播ハ固ヨリ甚タ恐ルヘシ唯政府ハ武力ヲ以テ能ク之ヲ防止シ得ヘシト信スルヤ

十　西伯利在住ノ露人ニシテ近時我カ兵ノ駐屯ニ反對スルモノ漸ク多キヲ致ス政府ハ果シテ我カ駐屯兵ノ目的十分ニ彼等ノ間ニ貫徹シ居レリト思惟スルヤ

十一　「セミヨノフ」「カルムコフ」「グッネヲーフ」ノ哥薩克統領ニ對シ我カ國ハ從來如何ナル援助手段ヲ執リ來リシカ而シテ此ノ援助ハ將來尙之ヲ繼續セムトスル意思ナルヤ

十二　「ハバロスク」ニ近キ黑龍江ノ冬營地ニ於テ我カ海軍ノ管理スル舊露國黑龍艦隊ハ如何ナル列國トノ協調ニ依リ之ヲ我カ海軍ノ手ニ收メ居ルモノナリヤ而シテ政府ハ今後之ヲ如何ニセムトスル意思ナリヤ

十三　一昨年ノ末ヨリ昨年ノ初ニ亙リ列國間ニ西伯利鐵道管理ノ方法ヲ議スルニ當リ我カ政府ハ初メ相當ノ提議ヲ爲シナカラ自ラ進ムテ漸々米國ノ提議ニ讓步シ遂ニ其ノ「スチイブンス」氏ニ技術部ノ全權ヲ委スコトトセシ理由何レニ在リヤ

十四　政府ノ意思ハ米國カ撤兵ト共ニ鐵道監督權ヲ委棄シタル後ハ我カ國ニ於テ之ニ代リ從來

米國ノ監督區域タリシ在支管區其ノ他ノ監督ニ任セムトスルニ在リヤ

十五　前項ノ如クニシテ我カ鐵道監督ノ區域ヲ擴張スルトキハ之ニ隨ヒ自ラ此ノ鐵道ノ經營ニ關スル資金ノ擔任ヲ增加スルニ至ルヘシ政府ハ之ヲ支辨セムトスル覺悟ナリヤ併テ其ノ金額ニ就テノ見込アリヤ

十六　政府ハ西伯利經濟援助會ノ事業ヲ以テ豫期ノ效果ヲ奏セルモノト認ムルヤ又之ヲ今ノ儘ニテ續行セムトスル考ナリヤ

十七　近時聯盟會議ニ於テ問題トナレル對露通商開始ニ關スル政府ノ方針如何

十八　政府ハ今日ノ如ク受命會社ノ財政日ニ鞏固ヲ加ヘ其ノ收ムル所ノ利益亦大ナルニ拘ラス尙歐、米、濠ノ遠洋航路ニ對シ補助ヲ必要ナリト認ムルヤ縱令豫算ニ於テ議會ノ協贊ヲ經タリト雖實行ニ當リテ實狀ニ鑑ミ其ノ範圍內ニ於テ之ヲ改廢スルコト當然ノ處置ナラスヤ所見如何

十九　遠洋航路ノ經營ハ常ニ列國同業者トノ間ニ協調ヲ保タサルヘカラス右ニモ拘ラス政府ハ主トシテ遠洋航路補助ノ方針ヲ依然トシテ運賃制限ノ上ニ置クモノナリヤ

二十　政府ハ我カ國ノ貿易上最重大ナル關係ヲ有スル印度航路巴奈馬經由紐育航路ノ如キヲ別トシ獨リ歐、米、濠等ノ數航路ニ對シ一面ニ運賃ノ制限ヲ置キ一面ニ巨額ノ補助費ヲ支給スルヲ以テ一般ノ貿易者ニ對シ公平ヲ失スルモノト思惟セサルヤ

二十一　船舶俄ニ增加シテ海員ノ數之ニ伴ハス目下大ニ其ノ不足ヲ感ス寔ニ海運界ノ大問題タリ之カ養成ニ關シテ政府ハ如何ナル施設ヲ爲シ又將ニ爲サムトスルモノナリヤ

二十二　目下海事ノ審判大ニ遲滯シテ當業者ノ被ル不便少カラス是レ今ノ制度ノ戰後ニ發展シタル我カ海運ノ狀勢ニ副ハサルニ因ル政府ハ之ヲ改正スルノ意思ナキヤ

九年一月二十六日正木照藏君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月三日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提出致シ置キマシタ質問ノ趣意ヲ申述ベマスデゴザイマス、何分二十二箇條ニ亙ッテ居リマスノデ、少シ時間ガ掛リマス、ドウゾ宜シク御辛抱下サレマシテ、御淸聽アランコトヲ希望致シマスデゴザイマス、先ヅ西伯利ノ問題ノ方カラ始メマス、此問題ニ就キマシテハ、本會議、竝ニ豫算委員會、又ハ貴族院ニ於キマシテ、既ニ數回問答ガ重ネラレマシテ、餘程事情モ明カニナッテ居ルヤウデゴザイマスガ、私ガ知ラントスル所ノ點ニ觸レナイ所ガゴザイマスルデ、此質問ヲ提出致シマシタヤウナ譯デゴザイマス、御承知ノ通リ私ハ昨年六月各派ノ同僚七名、卽チ私ヲ合セテ一行八名ト共ニ、當院ノ使命ヲ奉ジマシテ、敦賀ヨリ浦潮ニ渡ッテ西伯利ノ土地ヲ旅行致シマシタ、凡ソ三十有餘日ノ間、汽車ノ中ニ寢食ヲシ、八千哩ニ近イ旅行ヲ致シテ參ッタ其間ニ、我出征ノ軍隊ヲ慰問致シマシタコト、殆ド百有餘回ニ亙ッテ居リマス、聊カ見テ參リマシタ所ノ實地ノ狀況ニ基キマシテ、本問題ヲ研究致シマスト申スコトハ、私ニ取リマシテ一ツノ義務デアルト信ジテ居リマス、又責任デアルト信ジテ居ル、洵ニ追々重大ナル問題トナリ來リマシテ、既ニ原總理大臣ノ如キ、西伯利ノ事ハ一日モ差措クコトガ出來ナイ、故ニ增兵スルト仰シヤッテ居ルヤウナ次第デ、

私共ハ西伯利ノミナラズ、此問題ハ我日本ノ國ニ於キマシテハ、今日ハ最早寸暇モ差措クコトガ出來ナイ問題ト考ヘテ、大ニ諸君ト共ニ攻究シナケレバナラヌコト、思ウテ居ル者デゴザイマス、昨年私ガ參リマシタ時ノ事情ヲ申シマスレバ、何分前ニ七萬五千モ兵隊ガ出テ居リマシタ數ヲ減ジテ、僅カニ二萬四五千ニシタ後トノコトデゴザイマス、故ニ到ル處兵備ガ手薄デゴザイマシタ、何處ニ參リマシタ事情ニ依リマシテモ、殆ド皆ナ陸軍ノ官憲ハ兵ノ少ナイコトヲ訴ヘテ居リマシタ、又實際見テ參リマシタ事情ニ依リマシテモ、或ハ五里十里ヲ隔ッテ居ル森林ノ間ノ停車場ニ、二十名三十名位少ナイ兵隊ガ駐屯シテ居ル、一朝何カ事ガ有リマシタ時分ニ、隣ニ助ケヲ求メルト申シテモ、容易ナ事デナイヤウナ有樣デ居リマシテ、實ニ其實況ヲ目擊致シマスト、氣ノ毒デ堪ラヌヤウナ感ジヲ致シマシテゴザイマス、何分彼ノ土地ハアノ、云フ廣漠タル所デ、洵ニ未ダ開ケヌ所デゴザイマスカラ、一般ニ物資モ缺乏デ、或ハ清涼ナル飲料水サヘ得難イ所モ少ナカラヌ、斯ウ云フヤウナ所デアリマス、私共參リマシタ時分ニハ、洵ニ煕クガ如キ暑サデゴザイマシテ、市中ヲ通リマシテモ其砂ノ甚シイコトハ、實ニ言語道斷ナヤウナコトデゴザイマシタ、今日ハ零點以下四十度ニモ及ンデ居ル寒サデ、指ヲ墜ス者ガアル狀況ナサウデゴザイマスガ、斯樣ナ風土ノ違ッタ所、竝ニ寒暑共酷烈ナル所ニ種々警備ヲ致シテ居リマス所ノ我國ノ兵隊ハ、實ニ氣ノ毒ナモノデアル、洵ニ何トモ同情ニ堪ヘヌヤウナ次第デゴザイマス、駐屯兵ノ少ナイ所ニナリマスト、軍醫ガ居リマセヌ、數日一回位巡ッテ來ル軍醫ノ巡回ヲ待ッテ始メテ藥ヲ貰フト云フヤウナ狀況ニ居ッタ所モ少ナクゴザイマセナンダ、病院抔ニ行ッテ訪問ヲ致シテ見マスト、ドウ云フ患者ガ多イカト申セバ、主ニ呼吸器病、卽チ胸膜炎トカ、或ハ肺結核トカ申スヤウナ病氣ガ非常ニ多イ、是ハ卽チ全ク氣候ノ爲メデアルト申シテ、其所ニ居リマス所ノ軍醫先生ガ、吾〻ニ說明サレマシテゴザイマシタ、此頃ハ凍傷患者ガ至ッテ多イヤウニ承ッテ居リマス、サウシテ彼等ガ對手ニシテ居ル過激派ハ、ドウ云フ事ヲヤッテ居ルカト申シマスレバ、彼等ハ昨年春カラ夏ニ掛ケマシテ、我兵ノ撤兵致シマシタ狀況ヲ見マシテ、是ハ日本ノ本國ニ革命ガ起ッタ爲メニ兵ヲ引揚ゲタノデアル、殘ッテ居ル兵隊ハ極メテ弱イ、或ハ年寄ノヤウナモノデアルカラ、此際大ニ窘メテヤラナケレバ

ナラヌト云フ流言ヲ致シマシテ、一旦鎭靜ニ歸シテ居リマシタ各地カラ、復タ續々起ッテ參リマシテ、其勢ガ猖獗ナラントト致シマシタ、ドウ云フ事ヲ致シマシタカト申セバ、或ハ深夜ニ停車場ヲ襲擊シタリ、又民家ニ向ッテ跳梁ヲ逞シウスル、鐵道ヲ破壞スル、橋梁ヲ燒ク、サウシテ汽車ノ交通ヲ妨ゲルノミナラズ、時寄森林ノ內カラ狙擊ヲ致シ、或ハ爆裂彈ヲ置キマシテ顚覆ヲ圖ルコトヲヤッテ居リマシタ、之ヲ禦グコトハ容易デゴザイマセヌ、吾〻ガ通ッテ見マシタガ、中〻危險デアル、大キク申セバ、實ニ其半分或ハ三分ノ一以上ハ、少ナクモ死生ノ巷ニ入ッテ來タト申スヤウナ實際ハ狀況デゴザイマシタ、彼等ハ何分ニモ其正々堂々タル所ノ隊伍ヲ備ヘテ居ル兵デナイノデアルカラ、之ニ當ルト云フコトガ甚ダ困難デアル、何時來ルヤラ、ドッカラドウ云フ風ニ出テ來ルカ分ラヌカラ、之ニ向ッテ備ヲスルト申スコトハ、大變ナル話デゴザイマシテ、守備兵ハ何レモ神經衰弱ニ罹ッテ居ッテ、甚ダ困ルト云フコトデゴザイマシタ、僅デハゴザイマスケレドモ、或ハ二人、或ハ三人、或ハ十人殺サレルト申スヤウナコトヲ、此間モ陸軍大臣ノ御報告ニナリマシタ通リニ、既ニ千有餘ノ人命ヲ損ジテ居リマス、ソレカト申シテ小部隊ノミト申スト、サウデハゴザイマセヌ、或時ハ大部隊ガ出テ來マス、此頃ノ狀況ヲ新聞等ニ依ッテ承知致シマスト、大部隊ニナッテ正々堂々ノ戰ニナッテ來テ居ルヤウデゴザイマス、少シ油斷ヲ致シテ居リマスト、忽チ酷イ目ニ遭ヒマス、實例ヲ申シマスレバ昨年二月二十五日デゴザイマシタカ、黑龍江線ノ「ユフタ」ト申ス所デ、田中大隊ノ二百五十人ノ兵ガ、一人モ殘ラズ悉ク殺サレテシマッタ慘況ガゴザイマス、吾〻ハ此近邊ニ故ラニ車ヲ駐メマシテ、サウシテ其跡ヲ弔ッテヤリマシタ、低イ丘陵ノ下ニ當時其遺骸ヲ火葬ニ致シマシタ火坑ガ澤山竝ンデ居リマス、其所ニ居リマス東君——當時團長デ中大隊將士、戰死ノ跡ト申スヤウナ標杭ガ立ッテ居リマス東君——當時團長デアリマシタ東君ガ、涙ヲ揮ッテ之ヲ弔ノ辭ヲ述ベラレ、吾〻モ其所ニ咲イテ居リマシタ百合ノ花ヲ取ッテ、之ヲ手向ケテ英魂ヲ弔ッテ歸ッタヤウナ次第デアリマス、二百五十人ノ兵——少ナカラヌコトデアリマス、當時石丸中佐ト云フ陸軍士官ガ同行サレマシテ、當時ノ戰狀ヲ話サレマシタガ、洵ニ氣ノ毒デモアリ、健氣ナ忠死ヲシテ居ッタ、今私ガ此所ニサウ云フ事ヲ詳シク御報致ス

コトハ、聊カ岐路ニ亙ルヤウナ嫌ガゴザイマスケレドモ、私ガ此所デ此壇ヲ通ジテ之ヲ諸君ニ報ジ、合セテ日本ノ國民ニ此狀況ヲ報ズルト申スハ、大ナル義務、彼等ニ取リマシテハ恐ラク千僧萬僧ノ供養、或ハ千部萬部ノ經陀羅尼ニモ優ッタ手向デアルト私ハ信ジテ居ル、若シ靈魂ノ在ルナラバ必ズヤ此演壇ノ周圍ニ廻ッテ、サウシテ私ノ申スコトヲ首肯カルコトヲ私ハ密カニ信ジテ居ル、二百五十人ノ人ハ、或ハ親モアリ、子モ有リ色々ノ眷族モゴザイマセウ、其レ等ノ人ニ彼ノ西伯利ニ於ケル彼ノ狀況ヲ見セシメタナラバ、如何ナル感ジヲスルデアラウカト云フコトハ、今尙ホ私ハ想做シテ、何トモ云ヘヌ一種ノ感ジヲ持ツ者デアリマス、當時外國ノ兵ハドウデゴザイマシタカト申シマスト、最早英吉利トカ佛蘭西トカ伊太利ノ兵ハ引揚ゲ盡シマシテ、殘ッテ居リマス者ハ、「チエック」ノ方ハ西ノ方――「イルクック」ノ西ノ方ニ殘ッテ居ッテ、其外亞米利加ノ兵ト支那ノ兵ガアル、「亞米利加ノ兵ハ七千五百程居ッタヤウデゴザイマスガ、是等ハ浦潮ヱ近イ所ノ烏蘇里線「ニコリスク」ノ一部ヲ守リ、其他ハ貝加爾湖ノ東ノ方ヲ守ッテ居リマシタ、而モ亞米利加ノ兵ハ日本ノ兵ト共同動作ヲ執ラヌ、動モスルト日本ノ兵ト相反シタ行動ヲ執ッテ、或ハ過激派ト一時ハ提携スルノデハナイカト疑ヲ懷カレタ位デ、一向賴リニナラヌ、故ニ彼等米國兵ノ守ッテ居ル鐵道區域ハ一番危險デ、兵隊ガ居ッテモ一向是ガ當ニナラヌ、斯ウ云フヤウナ事デアリマシタ、段々陸軍ノ人等ニ事情ヲ聽イテ見マスト、米國ハ初カラ日本ノ兵隊ト共同ノ動作ヲ執ルト云フコトハ、必ズ一致シテ居ラヌヤウデアル、故ニ國策ノ違フコトハ、共同ノ動作ヲ執ルコトガ出來ナイ、自分達ハ過激派ヲ必ズシモ敵トハ見テ居ラヌ、是ハ一種ノ「オムスク」政府ニ對スル政見ヲ異ニシテ居ルモノデアルカラ、サウ對手ニスル考ハナイト言ウテ居ッタ、何時デモ共同ノ動作ヲ缺イテ居ッタヤウナ次第デ」アリマス、其他ニハ露西亞ノ正騎兵ト申スモノガゴザイマシテ、是ハ「オムスク」政府ガ募集ヲシタ兵デゴザイマスケレドモ、應募者ガ少ナクテ、殆ド形ニナッテ居ラヌヤウニ聞イテ居リマス、之ヲ除キマシタ外ニハ、如何ナルモノガアルカト云フト、「セミヨノフ」、「グヅネノーフ」、「カルムイコフ」ト云フ哥薩克ノ頭領ノ率キテ居ル兵ガアリマス「セミヨノフ」ノ如キハ一萬以上、一萬四五千兵ヲ率キテ居ル、是ガ一番露西亞ニ於テ賴リトナル兵デアリマシタガ、ソレスラモ日本ノ軍ガ後ロカラ附イテ後援ヲシテヤラナケレバ、戰場ニ立ッテ働ヲスルコトガ出來ナイ有樣デアル、斯ウ云フヤウナ話デゴザイマス、私共視察ヲ致シテ參リマシテ以來、既ニ半年以上ニ及ンデ居リマスガ、其以來ノ狀況ハ如何デアルカト申シマスレバ、段々ト惡化シテ參ル、善クハナリマセヌ、惡クナッテ參リマシテ、御承知ノ通リ賴リニ致シテ居リマシタ所ノ「オムスク」政府ハ東ノ方ニ參ッテ「イルクック」ニ於テ潰ヘテシマッテ、今日ハ憫レニモ「コルチヤック」提督ハ、過激派ノ爲メニ擄虜ニナッテ居ルト云フ次第デアル、ソレト同時ニ貝加爾ヨリ東方ノ各地ニ潛在シテ居リマシタ過激派ガ、追々ト頭ヲ擡ゲテ參ッテ、殆ド各地トモ皆ナ蜂起ノ態トナッテ居ル、今日ハ近クハ「ニコリスク」――浦潮ヨリ近イ所ノ「ニコリスク」ハ既ニ過激派ノ手ニ落チ、又浦潮モ昨今新聞デ御承知ノ通リ、社會過激派ノ手ニ落チテシマイ、其他哈爾賓邊リモ中々容易ナラヌ形況ニ立至ッテ居リマス、若シ是等ガ愈々勢ヲ逞ウシテ參リマシテ、色々鐵道ニ邪魔ヲ加ヘ、或ハ澤山ゴザイマス大鐵橋ヲ壞スガ如キコトニ立至リマシタ時ニハ、實ニ日本軍ハ糧道ヲ絕タレテ、殆ド歸ラントシテモ歸ルコトガ出來ナイト云フ危イ狀況ニ立至リマセウト、私ハ虞ルヽモノデアル、ソコデ此有樣ヲ見マスレバ、日本ノ政府ニ於テ是迄ノ方針ヲ變ズレバ、格別、變セズシテ從來ノ如ク矢張西伯利ノ秩序ヲ維持スルガ爲メニ、我國ノ兵ヲ駐屯セシムルト云フ趣意ヲ繼續スルコト、致シマシタナラバ、到底今ノ兵デハ足リマセヌ、何シロ三千哩以上四千哩ニ近イ所ノ警備線デアル、ソレニ僅カナ兵ホカ出シテゴザイマスヌノデスカラ、今ノ有樣ヲ維持セントスレバ、ドウシテモ今ノ兵デハ足ラヌ、私ハ兵ノ事ニ就テハ素人デアリマス――素人デアリマスケレドモ、見テ參ッタ所、デハサウ考ヘマスル、故ニ私ノ心配致シマスノハ、此間出兵中ニゴザイマシタ所ノ、高田師團ノ半箇師團位ヲ送リマシタ所ガ、果シテ此目的ヲ達シ得ルモノデアルカ、如何デアルカト云フコトハ、大ナル疑問デアル、陸軍大臣モ仰セラレマシタ通リ、實ニ我軍ノ存立ニ關スルト云フコトハ、決シテ私ハ過激ナル言デハナイ、今ノ有樣デハサウ云フモノニナッテ來マセウト思ヒマス、殊ニ又半箇師團ヲ出スト云フコトニ於テ、政府ハ御決定ニナッテ亞米利加ノ方ニ諒解ヲ求メラレタ時分ニハ、亞米利加ニ於テハ未ダ撤兵ヲ斷行スルト云フ時デハ

ナカッタ、亞米利加ノ兵ハ、七千五百其儘殘ッテ居ル算用デアッタノデアル所ガ此七千五百モ、此二月十日ニ於テ引揚ゲラルルト云フコトデ、其後ニハドウカト云フト今ノ事情デアリマスカラ、是ハ日本軍ガ引受ケナケレバナラヌ、七千五百ノ者ニ五千位ノ兵ヲ以テヤッテモ、二千五百足リマセヌ、元ノ通リニナリマセヌ、況ヤ今ノ形勢ハ私ノ今言ッタ通リデ、非常ニ惡化シテ居ルト云フヤウナ、今日デアリマスカラ、之ヲドウ爲サルノデアルカ、是ガ私ガ今日昨今ノ大問題デアルト思フ、若シ愈〻兵ヲ出スニ致シマシタナラバ、然ラバドレ程アッタラ宜イカト申スト、私ハ實ハ素人デゴザイマスカラ分リマセヌガ、少クトモ二萬三萬位ノ兵ヲ更ニ送ラヌケレバ、迚モ始末ガ付キマスマイト思フ、國民ハ果シテ其覺悟アリヤ、之ヲ應諾スル覺悟アリヤ、政府又其覺悟アリヤト云フコトガ、私問ハントスル要點デアリマス、ドウシテモ此高田ノ半箇師團ヲ出シテモ、既ニ亞米利加ノ七千五百ニ對シテ二千五百ノ不足ニナル、哈爾賓、浦潮、滿洲里「チタ」等ノ各地ガ八釜シクナッテ居ル、追〻「ハバロック」「ウラゴエチエンスク」ノ方ニモ及ベントシテ居ル、其場合ドウスル者デアルカ、政府ノ覺悟ハ何所ニ在ルカト云フコトヲ私ハ聽キタイ、其場合ニ於キマシテ、果シテ列國ノ諒解ヲ得ルコトガ出來ルカドウカ、是モ問題デアル、斯ウ云フ澤山ナ兵ヲ送ラナケレバイケヌコトニナッテ、愈〻亞米利加首メ各國ノ諒解ヲ得ルコトガ出來ルヤ否ヤト云フコトガ、私ノ次ニ知ラントスル所ノ問題デアリマス、是ニ就キマシテハ、此二三日前ニ我帝國政府ト亞米利加ノ政府トノ外交上ノ交渉ノ文書ガ公ニサレマシテ、亞米利加ハ日本ノ勝手ニスルコトニ異存ガ無イト云フヤウニ見エテ居リマスガ、今古イ文書ニ依ッテ之ヲ調ベテ見マスト、即チ昨年陸軍省ヨリ頂戴致シマシタ文書ニ依ッテ之ヲ調ベテ見マスト、此西伯利ニ兵ヲ出スコトニ就テハ、亞米利加ト日本トハ抑〻初カラ意志ガ違ッテ居ル、茲ニ事情ハ詳シク書イテゴザイマス、一讀致シテ見マスト斯ウ云フコトニナッテ居ル、「七月八日米國ハ「チエック」軍救援ノ爲出兵ニ關シ帝國ニ對シ左ノ要旨ノ提議ヲ爲セリ軍隊ノ派遣ハ露人ノ好感情ヲ維持スル爲メ、日米同數トシ其旨協同宣言ヲ爲サントス、現在米國側ヨリ應急派遣シ得ベキモノハ、北支那及比律賓ニ在ル二聯隊約七千人ニシテ募兵及船腹等ノ關係上其派遣ハ遲延スヘキニ依リ不取敢日本ヨリ派兵セラレ度シ、我

政府ハ米國ノ提議ニ對シ出兵同意ノ回答ヲ爲スト共ニ兩國出兵目的ノ一致シタル以上ハ其兵力ニ制限ヲ附スルノ不可ナルコトヽ「チエック」軍救援ノ方針ニ伴ヒ發生スベキ形勢ニ依リテハ浦潮方面以外ノ西伯利ニ出兵スル場合アルベキ件ニ關シ米國ノ諒解ヲ求メタリ之ニ對スル米國回答ノ要旨左ノ如シ多數兵力ヲ派遣スルハ、露國人ヲシテ西伯利ニ對スル兵力干渉ナル誤解ヲ抱カシムルニ至ルベク、如此ハ米國ノ本旨ニ非ザルヲ以テ日本ガ強テ多數ノ軍隊ヲ派遣セントスルニ於テハ、米國ハ本件ヨリ脫退シテ無關係ノ狀態ニ立ッヘシ」斯ウ亞米利加ノ方カラ明カニ言ッテ居ル、ソレニモ拘ラズ日本ノ方ハ澤山ノ兵ヲ出シテ、悉ク事後通牒ニ止メテ居リマス、初カラ亞米利加ト協調ガ成立ッテ居ラヌト申スコトハ之ニテ明カナルヤウナ話デゴザイマス、ソレ故ニ亞米利加ノ方ニ日本ノ增兵ハ異存ガナイト云フコトヲ申シテ參リマシテモ、果シテ澤山ノ兵ヲ出スコトヲ默ッテ居リマスカ、如何デアリマスカ、又亞米利加ノミナラズ、列國ニモ日本ノ意ノ在ル所ヲ諒解スルカドウカハ、一ノ疑問ト言ハナケレバナリマセヌ、私共カラ考ヘマスレバ、昨年ノ十二月ニ日本カラ增兵ノコトヲ亞米利加ニ照會シタ時ニ、亞米利加人ハ一向返事ヲシナイ、知ラヌ顏ヲシテ居ルノハ、甚ダ冷淡デアルト云フタコトヲ怨ンデ居リマシタケレドモ、今申スヤウナ抑〻初カラノ成立ニナッテ居ルノデアリマスカラ、此亞米利加ノ態度モ、敢テ怪ムニハ足ラヌモノト思ヒマス、此度ノ事件ニ就テハ、日本ノ政府カラドウ云フ事ヲ言ッテヤッタカト申シマスレバ、第一ニ亞米利加ハ現狀維持ヲ可トスルカ、又次ニハ一部或ハ全部ヲ撤兵セントスルモノデアルカ、モウ一ツハ兵ヲ增ス――增兵ヲスル趣意デアルカ、斯ウ申シテ問ウタラシイ、是ハ私ハ日本ノ問ノ手紙ハ見マセヌケレドモ、亞米利加ノ返答ニ依テ見ルト、サウ云フヤウナ意ニ察セラレル、ソコデ亞米利加ノ申スニハ、「チエック」兵ノ援助ハ、二月十日カラ送還ヲ始メル、大部隊ノ送還ヲ了レバ目的ハ達セラレル、第二ノ目的トシテ居ッタ所ノ、露國民ノ自治自營ノ精神ヲ保護シ、其發達ヲ期スル爲メニ、露國民ノ希望ニ基イテ援助スルト云フコトハ、第二ノ趣意デアルケレドモ、是モ西伯利ノ現今ノ狀況ニ依リマスルト、何分亞米利加トシテハ、將來ニ兵力ヲ以テ露西亞ノ自治ヲ援助スルノハ、事態ヲシテ益〻紛糾セシムル、其結果ハ日米兩國ガ無意義ナル犧牲ヲ拂

フニ止マル、寧ロ豫想ニ反對ナル結果ヲ呈スルモノト思考スルト云フコトデ、贊成ヲシナイト云フコトノ返辭ヲシテ居リマス、而シテ兵ヲ引ク以上ハ、豫テ約束ニナッテ居リマスル、鐵道ノ管理員モ引揚ゲテ、亞米利加自身トシテハ、從來日本ト共ニ共同シ來ッタ所ノ此事ヲ、此度一段落ヲ告ゲテ別レルト申スコトハ遺憾デアルカ、併ナガラ何時迄モ別レルノデハナイ、又時ガアッタラ提携スルコトガアルカモ知レヌト云フ言葉ガ附イテ居リマスカラ、之ニ對シテ我ガ幣原大使ハ如何ナル返辭ヲシテ居ルカト申シマスレバ、亞米利加ハ自分ノ御都合ニ依ッテ兵ヲ引クコトハ、吾吾ガ是非セントスル所デハナイ、御勝手ニナサイマセ、唯ダ前以テ通牒セラレナカッタ事ハ、甚ダ遺憾デアルト云フコトヲ言ッテ居リマス、ソレニ對シテ亞米利加ハ、手落デアッタト言ッテ謝テ居リマス、私共カラ見レバ撤兵ハ御勝手デアルカラ、ドウトモナサイマセト云フ御返辭ハ物足ラヌヤウニ考ヘル、共同出兵ノ目的ノ完成前ニ勝手ニ引揚テハ困ル、貴方カラ言ヒ出シテ吾々ガ兵ヲ出シテ居ルノニ、勝手ニ引カレテハ困ルト云フヤウニ、何トカ條件ノ附方ガ有リサウニ思フ、併シ日本ノ外交官ハ左樣ナ事ハ申シテ居ラヌ、御勝手ニシナサイ、貴方ガタノ御勝手デアル、唯ダ日本ニ於テ或ハ兵ヲ出シタリ、又今迄ノ通リ兵ヲ駐屯セシメタリ、鐵道ノ運行ヲ繼續スルコトハ異存ハナイガ、固ヨリ自分ガ兵ヲ引ク以上ハ、ソレニ對シテ異議ヲ申立テルコトモナイト云フコトハ、是ハ當然ナ事デアル、併ナガラ其裏面カラ考ヘマスルナラバ、其爲メニ西伯利ノ秩序ヲ維持シ、卽チ鐵道ノコトニ就イテモ、日本ノ國ノ責任ガ一層重クナッタヤウニ思ハレル亞米利加ハ御勝手ニ爲サイト言ッテ居ル、コチラハヤル、併ナカラ今ノ西伯利ノ狀況ハ、其儘ニシテ置クコトハ出來ナイ、ドウシテモ日本ハ自分カラ引被ルヤウナ通牒ヲシタ、ト同ジ意味ニ、解セラレハシナイカト云フコトヲ、私ハ虞レルノデアル、亞米利加ニ於テハ、新聞デ御承知ノ通リ、日本ハ中々今ノ兵隊デハ往クマイ、追々撤兵スルト云フコトヲ、米國ノ國務卿邊リノ觀測ハサウ云フコトニナッテ居ルト云フコトガ、新聞ニ出テ居リマス、ソレハ既ニ申ス通リ、七千五百ノ亞米利加兵ガ引ク前ニ日本ノ增兵交渉ガ行ッテ居ルノデアルガ、亞米利加ノ七千五百ノ兵ガ引ケバ、其跡ニ更ニ日本ノ兵ガ行カナケレバナラヌト云フ觀測ヲシテ居ルノデアリマス、亞米利加ハ餘リ好イ感ジヲ持ッテ居ラヌト私ハ考ヘマス、ソレカラ次ハ「チエック」ノ救援ト申スコトニ就テ、少シ政府ノ御意見ヲ承リタイ、「チエック」兵ハ今日尙ホ五六萬、此間陸軍大臣モ御說明ノ通リ、彼ノ地ニ殘ッテ居ッテソウシテ浦潮ヲ經テ歸國ノ途ニ付カンコトヲ望ンデ居ルト云フヤウナ狀況デアリマス、之ヲ救援シナケレバナラヌ、卽チ日本ノ宣告ノ最初ノ目的ハ、「チエック」軍ノ救援ト云フコトヲヤルノデアリマスカラ、之ヲ救援シナケレバナラヌト云フコトハ、政府カラ此間モ段々承ッタコトデアリマスガ、昨年ハ此事ハ承ッテ居ラヌ、昨年モ矢張「チエック」ハ居ッテ――「イルクツク」カラ西ノ方ニ居ッテ、色々ノ行動ヲシテ居ッタ、併ナガラ昨年ハ此事ニ就テ、一言モ政府カラ聽イタコトハアリマセヌ、此事ハ此度ニナッテ新タニ出テ來タモノト私ハ考ヘルノデアリマス、唯ダ私ガ今茲ニ疑ヲ抱イテ居ルノハ、「チエック」ハ今日ハ御承知ノ通リ、「チエック」其和國ト云フ獨立國ガ出來テ居ル、引取リ手ガアルノデアル、一昨年ノ如ク最早引取リ手ノナキ人間ト違ッテ、本國ガアッテ本國ガ立派ニ獨立シテ居ル國デアル、一昨年トハ餘程事情モ異ッテ居ル、又彼等ガ西伯利ニ於ケル行動ヲ見マスルト、吾々ノ日本軍ガ大ニ力ヲ籠メテ援ケテヤル所ノ趣意ヲ諒解シテ居ルカ、シテ居ラヌカト云フコトモ判ラヌ、此「チエック」兵ノ行動ニ就テハ、私ハ頗ル議スベキモノガアルト思ヒマス、御承知ノ通リ日本ノ政府ハ「コルチヤック」政府ヲ援ケテ居ッタ、其「コルチヤック」ヲ「チエック」ガ「イルクーック」ニ伴レテ參ッテ過激派ニ渡シテ、前申ス如ク此人ハ捕虜ノ身分ニナッテ居ルノデアリマス、又モウ一ツ申シマスレバ「セミヨノフ」ハ日本ガ援ケテ居ッタガ「セミヨノフ」ノ軍ト「チエック」ノ軍ト衝突シテ、喧嘩ヲ始終シテ居ル、サウ云フヤウナコトニナッテ居ッテ、一向日本ノ之ヲ援ケテヤルト云フ趣意ガ、彼等ノ間ニ貫徹シテ居ラヌカノヤウニ思ハレル、抑々政府ハ此事ニ就テ、第一「チエック」本國トハ如何ナル交渉ヲサレタノデアルカ、又列國トハ如何ナル交渉ヲサレタノデアルカ、「チエック」軍ヲ率キテ居ル所ノ人ハ、佛蘭西ノ「ジャナン」將軍ト申ス御方デアルサウデゴザイマシテ、佛蘭西ノ如キハ最モ大ナル關係ガアルヤウデアルガ、是等トハドウ云フ交渉ヲサレタノデアルカ、ソコガ承リタイ、又米國ノ方ニモ、成程今日ハドウカ「チエック」ノ前途ヲ見テヤリタイト云フコトヲ言明サレタノデアルガ、二月十日ニナッテ一萬許リノ

大部隊ヲ引揚ゲレバ、米國ノ兵モ引揚ゲルト云フコトヲ言明シテ居ルヤウデアリマス、果シテ此四五萬殘ッテ居ル所ノ「チエック」兵ガ引揚ゲルマデ、矢張兵ヲ留置クト云フノデアリマスカ、其邊ノ御協調ハドウナッテ居ルノデアルカ、ソレガ私ガ承リタイ、ト申スコトデゴザイマス、遡ッテ之ヲ議論致シマスレバ、抑〻我國ハ何ノ爲メニ今日西伯利ノ維持ニ任ジナケレバナラヌカト申スコトガ、一番ノ根本問題デアラウト私ハ考ヘル、出兵ノ事ハ前申ス通リ宣言ニモ明カニゴザイマシテ、「チエック」ノ救援ニ在ル「チエック」救援ノ目的ヲ達スレバ、直グニ引揚ゲルト云フコトハ洵ニ明カニナッテ居リマス、其「チエック」救援ノ事業ハドウデアルカト申シマスレバ、其當時ノ目的ハ、一昨年ノ九月ニモウ既ニ達セラレテ居ル、東西兩方ノ「チエック」ガ聯絡ヲシ、ソレカラ「ハバロフスク」邊モ平靜ニ歸シタ時分ニ、既ニ其目的ガ達セラレテ居ル、是ニ於テ兵ヲ引ケバ引クベキ筈デアル、併ナガラ實際兵ハ引揚ゲズシテ、矢張其儘ニ置イテ居ル、是ハドウ云フ趣意デ置イテ居ルカト申シマスレバ、西伯利ノ秩序ヲ維持スル上カラ兵ヲ置イテ努メナケレバナラヌト云フ趣意ヲ以テ、當ニ兵ヲ置クノミナラズ、多少活動モサレテ居ッタヤウニ思ハレル、其中寺内々閣ガ代リマシテ今ノ現政府ニナリマシテ、政府ノ方針ガ一變シタト見エマシテ、將來ノ軍事行動ハ、概ネ現占領地域内ニ止メルコトト云フコトニ決メテ、サウシテ軍隊ノ引揚ヲ始メラレタ、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、即チ此以來過激派ヲ對手ニ致シマシテ戰ヲ續ケ、或ハ色〻ノ事ヲシテ居ルノハ、悉ク西伯利ノ秩序ヲ維持センガ爲メデアルト云フ趣意ニ外ナラヌ、如何ニモ彼地ニ參ッテ見マスレバ、過激派ヲ掃攘シマセヌケレバ、秩序ノ維持ガ出來ナイヤウナ狀況ニ見受ケマス、併ナガラ私共參リマシタ所デ、到ル處ノ軍事當局者ニ向ッテ、過激派ノ掃蕩ト云フコトガ根本的ニ出來ルモノデアルカ、ドウデアルカト申スコトヲ尋ネマスト、ソレハ迚モ出來ナイ、此上幾ラ兵ヲ增シテモ、サウ云フ事ハ出來ルモノデハナイト云フヤウナコトヲ誰モ彼モ皆ナ答ヘテ居リマス、是ハ其通リ洵ニ出沒變幻極リナキ者ヲ對手ニシテヤルノデゴザイマスカラ、サウモアラウト私ハ考ヘテ來タヤウナ次第デゴザイマス、故ニ今日ノ場合ハ受身ニ立ッテ、即チ防禦ノ地位ニ立ット云フ外ナイコトニナッテ居ル、隨テ何時マデ經テバ此西伯利ノ秩序ガ恢復サレルカト申スコトハ、殆ド見込ガ無イト申シテモ宜イト思フ、誰モ其見込ガ立チ惡イト申スコトハ、私共現ニ聞イテ參タヤウナ次第デゴザイマス、然ラバ露西亞ノ兵自身之ヲヤルコトガ出來ルカト申シマスレバ、是ハ前申ス通リ殆ド絶望デアルト言ハナケレバナラヌ、到底彼等ニ於テソレダケノ力ガ無イ、「セミヨーノフ」ト雖モ日本軍ガ撤兵シマスレバ、到底今日ノ勢ヲ維持スルコトハ難イ、「カルムコフ」ノ部下ノ如キハ、既ニ先般モ千有餘名ノ人間ガ叛イテ、サウシテ過激派ニ化シタト云フコトモ傳ハッテ居ル、中〻是ハ露西亞人自身デヤルト云フコトハ到底出來ナイコト、思ヒマス、故ニ若シ日本軍ガ撤退ヲ致シマシタ時ニハ、殆ド西伯利ハ過激派ノ天下トナルト申スコトハ、疑ナイ事ト思ハレル、全體西伯利ノ野ニハ過激思想ガ蔓延シテ居ル、一杯ニナッテ居ル、唯ダ日本軍ガ之ヲ抑ヘテ居ル爲メニ、勃興セヌダケノ話デアル、隨テ之ヲ掃蕩スルコトノ難イコトハ、申スマデモナイ話デゴザイマス故ニ、現政府ニシテ今日ノ狀態ヲ其儘維持シ、即チ其主張シテ居リマス通リニ、西伯利ノ秩序維持ニ任ゼント致シマスナラバ、此上澤山ノ兵ヲ出シテ、サウシテ、之ヲ何時マデ出シテ置クカ、何時マデ掛ルカ分ラヌト云フヤウナコトニ歸著スル、斯ウ云フ結論ニナリマス、國民トシテ果シテ是ガ堪ヘ得ルコトデアルカドウデアルカ、少クトモ二億圓内外ノ金ヲ費シテ居ル、其金ヲ無限ニ——何時マデ掛ッタラ其事ガ濟ムカ分ラヌ事ニ、果シテ費シ得ルモノデアルカドウデアルカト申スコトハ、大ナル問題デアッテ、餘程今日攻究ヲシナケレバナラヌ事デアルト思フ、素ト此出兵ハ無論寺内々閣ノ發議ニ係ッタモノデアリマシテ、現内閣ガ之ヲ引受ケタ以上ハ、何トカ始末ヲ著ケナケレバナラヌト申スコトハ、當然ノ話デゴザイマス、其方針ハ何レニ在ルカト申シマスレバ、當年ノ議會デハ餘リ承リマセヌデゴザイマスケレドモ、昨年ノ議會ニ於キマシテハ、我ガ小寺君ノ質問ニ對シ、外務大臣ハ明カニ秩序維持ノ事ヲ申サレテ居ル、其速記錄ノ一部ヲ私ハ茲ニ朗讀致シマス「其當初ノ主要目的ハ「チエックスローヴアック」軍ヲ救援スルニ在ッタ次第デゴザイマス然ルニ其目的ハ先以テ成就セラレタト見テ宜シイ、然レドモ其目的ガ成就セラレタ故ニ直樣此兵ヲ引揚ゲルト云フ譯ニモ參リマセヌカラ、政府ノ最

初ノ軍備的設備ヲ改メテ秩序維持ニ十分ナル兵數ニ之ヲ減ズルコトニナリマシタ詰リ日本軍ガ一旦占領ヲシ其地方ノ治安ヲ保ツ義務ヲ負ヒマシタ以上ハ之ニ代ッテ治安ヲ維持スル勢力ガ出現シ來ラザル中ハ濫ニ引クト云フコトハ我人民ノ利益保護ニ對シマシテ、又露國民各國民ノ保護ニ對シマシテモ致シ兼ヌル次第デアリマスルガ故ニ、此秩序維持ガ露西亞國民ニ依ッテ十分ニ出來ルト云フ見据ガ付クマデハ、兵數ノ多寡ハ別問題ト致シマシテ、矢張之ニ當ルノ義務アルモノト思ヒマス、其考ヨリシテ兵數ヲ減ジマシテ、今日デハ約二萬六千ニナッテ居リマス、デ目下西伯利ニ於ケル我軍ノ行動ハ、一ニ此治安維持ヲ目的トシテ居ル次第デゴザイマス、固ヨリ毛頭露國ノ内政ニ干渉スルガ如キ事ハ、我ガ方針デハアリマセヌ、然レドモ若シ我ガ治安維持ニ對シテ防害ヲ與フル者ガアリマスレバ、之ヲ討伐スルコトハ勿論ノ話デアリマシテ、先般來過激派ヲ掃蕩致シマシタコトモ、此方針ニ出タ事デアリマス、尚ホ何時マデモ此西伯利ニ我日本軍ヲ駐屯セシムル意思デアルカト云フ御問デアリマシタガ是ハ唯今申シマシタ昨今駐屯セシメ居リマスル其趣旨ガ繼續致シテ居リマスル間ハ、勿論之ヲ撤退スル譯ニ行カナイ、卽チ秩序回復致シマシテ、我軍ノ駐屯ノ必要ヲ認メナイ時ニ至レバ、無論之ヲ撤兵スル次第デゴザイマス」斯ウ云フ風ニ西伯利ノ秩序ガ回復セヌ以上ハ、何所マデモ此兵ヲ駐メ置クト云フ趣意ヲ明カニサレテ居リマスガ、果シテ政府ハ今尚ホ此趣意ヲ守ッテ居ルノデアル、一方列國ノ狀況ハドウデアルカト申シマスレバ、既ニ歐羅巴ノ方ニ於キマシテハ、最早露西亞ノ事ニハ干渉セヌ、露國ノ事ハ露國人ヲシテ自ラ之ヲ爲サシメヨト云フ方針ヲ執ルニ至ッテ、反過激派ニ對スル物質的ノ援助ヲ絶ッテ居ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、最近ハ又巴里ノ最高會議ニ於キマシテ、對露通商ノ開始ト申スヤウナ問題モ起ッテ參ッテ居リマシテ、餘程事情ガ變ッテ居ルヤウニ考ヘマス、米國ノ如キハ前申シマシタ通リニ、既ニ撤兵ヲ斷行スル、米國ニ於テモ昨今承ル所ニ依リマスレバ、色々通商ニ就テノ說モ出テ居ルヤウデゴザイマス、ドウモ私共考ヘマスト、一昨年既ニ第一ノ目的ガ達セラレタ以上ハ、再ビ秩序維持ニ任ズルト云フコトハドウシテモ列國トノ間ニ相當ノ協商ガナケレバナラヌ筈ト思ハレマス、其邊ノ事ハ如何デスカ、此間豫算委員會デ承

リマスト、外務大臣ハ宣言ニハ、成程「チェック」救援ノ目的ガ達スレバ、直グニ撤兵スルト云フコトガ書イテアルガ、宣言ナドハサウ墨守スベキモノデハナイ、窮窟ニ解釋スベキモノデハナイ、サウ窮屈ニ解釋シタナラバ、外交ガ出來ルモノデナイト云フコトヲ答辯サレテ居リマスガ、私ハサウ考ヘナイ、宣言ハ最モ重要ナルモノデ、尚モ國トシテ海外ニ向ッテ大兵ヲ出スニ、就テ内外ニ宣言シタモノハ、決シテ二三ニスベキモノデナイト思フ、更ニ變ッタ目的デ兵ヲ駐ムル必要ガアルナラバ、相當ノ手續ヲシテ、列國ノ間ノ諒解ヲ得ナケレバナラヌト思フ、宣言ノ文句ハ其通リニヤレルモノデナイ、書イテアル通リニ解釋スベキモノデナイ、サウ窮窟デハ困ルト申スヤウナコトハ私ハ無イト思フ、尤モ浦潮ト日本ハ一衣帶水ノ間ニ在ッテ、又一方南滿地方ニ於テモ、餘程西伯利トハ接近シテ居ルコトデアリマスカラ、米國ナド、ハ多少事情ガ違ヒマスケレドモ、サレバト申シテ、我國トシテ大ニ深入ヲシテ、西伯利ノ秩序維持ニ任ジナケレバナラヌト云フ事情モナカラウト思ヒマス、第一居留民ノ保護ト云フコトモ、必シモ必要デナイトハ申シマセヌガ、私共實際參ッテ見マスルト、或ハ浦潮デアルトカ、哈爾賓デアルトカ云フ所ヲ除キマスレバ、居留民ト申シテモ、サウ澤山ノ數ハ居リマセヌ、立派ナ商賣ヲシテ居ル人ハ極メテ少ナイ、多クハ醫者トカ、理髮師トカ云フヤウナ者デ、モウ少シ申シマスレバ醜業婦ノ團體ガ多イ、其他ハ日本軍ガ居ルニ就テ、ソレニ附イテ行ッテ居ル人達デアル、是等ノ人ノ爲メニ澤山ノ兵隊ヲ出シテ之ヲ守ル必要ガアルカドウカ、實際今日ハ商賣ナドハ出來マセヌ、商賣ノ仕樣ガアリマセヌ、殆ド「留」ナドハ有ッテモ無キガ如ク、物貨ヲ輸送シヤウト云ッテモ、鐵道ノ便ガ開ケテ居リマセカラ、實際商賣ガ出來マセヌ、是等ノ狀況ニ於テ居留民ヲ保護スルガ爲メニ、澤山ノ兵ヲ駐メテ置ク必要ハ斷然ナイト思フ、相當ノ途ヲ以テ引揚ゲルモノハ引揚レバ宜イト思フ、又今一ツハ過激思想ノ傳播ト云フコトヲ、頻リニ唱ヘラルル人モゴザイマスガ、成程過激思想ノ傳播ハ甚ダ恐ルベキモノデアッテ、是ハ防ガナケレバナラヌ、防ギ得ルモノナラバ是ハ防ガナケレバナラヌ、併シ過激思想ハ武力ヲ以テ防ギ得ルモノカ、ドウカ、誰デゴザイマシタカ、網ヲ以テ風ヲ捕フルガ如シト云フコトヲ言ハレマシタガ、私ハ是ハ鐵條網ヲ張ッテ毒瓦斯ヲ防グヤウナ手段デアルト言ヒタイ、到

底武力ヲ以テ過激思想傳播ヲ防グコトハ出來ナイト思フ、彼地ニ參ッテ居リマシタ時ニ、或領事ノ話ヲ聽キマスト、其人ガ露西亞ニ居ッテ「レーニン」ニ會ウタ其時「レーニン」ガ言フノニ、此過激思想ノ傳播ハ吾々ノ大ニ努ムル所デアル、日本ニハ既ニ人ヲ遣ッテ居ル、日本ニ對スル傳播ノ費用トシテ、四百萬留ノ豫算ヲ定メテ居ルト云フコトヲ公然話シタト云フコトヲ、私ハ其領事カラ直チニ聽キマシタ、ソウ云フ工合デ、彼等ハ此過激思想ノ傳播ニ大ニ努メテ居リマス、而シテソレハ武力ヲ以テ制スルコトガ出來ナイ、武力ヲ以テ制シ得ルト考ヘテ居ルト、何時ノ間ニカ日本ニモ此過激思想ガ傳播シテ參リマシテ、蔓延スル虞ガアルト思ヒマス、次ニハ日本軍ガ是ダケ苦心ヲシテ、彼地ノ秩序維持ニ努メテ居ルノヲ、露西亞ノ人ハ果シテ喜ンデ居ルカ、又其意志ガ通ジテ居ルカドウカト云フコトヲ、私ハ一言致シタイト思フ、既ニ外務大臣、其他總理大臣アタリカラ、昨年モ本年モ始終言明ヲ致サレテ居リマス、日本ハ決シテ領土的野心ヲ有スルモノデナイ、又他ノ國ノ困難ニ乘ジテ、利權ヲ壟斷スルト申ス如キ卑シイ心ヲ有ッテ居ルモノデナイ、正義人道ニ基イテ、卽チ隣國ノ平和ヲ維持スルガ爲メニ、兵ヲ出シテ居ルモノデアルト云フコトヲ頻ニ申サレテアリマスガ、果シテ此意志ガ西伯利ノ人ニ徹底シテ居ルカドウカト云フコトヲ私ハ疑フ、今日ニ於テモ尙ホ當演壇ニ於テ、總理大臣ガ日本ニハ野心ガ無イト云フコトヲ言明サレ、又私ガ昨年參リマシタ時ニモ、尙ホ軍事當局者ハ外ニ向ッテ、日本ハ決シテ領土的ノ野心ヲ有ッテ居ナイト云フコトヲ、或ハ演說ニ、或ハ文章ヲ以テ申サレテ居ル、斯ウ云フ必要ヲ感ズルコトヲ私ハ甚ダ遺憾ニ思フ、ソンナコトヲ言ハナイデモ、日本ノ意志ハ既ニ分ッテ居ラナケレバナラヌ筈デアル、然ルニモ拘ラズ今尙此事ヲシナケレバナラヌト云フノハ、彼等ノ中ニ分ラヌ者ガアル、爲メデアルト思フ、實際私共ガ聞イテ見マスト、西伯利ノ下級ノ人民ハ、日本ノ兵ハ何ノ爲メニ來テ居ルカト云ヘバ、有產階級ノ者ガ金ヲ出シテ、日本ノ兵ヲ雇ウテ來テ居ルノデアラウト、斯ウ云フ風說スラ爲シテ居ル者ガアル、又少シ進ンダ者ニナレバ、遙々日本ノ兵ガ澤山來テ、此寒暑ノ厭モナク、駐在シテ居ルト云フコトハ、是ハ唯事デナイ、鐵道ヲ首メ其邊ノ土地ヲ占領スル考ヲ持ッテ居ルニ違ヒナイ、斯ウ云フコトヲ始終申シテ居リマス、尤モ我軍ガ之ヲ守備シ、或ハ憲兵ノ代リニ或ハ警察ノ代ニナッテ、地方ノ人民ヲ保護シテ居ル、其所ノ人ハ、日本軍ノ勞力ヲ多トシテ居ルヤウデゴザイマスケレドモ、一般カラ申シマスレバ、ドウモ十分ニ其趣意ガ判ッテ居ラヌコトガ多イヤウデゴザイマス、一例ヲ申シマスレバ「ブラゴイエスチエンスク」ノ南ノ方ノコトデアッタサウデゴザイマスガ、過激派討伐ノ爲メニ我兵ガ或村ヲ燒キマシタ其爲メニ其村ノ中ニハ色々ノ災難ヲ被ッタ者ガアルノヲ氣ノ毒ニ思ヒマシテ、領事ノ建言デ之ヲ救恤スル爲メニ物ヲヤルコトニナッタ、凡ソ二十萬圓許リノ金ヲ以テ、色々ナ品物ヲ買ッテソレヲ車ニ積ンデ持ッテ行ッテ、之ニ配ッテヤッタサウデゴザイマス、喜ブカト思ヒマシタラ喜バナイ、到頭日本軍ハ自分ガ惡イ事ヲシタト考ヘテ、斯ウ謝リニ來タ、怪シカラヌ話デアル、斯ウ云フコトヲ申シテ居ッテ、之ヲ甘ンジテ貰ハヌト云フ狀況デアッタト云フコトヲ親シク聽イテ參リマシタデゴザイマスガ、斯ウ云フ事情ガ追々盛ニナッテ居リマス、今モウ一ツ申上ゲマスレバ、茲ニ此「ニコリスク」ノ勞働者、竝ニ鐵道從業員ニ日本ノ兵ガ物ヲヤリマシタコトニ就キマシテ、檄文ヲ配布シテ居リマス、其前半ハ隨分酷イ事ガ書イテゴザイマス、私ハ茲ニソレヲ讀ムニ忍ビマセヌガ、後ノ方ニ至リマシテ斯ウ云フコトガ書イテアリマス、「今ヤ日本軍ハ吾等ニ加ヘシ自己ノ罪惡ヲ掩ハントシテ日本軍司令部ハ吾等一人ニ對シ麥粉五「フント」ヲ提供セリ浦潮地方及一番河ノ勞働者等ハ右ノ如キ勞働階級ヲ侮辱スル贈物ヲ受ケザリキ地方敎師等日本ノ援助ヲ拒絕シ材料部電信部等ノ勤務者等モ右ノ如キ日本軍ノ新規ニ案出セル侮辱ヲ拒絕セリ剩ヘ「ニコリスク」市民兵等サヘ日本軍ノ此贈物ヲ拒メリ「ウスリー」鐵道從業者諸君ハ宜シク日本軍ノ贈物ヲ拒絕シ浦潮其他ノ勞働者ノ例ニ倣フヘシ諸君ハ宜シク日本軍司令部ニ向ッテ斯ク答フベシ掠奪ノ徒ヨ西伯利ヲ去レ吾等ハ汝ノ援助ヲ如何ナルモノナルヤヲ知悉セリ唯、汝等ノ帝國主義ノ爲メニ利セントシテ汲々タルノミ汝等ガ吾等ニ加ヘシ總テノ罪惡ハ吾等永久ニ忘レザルベシ我ガ勞働者ノ流セシ一滴ニ對シテ吾等ハ復讐スベシ、鐵道從業員ノ贈物頒與ノ當日露國勞働者等ハ彼等奸將等ガ銃劍腰ニ差出ス彼等ノ援助ヲ拒ムト共ニ彼等ノ政府ニ永久ニ呪詛ヲ送ル」斯ウ云フ激烈ナ事ガ書イテアリマス、又哈爾賓ノ電信ニ依リマスト、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、「日本ハ速ニ極東ヨリ其軍

隊ヲ撤退スベク過激派ト言ヒ反過激派ト稱スルモ畢竟我同胞間ノ爭ナルニ日本ガ「セミョーノフ」軍ヲ援助スル内亂ヲ助成シ益〻良民ヲ苦シムル事トナリ且日本軍ノ駐屯ハ鐵道輸送ヲ阻碍シ吾人ノ苦痛ヲヨリ痛烈ナラシムルモノナリ日本軍ニシテ撤退セバ内亂ハ忽チ終熄シ鐵道輸送ハ恢復シ缺乏セル物資ノ輸送ヲ豐富ニシ交通通信ヲ圓滿ニシ西伯利住民ノ幸福ハ日ト共ニ增進スベシ」斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、マダアリマス、是ハ今日ノ新聞ニゴザイマシタノデアリマスガ、哈爾賓ニ於キマス所ノ、「東清鐵道從業員ヲ中心トセル哈爾賓ノ各職業同盟會ノ代表者ハ去ル二十七日某所ニ會合シテ日本ノ出兵反對ニ關シ凝議ノ末次ノ如ク決議シ之ヲ露國新聞ノ外日支各新聞社外交代表者竝ニ東清鐵道會社ニ送致スルコト、セリ」斯ウ云フコトヲ書キマシタ、其意味ハ「一、總テノ露國ノ勞働者及民主階級竝ニ一般人民ガ全力ヲ濺ギテ爭鬪殺戮ノ境ヨリ脫シ平時ノ業務ニ服スベク一致協力セントシツ、アル際ニ當リテ日本軍ガ後貝加爾及露國極東ニ駐屯スルコトハ徒ニ永久ニ之ガ實現ヲ妨ゲ且ツ民亂ヲ助長スルノミナリ」ト云フコトヲ書イテ居ル、又日本軍ノ駐屯ハ「チェック」竝ニ聯合軍ノ撤退ヲ保障スベク露國ノ鐵道ヲ守備スル上ニ於テ決シテ必要ナリトハ認メズ」斯ウ云フ事ヲ書イテ居ル、酷イノハ「日本軍國主義者ノ野望ハ多數露國民ノ反對アルニ拘ラズ彼等ハ貝加爾其他ノ露國領土ニ軍隊ヲ增加セントシテ止マズ之レ實ニ彼等ガ該地方ヲ侵略シ其政治及經濟狀態ヲシテ該地方ニ於ケル數百萬ノ露國住民ニ結合セントスルモノナリ」斯ウ云フヤウナ酷イ事ヲ言ウテ居リマス、之ヲ以テ日本軍ノ駐兵ガ彼等ニ歡迎セラレテ居ラヌト云フコトハ、能ク分リマセウト私ハ考ヘル、是ハ露西亞ノ人ノミデアルカト申セバサウデハナイ、列國ニ於テモ此事ハ甚ダ不明ニナッテ居ル、明カニナッテ居ラヌヤウニ思ハレル、先般來英吉利等ノ新聞ニ於テモ、日本ガ西伯利ニ兵ヲ駐メテ居ルニ就テハ、何カ土產ヲ持ッテ歸ラナケレバナラヌコトデアラウ、又ヤッテモ宜シイト云フヤウニ新聞ニモ報道サレテ居リマスガ、其中亞米利加ノ事ヲ書イタモノガ此所ニゴザイマス、「紐育諸新聞モ亦案外大ナル憂慮論ヲ發表シツ、アリ十六日「サン」紙ハ國務省ヨリ祕密使トシテ派遣セラレ二箇年間西伯利ニ滯在シテ最近歸國セル「ヘンリーワープロー」氏ノ意見ヲ載セタルガ「ワープロー」氏ハ日本ハ過激派軍ノ東漸ヲ阻止スル口實ノ下ニ西伯利ニ於ケル廣汎ナル地域ノ占領ヲ始メタリ米國ニシテ日本ガ事實上西伯利ノ半ヲ併合スルヲ認メントセバイザ知ラズ然ラザレバ結局米軍ヲ西伯利ヨリ撤退スベカラズ寧ロ增兵ノ必要アリト論斷セリ而シテ國務省側モ亦此等ノ非難ニ對シ防禦ノ線ヲ張ラントシ東部西伯利ハ尨大ナル軍國主義ノ日本帝國ノ一部トナルベキ懸念ナキヲ主張シツ、アリテ政府ハ東部西伯利ガ日本ニ併合セラレザルヤウ相當處置ヲ採リ準備ヲ講ジ居レリ」斯ウ云フコトガ書イテゴザイマス、亞米利加ニモ斯ウ云フ輿論ガアルモノト見エマス、更ニ進ンデハ我帝國ノ國民ハ果シテ能ク此兵隊ヲ出シテ居ル所ノ目的ヲ諒解シテ居ルカ如何、是ガ大問題デアル、此事ニ就テハ此間片岡君カラ御述ニナリマシタガ、全ク今日ノ有樣ハ冷淡ニ見エル、國民ガ之ニ對シテ冷淡ニ見エル、何故冷淡デアルカト云フト戰ニ名ガ無イ、ドウ云フ譯デ彼等ガ彼所ニ行ッテ居ルカト云フ名ガ無イ、名ガ有ッテモ明白デナイ故デアリマス、彼地ニ參リマシテモ、初ノ内ハ慰問袋ナドモ大分參ッタヤウデアリマスガ、近頃ハソレガ來ナイ、故郷ノ通信サヘ少ナクナッテ居ルト申シタヤウナ有樣、日本ニ於テモ今ヤ西伯利ニ於ケル獨墺俘虜ノ救濟同盟會ト云フ計畫アルコトヲ開キマシタガ、我ガ出征軍ニ對シテ慰問スルト云フヤウナ企ハ餘リ聞キマセヌ、有ルカ知レマセヌガ、餘リ多クハ聞キマセヌ、洵ニ氣ノ毒ナ有樣デアルト思ヒマス、之ニ就テ是モ極ク近イ新聞デアリマスガ、大藏省カラ彼地ニ參ッテ居タ富田事務官ト申ス人ノ話ガ出テ居リマス、之ヲ讀ミマス「是モ私ノ出發當時ニ目擊シタ事實談ダガ浦鹽ノ我赤十字病院ニハ一見涙ヲ催スヤウナ日本傷病者ガ澤山居ル彼等ハ敵ト交戰ノ場合心氣興奮シテ居ル爲メ思ハズ知ラズ防寒具ヲ脫イテ鬪フノデ凍傷ニ罹ルノデアルガ甚シイノニナルト手モ足モ斷レテシマッテ恰度癩病患者ノヤウナ悲慘ナ有樣デアル是等ノ傷病兵ハ陛下ノ御爲メナラ如何ナル艱難デモ構ヒマセヌガ他國ノ爲メニ恁麼苦ミヲスルノハ莫迦々々シイト思ヒマスト言ッテ居ル私ノ不審ニ堪ヘナイノハ一體我國ハ西伯利ノ秩序ヲ回復スル爲メニドノ位ノ程度マデ生靈ト資金ノ犧牲ヲ拂フ積リデアルカト云フコトデアル忌憚ナク言ヘバ西伯利問題ニ對スル我國ノ立場ハ恰モ深イ泥田ニ足ヲ突込ンダヤウナモノデ殆ド拔差シナラヌ窮地ニ陷ッテ居ルト云ッテモ差支ナイ成程露國ノ

復興モ大切ニハ相違ナイガ、聯合各國ガ續々兵ヲ引揚ゲルノニ我國獨リ徒ラニ增兵スルナンテ其麼莫迦々々シイ事ガアルモノヂャナイ國民ノ大多數モ反對シ派遣軍ノ幹部ノ中ニサヘ反對ノ意見ヲ持ッテ居ル人モアル」派遣軍ノ幹部ノ中ニサヘ反對ノ意見ヲ持ッテ居ル人モアル、斯ウ云フ事ガ書イテアル、是ガ洵ニ恐ルベキ事デ、彼地ニ參ッテ聞キマスト、初メハ露國ノ過激思想ガ、我ガ兵隊ニ傳播ヲシヤセヌカト云フコトヲ氣遣ッテ居タガ、サウ云フコトハ無イ、彼等モ露國政府ノ哀レナル有樣ヲ見テ、斯樣ナ事ハスベキコトデハナイト考ヘタ、左樣ナ心配ハ無イト申サレテ居リマスケレドモ、今後ハ殆ド名ガ無イ、名ガ有ッテモ不明白ナコトデ、寒暑甚シイ所ニ身ヲ曝シテ時折生命ヲ捨テナケレバナラヌト云フコトニナリマシテハ、遂ニ彼等自身ノ中ニ、惡空氣ガ出テ來ハセヌカト云フコトヲ虞レル、富田ト云フ人ノ書イタ中ニ、幹部ノ中ニスラ反對ガアルト云フコトデアルカラ、是ハ將來大ニ愼マナケレバナラヌ事デアルト思フ、ソレカラ次ハ「セミヨノフ」「カルムイコフ」「グヅネヲーフ」等ノ哥薩克首領ニ對シテ、我國ハ從來ドウ云フ援助ヲ與ヘ、又今後與ヘントスルカト云フコトハ問題デアル、此間陸軍大臣ノ御話ヲ承リマスト、サウ云フ事ハシテ居ラヌ、一向援助ハ與ヘテ居ラヌト云フヤウニ承リマシタガ、少シク是ハ事實ガ違フヤウニ思フ、私共卽チ昨年參リマシタ時分ニ、「チタ」ニ於テ、「セミヨノフ」ノ本營ト申シマスカ、住宅ト申シマスカニ行ッテ、色〻話モ承リ、又其招待ニ依リマシテ、晝飯ヲ一緒ニ食ヒマシタ、其時分ニハ、其部下ノ有力ナル將軍、其他州長有力者モ參ッテ居リマシタカ、其時分ニ斯ウ云フ事ヲ「セミヨノフ」ハ歡迎ノ辭トシテ述ベテ居リマス、「露國ノ諺ニ最モ不幸ナル時ニ親善ノ關係ハ結バルト言フコトアリ、露國ハ一時不幸ナル境遇ニ陷リテ他ニ協同一致スル國モナク亦援助ヲ求ムルノ途ヲ知ラザリキ是ヲ吾人同志ハ露國及露國民ノ爲メ其不幸ヲ救ハント欲シ滿洲里ニ兵ヲ擧ゲ祖國ノ敵タル過激派ト戰ヒタリ然レドモ戰鬪スルニモ銃モナク砲モナク又彈藥モナシ加之糧食サヘモ缺乏ヲ告ゲ此時ニ當リ計ラズモ有力ナル日本ノ援助ハ吾〻ノ前途ニ對シ一道ノ光明ヲ與ヘタリ其援助ニヨリ一ノ主體ヲ作リ露國統治ノ爲メ進ムコトヲ得タリ而シテ此事タル露國民何人ト雖モ知ラザルコトナク何人ト雖モ之ヲ否定スルコトヲ得ズ此憐ミ深キ援助ニ對シ深ク感

謝ス」斯ウ云フ事ヲ其晝餐ノ席上ニ於テ彼カラ承ッテ居リマス、故ニ陸軍大臣ガ之ヲ援助セヌト云フコトハ、何等カノ間違デアリハシナイカト思フ、此事ニ就テ說明ヲ煩ス、ソレカラ次ニナリマシテハ「ハバロフスク」ノ近邊黑龍江ノ少シ下リマシタ所ノ、「サドン」ト申ス冬營ノアル所ガアル、之ニ昔露西亞ノ政府ニ屬シテ居ッタ黑龍江ノ艦隊ヲ日本ノ海軍デ管理シテ居ル約ソ海軍カラ四百有餘名ノ人ガ參ッテ居ル、一箇月費ス所約百萬圓、鐵工場等ヲ設ケマシテ、色〻砲艦ノ修繕ヲ致シテ居リマス、是ハモトドウ云フヤウナ協商デ、日本ノ國ノ手デ管理シナケレバナラヌコトニナッタノデアルカ、此管理ハ何時マデ續ケテ行ク御考デアルカ、之ヲ聽キタイ、黑龍江ハ御承知モゴザイマセウ、殆ド四千哩位ハ船ガ行クコトガ出來マス、其中ニハ松花江烏斯里或ハ「ゼヤ」ト申スヤウニ支川ガゴザイマシテ、何レモ相當ナ船ヲ浮ベテ行クコトガ出來マス、之ヲ運輸上ニ利用スルト云フコトハ、西伯利ノ利權開發ノ上ニ於テ、最モ必要ナル事デアル、然ルニ其事ニ就テハ、未ダ手ガ著イテ居ラヌヤウデアル、黑龍江ニ國旗ヲ揭ゲル所ノ船ハ、露西亞ト支那ト二ツシカゴザイマセヌ、日本ノ如キハ大分金ヲ出シテ船ヲ買ウテ居ルヤウニ承リマスケレドモ、何レモ露西亞人ノ名儀ニナッテ日本ノ旗ハ樹テルコトガ出來ナイト云フコトニナッテ居ル、サウ云フ次第デアルニモ拘ラズ、此川ヲ護衞致シマス所ノ船ヲ澤山ナ金ヲ掛ケテ、管理シテ居ラナケレバナラヌ必要ガ何所ニアル、一艘ヤ二艘ハ「ゼヤ」邊リニ送ッテ、陸軍ノ共同作戰ニ使ッテ居リマスガ、サウ大仕掛ニスル必要モナシ、又用ヰル所モナカラウト思フ、之ニ就テハドウ云フ御考ガアルカ、ソレガ承リタイ、次ニ此鐵道ノ管理問題ニ移リマス、西伯利ニ於ケル鐵道ハ極メテ軍事上ニ重要ナルモノデアルコトハ、私ガ申スマデモナイ話デ、今日ハ秩序維持ト申シテモ、其實鐵道ノ警備ニ任シテ居ルト申スヤウナ次第デアル、亞米利加ノ如キ初メ出兵ヲ致シマシタ理由ハ殆ド其根柢ヲ探レバ、鐵道問題デアルト申スコトハ、私ハ鐵道院カラ參ッテ居ッタ所ノ長尾サシト云フ御方ニ聽キマシタ、ソレハ此鐵道問題ハ西伯利ニ就テ重要ナル問題デアルカラデアル、ソコデ今ハドウ云フコトニナッテ居ルカト申セバソレハ此間外務大臣モ一寸御話ガアッタヤウデゴザイマスガ、モト管理スルト云フコトデアッタノデゴザイマスケレドモ、管理スルト云フコトデハナク、

此頃ハ監督スルト云フコトデアル而シテ其爲メニハ最高委員ヲ置キマシテ、最高會議ヲ拵ヘ、其下ニ軍事輸送部ト技術部ト斯ウ云フ二ツニ分レテ、何レモ委員組織ニナッテ仕事ヲシテ居リマス、軍事輸送部ノ方ハ、前ニハ日本ノ竹内中將ガ委員長デアリマシタガ、今日ハ誰方デゴザイマシタカ、日本ノ野戰交通部ノ御方ガ勤メラレテ居ル、技術部ノ方ガ亞米利加ノ「スチーブンス」氏ト云フ人ガヤッテ居ル、是ハ追〻引揚ゲルト云フコトデゴザイマスガ、全然專權ヲ持ッテ掌ッテ居ル、サウシテ其管轄區域ハドウナッテ居ルカト申シマスレバ、東支鐵道、卽チ東淸鐵道ト、後貝加爾ノ方ハ米國デヤル、黑龍江管理區ト長春ノ管區、卽チ哈爾賓長春ノ間ハ日本ガヤル、烏蘇里ノ一部モ日本ガヤッテ居ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマシテ、日本ノ管轄區域ハ頗ル不利益デアル、徒ラニ線路長クシテ、非常ニ不利益ナル所ニナッテ居リマス、黑龍江線ノ如キハ、私共參ッタ時デモ一週間ニ一遍シカ汽車ガ通ラナイ、極メテ寥々タル所デ、而モ線路長クシテ非常ニ警備ニ困難ナル區域デゴザイマス、初メ、ドウ云フ譯デ斯ウ云ウ管區ヲ日本ガ御取リニナッタガドウ云フ譯デ日本ノ爲メニ、甚ダ不利益ナル管區ヲ御選ニナッタカト云フ事ハ、私共ノ了解スルコトノ出來ヌ一ツデゴザイマス、ソレカラ又鐵道ノ管理ニ就テノ交渉ハ、一昨年以來日本ト亞米利加、並ニ列國トノ間ニ續ケテヤラレテ居ッタノデゴザイマスガ、其交渉ノ迹ニ就テ見ルト、ドウモ、日本ガ初ハ隨分强イコトヲ言ッテ、相當ナルコトヲ言ッテ居リナガラ、終ニハ全然亞米利加ノ申出ニ同意ヲシタ、斯ウ云フ事ニナッテ居ル、是ハ果シテドウ云フ關係カラ同意サレタモノデアルカ、何分ニモ私共ニハ合點ガ參ラヌ、之ニ就テ今私ガ確ナ所ノ取調ニ依テ其經過ノ順序ヲ此ニ申述ベテ、サウシテ尙ホ政府ノ意見ヲ伺ヒタイト思フ、若シモ此事ガ或ハ外務當局等ニ於テ、何カ御懸念ガアルト申ス事ガアルナラバ、相當ナ手順ヲ御執リニナッテ然ルベキモノト思フ、私ハ過ギ去ッタ事デアルカラ差支ナイト思ヒマシテ、是カラ一通リ順序ヲ述ベマス、初メ七年八月中旬ニ浦潮ニ於キマシテ、米國指揮官カラ聯合軍委員會監督ノ下ニ「スチーブン」一行ヲシテ露國鐵道ノ運行ニ任ゼシメントスル提議ガアッテ、英佛代表者ハ之ニ同意シタ其後間モナク臨時鐵道委員會ナルモノガ出來マシテ、軍事ト技術ノ二ツニ分ケテ、當面ノ事ヲ處理スルコトニ致シマシタ、九月初メ日本駐在ノ米國大使ハ、當時ノ東支鐵道長官「ホルワット」將軍以下ヲ革職シ、「スチーブン」一行ヲシテ西伯利全鐵道ヲ管理セシメタキコトヲ提議シタ、其後佛蘭西英吉利兩代表者カラモ、夫々意見ノ提出ガアリマシタガ、要スルニ軍事輸送ハ別トシテ、一般管理ハ委員ノ手ニ屬セシメ、其委員長ハ「スチーブン」ヲ以テ之ニ當テタイ、斯ウ云フ提議デアッタ、之ニ對シテ日本ハドウ云フコトヲ申シタカト云ヒマスレバ、東支鐵道ハ日本唯一ノ交通線ナルヲ以テ、委員ノ權限外ニ置カナケレバナラヌ、又同線及後貝加爾線モ其指導援助ハ、日本ニ於テ擔任シナケレバナラヌト云フ趣意ヲ以テ之ニ反對シタ、更ニ九月ノ末ニナリマシテ、米國大使ハ浦潮ニ參ッテ周旋ヲ致シマシテ、「スチーブン」ニ任スハ決シテソレヲ統治セシメントスルモノデハナイ、運行デアル「オペレーション」ダケデアルト云フコトヲ申シテ、色〻緩和ニ努メラレマシタガ、日本軍ノ代表者ハ之ニ反對サレタ、斯ウ云フヤウナ工合デ、出先ニ於テ段々交渉ヲシテ居リマシタケレドモ、中々六シクナリ來ッタニ付テ、其交渉ヲ東京ニ移サレサウシテ十月十九日華盛頓府ニ於テ、米國國務卿ト我ガ石井大使トノ間ニ交渉ヲセラレタ、米國ノ主張ハ依然實務ハ「スチーブン」ヲシテ擔任セシメタイ、斯ウ云フ趣意デアル、ソレカラ十月十五日又日本ニ駐在シテ居ル英國大使カラ此件ニ就テ提議ガアッタ、全鐵道ノ一般經營ハ、聯合軍ニ於テ任命セラルベキ總長「スチーブン」ニ委任シタイ、斯ウ云フコトヲ申シタケレドモ、我ガ政府ハ之ニ同意セズシテ、十一月ニナリマシテ、「トムスク」鐵道、及其以西ハ「スチーブン」ニ一任シ、後貝加爾東支烏蘇里黑龍江ノ諸線ハ、日米共同ニテ指導援助スルコトヲ日本ガ提議シタ、併シ米國ハ之ニ對シテ、共同從事ハ實際困ルカラ、贊成ガ出來ナイ、斯ウ云フコトデアル、今度日本カラ出シタ所ノ提議ハドウデアルカト申セバ、餘程具體的ニナッタ、ソレハ聯合軍、策動地帶內ニ於ケル鐵道ノ一般監督ハ、聯合各國ノ代表者ヨリ成ル委員、露西亞人ヲ委員長トシテ之ニ任セ、其下ニ技術部ト軍事輸送部ヲ設ケ、經營ハ露國人ニ任セ、保護ハ各國軍隊之ニ當リ、此經營ニ任ズル露國人ハ出來得ル限リ且ツ進ンデ技術部ノ勸告ヲ容レ及援助ニ俟ッベシト云フヤウナ、餘程不得要領ナ、「成ルベク」トカ「出來得ル限リ」ト云フ文字ヲ使ッタコトデアル、之ニ對スル米國政府ノ答ハ、ソレデハ「スチーブン」ヲシテ其才能及特

殊技倆ヲ有效ニ發揮セシムルコトノ出來ナイモノデアルカラ、之ニ贊同スルコトガ出來ナイ、「スチーブン」ガ又申スノニハ、從來ノ經驗ニ依テ、中々露國人ハ言フコトヲ聽カナイカラ、全權ヲ持タナケレバサウ云フ仕事ノ出來ルモノデナイ、今露西亞ニハ技術員ハ必要デナイ、金ダケアレバソレデ宜イ、斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、唯タ露國人ヲ監督スルナラバ、殆ド委員長ナドハ飾物同樣デアルカラ駄目デアル、斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、今度我ガ政府ハドウ云フコトヲ言ヒマシタ、我ガ政府ハ遂ニ十二月十六日第三回目ノ提議トシテ、經營ニ任ズル露國人ハ、本案規定ノ監督ニ服スルモノトス、露西亞人ハ監督ニ服サレナケレバナラヌト言ッテ、サウシテ技術部ノ絶對權力ヲ認メ、尙ホ技術部ハ部長ヲ選任シ、之ニ鐵道ノ技術的運行事務ヲ委任ス、同部長ハ右運行事務ニ關シテ、全權ヲ有シ、技術部ハ顧問トシテ行動スル、餘程纔挺デアル、委員會ヲ拵ヘテ委員ガ委員長ヲ選ンデ、其委員長ハ絶對全權ヲ以テ、委員ハ皆ナ顧問デアル、顧問トシテ働ク、斯ウ云フヤナコトヲ日本ノ側カラ提議シタ、何ノ爲メニ斯ク迄大々的ノ讓歩ヲシテ、斯ノ如ク米國ノ意ヲ迎ヘナケレバナラヌ譯デアッタカ、全然米國ノ提議ニ同意シタト申スコトハ、最モ了解ニ苦シムヤウナ次第デアル、少シ立入ッテ居リマスガ、此事ニ就キマシテ亞米利加ノ方カラ交換條件デアルカト申シマスレバ、右協定ヲ爲得タト云フヤウナコトモ出テ居リマス、ドウ云フ交換條件デアルカト申シマスレバ、右協定ヲ爲ス、ニ當リ、日本ハ「スチーブン」氏ガ技術部長タルコトヲ認ムルト同時ニ、米國ハ恰モ米國ノ墨國ニ於ケルガ如キ、又英國ノ白國ニ於ケルガ如キ關係ヲ、日本ガ西伯利ニ於テ有スルコトヲ認メルコトニナル、是ハドウ云フ趣意デゴザイマスカ、是ハ餘程重大ナル事デアルガ、之ニ就テ解釋ハ如何デアルカ是モ承リタイ、又亞米利加ノ方モ愈、撤兵ヲ斷行スルコトニ就キマシテハ、此「スチーブン」首メ一行皆ナ引揚ゲルヤウニ書イテゴザイマスガ、サウシマシタナラバ、此後ヲドウスル、日本ガ之ヲ引受ケテ御遣リニナル御考デアルカ、東支鐵道首メ、是迄亞米利加ノ管轄シテ居タ所ノ區域ヲ、全然日本ガ引受ケテ御遣リニナル御考ガアルカドウデアルカ、ソレヲヤルニ就キマシテハ、第一多クノ技術者ヲ送ラナケレバナラヌ、鐵道ハ何レモ荒レテ居ル、大キナ貨車ヲ皆ナ停車場ニ引張ッテ來サセテサウシテ飯ヲ焚ク所ヲ拵ヘテ、事務所ニシテ居ルト云フ始末デアル、

之ヲ完全ニ整ヘルニ付テハ、餘程金ガ要ル、中々容易ナラヌ事デアル、既ニ千萬圓カ幾ラカ各國カラ出シ合フト云フヤウナ話モアッタ、サウデゴザイマスガ、餘リ他所ノ國ハ出サヌ、日本ガ先般外務大臣カラ承リマスレバ、二百萬圓カ御出シニナッタト云フ位ナコトデアル、今度之ヲ引受ケマスレバ、第一人モ遣ラナケレバナラヌ、金モ遣ラナケレバナラヌ、ソレヲ見込ンデ之ヲ引受ケラレル考デアルカドウデアルカ、幣原大使ハ亞米利加ニ向ッテ鐵道ノ事ニ就テモ、日本ガ勝手ニシテ宜シイカト云フ念ヲ押サレテ居ル、ドウシテモヤルト云フヤウナ御考ガ見エルガ、ヤルニシマスルト中〻容易ナ事デナイ、殊ニ東支鐵道ニ就テハ、此頃支那ノ方ガ中々威張出シテ居リマスカラ、果シテ之ヲ日本ノ手ニ委スルコトヲ彼等ハ承知スルカドウカ、之ヲ日本ノ手ニ取リマセヌト、日本ノ軍隊ノ活動上ニ於テ、大ナル影響ヲ及ホスモノト私ハ認メル、斯ウ云フコトハドウ云フコトニナサル御考デアルカ、若シ此鐵道ヲ引受ケレバ、幾ラノ金ガ要ルカ、其金ノ見込カドウナッテ居ルカト云フコトガ、御調ガ御出來ニナッテ居レバ併セテ承リタイ、今一ツハ西伯利ノ經濟援助會ノ問題デアル、一昨年八月日本ニ於テ、西伯利經濟援助會ト云フモノガ出來マシタ西伯利ニ向ッテ經濟上ノ援助ヲスルト云フ主義デアッタノデゴザイマセウカ、其以來ドウ云フ事ヲ實際ナサレタノデアルカ、此間外務大臣、モ少シク御說明ニナッテ居リマスケレドモ、ドウモ餘リ見ルベキ事業ガ無イヤウニ思フ、廉賣ヲ始メヤッテ居ッタヤウデアリマスケレドモ、是モ一般ノ商人カラ反對ガアッテ止メタ、施療ハシテ居リマスガ、是ハ陸軍ノ方デヤッテ居ル、殆ド陸軍ノ軍醫ノ手ニ一切引受ケテ、僅カ藥ノ代リノ外援助會カラ拂ッテ居ラヌヤウナコトモ承ッテ居リマス、物ヲヤル救恤的ニ物品ヲヤリマスガ、先刻私ガ讀上ゲマシタ通リ、彼等ハ斯ンナモノヲ貰ウ筋ガナイ、饑エテモ周ノ粟ヲ食ハズト云フ意氣ヲ示シテ居ル、斯ンナ次第デハ甚ダ效力ヲ疑フノデアル、外務大臣ノ御話ニハ、日露ノ學校ニ補助シテ居ルト云フヤウナコトヲ聽キマシタガ、是ハドウ云フコトデアルカ、學校ニ經濟援助會カラ補助ヲスルト云フコトハ、餘程筋途ガ違ウ話デアル、是ハ今後ドウ云フコトニ爲サル御考デアルカ承リタイ、今一箇條ハ此頃、歐羅巴ノ方ニ於キマシテ、對露通商ノ開始ニ關スル協議ガ成立ッテ居ルヤウデ、或ハ外務大臣ハ、是ハ政府トノ話デハナイ、購買組合トノ間ノ話デアルト云フヤウナ御說明ノヤウデ

アリマスガ、何シロ孰レニシテモ、此問題ガ成立ッテ居ッテ、昨今ノ新聞デ見レバ、反古同樣ノ留ノ相場ガ騰リ掛ケテ居ルト云フヤウナコトモ書イテゴザイマスガ、之ニ就テハ日本ノ政府ハ、ドウ云フ主義方針ヲ御執リニナルコトデアルカ、是ハ重大問題デアル、之ガ根本問題デアッテ、之ガ解決シマスレバ、自ラ西伯利ノ問題ニ及ンデ來ルト考ヘマスカラ、此點ニ就テ承リタイ、是デ私ノ西伯利ニ關スル問題ハシマイマシテ今度海事上ニ關シマスル問題ヲ少シヤリマス、政府ハ四十一議會ニ於キマシテ、此歐羅巴、亞米利加、濠洲等ニ關スル遠洋航路ノ補助ニ關スル議案ヲ提出サレマシタ、其内容ハ如何デアルヤト申シマスレバ、一切從來通リ、卽チ五六年前立テマシタ所ノ計數ニ基キマシテ、補助ヲ與ヘルト云フコトデ、其期限ハ何時カラデアルカト申セバ、卽チ當年九年ノ一月カラ二箇年デアルト、斯ウ云フ案ヲ立テタ、ドウ云フ理由デアルカト申シマスレバ休戰條約ハ成立ッテ居ルケレドモ未ダ頗ル世界ノ狀況モ混沌トシテ分ラヌ故ニ、先ヅ暫ク此通リニシテ置クト、斯ウ云フ御話デ、併シ何分ニモ五年モ六年モ前ニ作リマシタ所ノ敷字ニ基イテ、同ジ方法ヲ襲蹈スルト云フコトハ、如何ニモ世界ノ大勢ニ順應セヌ話デアリマスカラ、甚ダ困ルト云フコトヲ豫算委員會ニ於テ申シマシラバ遞信大臣ハ、成程尤ナ話デアルカラ、其期限内ト雖モ改メルコトハ改メテ、色々施設スルト云フコトヲ言明サレテ吾々一同カラ贊成シタト斯ウ云フ次第デ、其内迫々局面モ展開シテ來マシテ、海運界ノ狀況ノ如キモ、大分見込ガ附イテ來タコトデアリマスカラ、定メテ遞信大臣ハ此事ニ就テ、當議會ニ何カ案ヲ御出シニナルト期待シテ居リマスガ、更ニ其事ハ無イ、遠洋航路トシテハ、南米、南洋線等ニ新タナル補助案ハ御出シニナッテゴザイマスケレドモ、其幹線タル所ノ歐羅巴トカ、亞米利加トカ、濠洲、斯ウ云フコトニ就テ、何等改善サレタ所ノ案ヲ御出シニナラヌト云フコトハ、私ノ甚ダ失望スル所デアリマス、唯ダ此實行ニ方リマシテ、歐羅巴ト亞米利加ノ「シャトル」線ダケハ、期限ヲ一箇年トシテアリマス、桑港ノ方ハ之ヲ二箇年ト致シテ居リマスガ、是ハドウ云フ譯デアルカ、其理由ガ承リタイ、モウ一ツ之ニ關シマシテ北米航路ハ、從來郵船會社ト商船會社ノ兩會社ガ連合シテ經營シテ居ッタモノデアルノヲ、此度ハ之ヲ郵船會社ノミニ任セルコトニシテ居リマスガ、是モ何カ相當ノ理由ノアルコトト考ヘル、私ノ承リマス所ニ依リマスレバ、是ハ實ハ商船會社ハ斷ッタ、最早北米航路ノ補助ハ必要ガ無イ、御斷リヲスルト云フコトデ、サウシテ已ムヲ得ズ政府ハ郵船會社ニ任セラレタ、商船會社ガ既ニ補助ナクシテヤレルモノデアルナラバ、郵船會社ハ無論ヤレル筈デアル、又歐羅巴航路ノ如キモサウデアル、果シテ今日此補助ヲ引續イテ必要トスルカドウデアルカ、濠洲航路モ其通リ、又桑港線ニ至リマシテモ、是迄通リノ補助ヲ必要トスルカドウカト云フコトハ餘程ノ疑問デアル、今私ガ遞信省ヨリ頂戴シタ書面ニ依ッテ、其成績ヲ申シマスルト、大正七年十月カラ同八年三月ニ至ル歐羅巴航路線ハ、僅カ二十六萬六千圓ヨリ損ヲシテ居ラヌ、之レノ航海補助金ガ二十萬八千圓、又大正八年四月ヨリ今年九月ニ至ル損失ハ三十五萬三千圓、補助金ガ三十二萬八千圓餘リ、大キナ損ハシテ居リマセヌ、相當ニ此内ニハ積金等モゴザイマスカラ、相當ノ利益モアラウト思フ、ソレカラ北米線ニ至リマシテハ郵船會社ノ北米線ハ七年ノ十月カヲ八年ノ三月ニ至ルマデ十三萬八千圓ノ利益、又八年四月ヨリ九月ニ至ルマデハ百十萬八千圓、商船會社ノ方ハドウデアルカト云ヘバモウ少シ利益ガアル、大正七年七月ヨリ十二月ニ至ルマデ五百六萬幾ラ、八年一月カラ同年六月ニ至ルマデハ三百五十九萬、斯ウ云ウ利益、是ナラ無論補助ナドハ御斷リヲスルコトハ當然ノ話デアル、桑港線、是ガ一番經營困難ナ線デゴザイマスケレドモ、是スラモ七年七月カラ十二月マデノ間ニ百六十四萬餘圓、八年一月カラ同年六月マデノ間ニ十七萬七千餘ノ損、南米航路ハ七年ノ七月カラ同年十二月ニ至ルマデ百七十九萬ノ利益、ソレニ又航海補金ガアル、八年一月ヨリ八年六月ニ至ルマデ九十萬幾ラ利益シタ、濠洲航路モ七年ノ十月カラ八年ノ三月ニ至ルマデ六十三萬餘圓ノ利益、又八年四月カラ同年九月ニ至ルマデ十二萬九千ノ利益ニナッテ居ル、斯樣ナ利益ヲ擧ゲツヽアル所ノ線路ニ向ッテ、矢張補助金ヲ下附セヌケレバナラヌト御認ニナッタノハ、ドウ云フ次第デアルカ、縱シ議會ニ於テ之ニ協贊ヲ表シテ、其豫算ガ成立ッテアルニシマシテモ、必要ガ無ケレバ削ッテ與ヘナイヤウニスレバソレデ宜イ、其等ノ詮議ハ無論アッタコトト思ヒマスガ、ドウ云フコトカラ矢張依然之ヲ與ヘルコトニナッタカ、ソンガ承リタイ、就キマシテハ是ハ前内閣アタリカラモ、此議論ハ唱ヘ居ルノデアリマスケ

レドモ、運賃ヲ制限スルコトハ貿易上ニ必要デアル、一方デ運賃ヲ制限シテ置キマシテ、一方ニ補助ヲ與ヘルト申スコトハ甚ダ分ラヌ事デアリマスガ、貿易上ドウシテモ運賃ヲ制限シテ居ルコトガ必要デアルト始終政府ハ說カレル、私共カラ見マスレバ、是ハ大ナル間違ッタ考デ航路ノ補助ハ卽チ其航路ガ當然ノ營業ヲ致シマシテ、成立ッコトガ出來ナイト云フコトニ依ッテ初メテ之ヲ與ヘルモノデ運賃ヲ安クサス爲メニ此補助ヲスルモノデナイト云フコトハ明白ナル事實デアル、列國共サウデアル、一方ニ運賃ヲ制限シテ、片一方カラ補助ヲ與ヘルト云フコトハ無イ、若シ運賃ニ制限ガ必要デ、航路ヲ補助セヌケレバナラヌト申セバ印度ノ航路ノ如キハ最モ必要デアル、又巴奈馬經由ノ紐育航路ノ如キモ必要デアル、是等ハ制限ヲ荷主ト船主トノ間ニ加ヘテ居リマセヌ、制限ヲ加ヘテ居リマセヌガ、是等ハ自然ト追付クモノデアルカラ、左樣ナ干涉ハ宜シクナイ、或ハ戰ノ中ニ於キマシテ多少左樣ナ必要モアッタカ知ラヌガ、今日ハ全然左樣ナコトハアリマセヌ、殊ニ又外國ニ參ル運賃ニ就テハ、汽船同盟ノ間ニ種々協定ヲサレテ何レノ當業者モ之ヲ守ランケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスカラ、日本政府ニ於テ濫リニ之ニ制限ヲ加ヘマスト、列國當業者トノ間ノ協調ヲ破リ、日本ノ船ハ此仲間ニ入レテヤリタイケレドモ、彼レガ來ルト政府ノ命令ダトカ何ダトカ言ウテ運賃ノ事ヲ何トカ言フカラ御免蒙ル、斯ウ云フコトヲ始終申サレル、甚ダ宜シクナイ、詰マリ海運ノ發達ニモ影響ヲ及ス、斯樣ナ事ニナッテ、現政府ノ方針トサル、、所ノ列國ト協調ヲ保ツト云フ上ニ於テモ、大ナル障碍ノアルコト、考ヘマス、斯樣ナ考ヲ以テ補助ヲサレルト云フコトハ、私ハ良クアルマイト思フ、併シ現政府ハ尙ホ此方針ヲ御執リニナル積リデアルカ、如何デアルカ伺ヒタイ、御承知ノ通リ受命會社ハ戰時ノ影響ヲ受ケマシテ多額ノ利得ヲシ、五割十割ノ配當ヲシテ居ル今日デアリマス、航路自身カラ見テ、多少損ノ行ク所デモ今日ハ忍ンデ强テ補助ナドヲ貰ハナクトモヤルト云フコトハ明カナ話デアル、一航海二萬、三萬五萬ノ金ハ、有ッテモ無クテモ同ジ事デアル、ケレドモソレヲ積リマスレバ百萬、二百萬、三百萬ノ金ニナッテ、國家ノ爲メニハ大ナル財源デアル、ヤラナクテモ宜イ所ニ之ヲヤルト云フコトハ、甚ダ譯ノ分ラヌ話デアル、是等ニ就テハ

遞信大臣ハドウ云フヤウナ吟味ヲナサルカ、一面ニ於テ郵便航送料ト云フモノガアッテ、郵便航送料ニハ大分拂ハナケレバナラヌ、若シ補助命令ヲ廢メレバ、郵便ハ無料デ行クモノデナイカラ、大分航送料ヲ拂ハナケレバナラヌ、結局之ヲ差引スルト、助成金ヲヤッテモ餘リ損ニナラヌト云フコトヲ、今日豫算委員會デ大臣ガ言ハレマシタケレドモ、是ハ大分見當ガ違フ、郵便航送料ハ、鐵道船舶郵便規則ト云フモノガアッテ、之ニ基イテ之ヲ支拂フベキモノデアル、然ルニ金ヲヤッテ航送料ヲ差引クト、結局釣錢ガ取レテ利益ダカラ、補助金ハヤル方ガ宜イト云フノハ、寔ニ譯ノ分ラヌ事ト言ハナケレバナラヌ、仍テ私ハ卽チ此遠洋航路ニ對スル政府ノ補助方針ヲ承ラントスル者デアル、次ニハ海員養成ノ問題五年ニ亙リマシタ所ノ世界ノ大戰亂ノ爲メニ、我國ノ受ケマシタ所ノ利害ノ影響ハ非常ニ多イ、其中最モ好影響ヲ受ケタト認メラレマスルモノハ、卽チ海運業ト造船業ノ發達デアリマス、戰ノ前ニハ僅カ百八十萬噸シカゴザイマセナンダ所ノ汽船ガ、昨年ハ二百九十萬噸、殆ド三百萬噸ニ垂ントシテ居ル、又大正三年度ノ造船高ハ僅九萬噸弱ニ過キマセナンダモノガ、昨年ハ六十萬噸ヲ造ルコトガ易々タル位ノ勢ニナッテ居ル、寔ニ結構デアル、其爲メニ海運業ニ依ッテ俄ニ產ヲ造ッタ人モ澤山出來、又運賃雇船料ヲ海外カラ取ッテ來テ、日本ノ正貨ガ增スト云フ利益モ見、又今日デハ世界ノ東西到ル處ノ港灣ニ、日本ノ旗ノ飜ッテ居ラヌ所ハ無イト云フヤウナ、非常ナル盛況ニ立至ッテ居ルコトハ、國家ノ爲メ甚ダ慶ブベキ事デゴザイマス、併シ船ト云フモノハ獨リデ動クモノデハナイ矢張之ヲ操縱シテ行ク所ノ人間ガナケレバナラヌ、卽チ其爲メニハ船舶職員法ト云フモノガゴザイマシテ、乘ッテ行ク所ノ人間ガ定メラレテ居ル、船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長、一等機關士、是等ガ法定ノ人間ニナッテ居ル、併シ實際ハ中〻此八人位デハアリマセヌ、少ナク其八人乃至十人ノ人間ガ必要ニナッテ居ル、而シテ其等ノ乘組員ハチヤント乘組員トシテノ資格ヲ具ヘナケレバナラヌ、然ラバ是等ノ資格ハドウシテ得ラレルカト云フト、東京商船學校ノ卒業生、其他ハ皆試驗ヲ受ケテ之ニ合格シタ者デナケレバナラヌ、先ヅ學校ヲ卒業致シマシテ、船長トナルマデニハ十年位ノ年限ハ掛ル、其他機關長モ同ジ事デ、一等運轉士等モ皆相當ノ學問ト經驗ガ無ケレ

バ出來ヌヤウナ譯デアル、是ハ容易ニ人ガ造ラレルモノデハナイ、故ニ船ハ增シマシテモ、人ノ方ガ增サヌモノデアリマスカラ、今日ハ海員ノ不足ヲ感ジテ居ルコトガ夥シイノデアリマス、機關長ノ如キハ、一日行キマスト日給六十圓以上デアリマス、月給デヤアリマセヌヨ、日給ガ六十圓トカ七十圓トカ云フ高額ニナッテ居ル、一日デソレダケノ高給ヲ取ル、ソレデモ尙且ツ得難イ、又地方ノ乙種商船學校ト申シマス、極ク下級ナ商船學校ヲ卒業シタ者デモ、初メテ出テモ百二十圓位ノ給料ニ有付ク、斯樣ニ引張合ノ形ニナッテ居ッテ、ドノ船主モ海員ヲ得ルコトニ就テ非常ニ苦心シテ居ル、其結果ハドウ云フ事ニナルカト云ヒマスルト、經驗カ不十分デ、技術ノ未熟ナ者デモ、矢張免狀ヲ持ッテ居レバ之ヲ其通リノ職員ニ任用スル、故ニ海員ノ素質ト云フモノハ自ラ下ッテ參リマシテ、其爲メニ船ノ安危ニマデ影響ヲ及スコトノ少カラヌモノガアル、又モウ一ツハ各船主カラ色〻奪合ヲ致シマスル爲メニ、自然ニ給料モ上ッテ來、又人ノ心モ定ラズシテ、自然色〻面白カラヌ所ノ奢侈ノ風モ生ジ、又船主トノ間ニ紛議ヲ生ズルト云フヤウナ、不都合ヲ釀シマス、下級船員ノ如キニ至ッテハ、遂ニ其爲メニ色〻ノ險惡ナ思想ヲ懷クト云フヤウナ虞ガゴザイマス、又モウ一ツハ金ガ貯リマスレバ、何分斯ウ云フヤウナ危險ナ仕事ハ成ルベク避ケタイト申シテ去ル者ガ多ウゴザイマスカラ、自然海員ノ數モ減スル、斯ウ云フヤウナ事デ、中〻海員ノ充實ト申スコトハ六ケシイ事ニナッテ居リマス、我國ニハ之ニ對シテ如何ナル機關ガアルカト申シマスレバ寔ニ貧弱ナモノデ、遞信省ノ管轄ニ屬シテ居ル東京商船學校、是ガ一ツゴザイマス、其外ニハ道廳デ立テ、居ルモノトカ、府縣デ立テテ居ルモノトカ、申スモノカ、僅カ十カ、十一アルカモ知レマセヌガ、其外ニ此間川崎芳太郎君カラ政府ニ寄附サレマシタ、一ツノ商船學校ガアルト云フ位デアル年々出テ來マス所ノ卒業生モ極メテ少イ、本年ノ豫算ヲ聞キマスト、僅カニ二百八十人カ三百人ヨリゴザイマセヌ、海軍ノ方カラ來ル人ヲ合セマシテモ、四百七十人カ五百人ニシカナリマセヌ、ソレニ對シテ入用ノ人間ハ幾ラカト申シマスレバ、少クトモ千八九百人ハ要リマス、百五六十艘ノ船ガ殖エテ來マスカラ、ドウシテモソレダケノ人ガ必要ニナッテ來ル、サウスルトドウシテモ千三四百人ノ不足ヲ生ズル、斯ウ云フヤウナ有樣ニナッテ居ル、之ヲ何トカ致

シマセヌケレバ、大ニ海運界ノ發達ヲ害スルト云フヤウナ次第デアリマス、然ルニ是迄ドウ云フ事ヲシタト申シマスレバ、或ハ船舶ノ職員法ノ施行細則ヲ直シ、又ハ船舶職員試驗規程ニ改正ヲ加ヘ、下級海員ノ免狀所有者ヲ以テ上級海員ニ代用スルノ制ヲ定メ海員試驗法ヲ簡易ニシ、併セテ免狀授與ノ資格ヲ引下ゲルト云フヤウナ、姑息ナ事ヲ致シテ居ル、是デ以テドウカ斯ウカ間ニ合フヤウニハ致シテ居リマスケレドモ、是ハ別ニ人ガ殖エタノデハナイ、資格ヲ得ルニ容易ナラシメン爲メノ方法デ、詰マリ資格素質ヲ下ゲタノデアル、人ハ殖エテ居ラヌ、御醫者サンガ少イカラ看護婦ノ上リニ醫者ノ免狀ヲヤッタ、斯ウ云フヤウナ事ニ過ギヌ、是亦今日ノ狀況ト致シマシテハ已ムヲ得ヌト致シマシテモ、其結果ハ大ニ恐ルベキ事デアルト思フ、又此敎育上ノ事ニ就テモ甚ダ統一ヲ缺イテ思ル、東京商船學校ハ遞信省ガ之ヲ管轄シテ居ッテ、其地方ノ商船學校ハ文部省ニ於テ管轄シ居ル、此間モ川崎男爵カラ寄附サレタ所ノ學校ノ管轄ニ於テ、遞信省ト文部省トノ間ニ爭ガ起テ、ドチラモ御斷リシタイト云フヤウナ事デ、ヤット終リニ文部省ガ之ヲ引受ケタト云フコトヲ聞ク、地方ノ商船學校ハ文部省ニ於テ管轄シ、一番高等ノ東京商船學校ハ遞信省ガ之ヲ管轄シ、海員ノ免狀ハ遞信省デ出スト云フヤウナ、工合デ甚ダ不統一デアル、文部省デハ海ノ事不十分デアル、ソレデ遞信省カラ技師一人ヲ借リテ來テ監督サス、斯ウ云フヤウナ事ニシテ居リマスガ、ソレデハ到底海員養成ノ目的ヲ達スルト申スコトハ六ケシイ、海員ハ私ガ申スコトモナク、國家一朝事有ル秋ニハ洵ニ大切ナモノデゴザイマシテ、平生カラ其心ヲ以テ之ヲ養成シナケレバナラヌヤウナ必要ナモノデアル、何故政府ニ於テハ速ニ養成スル所ノ機關ヲ御作リニナラヌカ、昨年文部大臣ハ幾多ノ高等學校、專門學校等ヲ御作リニナル案ヲ出シテ、ソロ〳〵著々實行サレテ居リマス、獨リ海員問題、目下急ヲ訴ヘル海員問題ヲ疎カニサレテ居ルノハ其意ヲ得ヌ、航海補助費ノ如キ要ラヌヤウナ所ヘ金ヲヤッテ、而カモ一ツノ商船學校ヲ加ヘマシテモ、三四十萬圓ノ維持費ガアレバ出來ル、何故此方ハ御粗末デアルカ、モウ少シ海員ノ養成ニ御努メニナラヌカ、其趣意ノ在ル所ヲ伺ヒタイ、又下級海員ニ至リマシテモ一向養成ニ御努メニナッテ居リマセヌ、僅カ共濟會ニ三萬圓ノ補助ヲ與ヘテ居ルニ過ギナイ、是モ今日ニ至リマシテハ極メ

テ不十分デアルカラ、大ニ御努メニナラナケレバナラヌト思フ、其次ニ海事審判ノ點海事審判ト申シマスレバ海員ノ技術ヲ審議致シマス裁判所デアル、簡單ニハ參リマセヌ、一通リ事情ヲ申サナケレバ分リマセヌ、船ガ增シマスレバ自ラ沈沒ヲ致シマス、或ハ乘揚ゲタリ衝突ヲ致シマス、當然事件ガ殖エテ參リマス、殖エテ參リマスレバ、此事件ハ之ヲ海事審判ニ懸ケテ、其乘組員ノシタ事ガ、果シテ善イカ惡イカト云フコトヲ吟味スルコトニナッテ居ル、此機關ガ今日甚ダ不十分、不十分ナ筈デス、卽チ二十二三年前ニ拵ヘマシタ所ノ規定デアッテ、僅ニ船ガ五十萬カ六十萬ホカ無イ所ノ事ヲ基礎ト致シマシテ、此制ハ設ケラレタノデアルカラ、甚ダ不十分、殆ド專門ニ之ヲ御遣リニナッテ居ル方ハ無イ、多クハ遞信省ノ高等官トカ、管理局長抔ガ兼務致シマシテ、之ヲヤラレテ居ル、故ニ其事務ガ自ラ澁滯スルコトハ免レナイ、又近頃ハ同ジヤウナ人ガ、前申シマシタ所ノ海員ノ試驗等ニ從事致シ、其試驗ヲ受ケル者ガ追〻增シテ參リマスト、中〻忙シクテ容易ニ審判ニ手ガ廻ラヌ、斯ウ云フコトモ承ッテ居リマス、是等ハ大ニ改正ヲサレテ、サウシテ今日既ニ三百萬噸モアリ、追〻四百萬噸、五百萬噸ニ增サントスル所ノ、海運界ニ順應スル所ノ制度ヲ御設ケニナルベキモノデアルト思フ、之ニ對スル遞信省ノ御意見ハ如何デアルカ、ソレガ承リタイ是デ私ノ質問ハ終リマシタ

之ニ對シテハ解散當日迄何等答辯ニ接セサリキ

五　物價調節ニ關スル質問

物價調節策ノ一方法トシテ現內閣ハ輸出禁止ノ方法ヲ採レルモ歐洲ニ於ケル物資缺乏ノ今日斯ノ如キ政策ヲ採ルハ國家經濟政策上其ノ宜シキヲ得タルモノト謂フヲ得ス政府ハ通貨ヲ資本化シ以テ一方ニ於テ物價ヲ調節スルト同時ニ他方ニ於テ輸出奬勵ノ途ヲ講スルノ策ナキヤ敢テ政府ノ所見ヲ問フ

九年一月三十一日有森新吉君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月十七日(二月三日延期)左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ質問ハ、物價調節ニ關スル質問デアリマス、是ハ大藏大臣ガ此議會デ色〻御話ガアッテ、其中ニ或ハ物價ノ高イノハ、世界ノ大勢デアルト云フコトヲ御話ガアッタリ、或ハ金利ヲ上グルト云フコトハ、工業ノ進步ノ妨デアル、或ハ紙幣ガ多イ、紙幣ガ多イガ、ソンナラドノ位多イカ之ヲ如何ニシタラ宜イヂヤラウカ、其案ガアッタナラバ、示シテ貰ヒタイト云フヤウナ言葉ナンカモ度々聽イタヤウニ思フ、ソレデ私ハ一ノ意見ヲ有シテ居ルノデアッテ、其意見ヲ此處デ發表シテ、サウシテ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ハウト思フノデアル、大藏大臣ハ御出席モアリマセヌガ、屬官ノ御方デモ宜シイカラ、十分ニ聽イテ置イテ頂戴シテ、私ノ言フ所ガ眞理デアルカドウデアルカト云フコトヲ、能ク聽イテ置イテ頂戴シタイ、ソレデ此質問書ヲ出シタノハ、斯ウ云ウ新聞ガアルノデス、政府ハ輸出ノ一部分ヲ加減シテ物價ノ調節ヲスルト云フ事柄モアッタ、ソレデ私ハ益〻此質問ノ重要ナルコトヲ知ッテ之ヲ提出シタノデアル、歐洲ノ戰亂ハ數年繼續シマシテ、數千萬ノ壯丁ト云フモノハ、此人類ノ生活ニ必要ナル物質ノ爲メニ働クニ非ズシテ、唯タ殺戮破壞ヲ事トシテ居ッタモノデアル、ソレデアルカラシテ、歐羅巴ノ天地ニハ此物質ガ缺乏シテ居ル、サウシテ人民ガ塗炭ニ苦ンデ居ルト云フヤウナ狀態デアルデ、此際我國ハ此戰亂ノ惡影響ヲ被ッテ居ナイノデアルカラシテ、充分ニ此物資ヲ供給シテ、サウシテ彼ノ塗炭ニ苦シンデ居ル所ノ者ヲ救濟セニヤナラヌ、ソレデアルカラシテ、此際ニ輸出ヲ禁止スルナンカト云フヤウナ、ソンナ退嬰主義ノ事ヲシテハナラナイ、日本國ハ益〻輸出ヲ奬勵シテ、宜シク世界ノ缺乏シタ所ノ物品ト云フモノヲ補ハナケレバナラヌノデアル、デ物價ヲ調節スル爲メニ輸出ヲ禁止スルト云フヤウナ、日本ノ

物品ヲ外ニ出スノヲ禁ズルヤウナ事ハ勿論惡イノデアルデ、物貨ノ輸出ヲ禁止スルト云フ必要ト云フモノハ少シモ無イ、今日本ノ物價ノ高イノハ何デアルカ、是ハ原因ガアル、啻ニ日本ノ物價ガ高イノミナラズ、世界ニ於テ高イト云フノハ何デアルカト云ッタナラバ、前ニ言ッタヤウナ風ニ其物ヲ拵ヘズシテ、戰爭バカリシテ居ッタノデアルカラシテ物ガ無イ、缺乏シテ、此世界ノ人間ノ生活ニ重要ナル所ノ物資ガ缺乏シテ居ルト云フコトガ、先ヅ是ガ大ナル原因デアル、其外ニモウ一ツ大ナル原因ガアル、ソレハ何デアルカト云ッタナラバ、此戰爭ノ爲メニ金ヲ費シテ居ルコトガ非常ニ澤山デアル、其金ガ何程デアルカト云ッタナラバ四千億萬圓ノ金ヲ費シテ居ル、其四千億萬圓ノ金ハ何處カラ得テ居ルカト云フト、其九割ト云フモノハ公債――紙幣ト云フモノヲ發行シタノデアル、各國ノ政府ガ此非常ナ戰費ヲ供給スル爲メニ、實際ノ金ヲ集メルコトハ出來ズシテ、サウシテ紙幣ト云フモノヲ發行シタノデアル、何レノ國モ紙幣ヲ發行シタ、佛蘭西、英吉利、ソレカラ亞米利加ノ如キスラモ紙幣ヲ發行シタ、デ亞米利加ガ其戰費ノ大ナル部分ノタッタ二割ホカハ自國ノ有金ヲ使ッテ居ナイ、其他ハ皆ナ紙幣ヲ發行シテ居ル、其紙幣ト云フモノガ四千六百億ト云フ紙幣ガ、此世界ニドン〳〵ト出タノデアル、ソレハ生產上ノ已ムヲ得ザル方法カラ出來タノデナクシテ、偶然ニ是ダケノ通貨ト云フモノヲ膨脹サシタノデアル、ソレデアルカラ自然ニ物價ト云フモノハ、一方ニハ物品ガ減少シ、其一方ニハ紙幣ガドント出タカラ、世界ノ物價ヲマルデ高クシタノデアル、ソレデ日本ハドウデアルカト云ッタナラバ、日本ハ此戰亂ニ與ッタノデナイ、日本ハ此戰亂ノ爲メニ紙幣ト云フモノヲ發行スル必要ハ無カッタノデアル、併ナガラ偶然ノ理由カラシテ、日本モ紙幣ヲ增加シテ居ルノデアル、此偶然ノ結果紙幣ヲ增加シタト云フコトハ、ドウ云フコトカト云ッタナラバ、海外ニ在ル正貨準備、日本ノ貨幣ト云フモノハ外國ニ在ル、デ此事ニ就テハ私ハ憲政會ノ若槻藏相ノ時分ニ、既ニ豫算會デ聽イタ、海外ニ在ル金ヲドウスルカト云フコトヲ聽イタ、不幸ニシテ代々ノ大藏大臣ガ此點ニ就テノ注意ヲ缺イテ居ル、此海外ニ在ル所ノ正貨ナルモノハ、昔ハ矢張日本銀行ノ正貨準備ノ中ニ入ッテ居ッタノデアル、是ハ日本ノ貿易ト云フモノガ何方カト云ッタナラバ始終輸入超過デアッテ、金ヲ外國ニ

拂ハネバナラヌト云フヤウナ狀態ニナッテ居タカラ、始終外國ニ在ル所ノ金ガ缺乏スル、ソレダカラ日本銀行ガ有シテ居ル金ハ決シテ增加シナイ、所ガ戰爭ガ始ッテカラドウデアルカト云ッタナラバ、其形勢ト云フモノガ全ク違ッテ、卽チ外國カラ金ガ入ルヤウニナッテ來タノデアルカラ此日本ヘスッカリ入ッタ其金ヲ正貨準備トシテ紙幣ヲ發行スルノハ宜シイケレドモ、入ラヌ所ノ金ヲ正貨準備トスル、此點ニ就テ氣ガ付カナッカタ、若シ初メニ外國カラ金ヲ輸出スルコトヲ禁ジタ時分ニ、卽チ海外ニ在ル所ノ金ハ日本ヘ持ッテ來ルコトガ出來ナイ、日本ノ金デアリナガラ日本ヘ持ッテ來ルコトガ出來ナイ以上ハ、之ヲ正貨準備ノ中ニ入レテハナラヌト云フコトニ氣ガ付カナッカタノデアル、日本ニハ兌換劵條例ト云フモノガアッテ、此兌換劵條例ニ據ッテ居リサヘスレバ、決シテ通貨ヲ增發スルコトハ無イ、日本ノ兌換劵條例ト云フモノハ、餘程考ヘテ拵ヘテアルモノデアッテ、日本ノ兌換劵條例ヲ其通リ遵奉シテ居ッタナラバ、日本ニ於テ決シテ紙幣ガ增加スル筈ハナイ、然ルニ外國ニ在ル所ノ正貨ヲ準備トシテ紙幣ヲ發行シテ居ル、今一月三十一日現在ノ外國ニ在ル正貨ヲ見ルト十三億、日本內地ニ在ルモノガ六億九千萬、其總計二十億、其內政府ノ有シテ居ルモノガ十億デ、日本銀行ガ九億八千ト云フモノヲ持ッテ居ル、ソレデ日本ノ紙幣ガドノ位發行シテアルカト云ヘバ、十二億九千萬ト云フモノガ、此二月十六日ノ日本銀行ノ帳尻デアル、其中ニハ正貨準備ト云フモノガ九億四千萬、保證準備ガ一億二千、制限外發行ガ二億三千、斯ウ云フヤウニナッテ居ル、スルト日本銀行ハ正貨準備トシテ九億四千ノ金ヲ發行シテ居ル、其實ハ自身ノ庫ノ內ニ有ル所ノ金ハ何程アルカト云ッタナラバ、前ニ御話シタ如ク、六億九千ホカ日本ニハ正金ガ無イ、ソレデアルカラ日本銀行ハ六億九千ヲ內ニ持ッテ居ッテ、其跡ノモノハ外國ニ在ル金ヲ引當トシテ居ル、兌換劵條例ハドウ云フモノデアルト云ヘバ、兌換劵ヲ持ッテ行タナラバ、直樣金ヲ拂フト云フコトガ定メテアル、兌換劵ノ準備金ナルモノハ始終庫ノ內ニナケレバナラヌ、何トナレバ引換ニ行タ時分ニハ、直樣ソレダケヲ出サナケレバナラヌ、兌換劵條例ノ中ニ、支店ニ取リニ行タ所ガ支店ガ拂ヘナイ、サウシタラ本店カラ取寄セルコトヲ許ス、本店カラ取寄セルダケノ時間ヲ兌換劵交換者ニ猶豫ヲ受ケルノガ相當デアル、斯ウ云フ位ノモノデアル、

兌換劵ノ準備ト云フモノハ、ドウシテモ其庫中ニナケレバナラヌ、ソレガ違ク海外ニ在ッテ、而モ船ガ缺乏シテ、且又外國ニ於テ輸出ヲ禁ジテ居ル、金ヲ以テ此正貨準備ニシテ居ルト云フコトガ非常ナ害デアル、日本ノ紙幣增加ハ、英國ノ如キ、佛蘭西ノ如キ、或ハ露西亞、獨逸ノ如キ、自身ノ國ガ財政困難デアルカラ紙幣ヲ增發シタノデナクシテ、日本ニ於テハ斯ウ云フ一時ノ大藏大臣ノ解釋ノ間違カラ紙幣ヲ增發シテ、二億五千萬ト云フ大ナル高ヲ發行シテ居ルノデアル、ソレデアルカラ先達此壇上デ高木君ガ、日本銀行ハ脫稅ヲ圖ッテ居ルト云フコトヲ言ッタノハ、卽チ其事デアル、日本銀行ガ脫稅ヲシテ居ルト云ッコトハ、形ニ於テハ脫稅ヲシテ居ナイケレドモ、ソレヲ大藏大臣ガ監督ヲシテ居ッテ許シテ居ルカラ、形ニ於テハ脫稅デナイケレドモ、其實ハ兌換條例ニ依ッタナラバ、制限外トナルベキ所ノモノヲ二億五千萬圓發行シテ居ル、二億五千萬發行シタ以上ハ、制限外ト云フモノハ年五分ノ利息ヲ拂ハナケレバナラヌ、ソレデアルカラ、千二百五十萬圓ノ稅金ヲ日本銀行ガ拂ハネバナラヌノデアル、ソレヲ拂ハズシテ濟マシテ居ル、斯ウ云フヤウナ狀態デ日本ノ紙幣ハ餘計出テ居ルカラ、是ハドウシテモ減少シナケレバナラヌ、此減少ノ方法トシテ私ハ之ヲドウスルカト云フノニハ、以後ハ日本銀行ニ外國ニ在ル正貨ヲ正貨準備ニサセヌト云フコトヲ大藏大臣ガ命令ヲ下ス、ソレト同時ニ今迄發行シテ居ル所ノ二億五千萬ノ金ハ、皆ナ之ヲ制限外ノ發行ニ移スノデアル、斯ウシタナラバ、日本銀行ノ負擔ガ多クナルケレドモ、併ナガラ日本ノ經濟界ニ於テ何等ノ痛痒モ感ジナク、唯ダ一ッノ方ノ形ガ變ッタダケデアル、ソレナラ今迄日本銀行ガ許サレテ居ッタモノヲ、俄ニ制限外ノ發行ニ移シタ時分ニハ、日本銀行ノ苦痛ト云フモノハ至大ナモノデアルガ、私ハ此苦痛ヲ解ク所ノ策ガ二ツアル、ソレハドウスルカト云ッタナラバ、私ノ考デハ、此際日本政府ガ有シテ居ル所ノ各工場ト云フモノヲ、民間ニ拂下ゲルガ一ッデアラウト思フ、日本政府ノ持ッテ居ルモノト云ッテモ澤山アル、或ハ鐵道モアリ色ミナモノガアルケレドモ、併ナガラ此鐵道ノ如キモノハ、勿論「モノポリー」ノ性質ヲ持ッテ居ルモノデアルカラ、是ハ政府ガ有スルノガ私ハ適當ト思フ、此頃ノ所謂社會政策ト云フモノカラ考ヘテ見テモ、斯ウ云ウヤウナモノハ、是ハ日本政府ガ有ッテ居ルガ宜カラウト思フガ、サリナガラ

外ノ會社デ出來得ル所ノモノヲ澤山日本政府ガ有ッテ居ル、ソレハ海軍ニ於テハ各工廠ヲ有ッテ居ル、ソレカラ陸軍ニ於テハ兵器ヲ拵ヘル所ノモノヲ有ッテ居ル、或ハ製鐵所ヲ有ッテ居ル、或ハ洋服ヲ拵ヘル所ノモノ、斯ウ云フヤウナモノハ、民間デ斯ウ云フモノハ出來ルノデアル、此金額ガドノ位ニナルカト計算シテ見ルト、私ハ賣ッテモ宜イト云フモノヲ、政府ガ出シテ居ル豫算案ノ參考書カラ引拔イテ見ルト、十四億何千萬圓ト云フ金額ガアル、併ナガラ此十四億ノ金額ト云フモノハ、是ハ今日ノ如ク紙幣ノ安クナラヌ前ノ計算デアルカラシテ、今日ノ價ニ於テハ、此十四億ナルモノハ四五億ノ價ニナルモノト思フ、ソレデアルカラ私ハ之ヲ漸次ニ賣捌ク、賣捌クケレドモ、政府ガ一ノ製作所ヲ賣捌クノニ、彼方此方ノ人ヲ寄セ集メテ評議スルコトヲシテ居ルガ、私ノ考ハサウデナイ、一ッノ株式組織ニシテシマッテ、其株劵ヲ公債證書ヲ賣ルヤウナ方法ヲ以テ賣ッテシマウ、或ハ其内ノ一部分ハ政府ノ監督スル必要カラシテ、或ハ幾部分ト云フモノヲ政府ガ有シテ居ルト云フ——其株劵ノ内ノ一部分ヲ有スルコトモ拵ヘテモ宜イ、或ハ今迄從事シテ居ッタ人ト云フ者モ、矢張働カサセルヤウナ方法ヲ設ケテモ宜シイ、サウ云フヤウナ兎モ角出來得ル方法ヲ講ズルト云フコトハ譯無イ話、今迄政府デ監督ヲヤッタモノヲ民間デ株式會社ヲ拵ヘルコトモ、敢テ六ケシイ話デアルマイト思フ、ヤラウト云フ考ガアレバ、我々ハ譯ナク出來ルモノト思ッテ居ル、サウ云フ風ニシテ日本ノ國民ニ此政府所有ノ物ヲ賣付ケル、賣付ケタナラバ是ハ紙幣ヲ以テ拂ウニ違ヒナイ、其紙幣ヲ政府ガ受取ッタナラバ之ヲ日本銀行ニ渡シテ、サウシテ日本銀行ヲシテ償却サスト同時ニ、日本銀行ガ海外ヘ有シテ居ル所ノ正貨ヲ之ヲ政府ガ所有スル、卽チ私ノ案ハ政府ガ今有ッテ居ル所ノ工場ト、ソレカラ日本銀行ガ有シテ居ル所ノ海外ニ於ケル正金ト交換サス、之ヲ一口ニ言ヘバ交換サス、サウシタナラバ此日本ニ溢レテ居ル所ノ通貨ト云フモノモ、非常ニ減少シテ行クコトガ出來ルト思フ、ソレカラ又政府ノ財產ハ先ヅ今言ッタ所ノ限リノアルモノデアルガ、此海外ニ日本銀行ノ正金ノ集マルト云フコトハ、今日ノ日本ノ貿易ノ狀勢ヲ以テ見タナラバ漸次又集マル、ソレハドウシテ集マルカト言ッタナラバ、所謂此頃ハ輸出ト云フモノガ非常ニ多イ、卽チ日本カラ品物ヲ外國ニ澤山出ス、外國ニ出シテサ

ウシテ取ル其金――其金ガ取ルコトガ六ケシイ、英吉利デアラウガ、佛蘭西デアラウガ、何處デアラウガ、皆ナ外國ノ品物ト云フモノヲ買ヒタイノハ山〻デアルガ、拂フ所ノ金ガ無イト云フヤウナ今日ニ於テハ歐羅巴ノ形勢デアル、ソレデアルカラ爲替ガドウシテモ六ケシクナル、爲替デ取ルコトガ出來ナイヤウナ狀態ニナル、サウスルト此輸出スル所ノ商賣人ニ對シテハ、ドウシテモ日本銀行ガ爲替ヲ以テ金ヲ貸シテヤラナケレバナラヌ、輸出シタ所ノ物品ノ拂ト云フモノハ、日本銀行ガ拂ッテヤル、一面ニハソレダケ紙幣ト云フモノヲ增加シナケレバナラヌ、ソレト同時ニ其爲替手形ヲ以テ倫敦ナラ倫敦ニ送ッテ、サウシテ向フデ金ヲ取ッテ其金ヲコチラニ持ッテ來ルコトガ出來ズシテ、矢張英蘭銀行ニ預ケテ置ク、サウ云フヤウナ事ヲ繰返シ繰返シテ、矢張日本ガ外國カラ直接ニ金ヲ取ルコトガ出來ヌカラシテ、取ルベキ金ト云フモノヲ倫敦ナラ倫敦ニ持ッテ行ッテ集メテ置クト云フ所ノ事情ト云フモノハ、ドウシテモ生ジテ來ル、ソレデアルカラサウ云フ場合ニハドウスルカト云ッタナラバ、私ノ考ハ此割引シテヤル所ノ貨幣ト云フモノハ、成ルベクタケ大キナ貨幣ヲ以テシテヤル小サイ、貨幣ト云フモノト大キナ貨幣ト云フモノハ相違ガアル、ソレハドウ云フ所ニアルカト云フト、小サイモノヲ日本銀行ガ發行スルト、之ヲ回收スルコトハ非常ニ六ケシイ、併ナガラ百圓以上ノ紙幣ト云フモノヲ發行シタ時分ニハ、之ヲ回收スルコトガ非常ニ易イ、ソコデ日本銀行ヲシテドウシテモ金利ト云フモノヲ引上ゲサセル、爲替ヲ切ルノデアッテモ、或ハ金ヲ貸スノデアッテモ、日本銀行ガ金利ヲ引上ゲル、サウシテ金利ヲ引上ゲテ置イテ、一方デハ所得制限外發行ヲスル必要ガアッテ發行スルノデアルカラ、其爲メニ稅ヲ納メル、其稅ヲ納メル其稅額ト云フモノヲ、一方デ取ラナケレバナラヌカラ、是ハ商人ノ方カラシテ、金利ヲ引上ゲテサウシテ其金ヲ取ル、斯ウ云フ方法ニシテ、ソレヲ度〻繰返シテ行ク、サウスルトドウナルカト云フト、矢張月〻日本ノ紙幣ト云フモノガ多クナッテ、或ハ海外ニ在ル金ト云フモノガ多クナルト云フ結果ガ起ル、是ニハ日本政府ナリ或ハ國民ナリガ、又貿易ヲ盛ニスルト云フヤウナ方針ヲ執ッテ、或ハ機械ヲ輸入スルトカ、或ハ譬ヘテ言ッタナラバ、外國ニ非常ナ發明ガアル、或ハ空中ノ窒素ヲ採ッテ、サウシテ肥料ニ拵ヘルト云フヤウナ大發明ガアル、是ハ獨逸人ガ發明シタ、其獨逸人ノ發明ハ非常ナ澤山ノ金ヲ出サナケレバ、買取ルコトガ出來ナイヤウナ事柄ガ澤山アルニ相違ナイ、サウ云フモノニ向ッテ海外ニ集ッタ所ノ金ヲ、日本政府ナリ、若クハ其日本ノ商人ナリ、ソレガサウ云フヤウナ風ニ外國ニ在ル所ノ金ヲ又用キルト云フヤウナ方針ヲ執ッテ行ク、サウシテ成ルベクタケ此流通スル所ノ紙幣ト云フモノヲ減少サス、流通スル所ノ紙幣ト云フモノガ、今迄ノ如ク日本銀行ニ無利息ナモノヲ二億五千萬圓ト云フモノヲ發行スルト云フコトハ、日本銀行ニ於テ非常ニ利益デアルカラシテ發行スルノデアルケレドモ、若シヤ之ニ年五分ノ利ガ付クト云ッタ時分ニハ、日本銀行ト云フモノハサウ澤山ニ發行ハシナイ、始終ソレニ對シテ注意ヲ拂ヒ、成ルベクタケ外ヘ持ッテ行ッテ、紙幣ヲ發行サセヌト云フ方針ヲ執ルニ違ヒ無イ、是ハ自然必要デアル、ソレデ私ノ考ニハ紙幣ヲ一遍出ス、日本銀行ガ紙幣ヲ出ス、其紙幣ト云フモノガ、資本ニ化ス、日本ノ國民ガ產業ヲスル所ノ資本ニ化スルト云フヤウナ方針ヲ始終執ルノデアル、大藏大臣ナリ、ソレカラ農商務大臣ガ注意シテ居ッテ、日本銀行ヲシテ一方デハ紙幣ヲ發行スル、卽チ制限外ノ紙幣ヲ發行スル、發行スルト同時ニソレヲ收縮スル所ノ方針ト云フモノヲ日本銀行自ラシテ執ラシメ、且ツ政府ナリガ奬勵シテ、卽チ外國ニ在ル所ノ日本銀行ノ金ヲ利用スベク、此日本ノ內地ニ溢レテ居ル紙幣ヲ、又日本銀行ニ持ッテ行ッテ資本化シテ、資本ニシテシマウト云フ風ニ日本銀行ガ紙幣ヲ發行スル、其發行シタ紙幣ト云フモノハ資本ニナル、卽チ之ヲ言ヒ換ヘテ言ッタナラバ、日本人ガ勉强シテ品物ヲ造ッテ外國ニ出ス、外國ニ出シタ所ノ其外國カラ取ル金ト云フモノヲ以テ、今度ハ資本トシテ日本ニ持ッテ行ッテ輸入スルト云フヤウナ方針ヲ執ッテ日本ノ資本ト云フモノハ、益〻增加スル、益〻日本ノ物品ト云フモノヲ澤山拵ヘテ、外國ニ出スト云フヤウナ方針ト云フモノハ、是ハ大藏大臣ナリ農商務大臣ガ、十分ニ注意シテ拵ヘナケレバナラヌモノト斯ウ思フ、ソレデ日本ノ通貨ノ狀態モ、私ハ此兌換劵條例ト貨幣條例ト此二ツノモノニ對シテ大藏大臣ハ十分ノ注意ヲ要スルモノデアル、今私ナンカハ斯ウ思ウテ居ル、此一圓紙幣ナドハ、日本ノ民度ノ進步ニ依テ之ヲ廢シテシマウト云フ方針ヲ執リ、サウシテ五圓、十圓、二十圓ト云フヤウナ紙幣ノ發行ノ度數ヲ少ナクシテ、公債ヲ以テ卽チ金貨ヲ流通ス

ルヤウナ風ニ、日本ノ通貨ノ狀態ヲシテシマハナケレバイカヌト思フ、今ノ小紙幣ノ如キハ、勿論絶體的ニ早ク廢メテシマウト云フ風ニシテ、日本銀行ノ發行スル紙幣ハ成ルベクダケ大キナ紙幣ヲ以テ、卽チ百圓以上ノ紙幣ト云フモノヲ日本銀行ガ出スヤウナ風ニシテ、其以上ノ貨幣ト云フモノハ、成ルベクダケ公貨ヲ用ヰルト云フ方針ヲ執ッテ行ッタナラバ、日本ノ通貨ト云フモノハ膨脹スルコトヲ妨ゲテ、日本ノ通貨ト云フモノガ資本化スルコトガ、非常ニ易クナルデアラウト斯ウ思ウテ居ル、ソレカラ金利引上ト云フコトヲ大藏大臣ガ六ケシク言ウテ居ルガ、日本銀行ヲシテ金利ヲ何ボデモ引上ゲサス、金利ヲ引上ゲルコトニ付テ文句ヲ言ウテハナラヌ、大藏大臣ハ金利ヲ引上ゲルト、事業ノ發達ヲ妨害スルト云フコトヲ始終口ニスルガ、吾々ハ暫クノ間此經濟界ニ居ッテ、金ノ事ヲ取扱ッテ能ク知ッテ居ルガ、決シテ日本銀行ナリ、其他一般ノ銀行ガ日歩ヲ一厘ヤ二厘上ゲタ所ガ、ソンナ事ニ事業界ガビクツクモノデハナイ、此金利引上ニ付テ一番ビクツク者ハ、兜町トカ或ハ堂島ナドヲ徘徊スル人間、或ハ株劵ノ賣買ヲスルヤウナ人間デ、斯ウ云フ人間ニハ金利引上ト云フモノガ非常ニ響クケレドモ、確乎トシタ實業ニ從事シテ居ル者ハ、金利ノ引上ヨリハ所謂「パニック」ヲ懼レルノデアル、「パニック」ハ何デアルカト云ヘバ、卽チ事業ノ恐慌デアッテ、何レノ銀行ニ至ッテモ金ヲ貸シテ呉レヌト云フ場合ガアル、如何ナル信用ノ强イ者デアッテモ、此頃ハ金ヲ貸シ申スコトハ出來ヌト言ッテ斷ラレル是ハ歐羅巴ナドハ十年ニ一度位ヅヽ、能ク來タモノデアッテ、サウシテ日本デモ明治四十二三年頃ハ、我々身躬ヲ其衝ニ當ッテ居ッタコトガアルガ、實際金ヲ貸サヌデ困ル、少々ノ金利ヲ愚圖々々言フノデハナイ、金利ハ何ボデモ出スコトヲ厭ハヌガ、金ヲ貸サヌデ困ル、故ニ平素金利ヲ上グベキ場合ニハ上ゲサセ、下グベキ場合ニハ下ゲサセル、是ハ銀行ノ自由手腕ニ一任シテ置イテ、經濟界ノ狀況ニ應ジテ金利ヲ上ゲ或ハ下ゲ、「パニック」ノ來ナイヤウナ方針ヲ執ラナケレバナラヌ、金利ヲ上ゲタカラ事業ヲ衰頽サスト云フヤウナコトハ決シテ無イ、確實ナル事業ヲ經營スル者ハ、少々ノ金利ノ高イ位ハ何ノ苦モナイ話デアル、ソレカラ日本銀行ノ作ッテ居ル所ノ物價ノ指數ト云フモノヲ、大藏大臣ガ非常ニ輕ク視テ居ラレルガ、此物價ノ指數ト云フモノハ非常ニ重要ナモノデアル、此處デ其事ニ

就テ質問ガアッタ時分ニ、大藏大臣ハ物價ノ指數ヲ非常ニ輕ク視テ、米ガ一番日本デハ安イト云フヤウナ答辯ヲサレタガ、我々ハ實ニ情ナク感ジテ、日本銀行ノ物價ノ指數ト云フモノハ、此通貨ト云フモノガ餘計出テ居ルヤ否ヤト云フコトヲ調ベル爲メニ、物價ノ統計ヲ取ッテ始終調ベテ居ル、是ハ日本銀行條例、兌換劵條例、貨幣條例ト云フモノヲ拵ヘタ時分ニ、其拵ヘル所ノ人ト云フモノガ深ク考ヘテ、此物價指數ト云フモノヲ拵ヘタモノデアル、ソレヲ輕視サレルト云フコトハイカヌ、物價ノ指數ニ變動ガ生ジタナラバ、必ズ紙幣ト云フモノガ澤山出テ居ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、以上申シタ如ク此通貨ト云フモノニ就テハ、私ハ非常ニ重キヲ措イテ居ルノデアル、英國ノ如キ今日ノ狀態ハドウデアルカト云ヘバ、英國ノ如キハ非常ニ此通貨ノ點ニ付テハ健全ナル狀態ヲ保ッテ居ッタ昔ハ度々ヤリ損ナッタ、所謂英蘭銀行ナルモノガ度々ヤリ損ナッタコトガアル、大藏大臣モ此英蘭銀行ノ歷史、所謂「マクレオッド」ノ銀行史ナドヲ緩々繙イテ御覽ニナッタラ分ル、卽チ紙幣ヲ發行シタリ色々シタリシタコトニ依テ、非常ナ經驗ヲ積ンデ居ル所ノ英蘭銀行デアル、其英蘭銀行ガ多年ノ經驗ニ依テ、英國ノ貨幣ノ狀態ト云フモノヲ、非常ニ健全ニ保ッテ居ッタモノデアルカラ、英吉利ノ磅ト云フモノガ、世界中ノ通貨ト云フ形ヲ爲シテ居ッタノデアル、ソレガドウデアルカト云フト、今度ノ戰爭ノ爲メニ非常ニ財政ヲ困難ニシテ、英國ニ金ト云フモノガ非常ニ少ナクナッテシマッテ、如何ニモ堅固ナ所ノ通貨ノ狀態ト云フモノヲ、非常ニ困難ナラシメテ居ル、ソレデアリマスカラシテ、此英國ニ於テハ、ドウシテモ外國カラ金ヲ取ラニヤナラヌ、乃チ金ヲ取ルニハ輸出貿易ヲ奬勵シナケレバナラヌ、先日後藤新平ト云フ人カラ贈ッタ書物ガ我々ノ欄ノ内ニ投込ンデアッタ、我々ソレヲ繙イテ見タガ、如何ニモ重要ナル事柄ガ書イテアル、英國ガ自國ノ貿易ノ狀態ヲ舊ノ通リニ回復シナケレバナラヌト云フノデ、必死ニナッテ居ル狀態ガ能ク分ルノデアルガ、サウ云フ風ニ世界ニ於テハ、今度ノ戰爭ノ爲メニ貨幣ノ狀態ト云フモノハ、英國ノ如キ、佛蘭西ノ如キ、又米國ノ如キモ、何レモ紊レテ居ル際デアルカラ、日本ト云フモノガ一番早ク此貨幣ノ狀態ヲ健全ナ狀態ニシテ、サウシテ我々ガ今言ッタヤウナ風ニ、此世界ノ物質ガ缺乏シテ居ル最中ニ、日本ノ品物ヲドシ〳〵造ッテ海外ヘ出シ、サウシテ

取ッタ所ノ金ト云フモノヲ資本化シテヤッテ行クト云フコトガ、非常ニ重要ナ事デアル、英吉利ガ所謂此世界ノ中心市場トナッテ居ッタモノハ、何デアルカト云ッタナラバ彼ノ貨幣ノ狀態ガ健全デアッタカラデアル、日本モ此日本ノ圓ナルモノヲ健全ナル狀態ニシテ置イタナラバ、假令世界ノ中心市場トハ爲リ得ザルトシテモ、支那或ハ西伯利等ニ資本ヲ注入シ、卽チ東洋ニ於テ中心市場トナルコトハ實ニ易々タル事デアル、ソレデアルカラシテ、私ハ今ノ大藏大臣ノ大手腕モ要セナイ、又大見識モ要セナイ、唯ダ日本ノ兌換劵條例ヲ能ク見テ、戰々競々小心翼々トシテ、日本ノ兌換劵條例ヲ守ッテ居リサヘスレバ、私ハ此日本ノ通貨ト云フモノハ健全ニナッテ、日本ノ經濟界ガ大發達ヲスルモノト思フ、私ハ右ノ意見デアルカラシテ、此意見ニ對シテ大藏大臣ノ意見ヲ聽キタイ

之ニ對シ高橋及山本兩國務大臣ハ二月十九日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ生產助長ノ方針ヲ以テ出來得ル丈民間ノ餘裕資金ヲ資本化セシムルノ途ヲ講シ輸出入關係ニ付テハ爲替銀行ヲシテ資金ノ融通ヲ圓滑ナラシムルト同時ニ內外ノ經濟狀況ニ順應シ緩急宜ヲ制スルコトニ意ヲ用ヒツツアリ

六　物價調節ニ關スル再質問

一月三十一日本員ノ爲シタル質問ニ對スル政府ノ答辯ハ抽象的ニシテ要領ヲ得ス該質問ノ要旨ハ

一　一月三十一日ニ於ケル日本銀行兌換劵發行高ノ內正貨幣準備ニ依ル發行額ハ九億四千三百六十萬圓ナレトモ同日現在ノ正貨ニシテ內地ニ在ルモノ六億九千四百萬圓ニ過キス然ラハ日本銀行ハ內地ニ在ラサル正貨ヲ準備ニ充テ約二億五千萬圓ノ紙幣ヲ發行シタルモノニシテ全ク兌換銀行劵發行條例違反ナリ內地ニ於ケル物價騰貴ノ一原因茲ニ在リト思惟ス政府ノ所見如何

二　政府ハ自今日本銀行所有ニ係ル在外正貨ハ兌換銀行劵發行條例第二條中ノ引換準備金中ニ算入セシメサル方針ヲ採ルヤ否

三　政府ハ直ニ綿絲金銀塊等ノ輸出禁止令ヲ撤廢スルヤ否

四　政府ハ其ノ所有ニ係ル諸工場ヲ漸次賣却シ其ノ金額ヲ以テ流通紙幣ヲ引上クルノ策ヲ採ルヤ否

五　政府ハ爲替資金トシテ日本銀行ノ發行スル兌換劵ハ成ルヘク大紙幣ヲ以テシ銀行ヲシテ之ヲ蒐集シ易カラシムルノ策ヲ採ルヤ否

六　政府ハ二十圓以下ノ通貨ハ成ルヘク硬貨ヲ流通セシムルノ方策ヲ採ルヤ否

九年二月二十一日有森新吉君ハ右再質問主意書ヲ提出シタルモ解散當日迄其ノ趣旨辯明及答辯共ニ無カリキ

七　農業勞働保護奬勵ニ關スル質問

一　勞働保護ニ關シ政府ハ相當ノ施設考慮ヲ煩ハスト雖未タ農業勞働ノ保護奬勵ノ域ニ達セサルノ理由如何

二　農產物ノ生產費及農民生活費ノ輕減ヲ計ラスシテ徒ニ農產物ノ價格ノ低下ヲ企ルハ農業勞働ヲ壓迫シ農業ヲ撲滅セシムルモノトス仍テ政府ハ農產物ノ生產費及農民生活費ノ輕減政策ヲ講究シ食糧政策ノ大方針ヲ樹立セサルヘカラサルモノナリト思惟ス政府ノ所見果シテ如何

三　農業勞働保護奬勵ニ關スル將來ノ施設及政策ニ關スル政府ノ抱負如何

九年二月三日土井權大君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月十七日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ簡單ニ質問ヲ試ミマス、併シ稍〻咽喉ヲ痛メテ居リマスルガ故ニ、或ハ御聽苦シイカモ知レマセヌ、惡カラズ御容赦ヲ願ヒマス、政府モ既ニ御承知ノ通リ、世界大戰以來我國ノ思想界ハ一大變化ヲ來シタノデアリマス、延テ經濟界ニ其影響ヲ及ボシマシテ、近時勞働問題ト云フモノハ、日一日ト八ケ釜シク相成ッテ居リマス、是ニ於テカ工業界ハ、既ニ勞働者ノ經濟的地位ノ安固ヲ圖ル爲メニ、更ニ又彼等ノ社會的地位ノ向上ヲ圖ル爲メニ、種々ナル施設ガ實行セラレツヽアリマス、然ルニ單リ此農業勞働方面ノ狀態ニ至リマシテハ政府モ民間モ共ニ之ヲ等閑ニ附シテ居ル現狀デアリマス否ナ寧ロ農民ノ生產物ハ米デアルトカ、麥デアルトカト云フヤウナ物ニ向ッテ、是等ノミニ物價調節ヲ講ジヤウ、而シテ農民ノ收支計算ノ如キ、又ハ農民ノ生活狀態ノ如キヲ顧ミナイ、斯ウ云フヤウナ狀態ニ相成ッテ居リマス、私兵ハ敢テ米麥ヲ高クシヤウト云フコトノミヲ望ム者デハアリマセヌガ、米麥ヲ生產スルニ要シタル所ノ資本、土地、勞力ニ對スル所ノ報酬ノ計算ヲ爲サズシテ、徒ラニ米麥ノ價格ノミヲ低下セシメタナラバ、農民ハ徒ラニ勞レテ得ル所ナシ、斯ウ云フヤウナコトニ相成リマシテ、終ニハ農業勞働ニ從事スル所ノ者モ無クナル、又ハ農業ガ衰頽スルト云フ、斯ウ云フヤウナ事ニナリハシマイカト考ヘルノデアリマス、若クハ窮鼠却テ猫ヲ嚙ムニ至リ、頗ル危險ナル思想ガ我國ノ人口六割ヲ占メテ居ル所ノ國民卽チ農民デス——最大多數ノ國民デアル所ノ農民ニ浸潤致シマシテ、如何ナル不祥事ガ勃發スルヤモ計リ難イ、斯ウ憂慮致シテ居ル者デアリマス、故ニ此際工業勞働ト同ジク、農業勞働ニ對スル所ノ相當ノ保護奬勵策ヲ講ズルト云フコトハ、目下ノ急務デハナイカト斯ウ考ヘマス、詳シク申上ゲマシタナラバ、小作農ヲ如何ニ保護スルカ、又更ニ進ンデハ耕作ニ從事シナイ所ノ中農者ガ、非常ニ經濟狀態困難ニ陷ッテ居ル有樣デアル、是等ヲ如何ニ維持スルカ、斯ウ云フヤウナ點ニ於テ、政府ハ如何ナル政策ヲ御持ニナテ居ルカ、又私ガ唯今申上ゲマシタ事ニ同感下サルナラバ、ドウ云フヤウナ具體的ノ方法ヲ以テ其等ヲ敎濟スルカ其等ヲ保護スルカ其等ヲ奬勵スルカ此事ニ就テ御尋致シタイノデアリマス、是ガ私ノ質サントスル第一問デアリマス、由來農業勞働ト云フモノヲ保護シ、奬勵シヤウト致シマシタナラバ御承知ノ通リ必ズヤ彼等ノ經濟的地位ノ安固ヲ圖リ更ニ進ンデハ彼等ノ社會的地位ノ向上ヲ圖ル、斯ウ云フヤウナ大目的ヲ以テ進ムヨリ外ハアルマイト私ハ考ヘマス、尤モ近來米麥ノ價格ガ騰貴致シマシテ、一見總テノ農民ハ裕福ナルカノ如ク見エマスガ、ソレハ皮相ノ見解デアリマシテ、實際ノ狀態ハドウデアルカト申シマシタナラバ少數ノ地主ト、農業ノ傍ラ農業以外ノ勞働ニ從事ヲ致シテ居

リマス所ノ、一小部分ノ地方民ニ止ッテ居ル、之ニ反シ小作農デアルトカ、或ハ小作兼自作ヲ致シテ居ルガ如キ百姓ニ至リマシテハ、卽チ純粹ノ農業勞働者、モウ一ツ詳シク申シマスト細民ニ至リマシテハ、之ヲ他ノ工業勞働者ナドニ比較致シテ、決シテ裕福ナリト申サレヌ狀態デアリマス、其證據ト致シマシテ、帝國農會ガ、大正二年ヨリ四年ニ亙リマシテ、各府縣ニ於テ代表的農民ヲ選定シテ、農家經濟ニ關スル調査ヲ致サシメテ居リマス、其調査報告ニ依リマスト、每年平均農家勞働ノミニ依テ生活シタル場合ニハ、收支ニ於テ六十八圓七十九錢八厘ノ不足ヲ生ズル、斯ウ云フヤウナ統計ヲ示シテ居リマス、然ラバ多クノ農民ハ斯樣ナ損ガアルニ拘ラズ、如何ニシテ生活シタカト申シマシタナラバ、貯蓄ノアル者ハ、其貯蓄ニ依リ支辨シ、又幾分カ財產ノ有ル者ハ、財產ヲ處分シテ生活ヲヤッテ居ル、或ハ他ヨリ負債ヲ起シテ生活ヲシテ居ッタノデアリマス、故ニ今日ニ於テ、全國農業ノ不生產的負債總額ガ幾ラアルカト云フコトヲ調査致シマスルト、少クトモ十億萬圓ヲ下ラナイト云フ現狀デアリマス、而シテ其不生產的負債ヲ起スニ至ッタ主ナル原因ハ、何デアルカト申シマシタナラバ、是レ悉ク彼等ガ漸ク一家ノ細キ煙ヲ維持スル爲メニ莫大ナル負債ヲ起シタ、期ウ云フコトニナッテ居ルコトハ敢テ喋々ヲ要シマセヌ、而シテ近年ニ於テモ農民ノ裕福――尤モ近年ハ米麥ガ高クナリマシテ、裕福ナルカノ如ク見エルト云フコトヲ先刻申上ゲマシタガ、其裕福ハ生產物ヲ他ニ販賣シ得ル餘裕アル者ノミガ、其裕福ニ接シテ居ルノデアッテ、其然ラザル所ノ者ハ、却テ物價ガ騰貴致シマシタ結果、細農ニ至ッテハ經濟上生計上頗ル困難ヲ感ジテ居ル、又小作農ナドニ至ッテモ非常ニ苦ンデ居ル狀態デアリマス、而モ近時米麥ヲ生產致シマスルニ、事シナイ所ノ中產階級ナドハ、苦ンデ居ル狀態デアリマス、而モ近時米麥ヲ生產致シマスルニ、費用ガ隨分高マリマシテ、農業勞働者ト云フ者ハ非常ニ迷惑ヲ致シテ居リマス、例ヘバ肥料ノ如キ、勞銀ノ如キ、又牛馬ノ如キ、非常ナル騰貴デアリマス、故ニ假リニ多少米麥ヲ高ク販賣スル者アリト雖モ、其等ノ生產費ト生產物ヲ賣ッタ價格トヲ差引致シマシタナラバ、殘ル所檢メテ少額デアル、斯ウ云フヤウナ狀態デアリマス、而シテ農民ノ生活狀態ハ如何デアルカト申シマシタナラバ、御承知ノ通リ極メテ貧弱ナルモノデアリマシテ、一片ノ肉、一杯ノ酒スラモ之ヲ口ニスルコトハ中々容易デナイ、故ニ此際彼等ノ生活ヲ安固ナラシメ、進ンデハ社會的地位ノ向上ヲ圖ラント致シマシタナラバ、米麥生產ニ要スル所ノ生產費ノ輕減ヲ圖リ、同時ニ農民ノ生活費ヲ如何ニ輕減スルカ、此二點ニ注意ヲシナケレバナラヌト私ハ考ヘマス、然ルニ先日來貴族院ニ於ケル所ノ物價調節論、並ニ本院ニ於ケル豫算委員會等ニ於ケル、或一派ノ物價調節論ヲ眺メマスルト、其等ノ根本問題ヲ究メズシテ、徒ラニ米ノ價ヲ下ケル、徒ラニ麥ノ價ヲ下ゲルトカ云フガ如キ議論ヲ拜聽致シタノデアリマス、ソコデ或有力ナル縣ノ農會ハ、斯ノ如キ檄文ヲ農民ニ飛バシテ居リマス、「一寸朗讀致シマス「今日貴族院ニ於ケル物價調節的態度ヲ見ルニ全院一致ノ力ヲ以テ我農業ノ福利ヲ妨ゲ農業勞力ノ報酬ヲ認メズシテ唯、農民ヲ壓迫スルノ策ニ出デ目前ノ小困難ヲ救濟セントシテ却テ國家ノ大患ヲ助成シ誰トシテ食物ノ大々的缺乏ノ近ク襲來スルヲ知ルモノナキカ如キ觀アリ、於是貴族院ノ愚其不明又甚ダシト云フヘキナリ斯ノ如ク國家百年ノ大計ヲ過ラシルハ要スルニ我農業ノ團體ナク將又與ヘラレル選擧投票ノ意義ヲ誤リタルニ起因スト雖モ貴族院ノ如キハ吾人農民ノ敵ニシテ又國家將來ノ餓死ヲ希望スルニ均シト云フヘキモノナリ嘆ゼズンバアラザルナリ」斯ウ云フコトニナッテ居リマス、農民ノ聲ハ以上ノ如クデアリマス、政府ハ果シテ私共ノ所謂米麥生產費ノ輕減ト、農民生活費ノ輕減トノ根本政策ヲ講ゼズシテ、貴族院ノ說並ニ本院豫算會ニ於ケル、或ル一派ノ說ニ耳ヲ傾ケナサルヤ否ナヤ、之ガ私ガ問ハントスル第二デアリマス、更ニ先刻申上ゲマシタ如ク、細農並ニ小作ニ從事セザル所ノ、田舍ニ於ケル中產階級ガ苦ンデ居ル實狀ヲ御取調ニナッテ居ルカドウカ、此事モ併セテ御尋致シマス、唯今申シマシタ如ク、細農ハ益〻困憊ノ狀ニ陷リツ、アリマス、仍テ私共ハソレノ救濟策ト致シマシテ、二三ノ具體案ヲ研究致シマシタ、ソレハ次ノ如クデ、果シテ政府ハ之ヲ實行ナサル意思アルヤ否ヤ、此事ニ就テ御尋シタイト思ヒマス、第一生產費ノ輕減策ト致シマシテハ、(イ)畜產保險法ヲ制定スルコトデアリマス、由來米麥ノ高價ナル原因ノ一ハ、其生產原料デアル所ノ肥料ノ高イト云フコトガ原因デアリマス、故ニ是ガ經費節減政策トシテ、所謂自給肥料デアル所ノ廐肥、堆肥ノ製造ヲ盛ナラシムル必要ガアリマス、然ルニ我國ニハ御承知ノ通リ、牛、馬、豚ノ如キモノ、繁

殖ヲ圖ル畜産業ハ、遲々トシテ振ハヌノデアル、ソレハ我國ノ古來ノ習慣トシテ、肉食ヲシナカッタコトハ或ハ原因スルノデアリマセウカ、併ナガラ今日ニ於テ一層其根源ヲ調査致シテ見マスト、第一ハ畜産ニ要スル資金ノ融通機關ガ缺乏シテ居ル、第二ニハ其業務ニ伴フ所ノ、損失豫防機關ト云フモノガ缺乏致シテ居ルノデアリマス、ソレ故此際畜産保險法ヲ制定シマシテ、第一損失ノ豫防ヲ考ヘ、第二ニハ金融業者ハ其保險證劵ヲ擔保トシテ、資金ノ融通ヲ爲スト云フコトニ至リマスルガ故ニ、畜産金融ノ途ヲ此保險法ニ依テ制定スルニ非ズシテ、自然ニ其融通法ガ出來ルコトニ相成リマス、斯ノ如ク相成リマシタナラバ、獨リ此自給肥料ヲ獲得スル利益アルノミナラズ、農家ノ副業ヲ增加シ、又進ンデハ畜力ノ利用トモナリ、進ンデハ肉食ノ奬勵トナリマシテ、國民ノ健康ヲ增進スル上ニ於キマシテ、偉大ナル效果アルモノデアルト斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、次ハ(ロ)普通ノ肥料ヲ國營トスルコトデアリマス、元來普通肥料ノ高クナル原因ハ、往往狡猾ナル奸商ニ依リテ其値段ヲ左右セラレテ居リマス、例ヘバ智利硝石ノ如キ燐礦石ノ如キ、大豆粕、油粕ノ如キハ、二三買占團ニ依テ暴利ヲ貪ラレテ居リマス、是ハ先日來ノ大連ノ市場ヲ御調ニナリマシタナラバ、能ク御分リニナルコトヽ思ヒマス、又加里質肥料ノ如キハ、二三ノ商人ノ手ニ依テ專賣的ニナッテ居ル、又硫酸安母尼亞ノ如キハ、二三ノ製造所ニ依テ獨占セラレテ居ル、斯ノ如キ有樣デアル故ニ、自然此肥料ガ高クナル、故ニ此際普通ノ肥料ヲ國家ノ收益ヲ目的トセザル範圍ニ於テ、直營トナサッタナラバドウデアルカ、然ラバ自然ト米麥ヲ生產スル生產費ガ低減スルノデナイカ、斯ウ考ヘルノデアリマス、第二ハ農業勞働者ノ生活費輕減策トシテ、自家用濁酒製造ヲ免許スルコトデアリマス、現行ノ酒造稅法ニ依リマスト、五十石以上製造スルニ非ザレバ、許サナイト云フコトニナッテ居リマス、是ハ丁度自家用醬油製造ノ如ク、五石以下デモ濁酒ヲ製造スルコトヲ許ス、斯ウ云フヤウナ鹽梅ニ改正ガ致シタイト思フノデアリマス、サウスレバ農民ハ比較的廉價ノ酒ヲ飲ミアシテ、此廉價ナル濁酒ニ依リマシテ、一日ノ疲勞ヲ恢復スルコトガ出來ルコトガ明カデアリマス、而モ濁酒ト申シマスモノハ、御承知ノ通リ小米デアルトカ、或ハ碎米デアルトカ、云フモノヲ以テ製造致シマスル故ニ、自然ト米麥ノ代用食品トナリマシテ、米麥ト

云フモノガ更ニ消費サレズシテ、自然ニ食糧增加、供給增加、斯ウ云フ效驗ガアルノデアリマス、(ロ)綿布ノ輸出ヲ禁止スルコトデアリマス、政府ニ於キマシテハ、既ニ曩ニ綿絲ノ輸出禁止ト云フ事ヲナサッタ、然ルニマダ此綿布ハ下ラナイ、ソレハドウ云フ原因デアルカト取調ベマスルニ、我ガ日本國ニ於ケル貿易業ハ、所謂綿絲貿易業ノ狀態ハ、絲ノ輸出時代デナクシテ、寧ロ綿布ノ輸出時代デアリマス、故ニ絲ダケノ禁止ヲ致シマシタ所ガ、綿布ノ輸出ヲ禁止シナイ爲メニ、此被服ガ下ラナイノデアル、故ニ其本ヲ制スルト云フ策ニ出デヽ、百尺竿頭一歩ヲ進メテ、此綿布ノ輸出ヲ禁止スルト云フコトニ致シタナラバ、非常ニ此農民ノ被服ノ上ニ於キマシテ、安價ナル生活ガ出來ルコトニナリハセヌカト私ハ考ヘル、第三ハ負擔ノ公平ヲ期スルコトデアリマス、(イ)地方稅制限緩和ノ程度ヲ向上セシムルコトデアリマス、尤モ昨年ノ議會ニ於キマシテハ、幾分カ地方稅制限ノ緩和ノ策ヲ執ラレマシタガ、到底斯ノ如キ制限デハ十分ナリトハ申サレマセヌ、又其手續ガ甚ダ複雜デアリマスルガ故ニ、其弊害ヲ除去シ、同時ニ徹底的ニ制限緩和ヲ爲ス必要ガアルト思ヒマス、其理由ハ其土地ニ住居ヲ有セナイ所ノ大地主デアルトカ、或ハ都會ノ資本家ト云フモノガ、其土地ニ散在シテ居ル山林、又ハ田畑ヲ投資ノ目的物トシテ買ヒマス、其等ノ大地主デアルトカ、都會ノ人士ト云フ者ハ、所謂戶數割若クハ戶數割附加稅ト云フヤウナモノヽ徵收ヲ免除サレテ、而シテ其土地ニ住居シテ居ル農民竝農業勞働者ガ、多額ノ地方稅ヲ負擔致シマシテ、即チ戶數割デアルトカ、戶數割附加稅デアルトカ云フモノヲ負擔致シマシテ、他ノ地方ニ居住シテ居ル大地主、及都會ノ資本家ガ所有スル山林、又ハ田畑ヲ改良スベク、道路河川ヲ修築シナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナ馬鹿ナ目ニ農村ハ遇ッテ居ルノデアリマス、極メテ其負擔ハ不公平デアリ、不均一デアルコトデアリマス、(ロ)ハ敎育費ノ國庫負擔額ヲ增加セシムルコトデアリマス、是ハ日本全國津々浦々ヨリ致シマシテ、御承知ノ通リ請願文書ヲ以テ、國庫負擔ノ增加ヲ圖ルベシト云フコトヲ言フテ來テ居リマス、然ラザレバ國家培養ノ根本デアル團體的產業ノ發達ヲ圖ル資金ガ無イ、斯ウ云フコトヲ申出テ居リマス、是亦天下農民ノ聲デアリマス、併シ此際ニ一寸政府ニ御尋致シタイノデスガ、地方ニ於ケル財源捻出ノ件デアリマス、今ヤ縣ト云ハズ町

村ト云ハズ、實ニ此點ニ於テ困ッテ居ル、故ニ地租ヲ國稅ヨリ地方稅ノ方ヘ編入變ヲシテシマウ、サウシテ中央ノ行政ノ幾分ヲ地方ノ行政ニ廻ハス、斯ウ云フヤウナコトニシタナラバドウデアラウカ、サウスレバ地方ノ財源捻出ト云フコトニ付テハ、餘リ困難ヲ來タシハスマイ、當然先刻申上ゲマシタ如キ負擔ノ不公平デアルトカ、若ハ教育費ノ國庫負擔ト云フコトモ、當然解決ガ付クコトデアラウト思ヒマス、同時ニ地價修正デアルトカ、若クハ地價ガ騰貴スルヨリ得タル所ノ偶然所得ヲ基礎トスル所ノ徵稅方法モ、完全ニ地方ニ於テ定メ得ラレルコトニナルト私ハ考ヘルノデアリマス、此點ニ就テ如何デゴザイマスカ、第二ハ地方行政組織及經濟組織ノ改善デアリマス、(イ)郡制ヲ廢止シ郡役所ノ分合ヲ計ルコト、更ニ町村長及町村吏員ノ物質的待遇ヲ計ルコト、(ロ)農業倉庫ヲ徹底的ニ奬勵スルコト、是等デアリマス、是等ノ理由ハ申上ゲズトモ、政府ハ成程ト御了解下サルコトデアラウト思ヒマス、(ハ)農民金融ノ獨立ヲ計ルコト、由來農村ニ於ケル金融ノ權利、所謂金融ノ鍵ト云フガ如キモノハ、誰ガ握ッテ居ルカト申シマシタナラバ、極ク少數ノ資本家、銀行ノ株主、斯ウ云フヤウナ者ガ握ッテ居ル、而シテ銀行ニ依テ得タル所ノ利益ヲ其人方ガ分配ヲ受ケテ居ル、斯ウ云フ狀態デアリマス、故ニ此際一郡ヲ區域トスル信用組合、若クハ信用組合聯合會設置ノ政策ヲ奬勵シ致シテ、其等一小部分ノ人ニ金融ノ權利ヲ握ラセズシテ、又一小部分ノ人ニ銀行ヨリ得タル所ノ利益ヲ獲得セシメズシテ、農民全體ガ利益ヲ得ル、所謂農民ノ金融ハ農民獨立ノ機關ニ依テ之ヲ運轉スルト云フコトニシタナラバ、農業勞働者ノ精神方面、物質方面ニ裨益ヲ與フルコト多大ナリト考ヘルノデアリマス、即チ農民ノ金融機關ノ獨立斯ウ云フコトヲ考ヘテ居リマス、ソレカラ(ニ)農產物集散市場法ヲ制定スルコト、由來農民程醇朴ナル半面ニ、猜疑心ノ强イモノハ無イノデアリマス、故ニ農產物ヲ販賣スルコトニ方リマシテモ、其販賣機關ガ無キ爲メニ、色ミト苦心慘澹ヲ致シテ居リマス、恰モ商賣人ガ商機ヲ狙フガ如クニ常ニ心配シテ居リマス、サウ云フヤウナ所カラ致シマシテ、思惑心ガ出來マシタリ、投機心ガ出來タリシテ農民變シテ相場師トナル、斯ウ云フヤウナコトニ相成ルノデアリマス、故ニ完全ナル市場ヲ、或ハ停車場、或ハ港ナド、云フガ如キ所ニ設置致シマシタナラバ、農產物ノ均賣ヲ致スコトモ出來ルデアリマセウ、又農民ガ、相場師的ノ考ニモナルノデアリマセウ、投機心モ自然撲滅スルモノナリト私ハ考ヘルノデアリマス、且又副業ナドニ依テ得タル所ノ生產物ヲ、其農產物集散市場ニ於デ販賣スルト云フコトニナリマシタナラバ、自然ト副產物ノ販路開拓ト相成リマシテ、副業ト云フモノ、奬勵ガ出來ルコト、私ハ考ヘマス、以上數案ハ米麥生產費ノ輕減トカ、農業勞働者ヲ安固ナラシムルニ付テ、偉大ナル效果ガアルト信ズルノデアリマス、更ニ進ンデ所謂耕作ニ從事シナイ所ノ田舍ニ散在シテ居ル中農者、中產者、其等ノ人ノ生活費モ輕減シテ、此中產者ヲ維持スルコトガ出來ル、斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、果シテ政府ニ於テハ、唯今申上マシタ數案ノ全部、若クハ其一部ヲ御實行ニナル意思アリヤ否ヤ、又ソレ以外ニ何カ御意見ガアルナラバ、斯ウ云フ事ニシタナラバ農業勞働者ヲ救濟スルコトガ出來ル、又斯ノ如キ政策ガアッタナラバ、田舍ニ散在シテ居ル所ノ、思想ノ極メテ堅實ナル中農者ノ經濟ヲ、維持スルコトガ出來ルト云フ政策ヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、是ガ私ノ質サントスル所ノ第三問デアリマス、今ヤ世界ノ思潮ハドシ〳〵我國ニ押寄セテ參リマシテ、或ハ物價調節デアルトカ、勞働問題デアルトカ、社會政策デアルトカ、色ミノ問題ガ波瀾重疊致シテ居リマスルガ、其根本ニ遡ッテ見マスト、是レ悉ク生活問題ニ起因シテ居ルノデナイカト斯ウ私ハ考フルノデアリマス、而シテ其生活問題ノ根源ハ食糧ニ在ル、食糧ノ根源ハ農業ニ在ル、農業勞働ニ在ル、斯ウ信ジマスルガ故ニ、唯今ノ質問ヲ致シタ次第デアリマス、政府ニ於カセラレマシテモ、亦誠ヲ披イテ然ルベキ御答辯アランコトヲ希望致シマヌ

之ニ對シ山本農商務大臣ハ二月十九日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一　農業勞働ハ工業勞働ト其趣ヲ異ニシ主トシテ自作農小作農又ハ其家族カ自家ノ經營ニ於テ勞働スルノ外小作農、自作細農又ハ其ノ家族等カ旁ラ他人ノ爲メニ農業勞働ニ從事スルモノニシテ專ラ他人ニ雇ハレテ勞働ニ從事スルモノノ數ハ甚タ多カラス政府ハ此等ニ對シ夙

ニ農會ヲ督勵シテ其ノ保護ニ務メシメ又産業組合等各種團體ノ發達ヲ圖リ其ノ經濟ノ上進ニ便セシメツツアリ

二　政府ハ農産物供給ノ潤澤ヲ圖ルト共ニ農業生産及農家生活ノ必需品ニ付供給ヲ潤澤ナラシムルノ策ヲ講シ肥料ニ關スル監督、指導、農具種畜等ノ貸付、供給並農會、産業組合、畜産組合等各種ノ團體ニ依リテ生産上及生活上ノ需用品ヲ廉價ニ獲得スルノ便ヲ得シメ且低利資金融通等ノ方法ヲ講シ以テ生産費並生活費ノ輕減ヲ圖リツツアリ

三　政府ハ農業勞働保護奬勵ニ關シ從來ノ施設ヲ一層充分ナラシムルハ勿論大正九年度ノ豫算ニ於テ小作組織等ノ調査費ヲ要求シ特ニ先ツ小作農等ノ組織經濟其ノ他ヲ詳細ニ調査シテ最モ適切ナル方策ヲ立テントス

八　軍制改革ニ關スル質問

國民思潮ノ推移ニ鑑ミ軍制ニ改正ヲ加フルノ必要アリト信ス政府ノ所見如何

九年二月五日森本是一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月十七日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ國民思想ノ發露流動ニ鑑ミマシテ、我國現在ニ行フ所ノ軍制ニ、改革ノ必要アリト云フコトヲ認メテ居リマス、此事ニ就キマシテハ、前寺内内閣ノ時代ニ於テ、時ノ陸軍次官デアル山田中將ニ是ハ非公式ニデスガ、私ノ卑見ヲ申上ゲ、種々意見ノ交換モ致シマシテ、大ニ諒解ヲ得テ大部分ハ贊意ヲ表セラレ、近キ將來ニ於テ實現ヲスルト云フコトデアリマシタガ、不幸ニシテ寺内内閣モ瓦解致シマス、又一層ノ不幸ハ山田中將ハ今日デハ故人トナラレマシタ、併シ私ガ其際ニ於テ意見ノ交換ヲ致シマシタガ、是ハ非公式デアッテ、或ハ山田次官ハ、所謂イヽ加減ノ挨拶ヲシテ置イタノデナイカト云フコトヲ痛切ニ私ガ感ジマス、故ニ今回ハ之ヲ公式ニ御尋シヤウト思ヒマス、私ガ尋ネントスル所ハ、主トシテ陸軍ニ關係シテ居リマス、無論海軍ニ幾部分關係シテ居リマスガ、大部分ハ陸軍ニ關係ヲ有シテ居ル事デゴザイマス、諸君凡ソ此國防ノ重大ナル任務ニ服スル軍隊ヲ、將來如何ニ改善スベキカト云フコトハ、戰後ニ於ケル最モ重要問題デアラウト思フ、殊ニ近頃ハ世界乃至我國ノ國民思想ハ、種々時勢ノ變化ト共ニ變リツヽアルノデアリマス、之ヲ通觀致シマシタナラバ、是非改善是正スベキ所ノ點ガ多イト云フコトハ是ハ、自明ノ事デアラウト思ヒマス、御承知ノ如ク歐洲ノ大戰ハ、世界ニ於ケル各種階級ノ觀念ヲ根柢ヨリ動搖サセマシタ、從テ、戰前トハ全ク異リタル所ノ思想觀念ト云フモノヲ抱懷シタト云フコトモ、是亦明カナ事デアル、從來我國ノ軍隊ニハ、國民ト軍隊トニ關スル此問題ト云ヘバ、唯ダ單純ナル所ノ壯丁ノ教育ノ程度、或ハ壯丁ノ體格ノ優劣若クハ徵兵、忌避者ノ多寡ト云フ位ノ事デ、是ガ重要問題トシテカラニ當局ノ者モ認メテ居タソレデアルカラ此思想問題ト云フコトニ就テハ、餘リ深甚ナル注意ヲ拂テ居ラナッカタ、所ガ近來獨逸ナリ、或ハ露西亞ノ過激思想、斯ウ云フモノガ段々蔓延致シマシテ、延テハ我軍隊ニモ斯ノ如キ思想ガ侵入ヲシハシナイカト云フコトノ怯氣ヲ以テ、多少研究ヲスルヤウニナッタコトデアルト思フ、併シ此過激思想、或ハ危險思想ナルモノハ唯ダ單ニ外ヨリ來ル所ノ感染トカ、或ハ傳染トカ云フヤウナモノヽミニ解スルコトハ、大ナル誤デアラウト思フ、此事ニ就キマシテハ今期ノ議會ノ劈頭ニ於テ、原總理大臣モ、我國ノ諸般ノ制度ニ改善ノ必要ガアルト云フコトモ聲明セラレマシタ、又中ニ就テハ近來ハ動モスルト、穩健質實ナル所ノ思想ガ廢タレテ來テ、極端ナル外來思想ニ所謂カブレルヤウナ者ガアルト云フ

コトハ甚ダ遺憾ニ思フ、諸制度ヲ改善シテモ是等ノ思想ハ全然排斥シナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ首相一人デハアリマセヌ、國民全體ノ者ガサウ思ウテ居ルニ違ヒナイ、併ナガラ此思想ハデス、唯タ外ヨリ來ル曩ニ申シマシタ傳染トカ、或ハ感染トカ云フノミデハナイ、此思想ト云フモノハ本來カラ申シマスレバ、自己ノ境遇、若クハ時勢ノ變化ニ伴ウテ、自然的ニ所謂自動的ニ起ルモノデアリマシテ、決シテ自動的ニ起ルモノデアッテ、他動的トカ、感染的トカ云フモノハ主ナルモノデハナイト思フ、ソレデ此新聞トカ、或ハ雜誌、或ハ印刷物等ニ依テ此思想ガ盛ニナッテ來ルト云フコトハ、是ハ確ニ彈力アル所ノ誘因ニハナルニ違ヒアリマスマイ、ケレドモガ本來ヲ尋ネテ見レバ、サウ云フ思想ハ、時代ノ變化自己ノ境遇ニ依テ伏在シテ居ル、卽チ潛在シテ居ルノデアル、ソレガサウ云フ機會ニ於テ、何カノ動機ニ於テ偶〻ニシテ發露スルモノデアルコトハ、是ハ事實明カナ事デアル、ソレ故ニ此兵士ノ思想問題ヲ研究シヤウト思ヒマスレバ、先ヅ以テ我國ノ今日ノ兵士ナルモノハ、如何ナル制度ニ依リ、如何ナル境遇ニ置カレテ居ルカ、斯ウ云フ事ヲ研究スルノガ第一デアラウト思フ、サウシテ精神上及肉體上ニ於ケル境遇ノ自覺ト云フモノガ、思想上ニ如何ニ影響反應ガアルカト云フコトモ、是モ考慮シナケレバナラヌモノデアル、是等ノ事ヲ考慮致シマシテ、成ルベク不平不滿ノ思想ヲ起サシメナイヤウニ努メルト云フコトハ、是ハ當然ナル事デ、最モ緊要ナル事ト思ヒマス、而シテ此軍隊教育ナルモノハ無論特殊教育デアリマス、特殊教育ナルガ故ニ、此規律ト秩序、或ハ節制ト云フコトニ對シテハ是ハ軍隊ノ精神デアリマス、寧ロ生命デアリマス、之ヲ離シタナレバ、軍隊ト云フモノハ維持ガ出來ナイコトニナルノハ、是亦明カナ事デアリマス、唯タ軍事教育者ガ此特殊教育ト云フコトヲ餘リ窮屈ニ、餘リ狹義ニ解釋スルガ爲メニ、其結果ガ甚ダ喜バザル所ノ所謂形式的教育ノ弊ニ陷ルト云フコトハ、實ニ嘆スベキ事ダト思ヒマス、故ニ此軍制上改革ノ必要ヲ私ハ感ジマシテ、種々軍隊內ニ於ケル思想感情ト云フモノヲ研究致シマシタ結果、是非軍隊ニ於ケル軍制ニ大改革ノ必要アリト云フコトヲ痛切ニ感ジタ一人デアリマス、就テハ種々御尋シタイ點ガゴザイマスガ、是カラ順序ヲ逐ウテ一ツ御尋シヤウト思ヒマス、マダ重要ナ問題ガアリマスカラ、成ルベク簡單ニ切上ゲル積デアリマス、第

一問トシテハ此明治十五年三月九日ノ陸軍省達乙第十六號、之ニ特報ト云フモノガ出マシテ、是ハ一條ヨリ第七條マデアル、此物ハ我國ノ軍人トシテ、日常寤寐ニモ服膺スベキモノデアル、唯ダ其三條ニ斯ウ云フコトガ一ツアル「長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス直チニ之ニ服從シ抗抵干犯ノ處爲アルヘカラサル事」、是ハ無論軍隊ノ組織サレテアル以上ハ、長上卽チ上官ノ命令ニハ、絶對服從ノ義務ヲ有ツノハ當然デアリマスガ、其事ノ如何ヲ問ハズ、直チニ之ニ服從スルト云フコトガ、果シテ現代國民ノ思想ニ適合シテ居リマスカ、ドウカト云フコトガ甚ダ疑問デアル、勿論百萬ノ兵モ、一令ノ下ニ一糸紊レザル所ノ行動ヲ爲サシムルニハ、是ハ必要デアリマス、又是ガナクテハ軍隊ノ統率ハ出來マセヌ、併ナガラ長上ハ無理モ言ハナイ、或ハ道ナラヌ事モシナイ、偏ニ斯ウ解釋致シマスレバ、是ハ別ニ不思議モゴザイマスマイ、弊害モ危險モ生ジマイト思ヒマスガ、矢張軍隊ノ上官ダト云ッテモ、感情ノ動物デアル、感情ノ支配ヲ脫シタルコトハ出來ナイ、此感情ノ支配ヲ脫スモノデアル、神ヤ佛ニ非ザル限リハ、感情ノ支配ヲ脫スルコトハ出來ナイ、此感情ノ支配ヲ脫スルコトノ出來ナイ上官ガ、卽チ將校ナリ、下士ニシテモ、其者ハ矢張七情ガ起ル譯デアル、是ハ人類通有ノ性情デアリマセウ、果シテ其七情ノ有ルモノト致シマスレバ、上官ガ特ニ不平不滿デ忿怒ノ時モアル、或ハ非常ニ激昂シテ居ル時モアル、サウ云フ場合ニ對シテ、部下ニ對スル所ノ卽チ兵卒ニ對スル所ノ命令ハ、隨分不合理ノ事モアル、或ハ不適當ノ事モ命令スル譯デアル、所ガ此命令ヲ上官ノ命令デアルカラ、絶對ニ服從スベシト云ヒ、大喝一聲命令ニ服從ヲ强ユル、是モ決シテ無理ノナイ事デアラウト思ヒマスガ、是モ恰モ最愛ノ我ガ兒、俗ニ申ス目ニ入レテモ痛クナイヤウナ我兒デモ、其親ガ不平不滿デ立腹ヲシテ居ル時、或ハ非常ニ激昂ヲシテ居ル時ニハ、其最愛ノ我兒ニ對シテモ隨分無理ナ命令ヲシテ、ソレヲ肯カザレバ一層怒聲ヲ發シテデモ、之ヲ行ハセルト云フコトガ一般ノ例デアル、是ハ感情ノ人トシテハ無理ナラヌ所デアル、顏回ハ人ニ怒ヲ遷サザリシ所ノ聖賢デアッタサウデアリマスケレドモ、軍隊ノ長上ガ顏回程ノ聖賢ニ非ザル限リハ、怒ヲ遷スト云フコトモ、人類トシテ亦免レナイ事デアラウト思フ、斯ノ如ク考ヘテ見マスルト其事ノ如何ヲ問ハズ云々ト云フコトハ、冷靜ニ合理的ニ之ヲ解釋スルト、甚ダ弊害多

ク、最モ危險ヲ感ズル所ノ事柄ニナッテ居ル、然ルニ軍隊ニ於テハ、此三條ヲ軍隊ニ於ケル教育ノ大方針トシ、大精神トシ、卽チ金科玉條トシテアリマス、此方針ノ下ニ教育シツヽアル、ソレデ此入營ノ際ニ於テ宣誓式ナルモノヲ行ッテ、入營當時ノ白紙的兵士ニ向ッテ、決シテ違背ハ仕ラヌト云フ誓約ヲ書カセル、是ニ於テ現代ノ青年ハ、此軍隊ノ壓抑、所謂橫暴、斯ウ云フコトヲ感ジマシテ實ニ是ハ非文明デアル、壓抑的ニ服從ヲ强ユルノデアル斯ウ云フコトヲ感ズルニ違ヒナイト思フ又此上官ガ不合理ナル服從ヲ强要スル際ニ於テ、引用シ若クハ適用スルノハ此三條デアル、私ハ曾テ聞イタコトガアリマス、營內ニ於テ指定ノ酒保以外ニハ、食物ヲ買ハレヌコトニナッテ居ル、所ガ或時當直ノ將校若クハ下士ガ、其軍隊ニ於テ嚴禁シテアル所ノモノヲ營外ヨリ求メテ來イ、卽チ買ッテ來イト申シタ、所ガ其兵士ハ上官ノ命令デアルカラ背クコトガ出來ナイトシテ、衞兵ノ目ヲ掠メ、監視ヲ破ラントシテ、不幸ニシテ其兵士ハ捕ヘラレタ、固ヨリ軍紀軍律ヲ犯シタコトデアリマスカラ、其者ハ遂ニ處分ヲ受ケ、サウシテ其事柄ヲ軍隊手帳ニ書キ、鄕里ニ對シテハ、不良ノ兵士ナリトシテ通知ヲ發スル、遂ニ其者ハ面目ヲ失墜シタル爲メニ自暴自棄ニ陷リ、不良ノ徒ト化スルト云フヤウナコトガアル、是等ハ實ニ歎ハシイ事ト私ハ思ヒマス、此事ヲ熟〻考ヘテ見マスト、是ハ上官ノ一大罪惡デアッテ、善良ナル所ノ兵士ヲ犧牲ニ供シ、卽チ人權ヲ蹂躪シタル所ノ最モ甚シイモノダト感ズル、ソレガ故ニ戰時ハ別問題デスヨ、戰時ハ別問題トシテ、平時ニ於テハ是非曲直正邪ダケノ事ハ、兵士ニモ十分辯解ヲサセルト云フコトニシナイト、餘リノ所謂命令的ニ服從ヲ强ユルト云フコトヲ私ハ信ジマス、是ハデスナ、將校下士ノ罪ヨリカ强制度ノ罪デアルト思フ、ソレデ此制度ヲ改正スルノ必要ト云フコトヲ絕叫スルノデアル、又由來軍隊ハデスナ、地方ノ民情ニ甚ダ遠ザカッテ居リマス、ソレガ爲メニ家庭ノ事情ト云フヤウナコトハ、餘リ顧慮シテ居ラヌヤウニ思フ、斯ウ云フ有樣デヤッテ、上下ニ眞ノ團結ガ出來ルカドウカト云フコトハ、是ハ私ヲシテ言ハシムレバ、到底出來ナイト云フコトヲ斷言スルト躊躇シナイモノデアリマス、何トナレバ兵士ダト云テモデスナ、將校ノ奴隷ヤ使用人デハナイ、ソレデ將校ノ面目ヲ大切ニ思ヒ、權威ガ必要デアルトスレバデス、矢張兵卒ニモ

兵卒トシテノ面目ガ大切デアリ、又國防ノ重任ニ當ル所ノ兵卒ノ權威ト云フモノモ必要デアル、茲ニ又一ノ例ヲ申シテ見タイト思ヒマスノハ、商業學校ノ卒業生ガデス、一年志願ヲシテ、其者ガ下士伍長ト云フモノニ最初ハ就カセラレルノダサウデス、所ガ其敎官トナル人ガ非常ナ冷酷ノ人デアル、寧ロ亂暴ナ人間デアル、而シテ其商業學校ノ卒業生、卽チ一年志願兵ノ人ハ、學校ニ居ル時代カラ兵式體操ノ一部ガ出來ナイ者ガアル、卽チ機械體操、ソレガ出來ナイ者ガアル、所ガ其敎官ハソレガ先天的ニ下手ダト云フコトヲ知ラナイ、ソレガ故ニ怠ケテ不眞面目デソレヲヤラナイト思ッテ、非常ニ其者ガ怒ッテ、オ前ハ中等敎育モ受ケ、相當ニ學力モ有リ、隨テ學校ニ於テ是等ノ技ハ能ク研究シテ居ル筈デアル、ソレニ何故ヤラナイカト言ッテ責メル、所ガ自分ニ於テハ實際ニ出來ナイ、斯ウ云フ事ガ度〻アリマシテ、多クノ兵士ノ中デ大聲疾呼罵倒スル、ソレガ爲メニ此一年志願兵ノ人ハ非常ニ感情ニ訴ヘテ、遂ニ非常ナ反感ヲ起シテ、如何ニ軍隊ナリト雖モ自分ノ出來ナイモノヲ、如何ニ忠實ニヤラントシテモ、出來ナイモノヲ强ユルト云フコトハ無理ダ、斯ウ云フ事ガアルノデ、我國民ガ此軍隊ヲイヤガッテ、徵兵忌避ヲスルノモ無理ハナイ、自分ハ國民ノ爲メニ犧牲トナッテ彼ノ上官ヲ殺害シテ、以テ此事柄ヲ天下ニ告白シテ、將來軍隊ニ於ケル所ノ壓迫ヲ、少シデモ少ナクシタイト云フ決心ヲ持ッテ、然ル所此者ガ熟〻考ヘマスルト、我ガ家庭ニハ兩親アリ、自分ガ此非行ヲ遂ゲルト云フコトニナルト、親モ定メテ自分ヲ怨ムデアラウ、又落膽モスルデアラウト思フガ爲メニ、思直シテ今度ハ除隊ヲ企テルヤウニナッタ、ドウシテ除隊スルカト云ヘバ、ドウシテモ身體ハ一生涯ノ不具トナッテモ、自分ハ除隊ヲセネバナラヌ、是ダケノ決心ヲ以チマシテ、遂ニ拇指ノ一關節ト二關節ノ間ヲ切ッテ、除隊ヲ企タト云フ事實ガアル、私ハ此事ヲ聞キマシテ實ニ同情ニ堪ヘナイ、無論兵士ノ考違モアリマスケレドモガデス、其此ニ至ラシメタト云フコトハ、畢竟上官ノ冷酷、寧ロ慘酷デ、其人間ノ個性ヲ知ラズシテ或ル技ヲ强ユルト云フコトガ原因ニナッタト云フコトハ、是ハ重大ナル問題トシテ研究スベキモノデハナイカト思ヒマシタ、又是ハ近イ例デアリマスガ、昨年ノ八月ニ例ノ松山聯隊デ、中隊長ヲ其部下ノ兵士ガ包圍シテ袋叩ニシタト云フコトハ、是ハ其當時新聞デ諸君モ御承知ノ事デアル、是

ハデスナ、無論其中隊長ナル者ガ、平素非常ニ冷酷ナル人間デアリ、部下ヲ愛スルト云フ所ノ念慮ガ無カッタ、時ニハ數名ノ者ヲ毆打シタ、又其當日ハ管内ノ草刈カ草取カヲサシタ、ソレニ豫定ノ仕事ガ捗ラザッタト云フガ爲メニ、食事時間ニナッテモ食事ヲ十分ニヤラセヌ、全體此上官ナル者ガデス、最モ規律節制ヲ守ルベキ人ガ、既ニソレヲ破ッテ兵士ヲ酷使スルト云フコトハ、甚ダ宜クナイ遣方ダト思フ、是ガデスナ、若シ戰時デアッタラバ、無論斯ノ如キ軍紀ヲ紊シ亂暴ヲシタル者ハ、死刑ニ處セラルベキモノダト私ハ思フ、是モ所謂上下相反目嫉視シテ、意思ノ疏通ヲ缺イタガ爲メニ、斯ノ如キ事柄ガ現レタノダト思フ、之ヲ要スルニ此特報第三條ト云フモノハ、時代ニ後レタ卽チ時代ニ順應シナイ大ナル錯誤ノ爲メニ、斯ウ云フ事ガ起ルノダト思ヒマスガ、政府ニ於テハ此廢止若ハ大ナル改正、之ヲ爲サル所ノ意思有リヤ無キヤト云フコトヲ御尋スルノデアリマス、第二問ト致シマシテハ、教育ノ改善、教育ノ改善デス、私ハ新兵演習ノ實況ヲ見マシテ、是モ痛切ニ感ジテ一ツデアリマス、入營ノ當時ハ、殆ド兵士ナル者ハ別天地ニ入ッタヤウナ感ジヲ持ッテ居ル、ソレデ家庭ニ於テ極メテ放慢ナ生活ヲシテ居ッタ者ガデス、急轉直下急ニ生活ノ變化ヲ來シ、總テノ扱方ガマルデ自分ノ家庭若クハ地方ニ居ルノトハ、同一ナル狀態デアリマセヌガ爲メニ、非常ニ窮屈ニ感ジテ居ルノデス、ソレヲ此所謂教官ナル者ハ、急ニ劃一的ニ教育セント欲スルガ爲メニ、大ナル苦痛ト、遂ニ悲觀ヲ來スヤウナ事ガアルノデス、ソレデ是等モデスナ、漸進的ニ軍隊ノ空氣ニ慣ラセルト云フコトガ最モ必要デハナイカ、私ガ嘗テ騎兵ト輜重兵トノ教練ヲ見マスノニ、最初入營當時ハ無論——白紙的ノ兵デアリマスカラ、馬マデモ素人ト云フコトヲ知ッテ容易ニ柔順ニシナイ、ソレヲデスナ、上官ハ大喝一聲、馬一匹ヲ自由自在ニ使フコトノ出來ヌヤウナ者ガ、大切ナル軍務ガ勤マルカ、斯ウ云フ事マデ言ウテ叱リ飛バス、ソレデ兵士ハ同一行動ヲ屢〻反覆シテヤル、所ガ馬モ無論感情ヲ有ッテ居ル物デアリマスカラ、馬マデモ遂ニハ怒ッテカラニ、益〻其兵士ノ命ニ從ハヌト云フヤウナ有樣ヲ見マシタ、是等モデス、餘リ性急ニ劃一的ニ教育ヲセントスル所ノ一ツノ弊害デアルト思フ、ソレデ兵營ニ於ケル教育ナルモノハ、兵卒ノ個性、此個性ト云フモノ、觀察研究ト云フコトヲ第一著ニセヌト云フコトナラバ、專ロ教官ニナル所ノ資格ハ無イモノト私ハ思フ、是等ノ事ハ、入營當時ノ兵ハ種々ノ感想ヲ懷キマシテ、人生ニ徵兵程無情冷酷ナモノハ無イ斯ウ云フヤウナ考ヲ持チマスガ、其事ヲ家庭ナリ、或ハ親戚友人等ニ通信ヲスル、親ヤ兄弟ハソレヲ見テ泣キ、妻ハ哭スル、又自分ノ弟ナドニ、ドウゾ兵隊ニハナラヌヤウニシテ下サイト云フコトヲ、地方ノ者ニ通信スルト云フコトモ是モ事實デアリマス、斯ウ云フ事ガ世間ニ流傳致シマシテ、徵兵忌避トナリ、延テハ思想ノ問題トナリ、遂ニ此危險ノ思想ト惡化スルヤウナ虞ガアラウト思ッテ、是ニ於テ軍隊ニ於テハ、從來ノ教育ノ方針ハ餘程改善ヲセラレネバイカヌト思ヒマスガ、當局ノ御意思果シテ如何、是ハ澤山アリマスカラ一二點拔カシマセウ、第三問ト致シマシテ、外出及歸鄉ヲ寬大ニシテ貰ヒタイト云フ問題デアリマス、軍隊ニ於テハ下士卒ニ極端ニ拘束ヲ加ヘテ、是デ教育ノ要義ヲ得タリトシテアリマスケレドモガ、是ハ甚ダ私ガ間違デハアルマイカト思フ、又將校ニ依リテハデスナ、國民ノ子弟ヲ一種ノ器具カナドノヤウニ思ウテ、甚ダ冷酷ニ扱ッテ居ル、ソレハ外出ヲセネバ、惡イ所ノ風ガ感染ヲシナイト云フノデ、殆ド囚人ヲ見タ如ク、管内ヨリ出サヌ主義ヲ執ッテ居ルノデス、是ハデスナ、丁度例ヘテ申セバ物ヲ食ハネバ、胃腸病ガ起ラヌト斯ウ云フヤウナノト同ジ論法デハアルマイカト思フ、感情ノ人間ヲサウ箱入育テニスルト云フコトハ甚ダ宜クナイ、ソレデ此考ヲ持ッテ居ル人ハ、私ハ人生觀ノ半面ヲ知ラザル者ヲ云フコトデアラウト思フ、ソレガ故ニ市立トカ或ハ農繁期、斯ウ云フ所ニハ成ルベク一定ノ期間ヲ與ヘテ歸鄉ヲサシテヤルト云フコトガ、最モ適當ナル所謂軍隊ノ教育ノ方針デハナイカト思フ、佛國デハ夙ニ此方法ヲ講ジツヽアルト云フコトハ、是ハ諸君モ御承知、又獨逸ハ御承知ノ如ク、國家ノ存亡ヲ賭シテ爭ヒマシタ所ノ彼ノ戰爭中デモ、戰後ノ民力補塡上必要デアルトシテ、有配偶者ハ一定ノ期間ヲ與ヘテ歸鄉ヲサシテ居ル、是等ヲ以テ考ヘマスルトデスナ、私ハ獨逸ハ遠キ慮アリト云フコトヲ想ヒ浮ベマス、ソレデ私ハ我國ノ軍隊ニモ言ッテモ古イ昔デアリマセヌガ、兵士ニ褒賞休暇ト云フモノヲ與ヘテ、或ル期間ヲ定メテ、歸シテ居タ時代ガアリマスガ、サウ云フ事ヲ復活シテ以テ、入營者ノ所謂情操ヲ尊重シ、情操ヲ涵養シテヤルコトモ必要ダラウト思フ、唯ダ軍隊ハ特殊教育トカ、形式的ノ教育、是ダ

ケノモノデナイ、無論情操ト云フ事ノ教育モシテヤラナケレバナラヌト思フ、ソレカラ第四點ニ行キマス、是ハ下士卒ノ給料及恩給デス、之ヲ増額スルト云フ問題デアリマス、現在我國下士卒ノ給料ハ――兵卒カラ先キニ申シマス、一箇月ノ現在給料ガ、一二等卒ガ一圓五十六錢、之ニ六割五分ノ臨時手當トシテ合計二圓五十七錢餘、九年度ニハ是ガ三圓六十錢トナッテ居リマス、上等兵ガ一圓九十五錢、之ニ六割五分ノ臨時手當ヲ増シマシテ、合計三圓二十二錢程ニナッテ居ル、是ガ九年度ニハ四圓五十錢此物價騰貴生活ノ壓迫ヲ爲シッ、アル今日ニ於テ、此一二等卒デモ一日現在ニ於テハ、十錢ニ足ラヌダケノ給料デハ、到底軍隊ニ於テ生活ガ出來ナイ、御承知ノ如ク多クノ兵士ニハ、勞働者ガ餘計合格スル、是ハ勞働ヲシテ身體ガ强健ナル者ノ、卽チ身體ヲ鍛錬シタ者ガ多イカラ、隨テ斯ウ云フ者ガ合格スルノガ多イ、ソレデ多クハ無資產階級ノ者ガ合格スル、是等ノ者ハ財政上ニ於テ餘裕ガ無イカラ、入營中ニ於テモ小遣錢ガ要レバ、必ズ家庭ニ送金ヲ要求シテ來ル、所ガ資產ノ無イ者デアリマスカラ、家庭ニ於テハ種々ニ苦心ヲシテ、或ハ借金政策ヲシテ以テソレヲ送ッテヤル、ソレカラ其間ニ於テハ、種々ナル弊害モ起リ、又中ニハ實ニ悲劇ダト思フ事ガアリマス、血稅ヲ拂ッタモノヲ、其上又金迄相當ナ金ヲ出セ、而モ其者ガ資產ノ無イ者カラ出サセルト云フコトハ、一層ノ窮窟デアルト云フコトハ是ハ明カデアル、是等ノ者ニ何トカシテ今少シ餘計ニ給料ヲヤリマセヌト、軍隊ニ於テ生活シテ行ケナイ、封建時代ノ者ハ足輕以上ノ者ハ、士族ト云フ籍ヲ皆ナ貰ッテ、精神上ニモ社會的ニモ、非常ナ優遇ヲ受ケテ居ル、然ルニ今日ノ兵ハソレダケノ社會的ニ國家的ニ認メテ居ラレルカト云フト、サウデナイノミナラズ、家庭カラ小遣錢マデ送ッテ貰ハナケレバナラヌト云フ現狀デハ、果シテ自分ガ國家ニ盡ス所ノ最大義務ナリト自覺ヲシテ居リマシヤウケレドモ、物質上ニ於テ非常ナル悲慘ヲ見ナケレバナラヌト云フ事ニナル、是等ノ事ニ就テ、政府當局ハドウ云フ考ヲ持ッテ居ラレルカト云フコトヲ一ツ御尋ヲ致シマス、第五點トシテ免役稅ノ賦課ヲシテ貰ヒタイ、軍人ヲ優遇スル所ノ財源ト致シマシテ、私ノ考ニハ免役稅ヲ徵收シテ、此金ヲ以テ成ルベク兵士ノ優遇ノ費用ニ充テタラ適當ダラウ、ソレハ兵ノ抽籤免レ、若クバ補充兵、斯ウ云フ者ヲ假リニ二箇年位在營シタモノトシテ、サウシテ其者ニ免役ノ稅ヲ課ケル、是ガ働盛リノ青年ガ入營致シマスルト、其中ニハ一家ノ經濟上ニ非常ニ打擊ヲ受ケル、ソレニ加ヘテ入營中ニ多額ノ金錢迄モ使ウ、サウシテ一朝事有ル時ニハ身ヲ鴻毛ノ輕キニ比シテ、マルデ命ヲ的ニシテ出ナケレバナラヌ、是ガ唯ダ一遍ノ一六ノ抽籤デ幸ト不幸ニ分レマシテ、抽籤ニ外レタ者ハ、是ダケノ苦痛ヲ更ニ感ジナイト云フコトハ、實ニ國民トシテソレヲ傍觀スルト云フコトハ、甚ダ無情冷酷デアラウ、ソレデ入營スル者ニ對シテ、他人ヨリ祝ヲ言ハレテモ、其家族ノ者等ハ、口デハソレハ立派ニ國家ニ盡ス所ノ最大ナル任務ヲ、自分ノ子弟ガ其任ニ當ルト云フコトハ、實ニ私モ仕合ナ者デアリマス、斯ウ云フコトヲ言ッテ居リマスケレドモ、心ノ中デハ泣イテ居ルコトガ事實デアリマス、是ガ斯ウ申シマスノガ、詰マリ僞ハラズ飾ラザル所ノ私ハ告白ダト思フ、セメテ家庭ヨリ送金ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ窮窟ナ所謂無情ナ遣方ヲセズニ、此免役稅ナルモノヲ取ッテ以テ財源ノ一ツトシテ、十分ナル優遇ヲスルト云フコトガ、軍人ニ對スル所ノ適切ナル方法ナリト私ハ信ジテ居リマス、然ル所當局ノ人ハ、元來徵兵ナルモノハ血稅デアル、ソレヲ金錢ニ換フベキモノデハナイ是ハ私モ同論デアリマス、併シ是ハ免役稅ヲ出セバ、徵兵ヲ免除シテヤルト云フノデナイ、ソレトハ私ノ申シマスノハ意味ガ違フ抽籤ニ外レタ者ガ免役稅ヲ出シテ、サウシテ自分ノ代リニ出テ貰ッタ人ダト云フヤウナ考ヲ持タセルコトハ、國民ノ同情性ヲ養フ上ニ於テモ最モ必要ダト云フコトヲ感シテ居ル、第六問ト致シマシテ、此問題ハ重大ナル問題デアリマスカ、勤務演習ノ廢止是ハ被教育者ノ既習ノ觀念ヲ再生サスト云フコトニ付テ、演習トカ講習トカ云フコトハ、是ハ一面カラ考ヘマスレバ最モ必要ナ事デアリマス、所ガ此勤務演習ノ實況ヲ觀察致シマスト、精神的ニ何等喚起スルコトハ無イ、斯ウ云フコトヲ私ハ痛切ニ感ジテ居ル、ソレデ此勤務演習ナルモノハ、國家經濟ニモ影響シ、個人經濟ニモ大ナル影響ガアル事デゴザイマスカラ、是ガ餘リ效果ノ無イモノトスレバ、私ハ廢シタ方ガ宜イ今日我國ノ現狀ヲ見マスルト、徵兵檢査マデハ多クノ人ガ無配偶者デアリマス、特別ノ事情ノ無イ限リハ配偶者ヲ求メマセヌ、所ガ現役ヲ了ッテ歸リマスト、配偶者ヲ求メテ家庭ノ中堅トナリ、或ハ別家庭ヲ作ッテ生計ヲ營ムノガ一般ノ狀況デアリマス、又人

ニ依リマシテハ、事業界ニ相當ノ資金ヲ投ジテ事業ヲスル人モアル、斯ウ云フ人ガデス、勤務演習ニ召集セラルヽト云フト甚ダ迷惑ニ感ズル人ガデアリマス、ソレモ大ナル效果有レバ議論ハアリマセヌケレドモ、餘リソノ效果ガ無イ、寧ロ兵士其者ハ勤務演習ヲ非常ニ厄介ニ思ッテ居ル、事業家ノ如キハ、自分ノ出テ居ル間ハ代理者モ入レラレヌ、又代理者デハ出來ナイ仕事ガアル、一日ニ二十圓ヤ三十圓ノ金ヲ出シテモ金デ此勤務演習ガ免レラレルナラバ、私ハ此ノ勤務演習ヲ免レテ貰ヒタイト云フノガ多クアラウト思フ、サウナリマストホンノ形式的ニヤルコトデアッテ、精神上ニ於テハ何等ノ觀念再生ニハナラナイ、效果ヲ認メルコトハ出來ナイ、ソレ故ニ私ハ勤務演習ハ廢セラレタラドウカ現ニ海軍ハ別ニ勤務演習ト云フモノガ、今日ノ規定ニ於テ見マスルト無イヤウニ思ハレル陸軍ノ方デアルト、歩兵ハ二年目、四年目ニ三週間、ソレカラ騎兵、砲兵、工兵、輜重兵ハ三年目ニ三週間、後備トナッテ歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵トモ第二年目第五年目ニ三週間、此位ノ事ニナッテ居ル、是等ニ於テハ唯今申シマシタヤウナ、家庭ヲ持ッテ居ル者トシテハ非常ニ窮窟ヲ感ズル、效果ガ有レバ別問題、サウシテ陸軍ト海軍トニ於テ權衡ガ取レナイ、勿論海軍ハ海事上ノ習練ヲ要スルカラ、無論現役ノ年數モ長クアリマスケレドモ論理ニ於テハ同一樣デナケレバナラヌ、又私ハ騎兵、或ハ輜重兵ノ演習ヲ見テ一層不可思議ニ感ズル、騎兵輜重兵ナルモノガ演習ニ出テモ、現役兵ガ馬ヲ使ッテ居ルカラ、馬無シニ長イ靴ヲ穿イテベッタリベッタリ歩イテ居ル、ソレガ一朝事有ル時ニハ、馬ニ乘ッテ働ヲシナケレバナラヌ、ドウモ是ハ寧ロ滑稽デナイカト思フ、是ガ故ニ私ハ勤務演習ヲ廢セラレテハ如何ト云フコトヲ、痛切ニ叫ブ一人デアリマス、ソレカラ第七問ト致シマシテ、簡閲點呼、之ヲモウ少シ有意義ナラシメルヤウニシテ貰ヒタイ、今日行ハレル所ノ在郷軍人ノ簡閲點呼ト云フモノハ、全然形式的ノモノデアッテ效果ヲ認メルコトハ出來マセヌ、ソレデ在郷ニ於ケル教育兵ガ、未教育兵ヲ年々春、秋二季、或ハ春夏秋冬ノ四季デモ宜シウゴサイマス、其間ニ或ル數日間ヲ決メテ、其者ニ兵式ノ體操、或ハ射擊、斯ウ云フヤウナ者ヲ教ヘサセルソレデ私ノ意見トシマシテハ、我國ノ男子デアッテ、不具癈疾ニ非ラザル限リハ、總テ兵ノ教育ヲ受ケサセル、在郷ニ於テ兵ノ教育ヲ受ケサセルコトニナレバ、所謂國民皆兵ノ主義モ極メテ徹底スルコトニナル、現在行ハレテ居ル所ノ簡閲點呼ハ、奉公袋ト云フモノヲ提ゲサセテ、唯ダ一日若クハ半日間ニ種々ナ常識的ナ質問ヲ試ミル、サウシテ駈足或ハ徒歩ヲサセラレルト云フ位ノコトニ止マッテ居ル、甚ダ私ハ意義ヲ爲サヌト思フ、ソレデ私ガ申シマスノハ、此義務演習ヲ止メテ此軍事的錬磨——教育ヲ受ケタ兵ガ、未教育ノ者ヲ教ヘテヤル、勿論是ハ兵ノ種類ニ依リマスケレドモガ、多クハ此射擊ニ兵式體操ト云フヤウナ事ヲヤラセルト云フコトハ、是ハ必要デアル、此成績ヲ點呼スルト云フコトニナリマスレバ、全國各市町村トモ、在郷ノ軍人ハ競爭的ニ其事柄ヲ研究錬磨スルト云フコトモ、是亦明カナル所ノ事柄デアル、故ニ此勤務演習ヲ廢シテ、之ニ代フルニ第七問ニ問ウタ所ノ、簡閲點呼ト云フコトヲ有意義ニシテ貰ヒタイト云フノガ此意味デアリマス、終リニ一言致シテ置キマス、我陛下ニモ軍隊ハ股肱ト賴マセラレテ、又是ハ國家ノ柱石國家ノ干城デアリマス、其者ニ今日ノヤウナ軍制ヲ何時迄モ改革セズニ置イテ、時代遲レノ軍制ヲ其儘ニ服從ヲサセルト云フコトハ、他カラ危險思想ガ入ルノヂヤナイ、寧ロ軍隊ニ危險思想ナルモノガ釀サレテハナラヌ、斯ウ云フコトヲ私ハ國家ヲ念ヒ、國民ヲ念フ所ノ忠誠ヨリ此事ヲ御尋シタイト思フ、決シテ之ヲ誤解シテ聽イテ貰ウテハナラヌ、論難誹譏ヲスル爲メニ私ハ質問ヲ致スノデハアリマセヌ、故ニ當局者ハ速ニ御答ヲシテ戴ク必要ガアリマセヌ、十分此事ニ就テハ御考慮ヲ下サレ、御研究ヲ下サッテ、國民ノ滿足スル御答辯ヲ得タイト云フコトヲ痛切ニ御願ヲ致シマス次第デアリマス、之ヲ以テ此壇ヲ降リマス

之ニ對シテハ解散當日迄何等ノ答辯ニ接セサリキ

九　呂運亨等禁苑拜觀ニ付原總理大臣ノ答辯ニ關スル質問

朝鮮人呂運亨一行ノ者ノ離宮禁苑拜觀ニ付大正九年二月三日午後三時衆議院豫算委員會第三分科會ニ於テ恐懼ノ感アルヤ否ヤヲ訊シタルニ原總理大臣ハ「私ハ何モ感ジテ居リマセヌ」トノ答

辯ヲ爲シ翌四日午前十時二十分貴族院本會議ニ於テハ內務大臣ノ答辯ヲ取消シ更ニ「恐悚(悚ハ卽チ懼ナリ)ノ至ニ堪ヘマセヌ」ト陳述シタリ若衆議院ニ於ケル答辯信實ナラハ貴族院ノ陳述ハ虛僞ナリ果シテ何レカ眞ナリヤ

九年二月五日山道襄一君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ其ノ趣旨辯明及答辯共ニナカリキ

一〇　西伯利出兵ニ關スル質問

一　我カ政府ハ「チエック、スロヴアック」救援問題ノ起レル以前ヨリ西伯利ニ出兵セムト欲シ英米政府ニ交渉シタリ當時ノ出兵目的ハ何レニ在リシ乎(是ハ前內閣時代ノ事ナレトモ主トシテ之ヲ主張シタル參謀總長其ノ他ノ軍事官憲尙在職ナレハ政府ハ之ニ答辯スルノ義務アリト信ス)

二　米國政府ヨリ「チエック、スロヴアック」救援ノ爲略ホ同數ノ出兵(七千人)ヲ交渉シ來ルヤ我カ政府ハ直ニ之ヲ應諾シ交渉兵數ノ約十倍(七萬)ヲ西伯利及其ノ附近ニ派遣シ以テ我カ外交ノ信用ヲ傷ケタリ(石井駐米大使辭職ノ一因ハ此ニ在リト想ハル)政府ハ何ノ必要在リテ此ノ如ク多數ノ兵員ヲ出シ背信違約ノ議ヲ買ヘルヤ

三　其ノ後幾何モナク約半數ノ兵員ヲ撤退シタリ此ノ兵員カ俄ニ不要ト爲レル事實如何

四　不要ト爲レルニハ非サレトモ他ノ理由ノ爲ニ撤退シタリトセハ其ノ理由如何

五　「チエック、スロヴアック」ノ救援ハ米國ノ提議ニ基ケルモノニシテ我カ國ハ該民族ト特別ノ關係アルニ非ス然ルニ提議者タル米國政府ハ既ニ救援ノ目的ヲ達成シタリト聲明シテ撤兵ニ著手セルニ之カ贊成者タル我カ政府ハ撤兵ノ時期スラ未タ決定セサル其ノ理由如何

六　大正七年八月內閣各大臣連署ノ告示ニ依レハ出兵ノ目的ハ唯「チエック、スロヴアック」ヲ救援スルニ在リ故ニ此ノ目的サヘ達成スレハ直ニ撤スヘキ旨ヲ明記セリ然ルニ今日尙未タ撤兵ヲ決定セサルハ此ノ宣言ニ違背スル所ナキ乎

七　別ニ駐兵ヲ必要トスル所ノ明白ナル理由ナキニ徒ニ撤兵ヲ遷延スルハ愈列國ヲシテ我カ西伯利政策ニ對シ疑惑ヲ增加セシメ以テ帝國ヲ孤立セシムル原因トハ爲ラサル乎

八　我カ西伯利出兵ハ日獨戰爭ノ一部分ナルコト辯ヲ待タス故ニ平和條約既ニ御批准濟ト爲リタル以上ハ速ニ撤兵ニ著手スルヲ至當トス然ルニ啻ニ之ニ著手セサルノミナラス却テ增兵シタルハ平和克復ノ大詔ニ背戾スル所ノ擧動ニハ非サル乎

九　彼ノ臨時事件費ナルモノハ日獨戰爭費ナルカ故之ヲ他ノ經費ニ充當スヘカラサルコト勿論ナリ平和克復後ト雖西伯利撤兵費ニハ之ヲ充當シ得ヘキモ之ヲ駐兵增兵等ノ費用ニ充當ス

ルハ法令違反ニ非サル乎

十 日獨戰爭終結後西伯利ニ向テ軍事行動ヲ爲サムト欲セハ新ニ　大詔ヲ奏請シテ其ノ目的ヲ中外ニ宣明シ又特別豫算ヲ提出シテ議會ノ協贊ヲ求メサルヘカラス然ルニ其ノ目的ヲモ宣明セスシテ無慮四萬ノ軍隊ヲ西伯利ノ氷雪ニ曝露シ我カ忠良ナル臣民ヲシテ目的不明ノ戰鬪ニ慘死セシム是レ獨リ違憲違法ノ施爲タルニ止ラス實ニ帝國ノ威信ヲ中外ニ失墜スル所以ナリト信ス政府ノ所見如何

十一 何レノ國人タルヲ問ハス國内ノ紛爭ニ外國ノ援助ヲ歡迎スルカ如キ者ハ忠良ナル臣民ニ非ス我カ政府カ此ノ如キ人物ヲ援助スルノ結果遂ニ忠良ナル露國人民全部ノ反感ヲ買フニ至ルハ必然ノ理勢ナリ現ニ過激派タルト反過激派タルヲ問ハス(一部少數ノ賣國的人物ヲ除ケハ)露人多クハ帝國ノ撤兵ヲ希望スルニ非スヤ政府ハ全露人民ノ敵意ヲ買フモ尙駐兵ヲ以テ帝國ノ利益ナリト思惟スル乎

十二 軍事行動ノ結果トシテ假令西伯利地方ニ多少ノ利權ヲ獲得スルモ多數ノ良民ヲ敵トシテハ何等ノ利益ナキニ非スヤ然ルモ尙政府ハ利權獲得ヲ以テ出兵ノ浪費ヲ償ヒ得ヘシト信スル乎

十三 帝國出兵ノ目的若私利私益ニ在ラスシテ純粹ナル正義人道ニ在リト謂ハハ何故ニ其ノ浪

費ノ半額丈ニテモ(出兵費ハ忽チ三億圓以上ニ達スヘク一朝全露ヲ敵トスルニ至ラハ幾十億圓ニ達セムモ未タ豫測スヘカラス)之ヲ物資ノ義捐的供給ニ使用セサリシヤ

十四 政府初ヨリ右ノ方針ヲ取ラハ露人ハ皆帝國ヲ德トシ今日ノ敵視狀態ト正反對ノ結果ヲ生セムコト疑ヲ容レス然ルニ政府カ之ヲ取ラスシテ彼ヲ取リ巨大ノ浪費ヲ擲チテ却テ露人多數ノ憤怨ヲ買フニ至レル理由如何

十五 政府ハ時ニ口ヲ居留邦人ノ保護ニ藉ルト雖西伯利居留邦人ノ事業ハ幾億圓ノ軍事費ヲ擲チテモ尙保護セサルヘカラサル程ノ價値アル乎其ノ生命財產若危殆ニ瀕セハ寧ロ引揚ヲ命スル方得策ナラサル乎

十六 今日ノ形勢ヲ以テ推移スレハ帝國ハ遂ニ全露人民ヲ敵トシ之ト開戰シタルト同樣ノ結果ニ到著スヘシ政府ハ　陛下ノ詔勅ヲモ仰カス議會ノ協贊ヲモ求メスシテ斯ク重大ナル結果ヲ生スヘキ軍事行動ヲ爲スモ差支ナシト思考スル乎

十七 從來政府ハ我カ西伯利出兵ニ關シ或ハ過激派討伐ト云ヒ或ハ「チエック」救援ト說キ或ハ鐵路保護ト稱シ或ハ過激思想防遏ト唱ヘ隨時隨處其ノ說ヲ異ニシタリ政府ハ明白直截ニ其ノ目的ヲ宣言シ出征軍隊ヲシテ其ノ歸向スル所ヲ知ラシムルト同時ニ中外ノ疑惑ヲ解クヲ以テ政府當然ノ責務トハ心得サルヤ

十八　政府ハ常ニ與國協調ノ必要ヲ口ニスレトモ英米ハ西伯利ヨリ撤兵シ我カ軍獨リ殘留シテ露國上下ノ憤怨ヲ買フ事實此ノ如キモ政府ハ尚協調ヲ保チ得タリト信スル乎

九年二月九日尾崎行雄君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ其ノ趣旨辯明及答辯共ニナカリキ

一一　警察官ノ暴行ニ關スル質問

一大正九年二月十一日紀元節ノ佳辰ヲトシ民衆ノ爲シタル普通選擧促進ノ運動ニ當リ警察官吏ハ民衆ニ對シ左ノ暴行並陵虐ノ行爲アリタリ

(一)日比谷公園音樂堂附近ニ於テ衆議院議員田中善立氏ニ對シ同氏ノ襟元ヲ捉ヘテ暴行ヲ爲シタリ

(二)立憲政友會本部ヲ保護セル警察官ハ立憲勞働黨員山口正憲氏カ政友會本部内ニ潛メル壯士ノ爲二十餘箇所ノ傷害ヲ加ヘラレタルニ拘ラス之ヲ保護セサルノミナラス却テ傷害ノ機會ヲ與ヘタリ

(三)右民衆ヲ拘引スルニ當リ警察官ハ徒ラニ之ニ陵虐ヲ加ヘ甚シキニ至リテハ狀況視察ノ爲出張セル新聞記者ニ對シテスラ暴行ヲ加ヘ悲鳴各所ニ起ルノ非違アリタリ

以上ノ事實ハ啻ニ吾人ノ之ヲ見聞セルノミナラス各新聞紙ノ保證スル所ナリトス政府ノ辯明如何

一由來民衆ヲ保護スヘキ任務アル警察官ニシテ常ニ民衆ノ爲ニ仇敵視セラルルノ事實アルハ右等ノ事情ニ胚胎スルモノト謂ハサルヘカラス政府ノ所見如何

九年二月十二日森田茂君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十四日之ヲ日程ニ掲載シタルモ提出者ヨリ趣旨辯明省略ノ申出アリタルヲ以テ日程ヨリ之ヲ除去シタリ而シテ之ニ對シテハ解散當日迄何等ノ答辯ニ接セサリキ

一二　内務大臣ノ言責ニ關スル質問

大正八年三月十三日本院都市計畫法案委員會ニ於テ床次内務大臣カ爲セル答辯ヲ眞實ナリトセハ大正八年四月十八日愛知縣知事ニ對シ同縣令第三十五號ノ公布ヲ認可セシハ政治的德義ヲ無視シタルモノト認メサル能ハス其ノ理由左ノ如シ

第一　都市計畫法案委員會ニ於ケル床次内務大臣ノ答辯

委員會速記錄(第四十一回帝國議會衆議院)

一、大正八年三月十三日午前九時五分開議、都市計畫法　委員會第二回ニ於テ委員小山松壽

ノ質問

（前略）其ノ次ニ風紀ノ問題デアリマスガ是ハ計畫法第十條第二項ニ風致又ハ斯フ云フコトガアリマス特ニ地區ヲ指定スルト云フコトモ定メテアルノデアリマスガ此事ニ就テ私ハ一二ト別ケテ置キマスガ第一ハ遊廓地區ノ事ニ致シテ大體ノ御方針ヲ承リタイト思ヒマス

（中略）能ク間違ッテ起リマスノハ所謂遊廓移轉問題デアル是等ニ對シテハ先頃大坂ニモ大分問題ガアッタヤウデアリマス又自分ノ所ヲ言ヒマシテ甚ダ恐縮デアリマスガ名古屋ノ如キモ彼レガ爲メニ大ナル疑獄ヲ起シマシテ知事、市長、財界ノ巨頭アタリガ之ニ依ッテ囚ハレノ身トナッタヤウノコトモアリマス此問題ハ凡ソノ御方針ノ御定メガゴザイマセウト思ヒマスカラ之ヲ伺ッテ見タイト思ヒマス（後略）

床次內務大臣答辯　（前略）……ソレカラ娯樂地其ノ他遊廓若クハ藝者屋業ト云フヤウナ風紀娯樂ニ關スルモノモ其區域ヲ設定シヤウト云フ時分ニハ大體是ハ矢張能ク都市計畫委員會アタリデ議論サレルガ良クハナイカト思ッテ居リマス遊廓地域ノ如キハ一方警察取締ノ關係モアリマスガ是ハ從來カラ定メラレテ居ル地區モアルモノデスカラ獨リサウ云フ地區ノ問題ハ遊廓地許リデハアリマセヌ娯樂地ニシテモ住宅ニ致シマシテモ重大ナル關係ノアルコトデ此ノ計畫法ガ出來タカラト云ッテ全ク新シイ土地ニ持ッテ行ッテ勝手次第ニ計畫ナドヲ致スト云フノハ違ヒマスカラ甚ダシク經濟ナリ其他ニ付民ノ迷惑ニナルヤウナコトヲ一氣呵成ニヤルト云フヤウナコトハ餘程考慮ヲシナケレバナルマイト思ヒマス其邊ノ事ハ唯〻內務ノ當局者ガ單純ニ考ヘマスルヨリハ能ク都市計畫委員會アタリニ於テ議論ヲ盡サレルガ良クハナイカト思ッテ居ルノデアリマズ（後略）

一、同年同月同日午後一時十九分開議同上委員會ニ於テ小山委員質問　午前ニ內務大臣ニ御尋ネ致シマシタ風致地區ニ依リテ起ッテ參リマスル問題風紀問題ノ二ツヲ擧ゲテ御尋ネシマシタコトニ對スル御答辯ニ依ッテ了解スル所ニ依レバ此問題ハ其地方ノ舊慣歷史等ニモ關係シ及ビ其地方ノ盛衰、地價ノ騰落ニモ關係スルト云フヤウナ事情ガアル斯樣ナ御答辯ヲ

得マシタ譯デアリマス從ッテ是等ノ問題ニ對シマシテ本法ニ倣ッテ設ケラレタル所ノ都市計畫委員會等ノ議ヲ經マシテ其意見ニ基キマシテ命令ヲスルト云フコトノ御意見ニ了解シテ置イテ宜カラウト思フテ居リマス（中略）此點ハ唯今申述ベマシタ通リト了解致シテ置イテ差支ナイト心得マスルガ尙此通リデアルト云フ御答ヲ得マシタナラバ滿足致スノデアリマス（後略）

內務大臣答辯　風紀ノ爲ニスル地區ノ問題ニ就テ最初ニ御話ガアリマシタガ第十條ノ二項ニ必要ナレバ地區ヲ指定スルコトヲ得トアリマスガ自然サウ云フ場合ニハ都市計畫ノ審議ニ上ル譯デアリマス（後略）

右答辯ニ依レハ內務大臣ハ將來都市ニ於ケル風紀地區ノ設定ニ就テハ都市計畫法ニ依リ計畫委員會ニ於テ論議サルヘキヲ當然ナリト言明シタルナリ

當時都市計畫法ハ猶本院ノ審議中ニ屬スルヲ以テ其ノ成法トナルヤ否未定ナリト雖之ト同性質同權限ヲ有スル名古屋市區改正委員會ハ既ニ成立シアリタルモノナレハ內務大臣ニシテ言責ヲ重スル以上愛知縣知事カ名古屋市ノ風紀地帶ヲ變更セムトスル縣令公布ノ認可ヲ與フルニ當リ市區改正委員會ニ諮ルコト當ニ同年十二月鐵道院カ名古屋停車場ノ位置及設計ノ變更ヲ企ツルニ當リテ市區改正委員會ノ論議ヲ經タルカ如クセサルヘカラス況ヤ愛知縣令第三十五號中名古屋市貸座敷營業地域變更ノ件ニ關シテハ次ニ示スカ如ク十年來紛糾セル幾多ノ問題ノ附隨纏綿セル宿題タルニ於テハ其ノ決定ニ敢テ一日一箇月モ猶豫スルコト能ハサル事情ノ發生セサル限リ內務大臣ハ自己ノ言明ニ鑑ミ都市計畫法ノ通過及同委員會ノ成立ヲ待テ之ヲ論議セシムヘキ

モノナリト信ス然ルニ事此ニ出テス僅ニ月餘ヲ經テ愛知縣知事ノ縣令公布ノ申請ヲ認可セルハ本院委員會ニ於ケル言明ヲ無視シ且政治的德義ニ背クモノトセサル能ハサルナリ敢テ內務大臣ノ答辯ヲ求メムト欲ス

愛知縣令第三十五號

明治三十三年十一月縣令第八十八號貸座敷取締規則中左ノ通改正ス

大正八年四月十八日　愛知縣知事法學博士　松井茂

第一條　貸座敷營業ハ左ニ指定スル地域內ニ限ル

但地域內ト雖場所ニ依リ營業ヲ許可セサルコトアルヘシ

一　愛知郡中村大字日比津大字則武

二　名古屋市南區稻永新田

三　岡崎市中町

四　豐橋市大字瓦町字七反田、大字東田字三反田、字五反田、字南黑福

第二十一條　名古屋市中區常盤町、吾妻町、若松町、花園町、富岡町、音羽町、城代町、東角町及岡崎市傳馬町、板屋町ニ於ケル現在ノ營業者又ハ家督相續ニ因リ其ノ營業ヲ繼續スル者ニ限リ大正十一年四月三十日迄其ノ地域內ニ於テ營業ヲ繼續スルコトヲ得

本問題ノ經過

大正八年四月十八日愛知縣知事ハ縣令第三十五號ヲ以テ名古屋及岡崎兩市ノ貸座敷營業地域變更ノ命令ヲ公布シ現在ノ名古屋遊廓ヲ大正十一年四月三十日限廢止シ愛知郡中村ニ新指定地ヲ設ケラレタリ抑同遊廓ノ廢止移轉ハ多年ノ懸案ニ屬シ明治四十四年十二月十四日提出愛知縣市部縣會ノ意見ニ基キ翌四十五年七月二十二日畏クモ　明治大帝ノ御不豫國民悲哀ノ裡又他事ヲ顧ルノ遑ナキ際突如トシテ同市南區熱田稻永新田ニ移轉ノ縣令ヲ發布シタルニ起因スルモノナルカ其ノ發令ノ縣當局者ハ深野一三氏ニシテ之ヲ認可セシ內務當局ハ即チ今ノ內閣總理大臣兼司法大臣タル原敬氏ナリキ不謹愼ナル發令ニ不正ノ動機ヲ藏スルハ免レサル所果然深野一三氏等ニ關スル疑獄事件起リテ天下ノ耳目ヲ聳動シタルカ發令ノ翌年名古屋市會及愛知縣市部縣會ハ全會一致ヲ以テ該縣令撤廢ノ意見書ヲ提出シ更ニ翌大正三年四月二十二日ニ至リ名古屋市會ハ時代ノ推移ニ徵シ本市現在ノ狀勢ニ鑑ミテ遊廓移轉ノ必要ナキ旨ノ意見書ヲ松井知事及大隈內務大臣ニ提出シタリシカ知事ハ輿論ノ歸嚮ヲ察シ同年六月十七日右ノ延期ヲ命令シタリ然ルニ何等差迫リタル事由及必要ノ發生セリト認メラレサル大正八年四月十八日ニ至リ突如松井愛知縣知事ノ名ヲ以テ再ヒ此ノ如キ縣令ヲ公布セラレタルナリ若强テ該縣令ヲ公布セサルヘカラサル差迫リタル事由ノ發生ヲ求メハ同日ヲ以テ松井知事カ現職ヲ去リテ警察官講習所長ニ轉任セル一事ノミ知事ノ轉任カ遊廓移轉ノ原因タリトハ實ニ解スヘカラサルノ理由ナリト云フヘシ而シテ該縣令ヲ認可セシ內務當局ハ明治四十五年第一次ノ移轉命令發布ヲ認可セル原敬氏ヲ首相ニ仰ク內務大臣床次竹二郎氏ナリ其ノ因緣亦不思議ナリト云ハサルヘカラス

縣令發布ノ手續及其ノ動機

大正八年四月十八日ハ地方官大交迭ノ行ハレシ當日ニシテ遊廓移轉縣令發布ト同日ナルカ這ハ偶然ノ暗合ナリト認ムルヲ得ヘキカ縣知事ハ自己ノ轉任ヲ知ラスト云フヲ得ムモ内務大臣ハ松井知事ノ轉任ヲ前知セスト云フコト能ハス殊ニ松井知事カ轉任ノ公電ヲ接手セシハ十八日午後八時半頃ニシテ縣令發布ノ認可指令電報ハ同日午後十一時頃着信シ夫ヨリ縣公報號外ノ印刷ニ著手シ斯ノ如ク唯僅ニ一時間ノ壽命ヲ有スル斷末魔ノ松井知事ヲシテ重大ナル地方行政ノ處分ヲ決行セシメタルハ無責任至極ニ非スヤ且内務大臣カ知事ニ轉任ノ公電ヲ發シタル後縣令發布認可ノ指令電報ヲ發スルカ如キハ其ノ效力如何ヲ疑ハサルヲ得ス之カ爲ニ次ノ如ク縣令ノ效力ニ關スル行政訴訟ノ提起ヲ見ルニ至レリ

訴　狀

愛知縣岡崎市板屋町貸座敷業平民
原　告　都　築　春　吉
東京市牛込區新小川町三丁目十四番地辯護士
右訴訟代理人　三　木　武　吉
被告愛知縣知事　宮　尾　舜　治

不法縣令無效確認之訴

一定ノ申立

被告ハ原告ニ對シテ大正八年愛知縣令第三十五號貸座敷取締規則改正縣令ノ無效ヲ確認シ之カ取消シヲ爲スヘシトノ御判決相成度候也

事實及理由

一　原告ハ從前來右肩書地ニ於テ貸座敷業ヲ營ミ居ル者ニ候處前愛知縣知事法學博士松井茂氏ノ名ニ依テ大正八年四月十八日附ヲ以テ發表セラレタル同縣令第三十五號第一條第三號及第二十一條ニ依リ大正十一年四月三十日限リ營業ヲ繼續スル能ハサルコトニ相成候

二　右ハ前掲縣令ヲ有效ト見做シテ解釋ニ御座候處原告等ノ探知スル處ニ依レハ右縣令ハ四月十八日附ヲ以テ發表セラレ居ルモ事實ハ同月十九日公布セラレアルモノニシテ同日ハ既ニ前知事松井茂氏ノ同職ヲ退職セラレタル後ニシテ縣令公布ノ權限ヲ有セサルモノタル事諸般ノ事情ニ依リテ明ニシテ事實果シテ然ラハ同縣令ハ明治二十六年愛知縣令第三十二號第一項ニ違反スル不適法ノモノタルコト論ナシト思料致シ候依テ主文ノ如ク御判決相成度此段及出訴候也

證據方法

一口頭辯論ノ際提出可致候也

附屬書類

一訴訟委任狀

右之通及出訴候也

壹　通

行裁判所長官法學博士岡野敬次郎殿　右訴訟代理人　三　木　武　吉

松井知事ハ何故ニ斯ル無責任ノ行動ヲ執ルニ至リシカ之ヲ忖度スルニ苦ムト雖此ノ間單ニ松井知事一己ノ意見ニ出テタルモノト認ムヘカラサルノ點ハ左ノ如シ

第一　松井知事カ大正三年六月縣令第五十號ヲ以テ移轉延期ヲ決行シタル際同知事ハ時ノ内務次官下岡忠治氏ニ對シ現狀維持ノ意見ヲ提出シ同縣令發布ノ認可ヲ得タルモノナリ

第二　大正七年九月十九日卽チ寺内内閣總辭職前二日松井知事ハ佐藤市長ヲ招致シ遊廓移轉

地ヲ中村ニ指定スヘキニ付同意ノ有無ヲ問ヒタル事實アリ前項ニ記スルカ如ク松井知事ハ遊廓地ハ現狀維持ノ意見ナリシニ俄ニ移轉決行ノ意見ニ變セルハ前內閣カ總辭職前ニ何等カ爲ニセムト欲スル意圖ヨリシテ松井知事ヲ壓迫シタルモノト見サルヲ得ス

第三　佐藤名古屋市長ノ發表スル所ニ依レハ當時同市長ハ松井知事ノ提案ニ同意ヲ表セス且內閣總辭職トナリシ爲松井知事ハ移轉決行ヲ見合ハコトトナリ同交涉案件ハ全ク白紙トセラレタシト通告セリ之ヲ以テ見ルモ遊廓問題ニ關シテハ知事ハ其ノ職權ヲ行使スルニ常ニ受動的地位ニ立チ居リシモノナルコトヲ察知シ得ヘキナリ

第四　松井知事カ一旦自ラ白紙ナリト通知シタル案件ヲ僅カ半歲後ニ決行スルニ至リシハ他ニ之ヲ動カシタルモノアリトセサルヘカラス其ノ何人ナルカハ木問題ニ關スル從前ノ歷史ニ鑑ミ之ヲ揣摩スルコト難キニアラサルヘシ

第五　有形的ニ揣摩スヘキ最有力ナル事實ノ一ハ縣令發布ノ當日ニ於テ名古屋土地會社長鈴村岩次郎氏ト本縣選出代議士三輪市太郎氏トノ間ニ取交ハサレタル公正證書ニシテ同證書ハ三輪市太郎氏カ本問題ニ關係アル具體的證據ト見ルヘキモノナリ

第六　三輪市太郎氏ハ當時政友會愛知縣支部長タリシカ本問題ノ起ルヤ同支部ハ三輪氏ノ擧措ヲ以テ支部長ノ名ヲ利用シテ私利ヲ營ムモノト認メテ除名ノ決議ヲ爲シ同氏ハ之ニ先チテ支部長ヲ辭シタリ

第七　松原前愛知縣警察部長ハ縣令發布ノ翌日移轉命令ニ關スル說明ヲ爲シ岡崎市板屋町遊廓ニ關スル一節ニ板屋町遊廓ハ德川家康公ノ誕生地タル岡崎公園ニ接近セルカ故ニ之ヲ移轉セサルヘカラスト云ヒタリ然ルニ名古屋遊廓ヲ豐太閤ノ生誕地タル中村公園ニ最接近スル場所ニ移サムトスルハ同一知事ノ行爲トシテ矛盾極マルモノト云フヘシ此ノ矛盾ハ知事ノ自由意志ニ非スシテ他ヨリノ壓迫ヲ蒙リタルモノナルコトヲ的確ニ證明スルモノナリトス

右ノ具體的事實ハ縣令發布カ松井知事ノ主動的意見ニ基クモノニ非スシテ他動的ナルコトヲ證明スルニ足ルト雖又一面ヨリ觀測スレハ如何ニ政友會支部長ノ名ヲ以テスルモ三輪某一人ノ力ヲ以テ知事ヲ壓迫スルコト能ハサルヘク當時各新聞ノ報スル處ニ依レハ「三輪某ハ土地會社トノ契約ニヨリ僅ニ八千圓(四月一日五千圓同月十八日三千圓)ノ手附金ヲ以テ指定後ノ時價一坪五十圓以上百圓ヲ稱フル土地ヲ一坪十圓(外ニ一坪二圓ノ埋立費)ヲ以テ買受ケ一擧四十萬圓乃至八九十萬圓ノ巨利ヲ壟斷シ云々」「現ニ自分ノ背後ニ有力ナル關係者アリ云々」其ノ他轉載スルヲ憚ルヘキ幾多ノ記事アリ

以上ニ由テ之ヲ觀ルニ一面知事ヲ動カシ一面土地會社ニ試ミタル奇怪ナル事實ト特ニ本問題ニ關スル既往ノ歷史的事實ニ證スレハ政友會トノ因緣蓋一朝夕ニ非サルモノアルニ於テオヤ

移轉地ト周圍トノ關係

新指定地タル愛知郡中村大字日比津大字則武ノ遊廓地トシテノ適否ハ見ル人ニ依リテ見解ヲ異ニスヘシト雖其ノ不適當ナリトセラルル點ハ左ノ如シ

第一　豐太閤生誕地ヲ中心トセル中村公園ヲ距ルコト僅ニ五町ナルハ名譽アル史蹟ニ一大汚點ヲ印スルモノニシテ第四十一議會ヲ通過セル貴族院提出ノ史蹟名勝天然紀念物保存法ノ精神ヲ滅却スルモノナリ

第二　中村公園ハ縣營ニシテ多大ノ資ヲ投シテ其ノ完成ヲ期スル所ナルニモ拘ラス其ノ附近ニ遊廓ヲ設置スルハ清樂休養ヲ主トスル公園ノ完成計畫ニ矛盾スルモノナリ

第三　遊廓新指定地ノ發表セラレタル爲同地附近ノ地價ハ非常ノ暴騰ヲ來シ之カ爲既定計畫ニ屬スル名古屋停車場ノ移轉ニ大打擊ヲ與フルコトトナレリ卽チ停車場移轉費ノ豫算千二百萬圓中用地ノ費約五百萬圓ヲ計上セラレタルモ今ヤ七百萬圓ヲ投スルモ尙所要土地ノ買上ヲ行フコト能ハス事業遂行上憂慮ニ不堪トハ石丸鐵道院副總裁カ名古屋市上京委員ニ言明セル所ナリ果シテ然リトセハ名古屋市ノ實業界ニ及ホス影響頗ル寒心スヘキモノアルヲ以テ同市商業會議所ハ當局ニ對シ末尾ニ添付セル書類ノ如キ意見書ヲ提出スルニ至リタリ

第四　名古屋市ノ西部卽チ今回指定ノ遊廓地一帶ハ都市計畫ノ大勢上工業地帶ニ屬スヘキハ萬人其ノ見ル所ヲ一ニスルカ故ニ縣當局ハ大正七年二月此ノ地帶ヲ貫通スル中川運河ノ設計ヲ發表シ近藤廉平男其ノ他民間有力者ニ投資ヲ勸誘シタルカ同設計ニ依レハ同運河ノ第六船溜ハ今回指定サレタル遊廓敷地ニ相當セリ工業地帶ト遊廓地帶ノ重複ヲ見ルカ如キハ如何ニ其ノ詮議ノ孟浪杜撰ナリシカヲ察スヘキモノナルト同時ニ知事ノ自動的意志ニ非サルヲ窺ヒ知ルヘキナリ

風紀地帶ニ關スル內務大臣ノ言質

四月十八日遊廓移轉縣令ノ發布セラルルヤ名古屋市會ハ直ニ緊急市會ヲ開キテ滿場一致左ノ如キ意見書ノ提出ヲ決議セリ

意見書

貸座敷營業地域ノ決定ハ都市計畫施設ノ一ニシテ其ノ關係重大ナレハ須ラク相當機關ニ依リ愼重ナル審議ヲ經ルヲ要スルコトハ曩ニ帝國議會ニ於テ都市ニ關スル法律案ノ審議ニ際シ當局大臣ノ言明スル所ナリ然ルニ松井前知事ハ本市都市計畫ノ設計未タ定マラサルニ先チ大正八年四月十八日而モ其ノ更迭ノ瞬間ニ於テ特ニ縣令第三十五號ヲ發シ新ニ之レカ地域ヲ定メ且現在ノ地域ニ於ケル營業繼續期限ヲ設ケタル行爲ハ啻ニ大臣ノ言明ト相容レサルノミナラス又本市ノ公益ヲ重ムスル所以ニアラス仍テ右縣令中本市ニ關スル事項ハ速ニ之レヲ取消シ尙本市內所在貸座敷營業地域變更ノ必要アリトセハ其ノ決定ハ未タ必スシモ焦眉ノ急ニ切迫セルモノニアラサレハ本年法律第三十六號都市計畫法ノ施行ヲ待チ其ノ規定ニ從ヒ當該委員會ノ審議ヲ經テ實施セラレムコトヲ望ム

右市制第四十六條ニ依リ意見書ヲ提出ス

大正八年四月二十二日　　名古屋市會議長　大岩勇夫

内務大臣　床次竹二郎殿
愛知縣知事　宮尾舜治殿

本意見書ハ專ラ内務大臣ノ議會ニ於ケル言質ヲ捉ヘ來リテ其ノ言明ト矛盾セル點ヲ力說シタルモノナルカ内務大臣ノ言明ハ前ニ記セル委員會速記錄ニ徵シテ一點ノ疑議ヲ存セス名古屋市選出代議士小山松壽ハ三月ヨリ四月上旬ニ於ケル松井知事ノ身邊雲行ニ當ナラサルヲ察シ遊廓移轉問題ノ伏藏ヲ豫覺セルヲ以テ四月八日知事ヲ訪ヒ松原警察部長同席ノ上遊廓問題如何ヲ質問シタルニ未決ナリトノ答ヲ得タリ而シテ小山松壽カ委員會ノ質疑應答ヲ示シテ内相ノ言明斯ノ如クナル以上近ク成立スヘキ都市計畫委員會ニ諮ルコトナクシテ同問題ヲ處理スルコト不可能ナルヲ說キタルニ同知事ハ頗ル當惑ノ體ニ見ヘ松原警察部長ハ假リニ如何ナル遁辭アリトスルモ政治的德義ニ反スヘシト云ヒタリ這ハ一警察部長ノ言ニ非スシテ何人モ齊シク言ハムト欲スル所ナリ要スルニ松井知事カ其ノ職權ヲ自動的ニ行使シ能ハサリシ跡ハ歷々徵スヘキモノアリ之ヲ看過セハ地方行政ノ紊亂之ヨリ始マリ遂ニ底止スル所ナカルヘシ而シテ事ハ一地方ノ一行政ニ過キサルモ國務大臣カ議會ニ與ヘタル言明ノ責任ヲ無視スルト否トノ重大問題ニ屬ストセサルヘカラサル也

前文參照ノ便宜トシテ左ニ證據書類ヲ添附ス

一風俗改良上一大事業トシテ目下急施スヘキハ市内中區ニ存在スル遊廓移轉是レナリ縣當局ハ已ニ見ル所アリ嚮ニ豐橋遊廓移轉アリ著シク其ノ功績ヲ修ム今又熱田遊廓ノ移轉ヲ決シ來ル明治四十五年三月末日ヲ以テ實行セラレムトス是レ大ニ美擧ト言フ可シ

抑中區遊廓ノ位置ハ風俗改良上ハ論スルマテモナク豐橋熱田遊廓ニ比シ以上甚シク該民家ニ接續スル大道路ハ北ニ南園町南伏見町西ハ洲崎、榎ノ各町アリ東南何レモ民家ニ密接シタル大遊廓ナリ然ルニ縣當局ハ未タ此等ニ耳ヲ傾クルノ餘地アラサリシカ彼ノ小ヲ移轉セシメ大ヲ捨ルノ理ナシ此際銳意勵精適當ノ場所ヲ選ヒ一日モ早ク移轉ノ所置ヲ取リ以テ市内風俗改良ノ本旨ヲ貫徹セシメラレムコトヲ望ム

右府縣制第四十四條ニ依リ此段意見及提出候也

明治四十四年十二月十四日　　愛知縣市部會議長　青山鉞四郎

愛知縣知事　深野一三　殿

縣令第七八號

明治三十三年十一月縣令第八八號貸座敷取締規則中左ノ通改正ス

明治四十五年七月二十二日　　愛知縣知事　深野一三

第一條　貸座敷營業ハ左ニ指定スル地域内ニ限ル

但地域内ト雖場所ニ依リ營業ヲ許可セサルコトアルヘシ

一　名古屋市南區稻永新田

二　額田郡岡崎町大字傳馬大字板屋

三　豐橋市大字瓦町字七反田、大字東田字三反畑、字五反畑字南黑

第二十一條　從來ノ指定地タル名古屋市中區常盤町、吾妻町、若松町、花園町、室岡町、音羽町、城代町、東角町ニ於ケル現在ノ貸座敷營業者（相續ニ依リ營業ヲ繼續スル者ヲ含ム）ニ限リ明治四十九年七月三十一日迄其ノ地域内ニ於テ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條　削除

意見書

明治四十二年三月二十五日愛知縣令第二十八號名古屋市南區熱田傳馬町貸座敷營業者移轉命令竝ニ同市南區稻永新田新設指定命令及明治四十五年七月二十二日愛知縣令第七十八號名古屋市中區常盤町、吾妻町、若松町、花園町、富岡町、音羽町、城代町、東角町ノ地域内ニ於ケル貸座敷營業廢止命令ハ不正ノ動機ニ依リ發令シ而モ該土地ハ不適當ト認ム依テ之カ撤廢セラレムコトヲ望ム

大正二年十月十七日　　名古屋市會議長　井上茂兵衛

愛知縣知事　法學博士松井茂殿

意見書

明治四十五年七月二十二日發布愛知縣令第七十八號貸座敷營業廢止命令ハ事實ニ於テ名古屋市旭遊廓ヲ稻永新田ニ移轉スルノ結果ニ了ラムトス如斯ハ曩ニ本縣會カ提出シタル意見書ノ期待ニ反スル所ナルヲ以テ速ニ該縣令ヲ改廢セラレムコトヲ望ム

右本會ノ意見書及提出候也

大正二年十二月二十四日　　愛知縣市部會議長　青山鉞四郎

愛知縣知事　法學博士松井茂殿

意見書

明治四十五年七月二十二日附愛知縣令第七十八號名古屋市旭遊廓廢止命令ニ對シテハ大正二年十月十七日本市會カ既ニ其ノ意見書ヲ提出シアル如ク本市現在ノ狀勢ニ鑑ミ廢止ノ必要ナシト認ム依テ此ノ主旨ニ於テ更ニ適當ノ發令アラムコトヲ望ム

右市制第四十六條ニ據リ意見書提出候也

大正三年四月二十二日　　名古屋市會議長　井上茂兵衛

愛知縣知事　法學博士松井茂殿

意見書

明治四十五年七月二十二日附愛知縣令第七十八號名古屋市中區常盤町外七箇町ノ貸座敷營業廢止命令ハ本市ノ現狀ニ鑑ミ其ノ必要ナキモノト認ム依テ此ノ主旨ニ於テ相當ノ措置アラムコトヲ切望ス

右市制第四十六條ニ依リ意見書提出候也

大正三年四月二十二日　　名古屋市會議長　井上茂兵衛

内務大臣　伯爵大隈重信殿

縣令第五十號

明治三十三年十一月縣令第八十八號貸座敷取締規則第二十一條ヲ左ノ通改正ス

大正三年六月十七日　　愛知縣知事法學博士　松井茂

第二十一條　從來ノ指定地タル名古屋市中區常盤町、吾妻町、若松町、花園町、富岡町、音羽町、城代町、東角町ニ於ケル現在ノ貸座敷營業者（相續ニ依リ營業ヲ繼續スル者ヲ含ム）ニ限リ當分其ノ地域内ニ於テ營業ヲ繼續スルコトヲ得

但シ前項地域内ニ於ケル營業ヲ禁止スルトキハ三箇年前ニ其ノ期限ヲ定メテ之ヲ發布ス

右ノ内陳述セル營業免許取消訴訟事件ハ大正九年二月十二日行政裁判所ニ於テ原告勝訴ノ言渡アリタリ依テ思フニ凡ソ裁判ノ效力ハ訴訟當事者ヲノミ拘束スルモノナルコトハ勿論ナルモ既ニ同一行政處分ニ依リ其ノ處分ヲ無效ト宣告セラレタル以上ハ其ノ當事者以外ノ營業者ニ對スル縣知事ノ處分モ亦其ノ實質ニ於テ不當無效ナルコト言ヲ俟タサルナリ果シテ然ラハ當局ハ訴訟當事者以外ノ營業者ニ對シテモ自ラ其ノ不當無效ノ行政處分ナルコトヲ認メ其ノ取消ノ手續ヲ爲シ以テ行政處分ノ威信ヲ保持スルノ道ニ出ツヘキヲ妥當ナリト信ス此ノ點ニ關スル當局ノ

所見如何

更ニ按スルニ内務大臣ハ上記ノ結果トシテ當該知事ノ再縣令ノ稟請アリタル場合アリトセハ都市計畫法案委員會ニ於ケル言責ヲ重シ當然該委員會ニ附議シ審議セラルヘシト信スルカ其ノ所信如何

九年二月十三日小山松壽君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ解散當日迄其ノ趣旨辯明及答辯共ニナカリキ

一三　廉賣外米不正事件ニ關スル質問

目下東京地方裁判所豫審部ニ繫屬中ノ渡某外數名ニ係ル東京府廉賣外米不正事件ニ關シ内務大臣並司法大臣ハ左記ノ事項ニ關シ其ノ責任ヲ免レサルモノト思考ス

一東京府外米廉賣ニ關シ　帝室ノ御下賜金ヲ包含セルコトハ天下周知ノ事實也サレハ其ノ局ニ當ル者ハ一層ノ注意ヲ以テ　聖旨ヲ奉體シ苟モ不正ノ行爲アルヘカラサルコトハ多言ヲ要セサル所ナリトス然ルニ取扱ニ當ル者ニシテ此ノ如ク刑事上ノ訴追ヲ受クルニ至リテハ是カ最高監督責任者タル内務大臣ハ何ヲ以テ其ノ陳辯ヲ爲サムトスルカ

一右不正事件檢擧ニ際シ司法當局ハ大正八年二月一日之ヲ不起訴處分ニ付シ同年八月ヨリ十月ニ至リ世論喧囂ヲ極メタルニ拘ラス警視廳ハ之ヲ不問ニ付セムトシタルノミナラス却テ渡某ニ逃走ノ機會ヲ與ヘタルモノノ如シ而シテ最近ニ至リ突如トシテ之ヲ起訴處分ニ付シタルカ如キハ其ノ間司法ノ威信ヲ損スルコト頗ル大ナリ之ニ對スル當局ノ所信如何

右二項ニ關シ當局兩大臣ノ明答ヲ求ム

九年二月十三日田中萬逸君ハ右質問主意書ヲ提出シ四月二十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ東京府ニ於ケル廉賣外米ノ不正事件ニ關シマシテ、内務大臣司法大臣ニ向ッテ聊カ質疑ヲ質シ、其明確ナル答辯ニ接センコトヲ望ムモノデアリマス、元來此廉賣外米不正事件ナルモノハ、其端ヲ寺内内閣ノ末期ニ發シ斯クシテ現内閣ノ初期ニ及ボセル所ノ聖代罕ニ觀ル一大不祥事デアリマシテ、其犯罪發覺ノ時期ハ恰モ大正八年ノ一二月頃卽チ第四十一議會ノ開會中デアリマシテ、原内閣ノ全盛期デアリマシタコトハ申スマデモアリマセヌ、而シテ本件ノ複雜ニシテ且ツ多岐多端ナル、其關係者ト致シテハ、所謂大政治家アリ、官吏アリ、又實業家アリ、新聞記者アリ、府會議員アリ、市會議員アリ、區會議員アリ、勿論犯罪ノ裏面ニ潛ム所ノ女アリ、更ニ醫師アリ、壯士アリト云フガ如キ、社會ノ各階級ニ於ケル所ノ總テノ人人ヲ網羅致シ、是等ノ人ガ恰モ走馬燈ノ如キ大活動ヲ遂ゲテ、ソコニ醜劣ナル所ノ運動トナリ又ハ政黨入黨ノ勸誘トナリ、承諾トナリ、又他ノ一面ニ於キマシテハ、白晝公々然トシテ自動車ヲ飛バシ暴力ヲ以テ婦女子ヲ誘拐スルガ如キ、又ハ之ヲ待合ノ奥深クニ監禁ヲ致シ、種々脅迫ヲ加ヘテ警視廳ニ於ケル所ノ陳辯ハ、事實無根ナリト云フコトニ就テ一札ヲ取ラント强制セシガ如キ、更ニ又病人ニ非ザル者ヲバ

病氣ト稱シテ、病院ノ一室ニ幽閉ヲシ之ヲ監視スル者モ亦病人ト稱シテ、其病院ニ入院ヲ致スガ如キ、恰モ百鬼夜行ノ如キ大暴狀ヲ呈シタ所ノ、實ニ醜惡ナル且ツ醜劣ナル一大怪事件デアリマシテ、單ニ是等ノ事ニ對シマシテモ、社會ノ公安上其筋ニ對シテ聽カネバナラヌ事デアルト信ジマスケレドモ、是等ノ事柄ハ本員ノ問ハント欲スル所ニ、左マデ重大ノ影響ヲ呈シマセヌガ故ニ唯ダ是等ノ事ガ、本員ハ此問題ノ副產物トシテ有ッタト云フ事ノミニ止メテ置イテ其事實ノ陳述ヲ省略致シマス、扨本員ノ問ハント欲スル所卽チ本員ノ怪訝ニ堪ヘザル所ハ、此不正事件ヲ惹起シタル所ノ廉賣外米事件ニハ、畏クモ帝室ノ御下賜金ガ包含セラレ、恐多クモ帝室ノ御下賜金ノ包含サレテ居ルト云フコトハ、天下周知ノ事實デアッテ、此優渥ナル所ノ聖恩ニ浴シタ所ノ多數ノ貧窮民ハ申スニ及バズ、一般國民ニ於テモ、均シク廣大無邊ナル所ノ聖恩ニ對シテ感激シ、洵ニ恐懼措ク所ヲ知ラナカッタニモ拘リマセズ、政府ハ其取扱上ノ不行屆、其取締上ノ怠慢ヨリシテ、斯ル稀有ノ大不祥事ヲ起シタ事ニ對シテ恰モ其責任ヲ回避スルガ如ク現ニ東京府ノ一屬僚ヲシテ、此廉賣外米ノ不正事件ニハ、帝室ノ御下賜金ハ勿論ノ事、一般公衆ノ寄附金スラモ包含サレテ居ナイト云フヤウナ、洵ニ怪シゲナル所ノ陳辯書ヲ社會ニ發表セシメテ、而シテ其罪ヲ糊塗セント致シタコトデアリマス、此陳辯書ナルモノヲヒョイト讀ンデ見マスルト、恩賜金ト不正廉賣外米事件トハ、全然無關係ノ如ク思ハレマス、ケレドモ仔細ニ之ヲ熟讀翫味致シマスト、洵ニ其陳辯書ナルモノハ、曖昧模稜ヲ極メタモノデアッテ、恩賜金ニ關シテハ、全然無關係デアルトハ云フテハアリマセヌ、唯ダ恩賜金ニハ無關係デアルトイノデアリマス、今私ハ其要點ヲ茲ニ朗讀致シタイト思ヒマスガ、卽チ其陳辯書ノ前文ニハ「恐レ多クモ皇室ノ御下賜金及一般府民ノ寄附金ニ關スル事デアリマスカラ一言是ニ對シ辯明ヲシ眞相ヲ發表スル云々」トアリマスケレドモ扨其肝腎ノ本文ニ入ッテカラト云フモノハ、ドウ云フ事ガ書イテアルカト申シマシタナラバ「一昨年ノ八月米騷動ノ勃發ニ依リ廉賣ヲ行ヒシガ其廉賣所タル小學校ハ九月ヨリ授業ヲ開始スル必要上從來ノ區町村及府慈善協會直營ノ廉賣ヲ廢止シテ東京白米同業組合ト協議ノ上指定商ヲ選任シテ之ヲ委托シタ」ト云フ所ノ手續ヲ書イテ、扨

陳辯シテアル事ハ、斯樣ナ事柄デアリマス、「其際ニ自ラ草案シタル廉賣米供給取扱手續ヲ發布シ嚴重ニ指定商ヲ監督シ精算ノ場合ニ萬一廉賣劵數ガ交付外米ノ數量ト符合シナカッタトキハ追徵金ヲ納付セシメテ一厘一錢ト雖モ間違ノナイヤウニ心掛ケマシタ而シテ其決算ハ一昨年末ニ結了ヲ告ゲタ次第デアリマシテ目下外米不正事件トシテ一般新聞紙上ニ傳ヘラレテ居ルモノハ寄附金ニ依ル廉賣トハ全ク無關係ノ事實デアリマスカラ此點ハ十分ニ御了解ヲ得タイノデアリマス」諸君、之ガ陳辯書ノ本文デアリマス、肝腎ノ本文ニ於キマシテハ、不正外米廉賣事件ニハ、一般公衆ノ寄附金ニ關係ガ無イト云フコトハ明記サレテアリマスケレドモ、事苟モ皇室ニ關スル所ノ大問題、卽チ恩賜金ニ關係ガ無イト云フコトハ言ウテハアリマセヌ、是ハ想フニ官吏トシテ良心ガ咎メタ結果デアラウト確信ヲ致スノデアリマス、然ラバ此監督廳ノ命ヲ受ケテ發表シタ所ノ陳辯書ナルモノハ、一面ニ於テ恩賜金ニ關係ノ有ッタト云フコトヲ自ラ裏書スルモノデアルト私ハ斷言スルニ躊躇シナイノデアリマス、此廉賣外米不正事件ニ關シテ、恩賜金ガ包含サレテアルト云フ事實ハ新聞其他ニ依テ報道サレタ事柄ノミデ、本員ガ調ベタ所ノ立證ト云フモノハ是ダケアリマス、併シ時間ノ都合上此陳辯ニ止メテ、後ニ於テ速記錄ニ載セルコトト致シマシテ省略致シマスガ、斯ノ如ク此忌ハシキ所ノ不正事件ヲ惹起シタル廉賣外米ニ、恩賜金ノ包含セルト云フコトハ一點ノ疑ヲ挾ム所ノ餘地ハアリマセヌ、然ルニ其最高監督責任者タル所ノ內務大臣ハ、恬然トシテ今尙ホ知ラザルガ如キ風ヲ裝ウト云フノハ一體何ト致シタ次第デアリマスカ、其取扱ノ不行屆其取締ノ怠慢ヨリシテ斯ノ如ク聖旨ニ悖ル所ノ大不首尾臣民トシテ其罪萬死ハ當ルベキ所ノ大不首尾ヲ敢テシタニモ拘ラズ、今尙ホ知ラザルガ如キ風ヲ爲スト云フコトハ、如何ナル次第デアリマスカ、內務大臣ハ宜シク上 御一人ヲ首メ奉リ、下萬民ニ向ッテ、其罪ヲ陳謝スベキガ當然デアラウト確信致スノデアリマス、內務大臣ガ本件ニ對シテ冷々淡々タルコト水ノ如ク、斯ノ如キ態度デアッテ、而シテ思ヲ大正七年八月ニ馳セテ、謹ンデ御內帑金ヲ御下賜アラセラレタ其當時ノ模樣ヲ拜察致シマスノニ、唯ダ恐懼ニ堪ヘナイノデアリマス、一昨年卽チ大正七年ノ夏ハ、近來ニナイ所ノ極熱ヲ齎シタコトハ諸君ノ御承知ノ通リデアリマス、然ル

ニ拘ラズ御勵精ニ渡ラセラレル　陛下ニハ、久シク宮城ニ御留リ遊バシテ、萬機ヲ總攬アラセラレマシタガ、八月六日ト云フニ日光ノ行在所ニ御避暑遊バスコトヲ仰出サレマシタ、斯クシテ陛下ガ日光ニ行幸アラセラレテヨリ、間モナク、彼ノ米騷動ナルモノガ勃發致シタノデアリマス、然ル所御仁惠ニ渡ラセラレル　陛下ニハ是等ノ貧窶ノ民ヲ御憐レマセ給フノ餘リ、直チニ三百萬圓ト云フ御内帑金ヲ割カセラレテ、而シテ緩急ニ應ジ、各縣ニ頒チ、救濟ノ資ニ充ツベシトノ最モ厚キ所ノ御諚ヲバ八月十三日ニ下サセラレタノデアリマス、諸君、三百萬圓ト申セバ、國庫ヨリ奉レル所ノ皇室費ノ七割ニ達スル大金デアリマス、此大金ヲ割カセラレテ、貧窮ノ民ヲ賑ハセ給フ　陛下ノ大御心ニ對シテハ、唯ダ〻〻感泣ノ外ハ無イノデアリマス、加之事態ヲ憂慮アラセ給フノ餘リ、尚ホ殘熱燬クガ如キ八月二十一日ト云フニ日光ノ行在所ヲ後ニセラレ、恰モ釜中ニ座スルガ如キ帝都ニ御還幸遊バシマシテ、斯クシテ宮中ニ入御在シマシテ後チニ、朝ニハ宮内大臣ヲ召サセラレテ御熱心ナル御下問ガアリ、夕ニハ側近ノ臣ヲ召サセラレテ、夫〻ノ者ヨリスル所ノ言上ヲ聞召サレ、殊ノ外御軫念在ラセラレタト漏承ルニ付ケテ、我〻ハ此聖恩ニ對シ感泣シタコトハ幾度デアルカ知レマセヌ、乃チ斯ノ如クシテ三百萬圓ノ御内帑金ノ中デ、三十萬五千圓ト云フ金ガ東京府ニ頒タレ、ソレニ依ッテ外米ヲ廉賣スルト云フコトニ相成ッタ次第デアリマス、然ルニ此難有キ勿體ナキ聖旨ノ籠レル所ノ廉賣外米ガ、其難有キ勿體ナキ聖旨ノ如クニ細民ヲ救恤スルニ至ラズシテ、廣大無邊ノ聖旨ニ反スルガ如キ大不祥事ヲ勃發スルニ至リシ所ノ責任ニ對シテ、内務大臣ハ今尚ホ知ラザルガ如キ風ヲ爲スト云フコトハ、何タル次第デアリマスカ、次ニ司法大臣ハ此犯跡顯著ナル所ノ問題ヲバ、大正八年ノ二月、何故ニ證據不十分トシテ一旦之ヲ不起訴處分ニ附シ本年ノ一月ニ至リ、突如トシテ復タ之ヲ起訴處分ニ附シタノデアルカ、坊間傳フル所ニ依リマスレバ、昨年此問題ノ起リマシタ其當時ハ恰モ第四十一議會ノ開會中デアリシカ故ニ、所謂臭イ物ニハ蓋セヨ主義デ、議會ノ問題トナルト云フコトヲ惧ルヽノ餘リ、之ヲ不起訴處分ニ致シタノデアル、而シテ本年ニ至リ此問題ガ當議會ノ問題トナラントスルコトヲ惧レテ、急ニ起訴處分ニシタノデアルト云フ所ノコトヲ、坊間ニ於テ喧傳致シテ居リマス、本員ハ敢テ此浮說ニ信ヲ措ク者デハアリマセヌ、然リト雖モ本員ノ信ズル所ニ依レバ、秋霜烈日ノ如キ我ガ司法官憲、其峻嚴ナル所ノ司法警察ノ努力ニ待ッタナラバ、罪ヲ斷ズル上ニ於テ、有力ナル所ノ證據ヲ蒐メルト云フコトハ、頗ル易々タル事デアルト確信ヲシテ疑ハナイノデアリマス、現ニ最近本員ノ目擊致シタル事實ニ依リマシテ、愈〻益〻此信念ヲ强メ得タノデアリマス、ソレハ過般普選案ノ上程サレタ其當日ニ於ケル警戒ノ完全、且嚴重ナ事デアリマス、議院ヲ中心ト致シテ、要所々々ニハ關門ヲ設ケ、苟モ議院ニ近寄ラントスル者ハ、又議院ニ到ラントスル者ハ、傍聽券ノ所持者カ、或ハ徽章ヲ携帶スル者ノ外ハ斷ジテ之ニ近寄ラシメナカッタト云フ、恰モ戒嚴令ヲ布イタカノ如キ其取締ノ嚴重ナル事、而シテ多クノ警官ハ一擧一動非常ナル緊張ヲ呈シ恰モ電氣ノ閃クガ如キ神經ノ昂奮ヲ認メタノデアリマス、此電氣ノ如キ觸レバ灼カンズル神經ノ所持者デアル所ノ、司法警察ノ努力ヲ待ッタナラバ、本員ノ爰ニ述ベテ居ル所ノ廉賣外米不正事件ノ如キ、犯罪トシテハ頗ル單調デアル、事柄ハ恰モ子供ガ凧ノ絲ヲ手繰ルヨリモ、尚且ツ容易ニ、尚且ッ迅速ニ其罪跡ガ判明シタノデアラウト確信ヲ致シテ疑ヒマセヌ、論ヨリ證據デアル、現ニ本年ノ一月警視廳ガ漸ク眞面目ニナッテ、檢擧ニ從事致シタ所ノ成績ハ如何デアリマスカ、今ヤ事件ガ四方八方ニ擴大致シテ居ルト云フ其事實ガ、何ヨリモ活キタル證據デアラウト思フノデアリマス、然ルニ如何ナル故ナルカ、熱心ニ之ヲ探査致サントハセズ、熱心ニ之ヲ搜査セントハセズ、遂ニ一旦之ヲ不起訴處分ニ爲シタトハ云フコトハ、我司法ノ威力ニ見テ、洵ニ遺憾千萬ナルヲ覺ユルモノデアリマス、サリナガラ天網ハ有繫ニ疎ナラズ、昨年ノ八月ニ至リマシテ、一旦不起訴處分ニ附シタ所ノ本事件ガ、又〻再燃致シタノデアリマス、然ル所疎ナラザル此天網ニ、何時トハナシニ大穴ガ明イテ、恰モ何者カ上ニ在ッテ之ヲ操ルモノヽ如ク、之ヲ探査スルガ如ク檢査セズ、熱心ニ搜査スル如クニシテ搜査セズ、遂ニ其搜査ヲ中止致シ、去二十一日ノ當議場ニ於テ國民黨ノ高木君モ言明セラレタ如ク、恰モ本事件ノ再燃致シマシタ其當時ハ、府會議員ノ選擧戰ノ最中デアリシガ故ニ、此事件ノ進行ハ、此事件ノ張本人デアル所ノ渡某ト政治上ノ行動ヲ同ジクセル一府會議員其一府會議員ノ當選ニ莫大ナル影響ヲ及ボスト云フ所ノ廉ヲ以テ、

之ガ搜査ヲ中止シタト云フガ如キコトハ、實ニ遺憾千萬ノ至リデアリマス、是ニ於テカ私ハ御問ヲ致シタイ、恰モ電氣ノ如キ鋭敏ナル感情ノ所有者デアル所ノ我警視廳ハ其電氣ニハ積極電氣アリ、又消極電氣アルガ如ク、犯罪ノ大小其他ハ措イテ、罪ノ搜査上、情實又ハ請託ニ依テ、時ニハ消極主義ヲ執リ、時ニハ積極主義ヲ執ラレルノデアルガ、殊ニ遺憾ニ堪ヘザル點ハ、此警視廳ガ消極的ノ探査方針ニ依ラレタ爲メニ、本件ノ張本人デアル所ノ渡某ニ逃走ノ機會ヲ與ヘタコトデアリマスノミナラズ、警察官ガ遙ニ此張本人デアル所ノ渡某ヲ護衛致シテ、遠ク滿洲ニ落シタト云フガ如キ、新聞紙上ニ於ケル所ノ報道ヲ見ルニ至ッテハ、我司法官權ノ威力果シテ何所ニ在リヤト反問セザルヲ得マセヌ、而モ同ジク我帝國ニ於キマシテ一方京都ニテハ人權蹂躙ノ生〻シキ事實ガアリ、現ニソレガ當議院ノ問題トナッテ居リマスル今日、一方帝都ニ於テハ恰モ畏多クモ聖旨ニ悖ルガ如キ大逆罪ニ對シテ、操ッル絲ノ間ニ〻〻、之ニ寛大ナル處置ヲ爲スニ至ッテハ、我司法權ノ獨立果シテ何所ニ在リヤト疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、如上ノ事實ニ依リマシテ、内務大臣並ニ司法大臣ノ明確ナル所ノ答辯ヲ望ンデ、此壇ヲ降ラントスルノデアリマス

（參照略）

一四　所得額算出ニ關スル質問

一　二月十日本田恆之君ノ質問ニ對シ大藏大臣ハ借入金ヲ以テ土地ノ購入又ハ改良等ノ資ニ充テタル場合其ノ借入金ノ利子ハ必要ナル經費トシテ總收入金額ヨリ控除スル筈ナリト答ヘタリ政府ハ今後各稅務署ヲシテ控除セシムル處置ヲ採ルヤ

二　政府ハ控除スヘキモノヲ控除セサル不當算出ニ依リ所得額ヲ決定シ賦課シタル從來ノ納稅金ヲ違法徵收トシテ納稅人ニ還付スヘキ義務アリト認ムヲ之ニ對スル所見如何

三　第三種農業所得ヨリ土地購入代金等ノ利子ヲ控除スルトセハ第三種商業所得ニテ總收入金額ヨリ仕入品代價（借入ノ場合）ノ利子ヲ控除シ第三種工業所得ニテ總收入金額ヨリ原料費代價（借入ノ場合）ノ利子ヲ控除スルヲ當然ト信ス政府ノ所見

九年二月十四日高田耘平君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ質問ハ事柄ハ至ッテ簡單デゴザイマス、而シテ略〻過般ノ所得稅改正案討議ニ於ケル當時ノ大藏大臣ノ辯明、其他委員會等ニ於ケル政府當局ノ辯明ニ依リマシテ、略〻要領ヲ得テ居ルノデアリマス、併ナガラ斯ル問題ガ曖昧ノ裡ニ在ルト云フコトハ、多數ノ納稅人ニ對シテ、非常ナル關係ガアルノデゴザイマス、卽チ此大藏大臣ノ答辯ガ、果シテ日本ノ直接稅務ノ職ニ當ル人ガ大藏大臣ノ答辯ノ通リ實行シテ居ルヤ否ヤト云フコトガ、卽チ私ノ疑ニナッテ居ルノデアル、是ハ又此間ノ所得稅改正案ノ討議ノ時ノ工合ヲ見マスト云フト、疑ヲ持ッテ居ル人ガ澤山アル、例ヘバ町田君ハ「配當金ニ課稅スル場合ニハ二割ヲ控除スルノニ農業所得ノ場合ニハ利子ヲ、控除シナイコトハ甚ダ不公平デアル」ト云フコトヲ言レタ、所ガ鵜澤君ハ「農業所得ノ場合ニハ借入金ノ利子ハ控除スル」ト言ッテ居ル、サウスルト小川郷太郎君ハ「鵜澤君ノ言フコトハ間違デアラウト思フ」ト云フコトヲ言ッテ居ル、又三木君ハ「引クノガ當然デアル同時ニ商工業者ノ借入金ノ利子モ引クノデアル」ト言ッテ居ル、四人ガ引クト言フノト、引カヌト言フノト二人ヅヽニ分レテ居ル、更ニ最後ニ本田君ノ質問ニ對シテ大藏大臣ハ、斯ウ云フコトヲ答辯シテ居ル「地所ノ爲メニ借財ヲシタ利子ハ含ンデ居ルト云フコトガ明確ニ立證セラルヽモノハ差引ク筈デアリマス」此「筈」ト云フコトガ付イテ居ルノガ私ハ甚ダ氣ニ入ラヌ、更ニ又農工銀行勸業銀行カラ確ニ借財

ヲシテ居ル、其所得ヲ得ルガ爲メノ借財デアルト云フコトノ證據ガ明カナラバ、是ハ控除スルノデアリマス、同ジ田畑ヲ買ウノニ、借入レタモノデアルナラバ、農工銀行カラ借リズトモ、勸業銀行カラ借リズトモ、他ノ銀行カラ借リテモ、信用貸借デモ借リタ證據ガアレバ、引クノガ當然デハナイカト思ヒマス、所ガ大藏大臣ノ此說明ニ依ルト、勸業銀行及農工銀行カラ借リタモノデナケレバ、引カナイト云フヤウナ意味ノコトヲ言ッテ居ル、是ハ私ハ甚ダ此意味ハ解セマセヌ、兎モ角モ此大藏大臣ノ辯明ニ依レバ、引クト云フノガ所得稅法ノ趣旨デアル、所ガ實際ハドウカト云フト、私ガ此間東京ノ稅務監督局ニ行キマシテ、最モ此第三種所得稅ニ關係ノアル官吏ニ聽キマシタ所ガ、東京ノ稅務監督局トシテ控除セシコト無シ、尙ホ今後モ控除スル積リガ無イト云フコトヲ明言サレテ居リマス、全然大藏大臣ノ本會議ニ於ケル言明ヲ裏切ッテ居ル、尤モ此官吏ハ其位置ハ高イ人デハアリマセヌ、併ナガラ第三種ノ所得稅ノ事ニ就キマシテハ、最モ能ク知ッテ居ル位置ニ居ル人ガ、唯今私ガ申シタヤウニ引クベキモノニ非ズ、現在ニ於テモ引カナイト言ハレタ、又私ノ承知シテ居ル東京ノ稅務監督局ノ範圍ニ於テハ、引イテ居ラナイ、所ガ全國ヲ調ベルト往々アルヤウデアリマス、私ガ各方面ニ於キマシテ聽キマシタ所ニ依ルト、二三控除シタ所モアリマス、サウナルト云フト、所得稅法ノ趣旨ハ、土地ノ爲メニ借入金ヲ爲シタ場合ニハ、其利子ヲ引クノガ適法デアルト云フ解釋ニナッテ居ル、所ガ如何ナル理由カ、直接徵稅ノ事務ニ當ル各稅務署ニ於キマシテハ、之ヲ控除シテ居ルモノハホンノ二三ニ過ギマセヌ、卽チ最大多數ノ所ニ於キマシテハ、大藏大臣ノ辯明ヲ裏切ッテ、控除シテ居ナイト云フコトハ明カデゴザイマス、是ハ甚ダ遺憾ナノデアル、私ハ大藏大臣ガ辯明シタ意味ヲ、今後國內ノ總テノ稅務署、總テノ稅務官吏ニ、通牒ナリ或ハ訓令ナリヲ出シテ、此法律ノ趣旨ヲ徹底セシメテ、利子ヲ必ズ控除サセルヤウニスルノガ、政府トシテノ當然ノ處置デアルト思フケレドモ、政府ハ果シテ徹底的ニ各稅務署ヲシテ、普ク控除セシムベキ方法ヲ執ルヤ否ヤト云フコトガ第一ノ疑問デゴザイマス、第二ノ疑問ハ、卽チ今日マデ實際ニ於テ法律ノ趣旨ハ控除スベキモノデアルノニ、國內ノ稅務官吏ノ最大多數ハ、此法律ノ趣旨ヲ故意カ惡意カ之ヲ曲解シテ、實際ニ於テ控除シナイ、此控除シナイ分ニ就キマシテハ、接除スベキコトガ法律ノ本旨デアリトスレバ、法律ノ本旨ニ誤ッテ徵稅ヲシタモノニ就キマシテハ、當然之ヲ還付スベキ責任ガ政府ニ在ルト思フ、斯ウ申セバ政府ハ、所得稅ハ申告稅デアル、借金ノ利子ガアルト云フコトヲ申告シナイノニ、之ヲ控除スルコトハ出來ナイト斯ウ言フデセウ、所ガ實際ニ於キマシテハ、此東京稅務監督管內等ニ於キマシテハ、十數年來借入金ノ利子ハ、決シテ控除スベキモノニ非ズト云フ解釋ヲ一般ニ稅務官吏ガ唱道シテ居ルカラ、各地ノ所得稅調査委員デモ、總デガ控除スベキモノニ非ラズト思ッテ居ルノデゴザイマス、卽チ政府ノ官吏ガ、法律ノ解釋ヲ故意ガ惡意ガ、其本旨ヲ棄テ、醇朴ナル良民ヲ欺イテ取ッタノデアルト云フ結論ニナッテ居リマス以上ニハ、此借入金ノ利子ヲ控除スベキモノヲ控除シナカッタ分ニ對シテハ、若シ納稅者ヨリ相當ノ要求ガアッタ場合ニハ——尤モ時效ニ罹ッタモノニ就キマシテハ仕方ガアリマスマイケレドモ——當然還付スベキ責任ガアルト思フケレドモ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何、第三ハ是ハ三土君ダケハ此間町田君ノ意見ヲ駁スル時ニ於キマシテ言明シテ居リマス、商工業者ノ所得ヲ算出スル場合ニ方ッテ、其借入レタル資本金ニ對スル利子ハ控除スルモノデアル、斯ウ云フコトヲ三土君ハ此席デ言明サレテ居リマス、所ガ小川君ハサウデナイト云フコトヲ速記錄ヲ見レバ言ッテ居ル、是モ矢張多少ノ疑ガアル、此問題ニ就キマシテハ、大藏大臣ハ本會議ニ於テ何等ノ答辯モ致シマセヌカラ、勿論農業者ガ土地ノ爲メニ借入金ヲシタ場合ニ、其利子ヲ控除スルト云フコトデアレバ、商業者ガ商品ヲ買フ場合ノ資本金ニ對スル利子、及工業者ガ工業原料ヲ買入ル場合、其他ノ工業ニ投ズル元本ノ利子ハ、控除スベキガ當然デアル、所ガ現在ニ於キマシテハ、控除シテ居ル例ハ甚ダ是モ少イ、殆ト無イ位デアル、勿論控除スベキモノデアルガ、政府ノ所見ハ如何デアルカ、斯ウ云フ至ッテ簡單ナ問題デゴザイマス、併ナガラ此適用ガ遺憾ナク行ハレマスレバ、恐クハ所得稅法ヲ施行スルニ當リマシテ、國ノ歲入ニ餘程ノ影響ヲ私ハ生ズルコトヽ思ヒマスケレドモ、併ナガラ現在ノ各稅務署ニ於キマシテモ、尙ホ稅法カラ申シマシテモ、法人所得ニ於テハ純益ニ課稅シ、個人所得ニ於テハ利子ヲ控除シナイト云フコトハ、甚ダ不公平デアル、此不公平デアッタ意味ガ、唯今ノ私ガ申上ゲマシタ通リノ事ニ就キマシ

テ、政府ガ相當ナル答辯ヲ爲シテ、田畑ノ購入ニ對スル借入金ノ利子、及商工業者ノ必要ナル元本ニ對スル利子モ控除スルコトニナレバ、法人所得及個人所得ノ間ニ於ケル不公平ガ、幾分ナリトモ少ナクナル譯デアリマス、至ッテ簡單デゴザイマスケレドモ、此法律ノ適用ガ完全ニ行ハレルト否トハ、至大ナ關係ヲ國庫ノ歳入ニ有チ、尚ホ納稅人ニ至大ナル關係ガアリマスカラシテ、私ハ此際此席上ニ於キマシテ、政府ノ的確ナル御答辯ヲ仰ギタイトイフノデアリマス

之ニ對シテ解散當日迄何等答辯ニ接セサリキ

一五　海外移民保護ニ關スル資問

佛領「ニユトカレドニア」ニ在留セル我移民ハ實ニ三千餘名ノ多キニ上ルト雖之カ保護ノ機關ヲ闕キ全ク放任セルノ狀態ニ在リテ移民ハ實ニ悲慘ナル境遇ニ在リ政府ハ何故ニ之ヲ救濟スルノ方法ヲ講セサルヤ政府ノ所見如何

九年二月十六日高松正道君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ質問ハ極ク簡單デアリマスルカラ、極ク簡明ニ述ベタイト思ヒマス、佛領「ニユーカレドニヤ」ニハ、日本ノ移民ト致シマシテハ、明治二十五年カラ同四十年ノ間ニ、約四千人ノ移民ガ行ッテ居ルノデアリマス、尤モ此四千人ノ中デ、其後歸國致シタ者モ多少ゴザイマスガ、病死致シタ者ナドヲ差引キマシテ、目下三千人少シ餘リ居ルノデアリマス、所ガ御承知ノ如ク「ニユーカレドニヤ」ハ、佛蘭西政府ノ罪人ヲ流シタ場所デアリマスカラシテ、此地方ノ住民ノ生活ト云フモノハ非常ニ荒ンデ居ル、風儀ノ惡イ所デアル、此所ニ三千人餘ノ日本ノ移民ガ居リマスガ、之ニハ一人モ婦女子ガ居ラナイノデアリマシテ、隨テ日本ノ移民ト云フモノ、風紀ト云フモノモ、何トナク荒廢致シテ居ルノデアル、唯ダ娛樂ト致ス所ハ、賭博ニ耽ルトカ、飲酒ニ耽ルトカ云フ位ノ事ヲ以テ、彼等ハ唯一ノ娛樂ト致シテ居ルト云フヤウナ次第デアリマスガ、之ニ對シマシテ我政府ハ、何等ノ保護ヲ與ヘテ居ラナイヤウナ傾ニ見エルノデアリマス、少ナクトモ三千人餘ノ我同胞ガ行ッテ居リマスケレドモ、我外務省ヨリ之ヲ視察シ、何等カノ方法ヲ講ジタ形跡ガ、先ヅ見當ラヌト云ウテ宜イノデアル、僅ニ明治三十七八年頃ニ、總領事永瀧久吉ト云フ人ガ移民問題ノ紛爭事件デ、一寸「ニユーカレドニヤ」ノ一端ヲ覗イタバケデアリマス、其後大正四年ニ三保領事官補ト云フ者ガ一度視察ニ行ッタ、此前後二回限リデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、是等ノ移民ト云フモノハ、非常ニ悲慘ナ生活ヲ送ッテ居リマシテ、我同胞ト致シマシテ、之ヲ我々ハ視テ居ル譯ニ行カナイノデアリマス、此地方ノ總テ移民ヲ扱ッテ居リマスノハ、田中榮八郎、大川平三郎ト云フヤウナ者ガ、南洋興業株式會社ト云フモノヲ組織シテヤッテ居ル、是ハ固ヨリ隨分如何ハシイ事ヲヤッテ、移民ヲ苦シメテ居リマスガ、之ニ對シマシテ、政府ハ至急ニ何等カノ方法ヲ講ジテ、之ヲ救濟スルノ途ヲ執ラナクチヤナラナヌト思フノデアル、又此地方ハ交通ト申シマシテモ甚ダ不便デアッテ、今マデハ「シドニー」カラ「エムエム」汽船デ、四週ニ一回ノ航海シカ無イノデアリマスガ、少シク我政府ニ於テ之ヲ保護スルノ考ガアッタナラバ、日本郵船ノ新西蘭航路ヲ寄港サセレバ、何デモナク航路ガ開カレルノデアリマス、斯ウ云フ風ナ事デアリマスカラシテ、私ハ政府ガ今マデ、ドレダケノ其地方ニ對スル注意ヲ拂ッテ居ッタカ、如何ナル視察ヲシテ居ッタカ、若シ爲シテ居ッタナラバ、相當ナ成績ヲ茲ニ示シテ戴キタイ、又現在ニ於ケル所ノ移民ノ狀態狀況モ分ッテ居ルナラバ、此議會ニ於テ一ツ報告シテ貰ヒタイ斯ウ思フノデアリマスガ、定メシ政府ノ方デハ、報告ノ材料ガ一ツモ無カラウト思フノデアリマス、多分二三ノ下ラヌ所ノ南洋興業株式會社ニ關係ノ者ガ書イタ、洵ニ「ニユーカレドニヤ」ヲ極樂ノ如ク書イタ所ノ、雜駁ナル書物ヲ材料ニスル位ノコトデ、胡魔化スダラウト思フノデゴザイマスガ、兎ニ角

政府ノ判ッテ居ルダケノ現狀ヲ、一ッ報告ヲシテ戴キタイ、ソレカラモウ一ツノ質問ハ、政府ガ速ニ此所ニ領事館カ若シクハ領事館ノ出張所デモ設ケテ、何ントカ此移民ノ保護ヲスルコトノ施設ヲスル考ガアルカドウカ、又先程申ス如ク、商船會社或ハ郵船會社ニ命ジテ、極ク手取リ早ク此二點航路ヲ開クノ考ガアルカドウカ、此二點ニ就テ私ハ質問ヲ致シタ次第デアリマス、之ニ對シ解散當日迄何等答辯ニ接セサリキ

一六 米穀收用令ニ關スル質問

寺内内閣ハ大正七年八月十六日臨時緊急ノ必要アリトシ同年勅令第三百二十四號ヲ以テ憲法第八條第一項ニ據リ穀類收用令ヲ公布シ未タ一回モ其ノ適用ヲ見サリシニ現内閣ハ之ヲ第四十一議會ニ提出シ發令當時緊急勅令ノ必要アリ且今後ニ於テモ其ノ效力ヲ維持セシムルノ必要アリト力說シ大正八年二月二十日衆議院ニ於テハ之カ承諾ヲ與フルコトニ決シ卽日貴族院ニ送付セラレ其ノ審議ニ上リタルモ遷延會期終了シ其ノ議決ヲ爲ササリシニ政府ハ同年四月五日該勅令ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布シ（大正八年勅令第八十五號）之ヲ第四十二議會ニ提出セサルコトニ決定セルモノノ如シ之レ憲法第八條第二項ニ違背スルモノニ非サル乎政府カ將來ニ效力ヲ失フモノトシテ之ヲ第四十二議會ニ提出セサル根據如何

九年二月十九日横山勝太郎君外四名ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ解散當日迄其ノ趣旨辯明及答辯共ニナカリキ

一七 綿絲、綿布ノ輸出禁止及價格調節ニ關スル質問

一 大正八年十一月綿絲輸出禁止ノ當時ニ在リテハ支那ニ於テ隨所日貨排斥ノ聲甚タ高ク大阪在留ノ支那商人中ニハ自國ノ狀勢ニ鑑ミ斷然閉店シテ歸國スルモノスラ尠カラサリキ從テ當時ニ於ケル綿絲ノ對支輸出契約高ハ極メテ零細ノ數量ニ過キサリシナリ況ヤ上海及漢口等ニ於ケル綿絲ノ價格ヲ本邦ニ於ケル之カ現物相場ニ對比スレハ到底圓滑ナル商談ヲ遂行スルコト能ハサルノ狀態ニ在リシニ於テオヤ若夫レ印度及南洋等ニ至リテハ同シク本邦綿絲ノ高價ナル爲偶々引合アル場合ニ於テモ常ニ商談ノ不成立ヲ見タルニ非スヤ依テ問フ之カ輸出ヲ禁止シタル當時所謂「輸出筋」ト稱スル當業者ノ將來ノ輸出契約ヲ締結セル綿絲ノ數量ハ各番手ヲ通シテ幾許ノ額ニ達シ居リシヤ並其ノ輸出約定ノ國別ハ如何

二 輸出禁止ノ當時ニ於ケル綿絲輸出ノ先約カ極メテ少額ナリシコト前問ニ述ヘタル所ノ如シ然ルニ爾來支那ヲ首メ南洋方面其ノ他ニ輸出セラレタル數量ハ頗ル多々ナリト認ム故ヲ以テ大正八年十一月ヨリ同九年一月ニ至ル二十番手以下ノ綿絲輸出額ヲ詳細ナル數字ニ依テ

明示セラレムコトヲ望ム

三　綿絲輸出ノ禁止當時ニ於ケル之カ輸出契約ノ數量ハ甚タ尠少ナルニ拘ラス其ノ後ニ於ケル輸出數量ノ夥多ナルハ果シテ如何ナル理由ニ基ケルヤ市井ニ說ヲ爲スモノハ綿絲市場ニ在リテハ當時先約ヲ締結シ居ラサリシ甲カ偶々其ノ契約ヲ結ヒ居リシ乙ノ名義ヲ借リテ輸出特許ヲ得ツツアルカ如キ各般ノ不正手段ニ出ツルモノ多シト謂フ政府ハ之カ事實ノ有無ヲ調査シタルヤ又其ノ調査ノ結果ハ如何並輸出特許標準如何

四　輸出禁止以來二十番手ノ綿絲ヲ指シテ二十二番手ト稱シ輸出ノ特許ヲ得タルモノ頗ル多キカ如シ二十番手ノ生產額ト其ノ輸出額ヲ對比スルトキハ輸出額ハ常ニ生產額ノ上ニ位スルヲ以テ此ノ間ノ消息ヲ窮知スルニ難カラス依テ問フ二十番手ト二十一番手及二十二番手ノ綿絲ハ如何ナル方法ニ據リテ區別スルヤ

五　本年二月中旬大阪ニ於テ天津市場ニ向ケ「エビス」二十番手二千俵ノ輸出契約成立セリ而モ其ノ綿絲カ二十一番手以上ノモノニ非スシテ眞正ノ二十番手ナルコトハ當業者ノ均シク認ムル所ナリ絕對的禁止品ノ商談成立ハ奇怪事ナラスヤ之ニ對スル政府ノ所見如何

六　人間生存上ノ三大物資ノ一ト見ルヘキ衣服ハ綿布價格ノ昂騰セル爲多數國民ノ困難ニ陷レルコト眞ニ言語ニ絕ス政府ハ現在ノ綿布ヲ以テ不穩當ナル價格ニ居ルモノト認メサルヤ又現在ノ價格ハ人爲的術策ノ結果ヨリ來レルモノト認メサルヤ綿布ノ輸出禁止ヲ斷行セサルニ於テハ其ノ價格ノ低下ヲ告ケ依テ以テ多數國民ヲシテ苦痛ヨリ脫却セシムルニ由ナキコトヲ認メサルヤ

七　綿布價格ノ騰貴ハ主トシテ綿絲價格ノ騰貴ニ職由ス而シテ綿絲ノ騰貴ハ他ノ一般物價ノ騰貴ニ比スレハ更ニ著シク上位ニ在リ綿絲ノ甚シキ騰貴ハ唯紡績業者ヲシテ巨利ヲ獲取セシムルニ止マリ多數國民ハ少數紡績業者ノ犧牲タルカ如キ感ナシトセス現在ニ於ケル綿絲ハ原料ノ價格ト生產ノ費用ニ加フルニ相當ノ利益ヲ以テスルモ尙一梱金四百圓ノ價格ヲ以テ充分ナリ然ルニ之カ現物價格ノ七百圓ヲ超ユルカ如キハ決シテ其ノ當ヲ得タルモノニ非スト認ムル政府ノ所見如何

八　山本農商務大臣ハ過日衆議院ニ於ケル答辯トシテ綿布ノ輸出禁止ハ機業家ヲ苦シメ或ハ破產ノ不幸ニ陷ラシムルヲ虞ル加之其ノ從業ノ職工亦失業ノ禍ヲ蒙ルヤ明ナリトノ意ヲ以テセリ然レトモ差額八億圓內外ノ綿布中三億圓ニ達セサル額ノ輸出ヲ禁止スルモ當業者ヲシテ格段ノ影響ヲ蒙ラシムルカ如キコトナキヤハ疑ナキ所單ニ一部ノ思惑的或ハ投機業者ニ對シ若干ノ苦痛ヲ及ホスノミニ止マルヘシ而シテ堅實ヲ主眼トシ豫メ引合ヲ受ケタル物品ノミノ製織ニ從事シツツアル機業者ハ殆ト全ク苦痛ヲ感セサルヘキヲ以テ斷然其ノ輸出禁

止ヲ決行スヘキニ非スヤ政府ノ所見如何

九　世界戰亂ノ爲歐洲ノ產業經濟ハ破壞ノ狀態ニ陷レリト謂フモ敢テ過言ニ非ス故ニ綿布ノ如キ之ヲ輸入セムト欲スルモ何ヲ以テカ其ノ實行ヲ期シ得ムヤ然ルニ政府ハ綿布輸入ノ關稅撤廢ヲ斷行シタリ此ノ斷行ニ依リ果シテ幾許ノ效果ヲ奏シツツアリヤ數字ヲ擧ケ其ノ實績ヲ示サレムコトヲ望ム

十　山本農商務大臣ハ又過日衆議院ニ於ケル答辯トシテ綿布ノ禁輸ヲ斷行スレハ機業界ノ萎縮ヲ招致シ延テ紡績界ニ影響シ結局綿布ノ價格ハ低落セスシテ却テ紡績原料ノ輸入減退ニ終ルヘシトノ意ヲ以テセリ然レトモ第七問ニ述ヘタルカ如ク現在ノ綿絲ハ採算上四百圓內外ノ價格ヲ保ツニ於テハ當業者ハ尙相當ノ利潤ヲ擧ケツツ操業ヲ繼續シ得ルヤ疑ナシ則チ綿布ノ禁輸ハ決シテ農商務大臣ノ杞憂スルカ如キ結果ニ陷ルモノニ非ス況ヤ本邦ノ紡績業者ハ普通其ノ製品販賣ノ契約ヲ締結シタル後之カ原料ヲ購入シ操業ヲ續行スルニ於テオヤ況ヤ萬一本邦ヨリ紡績原料買付ノ手控トナルニ於テハ印度棉花ノ如キハ直ニ暴落シ却テ本邦ノ需要者及當業者ヲ利スヘキニ於テオヤ是ニ對スル政府ノ所見如何

十一　政府トシテハ既ニ綿絲ノ輸出ヲ禁止シタル以上之カ實際ノ效果アラシムルヲ要スルヤ勿論ナルヘシ禁輸ノ當初既約品ニ對スル輸出特許ハ止ムヲ得サル處置ナリトスルモ政府ハ何

故ニ當初禁輸ノ實施ニ臨ミ一定ノ期間ヲ限リ當業者ヲシテ既約品ニ就テ申告スル所アラシメ以テ其ノ申告アリタル輸出綿絲ニ對シテノミ之ヲ特許スルノ方法ヲ執ラサリシヤ

十二　綿絲輸出ノ禁止以來政府カ其ノ輸出ヲ特許シタル數量ハ却テ禁輸以前ニ於ケル平常ノ輸出數量ヲ超過セムトスル狀勢ヲ呈シ事實上禁輸效果ノ絕無ヲ表白スルニ似タリ今ヤ時期既ニ遲レタリト雖此ノ際速ニ相當ノ期間ヲ定メ當業者ヲシテ綿絲輸出特許ノ申請ヲ爲サシメ其ノ申請アリタルモノヲ限リ特許スルノ方法ニ出テ以テ從來ノ無效ナル禁輸ヲ廓正スルコト肝要ナリト認ム政府ハ如上ノ方法ヲ執ルノ意思アリヤ其ノ意思アリトスレハ具體的方法ハ如何若又其ノ意思ナシトスレハ意思ナキ理由如何

十三　綿絲ノ禁輸後其ノ價格ハ低落ヲ告クルノ狀況アリシモ如斯ハ眞ニ一時ノ人氣ニ左右セラレタル結果ノミ爾來却テ絲價ハ騰貴ニ傾キ更ニ下落ノ模樣ナキニ非スヤ卽チ綿絲輸出ノ禁止ハ何等ノ效果ナシト謂フノ外ナキ現狀ニ在リ依テ問フ其ノ今ニ至ルマテ禁輸ノ效果ヲ收メ得サル原因如何

十四　政府カ多數國民ノ苦痛ヲ度外視シ今ニ至ルモ尙綿布ノ輸出禁止ヲ斷行セサル所以ハ果シテ何レニ在リヤ綿絲ノ禁輸カ何等ノ效果ヲモ收メ得サルニ省ミ政府ハ危惧ノ念ヲ抱キ躊躇ノ思ヲ浮ヘ果斷決行シ能ハサルモノト認メテ差支ナキヤ

九年二月二十一日小西和君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ解散當日迄其ノ趣旨辯明及答辯共ニナカリキ

一八　教育ノ實質改善ニ關スル質問

戰後ノ列國ハ競フテ内外百般ノ大改造ニ鋭意シ殊ニ教育施設ハ最重大ナル改造ヲ加ヘラレツツアルニモ拘ラス我カ國教育ノ現狀ハ僅ニ年限、系統ノ如キ形式上ニ多少ノ改革ヲ加ヘタルト高等教育機關ヲ擴張シタルトニ過キス最大重要ナル教育ノ實質ニ就テハ未タ何等改善ノ手ヲ著ケタルモノナシ由來我カ國教育制度ノ根本觀念ハ教育萬能ノ思想ニ囚ハレ人ノ個性ヲ滅却シ之ヲ强テ特定ノ鑄型ニ押込ミテ人ヲ作ラムトスルヲ主義ト爲セリ此ノ根本的ノ大誤謬ヲ打破シ人ノ個性ヲ尊重シ人ノ能力ヲ發揮シ人ヲシテ自ラ人タラシムルノ主義ヲ取リ更ニ現代國民トシテ活躍スルニ足ルヘキ强キ實力ヲ備ヘシメサルヘカラスト信ス政府ノ所見果シテ如何

九年二月二十六日小橋藻三衛君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ同日解散ヲ命セラレタルニ依リ遂ニ政府ニ送付スルニ至ラサリキ

緊急質問及答辯

一　西伯利撤兵ニ關スル緊急質問

大正九年二月二十四日議事日程ヲ變更シテ加藤定吉君ハ左ノ如ク右緊急質問ノ趣旨ヲ辯明セリ

私ノ質問ハ三點デアリマス、第一ニ西伯利出兵ノ目的ハ、最初ハ「チエック」援助ト云ヒマシテ、其次ニハ西伯利ノ秩序ヲ維持スル、更ニ鐵道ノ保護、又今回元ノ「チエック」援助ト云フコトニ戻ッテ參ッタノデアリマスガ、我々ノ考ト致シマスト、此出兵ハ結局撤兵ヲ致サナケレバナラヌト云フ意味ヲ以チマシテ、是マデ豫算總會或ハ本會議ニ於キマシテ、屢〻政府ニ質問ヲ致シマシタ所ガ、政府ハ常ニ考慮中ト云フコトヲ以テ、御答辯ニナッテ居リマスノデアリマスルガ、本日東京朝日新聞ノ記事ニ依リマスルト、愈〻今回ハ政府モ撤兵ノ廟議ヲ決メラレタト云フコトデアリマシテ、其撤兵ノ順序トシテ第一期ニハ戰線整理ヲ行フ爲メ、直チニ黑龍州ノ撤兵ヲ實行シ、第二期ニ於テハ「チエック」歸還輸送援助終了次第、後貝加爾方面ノ撤兵ヲ行フニ至ルベク、第三期沿海州方面ノ撤退ハ、地理的關係ヨリ自衛上頗ル重要ノモノナレバ、更ニ其時ノ形勢ニ鑑ミ、適當ノ時機ヲ選定スルニ至ルベシ、斯ウ云フコトニナッテ居ルヤウニ記載シテアリマスルガ、是ハ事實如何デアリマスルカ、是ガ第一デアリマス、第二ニハ朝鮮ニ接近シテ居ル或地點ニ於キマシテ、我西伯利出兵軍ガ多大ノ損害ヲ受ケタト云フコトガ、先月下旬以來風説ニ上ッテ居ルノデアリマシテ、之ニ對シテ豫算總會デアリマシタガ、或議員ガ政府ニ質問致シマシタ所ガ、政府ハ斯ノ如キ事無シト云フ御答辯ニナリマシタ、然ルニ是モ今日ノ東京朝日新聞ノ記事ニ依リマスルト、一月下旬以來本月ノ二十三日ニ至ルマデ、我軍ガ過激派軍ノ包圍攻擊ニ陷ッテ居ルト云フコトノ記事ガ記載サレテアリマス、結局我軍隊ト過激派ト衝突シ、我軍隊ハ多大ノ損害ヲ受ケタトノ風説盛ンデアルト云フコトガ載ッテ居リマス、更ニ又東京日々新聞ノ本日ノ記事ニハ、「スーチヤン」

方面デ、殆ド六百名ガ過激派ノ襲來ニ遇ッテ全滅シタト云フ報知ガアルノデアリマス、是ハ前ニ御取消ニナッテ居ルノデアリマスルケレドモ、今日兩新聞ニ斯ノ如キ事ガ記載サレテアリマスルト、前日ノ御取消ノ御言葉ト云フモノヲ、我々ハ甚ダ疑フノデアリマス、是ハ非常ニ重大ナ問題デアリマスルカラ、此事モ詳細ニ實狀ヲ伺ヒタイ、第三ニハ高田ノ增遣隊ガ浦潮マデ參ッテ居リマシテ、彼レカラ先キニ、輸送ノ關係總テ、出發スルコトガ出來ナイト云フコトガ、先日來ノ新聞ニ載ッテ居リマス、既ニ派遣軍ノ一部ニ於テ、前申上ゲル如キ非常ニ危險ナル狀態ガアルトシマスレバ、他ノ方面——後貝加爾、若クハ沿海州、黑龍江州、其他ノ方面ニ於ケル我派遣軍ノ現在ノ位地ト云フモノガ、果シテ安全デアルカドウカ、此點モ非常ニ我々ハ心配シテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此各方面ニ於ケル現在ノ我ガ軍隊ノ位置如何、過激派ノ我軍ニ對スル思想若クハ現在ノ行動ト云フモノハ、如何ナルモノデアリマスルカ、是モ詳細ニ伺ヒタイ、此三點ニ就キマシテ、政府ノ十分ナル御答辯ヲ希望致シマス

之ニ對シ山梨政府委員ハ直ニ口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲シタリ

今ノ御問ニ御答致シマス、第一ハ「アムール」ヲ第一ニ撤退シ、後ニ後貝加爾ヲ撤退シ、次ニ烏蘇里ヲ撤退スルガ、烏蘇里ノ撤退ハマダ目下其時期ガ分ラヌ、ソレガ眞實デアルカト斯ウ云フコトデアリマス、サウ云フ計畫ハ今無イノデアリマス、唯ダ其中デ黑龍ノ一部分ハ、是ハ守備ノ關係上其守備ヲ撤シテ、或ル必要地點ニ兵力ヲ集中スル、此計畫ガアリマシテ、政府モ是ハ時宜ニ適シタモノトシテ、ソレニ同意ヲ與ヘタ次第デアリマス、第二ノ二十三日以來或ル地方デ、日本軍ガ過激派軍ノ包圍攻擊ヲ受ケタ、又「スーチャン」方面デハ、過激派軍ノ爲メニ我軍ガ六百名全滅サレタト斯ウ云フ事デアリマスガ、之ニ就テハ何等ノ報告モ得テ居リマセヌ、第三ノ御問ノ高田ノ增遣隊ガ浦潮方面ヨリ輸送ガ出來ナイ、ソレデ此黑龍、後貝加爾、並ニ烏蘇里方面ガ危險デアルノニ、ナゼソレヲ送ラヌカト斯ウ云フコトデアリマスルガ、高田ノ部隊ヲ浦潮方面ニ集結ヲシテ、ソレヨリ北進並ニ西進セヌト云フコトハ事實デアリマス、是ハ其必要ガアッテ彼處ニ留メタ次第デアリマス、ソレカラ「アムール」方面ニ於テノ過激派ガ跳梁シテ居ルカノ如キ何デアリマスルガ、是ハ過激派軍ガ跋扈シテ居ルト云フコトハ、未ダ其報告ニ接セヌ次第デアリマス、「アムール」方面デハ革命ハ起リマシタガ、其革命者ト日本軍トノ協調ハ、至ッテ穩カニ著イテ居ル次第デアリマス、後貝加爾ノ如キハ、未ダ何等ノ革命モ起ッテ居リマセヌ、烏蘇里ノ一部分ニハ革命ガ起ッテ居リマスルガ、矢張其革命者ト日本軍トノ協調ハ穩ニ著イテ居ッテ、何等今爭鬪ヲ起シテ居ル次第デアリマスルガ、矢張其革命者ト日本軍トノ協調ハ穩ニ著イテ居ッテ、何等今爭鬪ヲ起シテ居ル次第デアリマスル

第四章　全院委員長及委員ノ選擧並分科ノ設定

大正八年十二月二十七日本院ハ全院委員長ノ選擧ヲ行フ若尾璋八君過半數(百六十七點)ノ得票ヲ以テ當選シタリ

又同日右選擧ノ後各部ニ於テ常任委員卽チ豫算、決算、懲罰及請願委員ヲ選擧セリ

特別委員ハ總テ議長ノ指名ニ依リ之ヲ選定ス其ノ總數四十九ニシテ內委員數二十七名ノモノ三、十八名ノモノ十二、他ハ孰レモ九名トス

而シテ豫算委員ハ九年一月三十一日六分科ヲ設定シ決算委員ハ同年二月六日五分科ヲ設定シ請願委員ハ同年一月二十三日四分科ヲ設定ス各分科審査ノ分擔左ノ如シ

豫算委員(六十三名委員長ハ分科ニ屬セス)

第一分科　外務省、司法省及文部省所管（委員兼務委員　十一名　二十四名）
第二分科　內務省所管（委員兼務委員　十名　二十名）
第三分科　大藏省所管（委員兼務委員　十三名　二十四名）
第四分科　陸軍省、海軍省所管（委員兼務委員　十名　十八名）
第五分科　農商務省所管（委員兼務委員　十名　二十名）
第六分科　遞信省、鐵道省所管（委員兼務委員　八名　二十六名）

決算委員（四十五名委員長ハ分科ニ屬セス）

第一分科　外務省、內務省、司法省、文部省所管及關東廳（委員兼務委員　七九名）
第二分科　大藏省所管、鐵道院、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳及樺太廳ヲ除ク（委員兼務委員　六九名）
第三分科　陸軍省、海軍省所管及鐵道院（委員兼務委員　八八名）
第四分科　農商務省、遞信省所管（委員兼務委員　八九名）
第五分科　朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳（委員兼務委員　七九名）

請願委員（四十五名委員長ハ分科ニ屬セス）

第一分科　內閣、大藏省所管及他ノ分科ニ屬セサルモノ（委員兼務委員　四十一名）
第二分科　外務省、內務省及農商務省所管（委員兼務委員　四十一名）
第三分科　陸軍省、海軍省及遞信省所管（委員兼務委員　五十一名）
第四分科　司法省、文部省所管及鐵道院（委員兼務委員　六十一名）

委員中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ委員ヲ辭任シタル者常任委員ニ於テ二十九名、特別委員ニ於テ三十八名トス其ノ補闕ハ常任委員ニ在リテハ其ノ選出部ニ於テ之ヲ選擧シ特別委員ニ在リテハ議長ノ指名ニ依リ之ヲ選定セリ

全院委員會ハ本會期中之ヲ開キタルコトナシ常任委員會ノ開會數ハ豫算委員會四十回、（分科開會回數ヲ含ム）決算委員會五回、懲罰委員會三回及請願委員會二十一回、（分科會開會回數ヲ含ム）ニシテ特別委員會ノ開會數ハ百三十八回ニ及ヒ其ノ總數二百七回トス

附錄

第四十二回帝國議會

衆議院議事摘要附錄

第一　議員及其ノ異動

本期議會ニ於ケル議員ノ氏名議席、部屬及其ノ所屬黨派ヲ表記スレハ左ノ如シ

（「いろは」別、議會終了當日現在）

（い、ゐ）

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
二〇〇	三	東京市	政	磯部尚君
一二七	九	大阪市	正	今井嘉幸君
三四	二	大阪市	國	板野友造君
三三三	三	大阪	憲	井原百介君
二三八	八	群馬	政	今井今助君
二一二	四	千葉	政	磯野敬君
八五	九	栃木	正	石川玄三君
一三	七	奈良	國	今村勤三君
四三四	七	四日市市	憲	井島茂作君
三四三	七	名古屋市	憲	磯貝浩君
二六三	七	靜岡	政	岩崎勳君
一六九	四	滋賀	政	井上敬之助君
二九九	三	仙臺市	政	岩崎總十郎君
二四〇	六	福島	政	石射文五郎君
二九五	七	弘前市	政	伊東重君
七〇	三	山形	純	伊東知也君
二四六	一	秋田	政	池田龜治君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
三九〇	四	福井	憲	今村七平君
九二	三	富山	新	石原正太郎君
三三五	四	島根	憲	石田孝吉君
四三	五	岡山	國	犬養毅君
一九	四	岡山	國	犬飼源太郎君
二二二	八	廣島	政	井上角五郎君
一二〇	七	山口	新	飯田精一君
二四九	四	德島	政	生田和平君
二四五	八	愛媛	政	岩崎一高君
三三六	九	高松市	憲	井戸文四郎君
二八七	理五	大分	政	一宮房治郎君
四三八	九	佐賀	憲	石川又八君
三四一	一	佐賀	憲	井原喜代太郎君
一九一	三	熊本	政	井島義雄君
三五〇	七	熊本	憲	岩佐善太郎君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
	(は)			
一七三	理七	東京市	政	鳩山一郎君
三五六	九	長崎	憲	橋本喜造君
一六三	六	埼玉	政	秦豐助君
四〇四	六	茨城	憲	原脩次郎君
四九	副長	三重	國	濱田國松君
三〇六	八	山梨	政	生原忠右衛門君
二一四	四	福島	政	八田宗吉君
三四五	一	福島	憲	半谷清壽君
一九九	三	盛岡市	政	原敬君
三七一	九	廣島市	憲	早速整爾君
一〇三	三	尾道市	正	橋本太吉君
一〇四	八	廣島	正	花井卓藏君
九〇	四	下關市	新	林平四郎君
二六二	四	德島	政	原田佐之治君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
三七〇	六	高知	憲	濱口雄幸君
一八二	二	香川	政	林毅陸君
二五九	三	熊本	政	原田十衞君
二五七	九	鹿兒島	政	萩亮君
一九三	理九	大島	政	林爲良君
	(に)			
三二八	二	大津市	憲	西川太治郎君
二一六	七	石川	政	西村正則君
四七	九	岡山	國	西村丹治郎君
三七三	二	佐賀	憲	西英太郎君
二〇五	四	鹿兒島	政	西村種禮君
	(ほ)			
三八九	六	長崎	憲	本田恆之君
三八二	六	群馬	憲	本間三郎君
三六	五	三重	國	堀川美哉君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
八六	五	愛知	正	堀尾茂助君
一九四	一	福島	政	堀切善兵衞君
	(と)			
三九三	四	神奈川	憲	戸井嘉作君
一二	五	兵庫	國	土井權大君
二五三	長九	山形市	政	戸狩權之助君
二八六	二	石川	政	戸水寬人君
七三	三	廣島	新	富島暢夫君
三八一	九	高知	憲	富田幸次郎君
二二三	六	小倉市	政	友枝梅次郎君
二八三	六	鹿兒島市	政	床次竹二郎君
	(ち)			
二一八	八	宮崎	政	陣内軍吉君
	(を、お)			
一〇九	七	京都市	新	小川鄉太郎君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
二五一	四	京都	政	長田桃藏君
四四二	一	姫路市	憲	大森與三次君
一二五	二	長崎市	正	小川寅六君
四〇九	一	新潟	憲	大竹貫一君
二七八	六	水戸市	政	小山田信藏君
四五六	一	茨城	憲	大津淳一郎君
二一五	六	茨城	政	尾見濱五郎君
三七六	六	三重	憲	尾崎行雄君
二二一	七	愛知	政	小山溫君
二八	五	愛知	國	大口喜六君
三一三	六	愛知	政	大島宇吉君
九六	五	静岡市	正	尾崎元次郎君
一八六	六	長野	政	小川平吉君
三〇一	八	長野	政	小田切磐太郎君
四〇〇	一	長野	憲	岡部次郎君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
一七六	七	山形	政	大石五郎君
二二四	九	鳥取	政	奥田龜造君
四五一	八	鳥取	憲	奥田柳藏君
二〇四	六	島根	政	小川藏次郎君
二八一	議長	山口	政	大岡育造君
六七	九	和歌山市	純	大堀孝君
一八八	五	和歌山	政	岡崎邦輔君
八四	一	香川	正	大林森次郎君
一一四	五	松山市	正	尾崎敬義君
七六	二	愛媛	正	押川方義君
二四一	三	高知	政	岡田榮君
八七	長六	久留米市	正	大藪房次郎君
二七	三	福岡	國	大内暢三君
四〇六	一	熊本	憲	大谷高寛君
四〇七	五	熊本	憲	尾越辰雄君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
三一〇	一	鹿兒島	政	奥田榮之進君
		（わ）		
八	四	京都市	國	渡邊昭君
一八四	四	横濱市	政	若尾幾造君
二五二	一	栃木	政	渡邊陳平君
九四	三	甲府市	正	若尾璋八君
三四八	七	宮城	憲	互理胤正君
一六八	八	山口	政	渡邊祐策君
		（か）		
一〇六	七	東京市	正	金杉英五郎君
三六七	九	京都	憲	片岡直溫君
一六二	四	京都	純	神谷卓男君
三五五	六	京都	憲	川崎安之助君
一九三	二	大阪市	正	金澤仁作君
一三五	六	大阪市	正	河野徹志君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
三三〇	六	大阪	憲	片木政治郎君
一一六	二	兵庫	國	川口木七郎君
四五二	九	兵庫	憲	唐端清太郎君
四五五	六	埼玉	憲	加藤政之助君
二七六	六	埼玉	政	粕谷義三君
二〇	三	千葉	國	柏原文太郎君
四四一	六	茨城	憲	河野正義君
四二五	九	茨城	憲	川村惇君
七	二	奈良	國	片山太郎君
三六三	理六	三重	憲	川崎克君
四二七	九	静岡	憲	加藤定吉君
三五一	六	山梨	憲	河西豐太郎君
一一六	七	岐阜市	正	河崎助太郎君
三七七	二	福島	憲	河野廣中君
四三一	三	巖手	憲	川村精之君
四四九	四	丸龜市	憲	加治壽衛吉君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
二三七	七	愛媛	政	河上哲太君
四三七	九	福岡	憲	河波荒次郎君
一八五	七	佐賀	政	川原茂輔君
二六〇	八	鹿兒島	政	神川長久君
		（よ）		
三六四	八	東京市	憲	横山勝太郎君
四四八	七	兵庫	憲	横田孝史君
二九三	三	千葉	政	吉植庄一郎君
二一一	五	栃木	政	横田千之助君
七七	八	滋賀	正	吉田羊治郎君
一二二	二	福井	正	横井藤四郎君
一八〇	七	石川	政	米田穰君
三四四	九	廣島	憲	横山金太郎君
七五	三	廣島	新	吉田中君
二九七	五	福岡	政	吉原正隆君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
四六	九	東京市	國	高木益太郎君
四三五	二	東京市	憲	賴母木桂吉君
三七二	二	東京	憲	高木正年君
六三	四	大阪	純	高松正道君
三九八	二	大阪	憲	田中萬逸君
二六七	一	新潟	政	田邊熊一君
二九一	一	新潟	政	高橋光威君
二二五	七	新潟	政	高鳥順作君
三四七	三	新潟	憲	竹村良貞君
一二六	五	群馬	正	田島達策君
三二〇	五	栃木	政	田村順之助君
三八六	八	栃木	憲	高田耘平君
一七五	四	愛知	政	瀧正雄君
三五九	五	愛知	憲	田中善立君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
二五〇	八	福島	政	高岡唯一郎君
一五六	長七	巖手	政	高橋嘉太郎君
一八一	三	山形	政	高橋辰二君
二九二	四	秋田市	政	田中隆三君
三〇八	五	秋田	政	高橋本吉君
一七一	八	富山市	政	高見之通君
三三八	四	島根	憲	高橋久次郎君
二六	一	岡山	國	高戸郁三君
六〇	四	德島市	無	武市彰一君
一〇	九	德島	國	高島兵吉君
二八八	七	高知	政	竹內明太郎君
三六六	二	佐賀市	憲	武富時敏君
		（そ）		
三三九	八	秋田	憲	添田飛雄太郎君
二四二	五	神戶市	政	坪田十郎君
		（つ）		
二九八	八	高崎市	政	土谷全次君
一〇五	一	千葉	正	津田毅一君
一五八	四	千葉	政	土屋清三郎君
八八	二	三重	新	佃安之丞君
一五七	八	鳥取	政	頭本元貞君
二二七	八	島根	政	恆松隆慶君
五九	四	大分	無	津末良介君
		（ね）		
二四四	三	茨城	政	根本正君
		（な）		
八〇	四	神奈川	新	中川隣之輔君
一一	一	兵庫	國	中川幸太郎君
二〇九	一	長崎	政	中倉万次郎君
三三四	七	埼玉	憲	長島律太郎君
六七	二	埼玉	無	長島隆二君
四二〇	一	愛知	憲	內藤傳祿君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
三二二	七	滋賀	政	中村喜平君
四三二	九	岐阜	憲	長尾元太郎君
二四七	九	青森	政	鳴海文四郎君
一九八	一	金澤市	政	中橋德五郎君
二八四	八	和歌山	政	中村啓次郎君
二〇六	一	愛媛	政	成田榮信君
二五八	五	高知市	政	中野寅次郎君
一五二	九	佐賀	政	南里琢一君
一四七	七	宮崎	政	長峰與一君
七一	三	鹿兒島	無	中村靜輿君
一七四	一	札幌區	政	中西六三郎君
（む）				
一八七	一	東京	政	村野常右衞門君
四五〇	九	大阪市	憲	紫安新九郎君
一九五	六	群馬	政	武藤金吉君
一九七	二	長崎	政	則元由庸君
二九	四	新潟	國	野口孝治君
一四九	三	青森	政	野村治三郎君
三九二	四	富山	憲	野村嘉六君
二八二	長五	福岡	政	野田卯太郎君
（め）				
六一	四	東京市	無	黑須龍太郎君
四二二	一	新潟	憲	久須美東馬君
一六二	四	長野	政	工藤善助君
三一二	二	巖手	政	工藤吉次君
二四三	四	青森市	政	工藤卓爾君
一七七	六	山形	政	熊谷直太君
二六一	七	福井	政	熊谷五右衞門君
四四七	五	松江市	憲	桑原羊次郎君
二八五	長一	福岡	政	藏內次郎作君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
四二四	一	岐阜	憲	武藤嘉門君
四〇八	一	宮城	憲	村松龜一郎君
一一九	六	愛媛	新	村松恆一郎君
（う）				
一九二	一	東京	政	漆昌巖君
一一三	六	大阪市	正	上田彌兵衞君
六六	二	長崎	無	臼井哲夫君
二七一	九	千葉	政	鵜澤總明君
三八三	四	千葉	憲	鵜澤宇八君
二八九	五	宇都宮市	政	上野松次郎君
四六四	二	奈良市	憲	上村耕作君
一五	四	長野	國	植原悅二郎君
二〇七	二	富山	政	上埜安太郎君
三九四	九	鳥取市	憲	臼田久內君
（の）				
三五七	六	京都	憲	山口俊一君
二七二	二	佐渡	政	山本悌二郎君
一七八	七	奈良	政	八木逸郎君
一六五	九	福井	政	柳原九兵衞君
四四三	一	富山	憲	山田正年君
四六三	理八	廣島	憲	山道襄一君
六五	三	山口	無	山根正次君
二七〇	六	福岡	政	山內範造君
二四八	五	福岡	政	山口恆太郎君
四二八	三	熊本市	憲	山田珠一君
（ま）				
二六四	八	東京	政	前田米藏君
一〇二	二	神奈川	新	松本剛吉君
三九一	六	兵庫	憲	正木照藏君
九一	三	兵庫	新	松本誠之君
二七九	理三	長崎	政	牧山耕藏君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
二〇三	七	新潟	政	丸山豐治郎君
四二六	九	新潟	憲	牧口義矩君
一五一	二	新潟	政	丸山嵯峨一郎君
二一	六	奈良	國	松本强二君
三〇七	五	靜岡	政	松浦五兵衞君
三八	一	岐阜	國	牧野鐵九郎君
四一九	七	岐阜	憲	松岡勝太郎君
三九九	三	秋田	憲	町田忠治君
一一五	三	福井市	正	松井文太郎君
三五	九	和歌山	國	前川虎造君
一二四	八	德島	正	松島肇君
八九	理二	香川	新	松田三德君
二二〇	五	愛媛	政	政尾藤吉君
一一〇	二	福岡市	新	松永安左衞門君
二一〇	三	大分	政	松田源治君
一一七	七	宮崎	正	松浦與三郎君
四〇三	八	北海道	憲	前田卯之助君
		（け）		
二二六	五	靜岡	政	氣賀勘重君
		（ふ）		
四八	五	滋賀	國	藤井善助君
三六一	六	岐阜	憲	古屋慶隆君
三八七	六	長野	憲	降旗元太郎君
三六八	四	宮城	憲	藤澤幾之輔君
三〇三	八	岡山	政	福井三郎君
二七七	九	愛媛	政	藤野正年君
		（こ）		
四二	八	東京市	國	古島一雄君
九五	五	神奈川	正	小鹽八郎右衞門君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
四〇一	六	神奈川	憲	小泉又次郎君
三八八	九	兵庫	憲	小寺謙吉君
一六四	七	群馬	無	兒玉右二君
二七三	三	茨城	政	小久保喜七君
一〇七	三	津市	正	越山太刀三郎君
三九六	四	三重	憲	小林嘉平治君
四四五	二	名古屋市	憲	小山松壽君
二八〇	五	靜岡	政	小泉策太郎君
三七	四	福島	國	近藤達兒君
一七〇	九	米澤市	政	小林源藏君
三〇六	五	岡山	國	小橋藻三衞君
一七四	三	山口	新	近藤慶一君
二一七	九	和歌山	政	兒玉亮太郎君
三五四	五	香川	憲	小西和君
三〇〇	五	鹿兒島	政	兒玉好熊君
三九五	四	北海道	憲	小池仁郎君
三二九	一	沖繩	憲	護得久朝惟君
		（そ、ゑ）		
一六七	八	宮城	政	遠藤良吉君
		（て）		
二一九	五	小樽區	政	寺田省歸君
		（あ）		
一五三	七	東京	政	秋本喜七君
二五六	一	神奈川	政	赤尾彥作君
一〇一	八	對馬	新	秋田寅之介君
三五三	三	埼玉	憲	綾部惣兵衞君
二〇二	四	栃木	政	秋山金也君
二一三	長二	三重	政	天春文衞君
一六四	七	山梨	政	穴水要七君
二六九	五	青森	政	阿部武智雄君
三四〇	二	石川	憲	淺野順平君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
一四	二	岡山市	國	有森新吉君
一三三	七	岡山	正	赤木龜一君
三六二	九	廣島	憲	荒川五郎君
一〇八	八	德島	新	秋田清君
三〇二	五	福岡	政	赤間嘉之吉君
四五四	二	熊本	憲	安達謙藏君
一八三	七	北海道	政	東武君
		（さ）		
三七四	九	兵庫	憲	齋藤隆夫君
三三二	二	新潟	憲	櫻井庄平君
三七五	五	新潟	憲	坂口仁一郎君
三〇四	二	埼玉	政	指田義雄君
一六〇	二	埼玉	政	齋藤安雄君
二〇八	三	埼玉	政	齋藤珪次君
一九〇	長三	群馬	政	齋藤壽雄君
二六六	六	岐阜	政	佐々木文一君
一七二	二	宮城	政	澤來太郎君
四六二	三	巖手	憲	柵瀨軍之佐君
一五四	五	山形	政	佐藤喜八君
一四八	一	山形	政	齋藤紀一君
二九六	五	秋田	政	榊田清兵衞君
四三九	一	秋田	憲	齋藤宇一郎君
三四六	四	石川	憲	櫻井兵五郎君
二三九	七	隱岐	政	佐々木武生君
一二一	八	岡山	新	坂本金彌君
四三〇	五	福岡	憲	佐々木正藏君
一一八	八	函館區	正	佐々木平次郎君
		（き）		
一三四	一	堺市	正	北田豐三郎君
一九〇	三	千葉	政	木村政次郎君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
九七	三	靜岡	正	北井波治目君
三四九	一	青森	憲	菊池良一君
九八	三	大分	新	木下謙次郎君
四〇二	九	熊本	憲	行德健男君
七九	四	沖繩	正	岸本賀昌君
		（ゆ）		
六九	五	廣島	純	湯淺凡平君
		（み）		
三五八	理一	東京市	憲	三木武吉君
一五五	一	茨城	政	宮本逸三君
五七	二	愛知	政	三輪市太郎君
二六八	四	長野	政	南澤宇忠治君
八二	長四	山口	新	美禰龍彥君
三五二	六	山口	憲	三隅哲雄君
二七四	八	香川	政	三土忠造君
三七九	長八	大分	憲	箕浦勝人君
三七八	七	横濱市	憲	島田三郎君
三六九	二	兵庫	憲	下岡忠治君
一五〇	一	愛知	政	清水市太郎君
四五七	二	若松市	憲	柴四朗君
二六五	八	島根	政	島田俊雄君
三一一	五	鹿兒島	政	志々目藤彥君
		（し）		
二七五	九	兵庫	政	廣岡宇一郎君
七八	六	前橋市	正	平田健太郎君
四四〇	八	愛知	憲	日比野寬君
二五四	九	岐阜	政	匹田銳吉君
四五九	六	長野	憲	樋口秀雄君
三八四	九	福島	憲	平島松尾君
一六六	八	富山	政	廣瀨鎭之君
四四六	七	熊本	憲	平山岩彥君

議席	部屬	選擧區	黨派	氏名
一一二	二	宮崎	新	肥田景之君
		（も）		
三九七	九	京都市	憲	森田茂君
四二一	六	大阪	憲	森秀次君
四五八	六	山梨	憲	望月小太郎君
一四六	三	長野	政	百瀨清治君
一七九	一	廣島	政	望月圭介君
八三	六	廣島	新	森本是一郎君
一六一	一	門司市	政	毛里保太郎君
一五九	八	福岡	政	森田正路君
一八九	二	大分	政	元田肇君
		（せ）		
四四	三	東京市	國	關直彥君
二九四	四	新潟市	政	關矢儀八郎君
三六五	五	千葉	憲	關和知君
		（す）		
四五	七	東京市	國	鈴木梅四郎君
一七	理四	神戸市	國	砂田重政君
三三七	九	千葉	憲	鈴木久次郎君
二〇一	八	茨城	政	鈴木錠藏君
三八五	五	愛知	憲	鈴置倉次郎君
三三一	六	靜岡	憲	杉山東太郎君
三六〇	一	靜岡	憲	鈴木富士彌君
三二一	一	長野市	政	諏訪部庄左衞門君
三〇五	三	宮城	政	菅原傳君
三〇九	八	高岡市	政	菅野傳右衞門君
二五五	七	和歌山	政	隅田豐吉君
		（二名闕員）		
一九六	八	靜岡	政	清水鋆太郎君
八一	七	山形	新	關原彌里君
三八〇	八	高知	憲	仙石貢君

第四十一回議會閉會翌日ヨリ第四十二回議會解散當日ニ至ル議員ノ異同氏名及異同事由ハ左表ノ如シ

選擧區	前議員	黨派	異動事由	補闕當選者	黨派	當選年月日
沖縄縣	我如古樂一郎君	正	當選無效 大正八、五、一四	岸本賀昌君	正	大正八、七、二六
熊本縣郡部	江藤哲藏君	政	死去 八、六、二四	尾越辰雄君	憲	八、九、九
宮城縣郡部	小山東助君	憲	死去 八、八、二五	菅原傳君	政	八、一〇、七
兵庫縣神戸市	野添宗三君	國	死去 八、八、二八	砂田重政君	國	八、一〇、一〇
奈良縣郡部	中山梅治郎君	國	死去 八、一〇、二四	片山太郎君	國	八、一一、三〇
島根縣隱岐	古川清君	新	當選無效 八、一一、二九	佐々木武生君	政	八、一二、二三
島根縣松江市	岡崎運兵衞君	憲	死去 八、一二、一七	桑原羊次郎君	憲	九、一、一九
大阪府大阪市	白河次郎君	國	死去 八、一二、二五	板野友造君	國	九、一、三一
奈良縣郡部	福本寅松君	政	死去 八、一二、二九	松本强二君	國	九、一、一六
大阪府郡部	井坂光暉君	政	死去 九、二、九			
滋賀縣郡部	望月長夫君	國	死去 九、二、一〇			

第一控室（二室）立憲國民黨　第二控室（四室）憲政會　第三控室（一室）無所屬
第四控室（一室）新政會　第五控室（五室）立憲政友會　第六控室（一室）正交倶樂部

第二　國務大臣及政府委員

本期議會ニ於ケル國務大臣及政府委員ノ氏名ハ左ノ如シ

國務大臣

内閣總理大臣兼司法大臣　原敬君
海軍大臣　加藤友三郎君
外務大臣　子爵内田康哉君
大藏大臣　男爵高橋是清君
陸軍大臣　田中義一君
農商務大臣　山本達雄君
内務大臣　床次竹二郎君
文部大臣　中橋德五郎君

遞信大臣　野田卯太郎君

政府委員（大正八年十二月二十四日（召集日任命））

内閣統計局長　牛塚虎太郎君
法制局參事官　馬場鍈一君
拓殖局長官（法學博士）古賀廉造君
鐵道院總裁　床次竹二郎君
鐵道院理事　永井亨君
鐵道院理事（法學博士）佐竹三吾君
朝鮮總督府財務局長　河内山樂三君
臺灣總督府總務長官（法學博士）下村宏君
關東廳事務總長　杉山四五郎君
樺太廳長官　永井金次郎君
外務省所管事務政府委員

法制局長官　横田千之助君
法制局參事官　松村眞一郎君
軍需局長　原象一郎君
鐵道院副總裁（工學博士）石丸重美君
鐵道院理事　中川正左君
朝鮮總督府政務總監（法學博士）水野錬太郎君
朝鮮總督府參事官　大塚常三郎君
臺灣總督府事務官　阿部澇君
關東廳事務官　永山善之助君

外務次官　埴原正直君
外務省通商局長　田中都吉君
外務書記官　岡本武三君

内務省所管事務政府委員

内務次官　小橋一太君
内務省地方局長　添田敬一郎君
内務省土木局長　堀田貢君
内務省參事官　池田宏君
北海道廳長官　笠井信一君

大藏省所管事務政府委員

大藏次官　神野勝之助君
大藏省主税局長　松本重威君
大藏省銀行局長　小野義一君
大藏書記官　勝正憲君
大藏書記官　佐々木謙一郎君
大藏書記官　太田嘉太郎君

陸軍省所管事務政府委員

陸軍次官　山梨半造君
陸軍少將　井上幾太郎君
陸軍一等主計正　谷林德太郎君

海軍省所管事務政府委員

海軍次官　栃内曾次郎君
海軍主計少將　久野工君

司法省所管事務政府委員

司法次官　法學博士　鈴木喜三郎君

外務省政務局長　芳澤謙吉君
外務省條約局長　松田道一君
總領事　藤田敏郎君

内務省神社局長　塚本清治君
内務省警保局長　川村竹治君
内務省衞生局長　潮惠之輔君
内務省參事官　山田準次郎君

大藏省主計局長　西野元君
大藏省理財局長　森俊六郎君
大藏省參事官　藤井眞信君
大藏書記官　保倉熊三郎君
大藏書記官　河田烈君
專賣局長官　野中清君

陸軍省所管事務政府委員

陸軍中將　淺川敏靖君
陸軍主計總監　田中政明君
理事　志水小一郎君

海軍省所管事務政府委員

海軍主計中將　志佐勝君
主理　内田重成君

司法省刑事局長　法學博士　豐島直通君

司法省監獄局長（法學博士）谷田三郎君
司法省參事官（法學博士）池田寅二郎君
司法書記官　近藤三郎君

文部省所管事務政府委員

文部次官　南弘君
文部省普通學務局長　赤司鷹一郎君
文部省宗教局長　柴田駒三郎君
文部省圖書監査官　渡部董之介君
文部書記官　關龍吉君
文部省專門學務局長　松浦鎮次郎君
文部省實業學務局長　山崎達之輔君
維新史料編纂事務局長　黑澤次久君
文部省參事官　武部欽一君
司法省民事局長（法學博士）山內確三郎君
司法省參事官　飯島喬平君

農商務省所管事務政府委員

農商務次官　犬塚勝太郎君
農商務省農務局長　道家齊君
農商務局長　岡本英太郎君
農商務省工務局長（男爵）四條隆英君
農商務省山林局長　鶴見左吉雄君
農商務省鑛山局長　崎川才四郎君
農商務省水產局長　村上隆吉君
農商務書記官　副島千八君
製鐵所長官　白仁武君
特許局長　中井勵作君
農商務書記官　長滿欽司君
農商務書記官　石黑忠篤君
製鐵所參事　小川藏次郎君
戰時保險局長　宮內國太郎君

遞信省所管事務政府委員

遞信次官　秦豐助君
遞信省電氣局長　肥後八次君
遞信省經理局長　杉精三君
遞信省通信局長　米田奈良吉君
遞信省管船局長　若宮貞夫君
爲替貯金局長　天岡直嘉君

政府委員（大正八年十二月二十五日任命）

朝鮮總督（男爵）齋藤實君
臺灣總督（男爵）田健治郎君
關東長官（男爵）林權助君
司法省參事官（法學博士）山岡萬之助君
農商務書記官　齋藤龜三郎君

（大正八年十二月二十五日任命）

司法省所管事務政府委員（大正九年一月二十四日任命）

農商務省所管事務政府委員（大正九年一月三十日任命）

大藏省所管事務政府委員（大正九年二月六日任命）　大藏書記官　神鞭常孝君
農商務省所管事務政府委員（大正九年二月九日任命）　農商務技師　野間譽雄君
大藏省所管事務政府委員（大正九年二月二十一日任命）　主計局書記官　河本文一君

第三　委員氏名

本期議會ニ於テ選定シタル常任委員及特別委員ノ氏名左ノ如シ

常任委員（氏名ノ下括弧内ノ數字ハ各分科ノ所屬ヲ指示ス）

豫算委員

委員長　中村啓次郎君
理事　東　武君　理事　奥田榮之進君　理事　岡田榮君
理事　小池仁郎君　理事　渡邊昭君　理事　河崎助太郎君
理事　小川鄕太郎君

第一部

奥田榮之進君（五）　吉植庄一郎君（二）（村野常右衞門君補闕）（主）　諏訪部圧左衞門君（四）　早速整爾君（武藤嘉門君補闕）

山田珠一君（一）　津田毅一君（一）（主）　松永安左衞門君（一）（富島暢夫君補闕）

第二部

澤來太郎君（六）（主）　尾見濱五郎君（一）（丸山嵯峨一郎君補闕）　天春文衞君（五）　正木照藏君（六）（田中萬逸君補闕）
賴母木桂吉君（五）　高木正年君（四）　山道襄一君（六）（原脩次郎君補闕）

第三部

牧山耕藏君（三）　岡田榮君（一）　松田源治君（一）　望月小太郎君（一）（柵瀨軍之佐君補闕）
町田忠治君（三）　柏原文太郎君（四）（主）　武市彰一君（二）

第四部

米田穰君（六）（長田桃藏君補闕）　長峰與一君（四）　今井今助君（六）　小池仁郎君（二）
川崎克君（六）　渡邊昭君（二）　犬飼源太郎君（五）

第五部

坪田十郎君（五）（主）　松浦五兵衞君（四）　高岡唯一郎君（五）　關和知君（一）
小西和君（五）　大林森次郎君（二）（堀尾茂助君補闕）　田島達策君（六）

第六部

山内範造君（二）　小山田信藏君（五）　小川平吉君（四）　粕谷義三君（三）（主）

濱口雄幸君(三)　本田恆之君補闕 下岡忠治君(二)　加藤政之助君(三)

第七部

高橋嘉太郎君(六)　穴水要七君(三)　東武君(二)　加藤定吉君(三)

鈴木梅四郎君(三)　河崎助太郎君(三)　小川郷太郎君(三)

第八部

中村啓次郎君(長)　井上角五郎君(三)　三土造造君(三)　廣瀬鎮之君(三)

横山勝太郎君(四)　吉田羊治郎君(五)　兒玉右二君(四)

第九部

鳴海文四郎君(一)　藤野正年君(二)　横山金太郎君(五)　齋藤隆夫君(二)

片岡直溫君(一)　高木益太郎君(一)　今井嘉幸君補闕 押川方義君(四)

決算委員

委員長　秋田清君

理事　小田切磐太郎君　理事　伊東重君　理事　小林嘉平治君

理事　大内暢三君　理事　河野徹志君

第一部

漆昌巖君(五主)　上野松次郎君(一)　森秀次君補闕 杉山東太郎君(一)　互理胤正君(五)

河野徹志君(三)

第二部

兒玉好熊君(四主)　佐藤喜八君(五)　川口木七郎君(二)　押川方義君補闕 松井文太郎君(二主)

小川寅六君(四)

第三部

百瀨清治君(二)　高橋辰二君(三)　鈴木久次郎君(三)　大内暢三君(一)

森本是一郎君(四)

第四部

原田佐之治君(四)　土屋清三郎君(五)　西村種禮君(一)　小林嘉平治君(二)

中川隣之輔君(一主)

第五部

赤間嘉之吉君(二)　中野寅次郎君(二)　佐々木正藏君(五)　小橋藻三衛君(三主)

大口喜六君(五)

第六部

尾見濱五郎君(三)　石射文五郎君(四)
上田彌兵衛君(五)　井島茂作君(四)（正木照藏君補闕）　臼田久內君(四)

第七部

伊東重君(三)　大島宇吉君(四)　松岡勝太郎君(五)　大森與三次君(一)（横田孝史君補闕）
秋田清君(二)

第八部

小田切磐太郎君(一)　土谷全次君(五)　陣軍吉君(一)　河波荒次郎君(二)（前田卯之助君補闕）
鈴置倉次郎君(三)（山道襄一君補闕）

第九部

柳原九兵衛君(四)　萩亮君(二)　荒川五郎君(一)　平島松尾君(三)
紫安新九郎君(二)（長尾元太郎君補闕）

懲罰委員

委員長　則元由庸君
理事　工藤吉次君　理事　赤木龜一君　理事　津末良介君

第一部

前田米藏君（赤尾彦作君補闕）　齋藤壽雄君　鈴木富士彌君

第二部

工藤吉次君　則元由庸君　小山松壽君

第三部

菅原傳君　川村精之君　中村靜興君

第四部

磯野敬君　野口孝治君　津末良介君

第五部

志々目藤彦君　田中善立君　砂田重政君

第六部

工藤卓爾君　三隅哲雄君　美禰龍彦君

第七部

高鳥順作君　平山岩彦君　赤木龜一君

第八部

森田正路君　島田俊雄君　野村嘉六君

第九部

廣岡宇一郎君　森田茂君補闕日比野寛君更ニ其ノ補闕　森田茂君　川村惇君

請願委員

委員長　清　鋆太郎君

理事　磯部尚君　理事　八田宗吉君　理事　高田耘平君

理事　土井權太君　理事　秋田寅之介君

第一部

齋藤紀一君(二)　渡邊陳平君(四)　護得久朝惟君(二)　内藤傳祿君(二)

櫻井庄平君(二)　久須美東馬君補闕

第二部

齋藤安雄君(三)　池田龜治君(四)　西英太郎君補闕井原喜代太郎君更ニ其ノ補闕　英太郎君(二)　上村耕作君(一)

有森新吉君(三)

第三部

磯部尚君(二)　毛里保太郎君補闕　寺田省歸君(二)　竹村良貞君補闕　牧口義矩君(一)　綾部惣兵衛君(一)

近藤慶一君(一主)

第四部

南澤宇忠治君(二主)　八田宗吉君(一)　秋田金也君(四)　今村七平君補闕　桑原羊次郎君(三)

秋田寅之介君(三)

第五部

阿部武智雄君(一)　神川長久君(一)　尾越辰雄君補闕　行德健男君(三)　西川太治郎君(三)

土井權大君(四)

第六部

小川藏次郎君(一)　佐々木文一君(一)　片木政治郎君(三)　平田健太郎君(一)

大藪房次郎君(二)

第七部

熊谷五右衛門君(四)　中村喜平君(三主)　秋本喜七君(四主)　片山太郎君(一)

關原彌里君(四)

第八部

菅野傳右衛門君(三)　清　鋆太郎君(長)　岩崎一高君(三)　高田耘平君(四)

佐々木平次郎君(四)

第九部

林爲良君(二)　井戸文四郎君(四)　河波荒次郎君補闕 前田卯之助君(四)　高島兵吉君(二)
石川玄三君(三)

特別委員

【イ】

郵便貯金法中改正法律案委員

委員長　岸本賀昌君　理事　大石五郎君
熊谷五右衞門君　岩崎一高君　赤間嘉之吉君　井原百介君
半谷清壽君　加藤政之助君　高戸郁三君

【ハ】

函館控訴院ノ移轉ニ關スル法律案外一件(大正二年法律第九號中改正法律案)委員

委員長　原田十衞君　理事　佐々木平次郎君
萩亮君　佐々木武生君　東武君　前田卯之助君
本田恆之君　井戸文四郎君　砂田重政君

葉煙草罹災補償ニ關スル建議案委員

委員長　志々目藤彦君　理事　牧野鐵九郎君
奥田榮之進君　根本正君　小西和君　高田耘平君
平島松尾君　中川隣之輔君　北井波治目君

麥酒稅法中改正法律案委員(シノ部參看)

【ニ】

日南東部鐵道建設ニ關スル建議案委員(コノ部參看)

【ホ】

北海道會法中改正法律案委員(フノ部參看)

【ヘ】

平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル法律案委員

委員長　小橋藻三衞君　理事　渡邊祐策君
今井今助君補闕 磯部尙君　關矢儀八郎君　河上哲太君　加藤定吉君
齋藤隆夫君　小西和君　小川鄕太郎君

【チ】

治安警察法中改正法律案外一件（新聞紙法中改正法律案）委員

委員長 戸水寛人君辞任
委員長 戸水寛人君補闕 小林源藏君（闕員）

理事 匹田鋭吉君
理事松本誠之君辞任
理事（闕員）

河上哲太君　工藤吉次君　木村政次郎君
島田俊雄君　鵜澤總明君　兒玉好熊君　竹村良貞君
小山松壽君　岡部次郎君　山田珠一君　鈴木富士彌君
松本誠之君補闕
早速整爾君　砂田重政君　大内暢三君　松永安左衛門君

金杉英五郎君

町村制中改正法律案（大口喜六君外二名提出）委員（フノ部參看）

町村制中改正法律案（武富時敏君外五名提出）委員（同上）

【リ】

臨時國庫證券法中改正法律案委員（クノ部參看）

【カ】

開院式勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 小川平吉君　理事 花井卓藏君

望月圭介君　榊田清兵衛君　中倉万次郎君　上埜安太郎君

田村順之助君　政尾藤吉君　原田十衛君　片岡直温君
大津淳一郎君　村松龜一郎君　本田恆之君　鈴置倉次郎君
古島一雄君　山根正次君　北田豐三郎君　神谷卓男君

學校衛生振興ニ關スル建議案委員

委員長 八木逸郎君　理事 河野徹志君
秋山金也君　伊東重君　神川長久君　樋口秀雄君
行德健男君　大森與三次君　近藤達兒君

耕地整理速進奬勵ニ關スル建議案委員

委員長 山内範造君　理事 關原彌里君
工藤善助君　西村正則君　岩崎一高君　田中萬逸君
齋藤宇一郎君　半谷清壽君　小鹽八郎右衛門君

家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案委員（コノ部參看）

樺太事業公債法中改正法律案委員（コノ部參看）

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案委員（サノ部參看）

橿原神宮崇祀向上ニ關スル建議案委員（クノ部參看）

勝倉鐵道速成ニ關スル建議案委員（ヒノ部參看）

【ヨ】

吉野縱貫鐵道速成ニ關スル建議案委員（セノ部參看）

【タ】

大正八年勅令第三百四號（承諾ヲ求ムル件）委員

委員長　政尾　藤吉君

理事　一宮房治郎君　理事　砂田　重政君　理事　小川　寅六君

井島　義雄君　佐々木武生君　林　爲良君　西村　正則君

工藤　吉次君　小田切磐太郎君　野村　嘉六君　樋口　秀雄君

高田　耘平君　尾越　辰雄君　上村　耕作君　井戸文四郎君

飯田　精一君　河崎助太郎君

大正八年勅令第四百七十八號（承諾ヲ求ムル件）委員

委員長　氣賀　勘重君

理事　河上　哲太君　理事　堀川　美哉君　理事　津末良介君

田邊　熊一君　鈴木　錠藏君　高橋　本吉君　奥田　龜造君

赤間嘉之吉君　磯部　尚君　下岡　忠治君　齋藤宇一郎君

紫安新九郎君　竹村　良貞君　正木　照藏君　前田卯之助君

西村丹治郎君　横井藤四郎君

大正八年法律第五號中改正法律案委員

委員長　根本　正君　理事　關原　彌里君

小田切磐太郎君　西村　種禮君　齋藤　紀一君　井原喜代太郎君

川崎安之助君　牧口　義矩君　津田　毅一君

大正五年法律第四號中改正法律案委員

委員長　赤間嘉之吉君　理事　川口木七郎君

根本　正君　池田　龜治君　柳原九兵衞君　柵瀨軍之佐君

野村　嘉六君　内藤　傳祿君　關原　彌里君

大正四年法律第十六號中改正法律案委員（前項參看）

大正八年法律第九號中改正法律案委員

委員長　石原正太郎君　理事　大石　五郎君

宮本　逸三君　神川　長久君　柳原九兵衞君　平島　松尾君

櫻井庄平君　牧口義矩君　河野徹志君

大學特別會計法案外一件（大正八年法律第十二號中改正法律案）委員

委員長　金杉英五郎君　理事　渡邊祐策君　陳平君

南澤宇忠治君　渡邊祐策君　樋口秀雄君　横田孝史君

荒川五郎君　近藤達兒君　森本是一郎君

大正八年法律第十二號中政正法律案委員（前項參看）

大正七年度豫備金支出ノ件外七件（大正七年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正七年度特別會計豫備金支出ノ件、大正七年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件、大正七年度大正三年臨時事件豫備費外ニ於テ豫算外支出ノ件、大正七年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件）（承諾ヲ求ムル件）委員

委員長　粕谷義三君

理事　坪田十郎君　理事　大口喜六君　理事　武市彰一君

菅原傳君　諏訪部庄左衛門君　松浦五兵衛君　隅田豊吉君

熊谷直太君　町田忠次君補闕　山田珠一君　高木正年君　紫安新九郎君

臼田久内君　内藤傳祿君　降旗元太郎君　中川幸太郎君

金澤仁作君　佐々木平次郎君

道路公債法案委員（コノ部參看）

臺灣事業公債法中改正法律案委員（同上）

大正二年法律第九號中改正法律案委員（ハノ部參看）

【ヰ】

院内警察事項ニ關スル特別調査ノ件委員

委員長　川原茂輔君

理事　熊谷直太君　理事　三木武吉君

鵜澤總明君　廣岡宇一郎君　粕谷義三君

前田米藏君　山口恆太郎君　富田幸次郎君補闕　福井三郎君

齋藤隆夫君　古屋慶隆君補闕　小山松壽君　齋藤宇一郎君　本田恆之君

木下謙次郎君　尾崎元次郎君　横山勝太郎君補闕　井戸文四郎君　前川虎造君

【ク】

關稅定率法中改正法律案委員

委員長　田中隆三君　理事　理事氣賀勘重君補闕　渡邊祐策君　理事　松永安左衛門君

武藤金吉君　田邊熊一君　山口恆太郎君補闕　鈴木錠藏君　隅田豊吉君

奥田龜造君　正木照藏君　鈴木久次郎君　綾部惣兵衛君
鵜澤宇八君　加藤定吉君　櫻井兵五郎君　有森新吉君
大口喜六君（板野友造君補闕）　松井文太郎君（尾崎敬義君補闕）　上田彌兵衛君

會計法案委員

委員長　小川寅六君　理事　一宮房治郎君
大石五郎君　岩崎一高君　小田切磐太郎君　鈴置倉次郎君
村松龜一郎君　尾越辰雄君　津末良介君

會計法改正法律案委員

委員長　指田義雄君　理事　長田桃藏君　理事　小橋藻三衛君
關矢儀八郎君　河上哲太君　山内範造君　佐々木文一君
川原茂輔君　鵜澤總明君　高木正年君　川崎安之助君
早速整爾君　古屋慶隆君　山田珠一君　井原喜代太郎君補闕　横山金太郎君
大口喜六君　富島暢夫君　岸本賀昌君

會計檢査院法中改正法律案委員（前項參看）

軍人恩給增額ニ關スル建議案委員

委員長　漆昌巖君　理事　松本誠之君
八田宗吉君　神川長久君　西村正則君　高木正年君
三木武吉君　柏原文太郎君　尾崎元次郎君

官幣大社吉野神宮境域擴張ニ關スル建議案委員

委員長　東武君　理事　片山太郎君
天春文衛君　柳原九兵衛君　秋山金也君　平山岩彥君
井島茂作君　淺野順平君　北田豐三郎君

貨幣法中改正法律案委員（セノ部參看）

郡制中改正法律案（大口喜六君外二名提出）委員（フノ部參看）

郡制中改正法律案（武富時敏君外五名提出）委員（フノ部參看）

【ケ】

刑事訴訟法中改正法律案外一件（人權保護ニ關スル法律案）委員

委員長　清水市太郎君　理事　小川寅六君
熊谷直太君（赤尾彥作君補闕）　工藤吉次君　陣軍吉君　井戸文四郎君（横山勝太郎君補闕）
松岡勝太郎君　森田茂君　高木益太郎君

矯正院法案委員（セノ部參看）

府縣制中改正法律案外八件（郡制中改正法律案（大口喜六君外二名提出）、市制中改正法律案（大口喜六君外二名提出）、北海道會法中改正法律案（武富時敏君外五名提出）、府縣制中改正法律案（武富時敏君外五名提出）、郡制中改正法律案（武富時敏君外五名提出）、町村制中改正法律案（武富時敏君外五名提出））委員

委員長　小田切磐太郎君　理事（理事工藤吉次君辭任）（闕）　八田宗吉君（工藤吉次君補闕）　理事　石川玄三君

川原茂輔君　岡田榮君　移本喜七君　佐々木文一君　長田桃藏君

本田恆之君　齋藤宇一郎君　政尾藤吉君　下岡忠治君

大口喜六君　近藤達兒君　小池仁郎君　戸井嘉作君

府縣制中改正法律案（大口喜六君外二名提出）委員（前項參看）　近藤慶一君　横井藤四郎君

府縣制中改正法律案（武富時敏君外五名提出）委員（前項參看）

福井縣三國港築港ニ關スル建議案委員

委員長　熊谷五右衞門君　理事　野口孝治君

柳原九兵衞君　野村治三郎君　小川藏次郎君　磯貝浩君

今村七平君　淺野順平君　松井文太郎君

【コ】

公債金特別會計法案外九件（鐵道國有法中改正法律案、道路公債法案、國債整理基金特別會計法中改正法律案、家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案、電信事業公債法案、電話事業公債法中改正法律案、朝鮮事業公債法中改正法律案、樺太事業公債法中改正法律案）委員

委員長　若尾幾造君　理事　山口恆太郎君　理事　武市彰一君

八木逸郎君（指田義雄君補闕）　高橋本吉君　工藤善助君　萩（米田穰君補闕）亮君

生田和平君　志々目藤彥君　加藤政之助君　横田孝史君

紫安新九郎君　鈴木久次郎君　片木政治郎君　前川虎造君

中川隣之輔君　金澤仁作君　松井文太郎君

國債整理基金特別會計法中改正法律案委員（前項參看）

公有林野官行造林法案委員

委員長　中西六三郎君　理事　兒玉好熊君　理事　中川幸太郎君

石射文五郎君（戸狩權之助君補闕）　百瀨清治君　佐々木文一君　隅田豐吉君

井上角五郎君　成田榮信君　齋藤宇一郎君　杉山東太郎君

河西豐太郎君　井原百介君　三隈哲雄君　半谷清壽君

佃安之丞君　近藤慶一君　北井波治目君

國有財產法案委員

委員長　政尾藤吉君　理事　一宮房治郎君　理事　松田三德君
秋本喜七君　中西六三郎君　菅野傳右衞門君　清　崟太郎君
澤來太郎君　中倉万次郎君　正木照藏君　高木正年君
竹村良貞君　横田孝史君　鈴木富士彌君　片木政治郎君
高木益太郎君　花井卓藏君　金澤仁作君

古墳發掘法案委員

委員長　關原彌里君　理事　赤間嘉之吉君
土屋清三郎君　丸山嵯峨一郎君　佐々木武生君　小西和君
牧口義矩君　片山太郎君　岸本賀昌君

國都鐵道建設ニ關スル建議案外一件（日南東部鐵道建設ニ關スル建議案）委員

委員長　陣軍吉君　理事　松浦與三郎君
兒玉好熊君　長峰與一君　神川長久君　平山岩彥君
井島茂作君　石川又八君　野口孝治君

國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案委員（シノ部參看）

公立學校職員年功加俸國庫補助法案委員（同上）

鐵道敷設法中改正法律案委員

委員長　齋藤珪次君
理事　高鳥順作君　理事　赤間嘉之吉君　理事　牧野鐵九郎君
理事　山根正次君　理事　若尾璋八君
政尾藤吉君　原田十衞君　前田米藏君　生原忠右衞門君
佐藤喜八君　高橋辰二君　原田佐之治君　望月圭介君
小川藏次郎君　齋藤宇一郎君　横山金太郎君　櫻井兵五郎君
久須美東馬君　河西豐太郎君　小林嘉平治君　川村精之君
石田孝吉君　砂田重政君　高島兵吉君　大藪房次郎君
橋本太吉君

朝鮮ニ於ケル國勢調査ニ關スル法律案委員

委員長　木下謙次郎君　理事　小田切磐太郎君
根本正君　西村種禮君　齋藤紀一君　桑原羊次郎君
山道襄一君　三隅哲雄君　津田毅一君